

# 病院年報

令和 2 年度



 **福井赤十字病院**  
Japanese Red Cross Fukui Hospital  
日本赤十字社

# 福井赤十字病院理念

『人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。』

## 基本方針

- 1 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 2 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 3 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 4 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 5 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。



# 令和2年度 年報巻頭言

福井赤十字病院

院長 高木 治樹

昨年度末には、誰も予測しなかった新型コロナウイルス感染症が発生し、現在もこのウイルスに全世界が翻弄されている。当院も、感染症指定医療機関として、令和2年（2020年）1月に対策本部を設置し、福井県においては、3月中旬に1例目が確認され、3月下旬から当院でも陽性患者さんを受け入れ、発熱スクリーニング、ECMO導入等様々な対応を行ってきた。しかし、新型コロナの収束は先が見えない状況が現在も続いている。今後は、有効な治療法の開発や、ワクチン接種が完了するまで、ウィズコロナでの体制をしばらく維持する必要があると思われる。

また、当院は新型コロナ対応だけでなく、地域医療支援病院として、一般診療・救急医療に対しても、診療体制をより一層強化していく必要がある。厳しい医療情勢の中で、2019年より病院の診療目標として、「地域に寄り添う良質な医療を提供する病院になる」を3カ年の中期ビジョンとして掲げ、令和2年の勤務スローガンを「地域に寄り添う医療」とした。それに伴い、病院の理念である「県民が求める優れた医療の提供」と、「時代にマッチした医療の実践」のため、救急医療体制の充実や、入退院支援部門の強化を行ってきた。その一環として、12月に「脳卒中ケアユニット（SCU）」を9床から12床へ拡張し、脳卒中急性期の患者さんを受け入れるための体制強化を図った。また、ICU満室時にSCUの一部をHCUとして活用することで、新型コロナ対応と高度急性期医療の両立を図ることとした。脳卒中治療には充実した医療機器・設備を整えることが不可欠であり、SCUを拡充・充実することは“患者さんが安心して医療を受けることができる”という、当院の重要な目標に対する取り組みでもある。また、地域と当院を繋ぐ窓口として、当院の医療活動を知っていただく情報源として、11月にホームページを7年ぶりにリニューアルした。今後も、日々最新の情報を発信していきたい。このように、全職員が一丸となって、地域から信頼される病院を目指し、地域に寄り添う最良の医療を提供していきたいと考えている。

さて、2020年は学会活動や院友会活動は、残念ながら殆ど中止となった。今年も、学会は感染防止策を講じながらのWEB開催など、ともに参加者の安全確保を第一とした活動になると思うが、全職員の士気を高めて病院力を上げるため、各分野において自主的な取り組みを期待している。

長期化が予想されるコロナ禍への対応を含め、医療体制自体が大きな変革期を迎えようとしている。こういう時こそ、職員に危機意識を持って各自の力を最大限に発揮してもらいたいと願い、今年令和3年の勤務スローガンは「病院力の向上」とした。新型コロナ等の有事の際もしっかりと対応できる病院の総合力が重要と改めて感じている。

一日も早く新型コロナ感染症が終息し、皆さんが平穏な日常を取り戻せるよう心から願うと共に、医療連携を更に強化し、高度急性期医療を提供するという当院の役割をしっかりと果たしていきたいと考えている。

令和2年勤務スローガン「地域に寄り添う医療」

（令和3年7月記）



# 目 次

1. 沿 革 .....	1
2. 病院の概要	
1. 病院の現況 .....	5
2. 施設の概要 .....	8
3. 委員会 .....	10
4. 臨床研修実施状況 .....	11
5. 学会の指定状況 .....	12
6. 職員院外役職調 .....	14
7. 年間行事 .....	24
3. 患者数・経営状況 .....	27
4. 委員会活動 .....	35
5. トピックス .....	37
6. 診療業務	
1. 内科 .....	43
2. 精神科（ストレス診療科） .....	51
3. 神経内科 .....	53
4. 呼吸器内科 .....	54
5. 消化器内科 .....	57
6. 循環器内科 .....	60
7. 小児科 .....	62
8. 外科 .....	65
9. 整形外科 .....	68
10. 形成外科 .....	71
11. 脳神経外科 .....	72
12. 呼吸器外科 .....	74
13. 皮膚科 .....	76
14. 腎センター（腎臓・泌尿器科） .....	77
15. 産婦人科 .....	85
16. 眼科 .....	88
17. 耳鼻咽喉科 .....	91
18. 放射線部 .....	94
19. 麻酔科 .....	98
20. リハビリテーション科 .....	100
21. 歯科・歯科口腔外科 .....	103
22. 総合診療科 .....	105
23. 救急部 .....	106

24. 健診部	110
25. 病理診断科	114
26. 脳神経センター	115
27. がん診療センター	116
28. 腎センター（透析センター）	119
29. 呼吸器センター	125
30. 消化器センター	126
31. 地域周産期母子医療センター	127
32. 集中治療室	129
33. 中央手術室	132
34. 中央滅菌室	135
35. 薬剤部	136
36. 栄養課	138
37. 臨床工学技術課	140
38. 検査部	143
39. 放射線部	146
40. 医療安全推進室	150
41. 教育研修推進室	154
42. 感染防止対策室	156
43. 災害救護支援室	159
44. 危機管理センター	163
<b>7. 医療社会事業部</b>	
1. 医療社会事業課	165
2. 居宅介護支援事業所	167
3. 訪問看護ステーション	169
4. 地域医療連携課	171
4-(1). 地域医療連携課：退院調整係	174
4-(2). 地域医療連携課：医療福祉相談（医療ソーシャルワーカー）	175
<b>8. 看護部</b>	177
<b>9. 事務部</b>	
1. 総務課	195
2. 人事課	197
3. 病院経営課	199
4. 管財課	203
5. 医事サービス課	205
6. 医療情報課	206
7. 医療支援課	211
8. 医療安全推進課	213
<b>10. 業績</b>	215

# 浴 革

## 福井赤十字病院 沿革

明治初頭、福井市には藩政時代より引き継がれた福井医学校があり、これの附属病院が一般診療を行っていたが、明治19年の医学校廃止後、県立福井病院として県の管理下に置かれていた同病院を、戦時傷病兵や貧困患者の救護、救護員養成等日赤としての事業を推進するため、県内各界からの要望に後押しされる形で日本赤十字社に移管することが大正7年に決定されました。日赤本社及び福井県の補助並びに県民有志の寄付をもって現在地に土地を取得し大正12年12月に着工、同14年3月に完成し、4月1日に日本赤十字社福井支部病院として開院、以降地域の基幹病院として医療、福祉、保健、看護師の養成等の担ってきた流れを継承し現在に至っています。

大正14年	4月	日本赤十字社福井支部病院として診療開始。内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、138床、薬剤科、事務科、救護員養成部、職員数69人、併せて救護看護婦養成開始
大正15年	8月	小児科設置
昭和4年	4月	159床
	9月	日本赤十字社福井支部病院救護員養成部を指定
昭和6年	4月	伝染病棟竣工
昭和7年	4月	169床
昭和9年	6月	北陸初のサナトリウム棟竣工 188床
昭和10年	4月	192床
昭和13年	6月	放射線科設置
昭和16年	4月	194床
昭和18年	6月	福井赤十字病院と改称
昭和20年	7月	戦災により病棟の一部を焼失
昭和23年	6月	福井大震災により全建物倒壊
昭和24年	4月	福井赤十字看護学院設置（翌年12月福井赤十字高等看護学院に改称）
昭和25年	3月	建物復旧 221床
昭和27年	8月	産婦人科、外科診療棟、本館復旧工事完了
	11月	整形外科設置
昭和28年	9月	結核病棟竣工 300床（一般200床、結核76床、伝染24床）
昭和32年	9月	歯科設置、総合病院として承認
	10月	福井県赤十字大会来賓 秩父宮勢津子妃殿下ご来院
昭和33年	12月	343床
昭和34年	6月	350床
昭和35年	5月	皮膚科、泌尿器科設置、未熟児センター開設 400床
昭和36年	5月	麻酔科設置
昭和37年	8月	敷地内の県立産院を合併、福井赤十字病院産婦人科となる
	9月	420床
昭和38年	4月	人間ドック実施病院に指定

沿革	7月	510床（一般410床、結核76床、伝染24床）
	昭和39年6月	救急告示病院に認定
概要	8月	呼吸器科設置
	昭和41年7月	看護婦寄宿舍竣工
要	昭和42年4月	小中学校特殊学級開設
	昭和44年6月	本館改築工事竣工
患者数・経営状況	昭和45年12月	市伝染病棟（20床）改築工事竣工（一般410床、結核80床、伝染20床）
	昭和48年4月	臨床研修指定病院に指定
委員会	7月	看護専門学校棟改築工事竣工
	昭和50年4月	脳神経外科設置
トピックス	昭和51年4月	福井赤十字高等看護学院を福井赤十字看護専門学校に改称
	昭和52年7月	日本赤十字社創立100周年記念福井県大会 三笠宮百合子妃殿下ご来院
診療業務	昭和53年4月	第二次救急医療待機病院に指定
	昭和54年4月	県立福井東養護学校月見分校開校
医療社会事業部	昭和55年10月	結核病棟竣工
	12月	診療棟竣工
看護部	昭和56年11月	集中治療室（ICU）6床開設 516床
	12月	5病棟竣工 576床（一般516床、結核40床、伝染20床）
事務部	昭和59年9月	606床（一般546床、結核40床、伝染20床）
	昭和63年3月	3病棟、放射線棟竣工
業績	7月	消化器科設置
	平成2年8月	福井県赤十字大会来賓 三笠宮信子妃殿下ご来院
看護部	10月	第26回日本赤十字社医学会総会開催
	12月	本館改修工事竣工
事務部	平成4年8月	呼吸器外科設置
	平成5年7月	616床（一般556床、結核40床、伝染20床）
業績	平成6年7月	病理部設置
	11月	病院駐車場整備工事竣工
看護部	平成7年3月	救急部設置
	平成8月12月	リハビリテーション科部設置
事務部	平成9年3月	栄養管理棟竣工
	5月	神経内科部設置
業績	平成10年1月	災害拠点病院（地域災害医療センター）に指定
	10月	646床
看護部	平成11年4月	634床（一般586床、感染症8床、結核40床）
		心臓血管外科設置
業績		訪問看護ステーション、在宅介護支援センター開設
		第二種感染症指定医療機関に指定
看護部	6月	開放型病床設置（20床）
	8月	歯科口腔外科設置

平成13年	4月	エネルギー棟竣工 630床（一般586床、感染症4床、結核40床） 循環器科部設置、地域医療連携室設置
平成14年	8月	輸血センター設置
	10月	精神科設置
平成15年	4月	620床（一般576床、感染4床、結核40床）
	4月	医療安全管理室設置
	5月	621床（一般577床、感染4床、結核40床） （財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定 （一般病院種別B）
	6月	回復期リハビリテーション病棟開設
	8月	地域がん診療拠点病院に指定
平成16年	3月	形成外科部設置、新本館竣工 630床（一般586床、感染4床、結核40床）
	4月	精神科部設置
	5月	地域周産期母子医療センターに指定
	9月	3病棟改修工事竣工
平成17年	2月	管理棟、研修棟改修工事竣工 620床（一般586床、感染症4床、結核30床）
	6月	健康・医療情報室スマイル設置
平成18年	6月	脳卒中センター設置
	8月	616床（一般586床、感染症4床、結核26床）
平成19年	1月	地域がん診療連携拠点病院に指定
	6月	地域医療支援病院に認定
平成19年	9月	45床休床
平成20年	1月	（社）日本病院会・日本人間ドック学会 人間ドック健診施設機能評価認定
	5月	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定更新（Ver. 5.0）
平成21年	4月	腎臓・泌尿器科部設置、泌尿器科部廃止、がん診療センター設置 診断群分類包括評価（DPC）導入
	11月	回復期リハビリテーション病棟廃止 在宅復帰支援病棟さいき設置
平成23年	4月	600床（一般586床、感染症4床、結核10床） 呼吸器センター、消化器センター設置
平成24年	2月	（社）日本病院会・日本人間ドック学会 人間ドック健診施設機能評価認定更新（Ver2.0）
平成25年	6月	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定更新（Ver. 6.0）
平成26年	8月	病理診断科標榜（病理部を病理診断科部と改正）
平成27年	2月	先進中央棟竣工
	3月	先進中央棟稼働（3月30日）
	4月	緩和ケア病棟開設 脳卒中センターを脳神経センター、腎臓・泌尿器透析センターを腎センターに改称

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

休床を21床追加 休床合計66床（許可病床数変更なし）

休床に伴い在宅復帰支援病棟さいき廃止

輸血センターを検査部に統合（輸血課）

6月 創立90周年記念・先進中央棟落成記念式典開催

3病棟2階健診センター改修工事竣工

11月 創立90周年記念特別シンポジウム、結ぶきずな健康ラリー開催

本館1・2階改修工事竣工

平成28年 3月 原子力災害拠点病院に指定

平成29年 3月 (社)日本病院会・日本人間ドック学会 人間ドック健診施設機能評価認定更新 (Ver3.0)

平成29年 5月 総合診療科設置

平成30年 5月 (財)日本医療機能評価機構による病院機能評価認定更新 (3rdG:Ver.1.1)

平成30年 7月 日本赤十字社福井県支部創立130周年記念大会 高円宮久子妃殿下ご来院

令和元年 9月 (社)日本脳卒中学会一次脳卒中センター (PSC) として認定

令和元年 11月 小児がん連携病院に指定

令和2年 11月 地域においてコアとなるPSC施設 (PSCコア施設) としての活動を受嘱

令和2年 12月 脳卒中ケアユニット (SCU) を9床から12床に増床

令和3年 1月 534床 (一般520床、感染4床、結核10床)

# 病院の概要

# 1. 病院の現況

## 1 幹部職員（令和3年3月31日現在）

院長	高木 治樹
副院長	小松 和人
副院長	今村 信
副院長	高野 誠一郎
副院長兼看護部長	内田 智美
事務部長	木村 正二

## 2 診療科等

内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、腎臓・泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、麻酔科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科〔計24科〕

## 3 許可病床数（令和3年3月31日現在）

一般病床	520 床
感染症病床	4 床
結核病床	10 床
計	534 床

## 4 組織図（別記参照）

## 5 職員数（令和3年3月31日現在）

		職種別		人数（人）	
医師	155	言語聴覚士	5	電気工事士	1
歯科医師	4	歯科衛生士	3	電話交換手	2
薬剤師	32	歯科技工士	1	調理師	16
臨床検査技師	37	管理栄養士	11	看護助手	27
臨床工学技士	12	看護師	561	警備員	3
診療放射線技師	31	事務職員	115	業務員	3
公認心理士	1	社会福祉士	10	合計	1,077
視能訓練士	8	介護支援専門員	1		
理学療法士	19	保育士	1		
作業療法士	13	ボイラー技師	5		

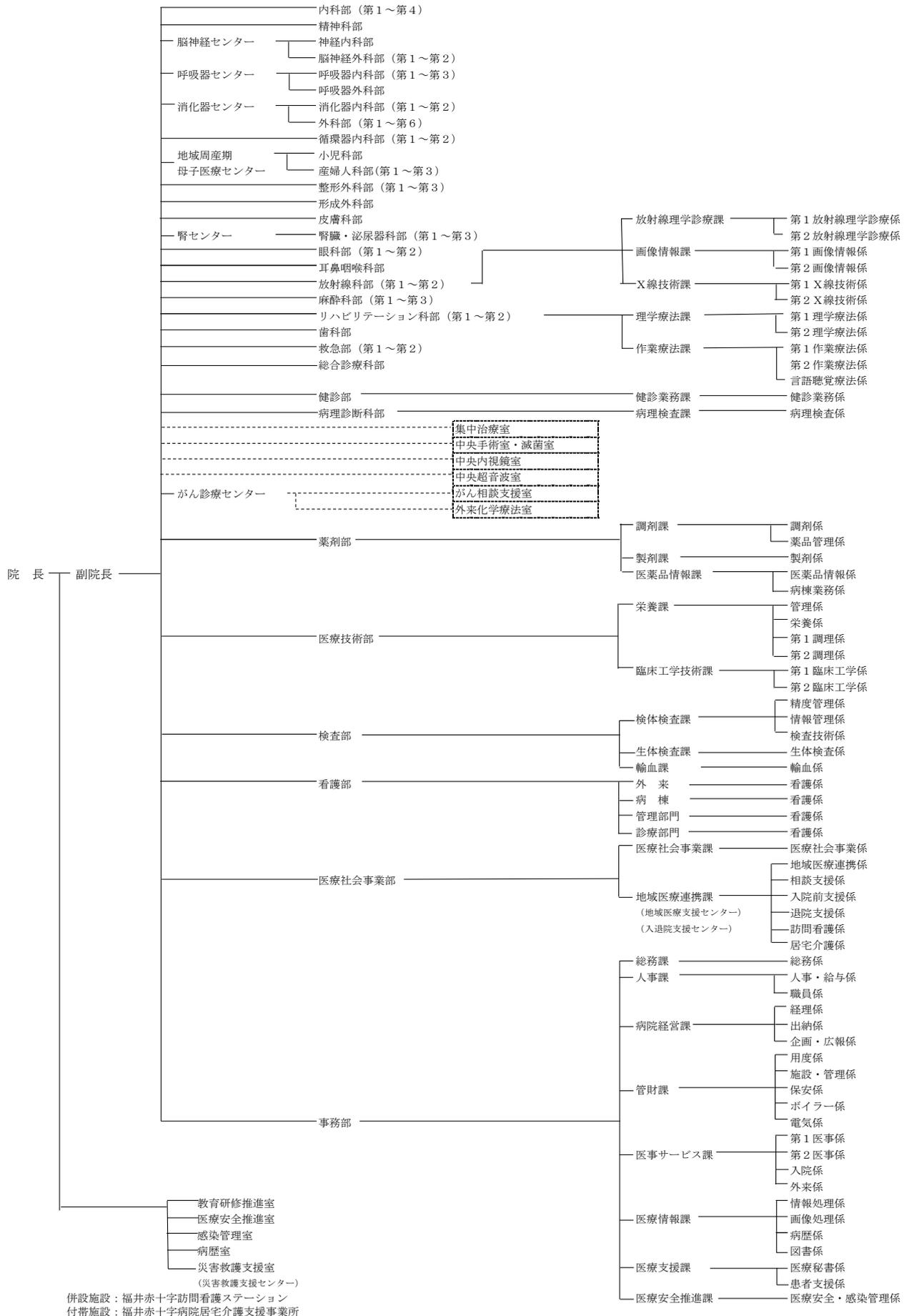
6 外来及び入院患者数（人）

	外来患者数		入院患者数	
	延 数	1日当り	延 数	1日当り
令和2年度	270,814	1,115	141,977	389

(令和3年3月31日現在)

沿 革
概 要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

# 福井赤十字病院組織図 【令和2年4月1日現在】



沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

## 2. 施設の概要

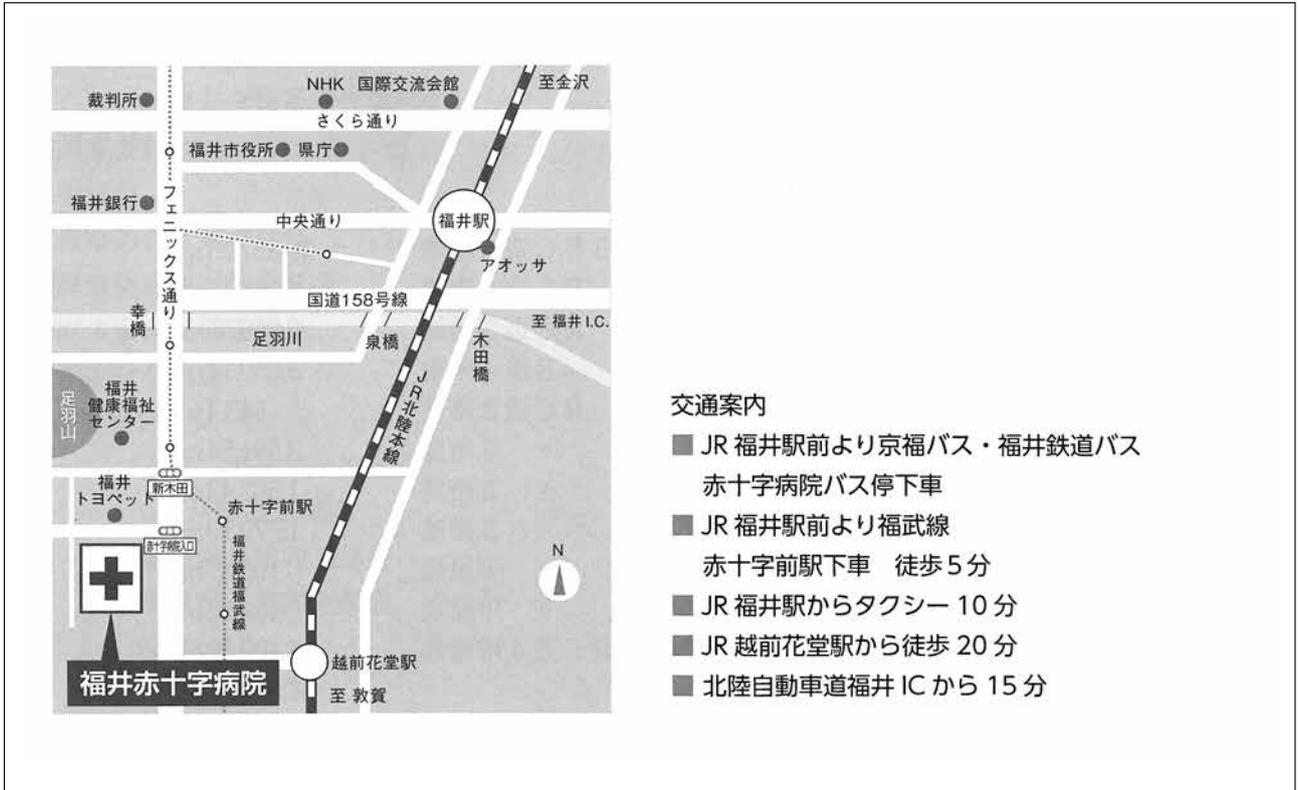
### 敷地及び建物

1. 所在地	福井市月見2丁目4番1号		
2. 敷地	50,194.99 m <sup>2</sup>		
3. 建物	57,028.78 m <sup>2</sup>		
	(内訳) 本館	SRC造8階建	29,527.23 m <sup>2</sup>
	3病棟	RC造5階建	6,066.15 m <sup>2</sup>
	管理棟	RC造5階建	5,269.85 m <sup>2</sup>
	先進中央棟	S造4階建	5,252.27 m <sup>2</sup>
	研修棟	RC造2階建	543.40 m <sup>2</sup>
	栄養管理棟	” 3階建	3,591.54 m <sup>2</sup>
	エネルギー棟	” 3階建	1,562.43 m <sup>2</sup>
	職員棟	” 3階建	1,579.10 m <sup>2</sup>
	MR I室(1)	” 平屋建	105.81 m <sup>2</sup>
	MR I室(2)	” 平屋建	123.13 m <sup>2</sup>
	その他	RC造4階建他	3,407.87 m <sup>2</sup>
	合計		57,028.78 m <sup>2</sup>

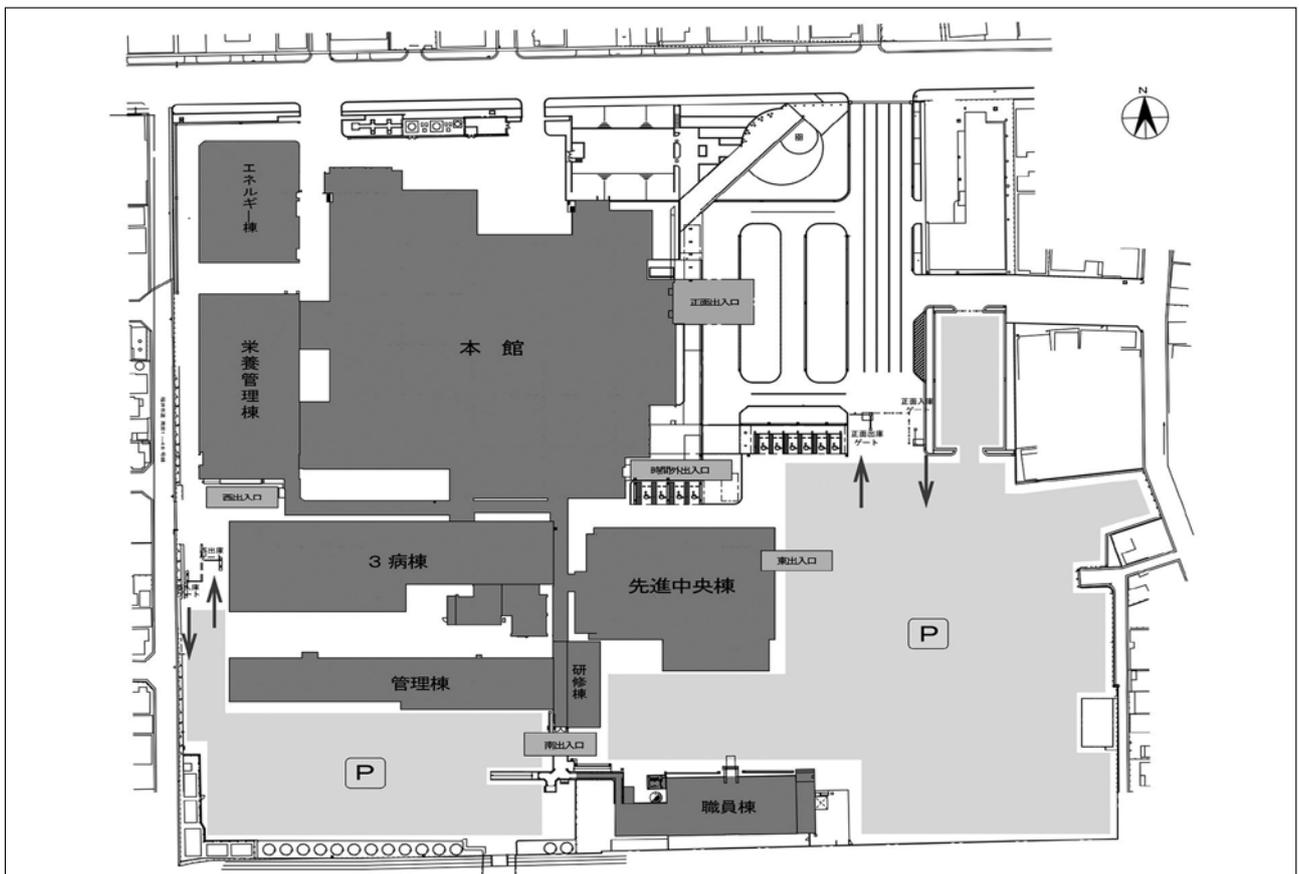
※SRC造(鉄骨鉄筋コンクリート造)  
RC造(鉄筋コンクリート造)  
S造(鉄骨造)

(令和3年3月31日現在)

## 付近見取図



## 構内平面図



## 3. 委 員 会

沿 革 概 要	災害対策・防火・防災委員会	}	（ 1. がん化学療法部会 ）	
	衛生委員会		（ 2. 緩和医療検討部会 ）	
患者数 経営状況	情報システム管理委員会	3. 遺伝診療検討部会		
	倫理委員会（倫理コンサルテーションチーム）	血液浄化療法委員会		
委 員 会	治験審査委員会	（ 1. 透析センター（透析機器安全管理）運営委員会 ）		
	臨床試験審査委員会	脳卒中センター運営委員会		
	臓器移植委員会	輸血療法委員会		
	医療安全管理委員会	地域医療推進委員会		
	（ 1. 医療安全推進室部会 ）	地域医療支援センター運営委員会		
	事故調査委員会	ボランティア委員会		
	院内感染防止対策委員会（ICT）	薬事委員会		
	医療廃棄物処理対策委員会	医療機械器具購入委員会		
	医療ガス安全管理委員会	（ 1. 医療機械器具購入小委員会 ）		
	放射線安全委員会	診療材料購入審査委員会		
ト ピ ク ス	TQM推進委員会	図書委員会		
	}	（ 1. クリニカルパス推進部会 ）	病院施設利用検討委員会	
		（ 2. QC活動推進部会 ）	中央放射線部運営委員会	
		（ 3. 患者満足度向上部会 ）	リハビリテーション科部運営委員会	
		（ 4. 職員満足度向上部会 ）	健診センター運営委員会	
		（ 5. NST部会 ）	集中治療室運営委員会	
		（ 6. RST部会 ）	中央手術室・滅菌室運営委員会	
		（ 7. 糖尿病サポート部会 ）	検査部運営委員会	
		（ 8. 認知症ケアチーム部会 ）	（ 1. 検査機器・試薬管理部会 ）	
		（ 9. CST部会 ）	病理診断科部業務運営委員会	
診 療 業 務	栄養委員会	臨床工学技術運営委員会		
	診療録管理委員会	健康・医療情報室運営委員会		
	（ 1. 病歴業務検討会 ）	院内保育施設運営委員会		
	インフォームドコンセント推進委員会	福井赤十字病院群研修管理委員会		
	診療情報提供委員会	（ 1. 福井赤十字病院臨床研修推進部会 ）		
	保険診療検討委員会	歯科臨床研修管理委員会		
	（ 1. DPC/PDPS傷病コーディング部会 ）	教育・研修推進委員会		
	救急医療検討委員会	提案・顕彰審査委員会		
	}	（ 1. 救急作業部会 ）	広報委員会（ 広報誌・ホームページ部会 ）	
		（ 2. 虐待防止対策部会 ）	（ 1. 年報部会 ）	
褥瘡対策検討委員会（褥瘡対策チーム）		就業管理委員会		
医 療 社 会 事 業 部	病床運営委員会			
	がん診療センター運営委員会			

（令和3年3月31日現在）

## 4. 臨床研修の実施状況

### 1 研修医数（過去5年間）

平成28年度	11名
平成29年度	13名
平成30年度	19名
令和元年度	21名
令和2年度	22名

### 2 福井赤十字病院群研修管理委員会（令和2年度）

委員長	高木 治樹	院長（整形外科部）
委員 (プログラム責任者)	高野 誠一郎	副院長（神経内科部長）
委員	小松 和人	副院長（腎臓・泌尿器科部長）
〃	今村 信	副院長（内科部長）
〃	内田 智美	副院長（看護部長）
〃	神谷 健一	内科部長
〃	道上 学	総合診療科部長
〃	吉田 博之	循環器科内科部長
〃	田邊 毅	麻酔科部長
〃	嶋田 喜充	救急部長
〃	渡邊 康宏	小児科部長
〃	青竹 利治	外科部長
〃	田嶋 公久	産婦人科部長
〃	小西 泰彦	京都大学医学部附属病院教授
〃	野口 善令	名古屋第二赤十字病院副院長
〃	竹上 徹郎	京都第一赤十字病院第一救急科部長
〃	山森 正二	財団法人松原病院長
〃	堤 泰史	福井循環器病院名誉院長兼医療総合マネージャー
〃	根本 朋幸	越前町国民健康保険織田病院長
〃	河野 幸裕	若狭高浜病院長
〃	中川 博幾	福仁会病院理事長兼院長
〃	杉坂 夏子	福井厚生病院ストレスケアセンター長
〃	萩野 正樹	今庄診療所所長
〃	森 満穂	池田町診療所所長
〃	大西 良之	丹南健康福祉センター所長
〃	武藤 眞	福井県赤十字血液センター所長
〃	伊部 晃裕	福井県医師会理事
〃	木村 正二	事務部長
〃	小川 純也	薬剤部長
〃	川島 勇一	人事課長

（令和3年3月31日現在）

## 5. 学会の指定状況

沿革概要	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本認知症学会専門医制度教育施設 臨床神経生理学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門研修連携施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
患者数・経営状況	
委員会	日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
トピックス	日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 関連四学会構成浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本消化器外科学会専門医修練施設
診療業務	日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設B 日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設 日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設（画像認定施設） 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会エキスパンダー実施施設・インプラント実施施設
医療社会事業部	日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本整形外科学会専門医制度研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本形成外科学会認定施設
看護部	日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本脳卒中学会一次脳卒中センター認定施設 日本脳神経血管内治療学会研修施設
事務部	日本皮膚科学会認定専門医研修施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設 日本周産期・新生児医学会（母体・胎児）指定認定施設
業績	日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設 日本眼科学会専門医制度研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関

日本放射線腫瘍学会 JASTRO 認定施設  
 日本核医学会専門医教育病院  
 日本麻酔科学会麻酔科認定病院  
 日本病理学会研修登録施設  
 日本臨床細胞学会教育研修施設  
 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設  
 認定輸血検査技師協議会認定輸血検査技師制度指定施設  
 日本人間ドック学会人間ドック健診専門医制度研修施設  
 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設  
 日本臨床栄養代謝学会栄養サポートチーム稼働施設  
 日本口腔外科学会専門医制度准研修施設  
 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設  
 日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム認定  
 日本作業療法士協会臨床実習指導施設  
 日本女性医学学会認定研修施設  
 日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療体制機構総合診療協力施設  
 日本臨床衛生検査技師会精度保証施設

(令和2年3月31日現在)

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

## 6. 職員の院外役職調

地方自治体・大学法人・公的機関・各種団体

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名		
朝日大学	非常勤講師	歯科部長	山田 和人		
		歯科医師	松永 良健		
金沢医科大学	非常勤講師	麻酔科部長	田邊 毅		
金沢大学関連病院長会	理事	院長	高木 治樹		
京都大学	臨床教授	院長	高木 治樹		
		副院長兼神経内科部長	高野誠一郎		
		脳神経外科部長	西村 真樹		
	非常勤講師	内科部長	夏井 耕之		
		脳神経外科部長	西村 真樹		
	芝蘭会理事	名誉院長	野口 正人		
京大関係病院長協議会評議員	院長	高木 治樹			
京整会（京都大学整形外科教室同門会）幹事	院長	高木 治樹			
順天堂大学	非常勤助教	外科医師	平崎 憲範		
スペシャルオリンピックス 日本・福井	理事	外科部長	藤井 秀則		
全国健康保険協会福井支部	柔道整復師施術療養費審査委員会委員	整形外科部長	高塚 和孝		
日本医療機能評価機構	産科医療補償制度診断協力医	小児科部長	渡邊 康宏		
日本作業療法士協会	生涯教育部養成教育委員会臨床実習審査会	作業療法課長	仲辻 良二		
	生涯教育部生涯教育制度推進担当	第1作業療法係長	山田 英二		
日本赤十字社	災害医療コーディネーター	麻酔科部長	田邊 毅		
	原子力災害医療アドバイザー	麻酔科部長	田邊 毅		
福井県	医療審議会	委員	院長	高木 治樹	
		救急災害医療審議会座長	麻酔科部長	田邊 毅	
	医療審議会専門 部会	救急災害医療体制検討部会座長	麻酔科部長	田邊 毅	
		福井県周産期医療協議会委員	産婦人科部長	田嶋 公久	
		小児医療体制検討部会委員	小児科部長	渡邊 康宏	
		心筋梗塞等の心疾患 医療体制検討部会委員	循環器内科部長	吉田 博之	
		脳卒中医療体制検討部会委員	脳神経外科部長	西村 真樹	
	糖尿病医療体制検討部会委員	内科部長	夏井 耕之		
	医療審議会在宅医療体制検討部会委員	看護師長	西向 秀代		
	地域医療推進会議委員	院長	高木 治樹		
	地域医療構想調整会議委員	看護師長	山崎 雪代		
	難病対策協議会	委員	院長	高木 治樹	
		指定難病等認定審査部会委員	副院長兼神経内科部長	高野誠一郎	
	公安委員長		名誉院長	野口 正人	
	がん委員会	委員	検診部会部長	消化器内科部長	山崎 幸直
			検診部会委員	消化器内科部長	山崎 幸直
検診部会委員			呼吸器内科部長	赤井 雅也	
検診部会委員			外科部長	田中 文恵	
がん予防部会委員			消化器内科部長	山崎 幸直	
がん登録部会委員			呼吸器内科部長	赤井 雅也	
がん登録部会委員	外科部長	田中 文恵			
ドクターヘリ運 航調整委員会	座長	麻酔科部長	田邊 毅		

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名	
福井県	感染症診査協議会（結核部会）委員長	呼吸器内科部長	赤井 雅也	
	感染症予防対策委員会委員	呼吸器内科部長	赤井 雅也	
	エイズ予防対策委員会委員	副院長	今村 信	
	福井・坂井地区メディカルコントロール協議会委員	麻酔科部長	田邊 毅	
	非常勤職員公務災害補償等診査委員会委員	外科部長	田中 文恵	
	社会福祉審議会委員	耳鼻咽喉科部長	大澤 陽子	
	原子力災害医療コーディネーター	麻酔科部長	田邊 毅	
	災害医療コーディネーター	麻酔科部長	田邊 毅	
	臓器移植コーディネーター	看護師長	高島 恵	
		看護係長	福田 清子	
		看護係長	米村 里美	
		看護係長	板岡 利恵	
		看護係長	妹尾真理子	
看護係長	中山 幸代			
福井県アイバンク	理事	眼科部長	小堀 朗	
福井県医師会	在宅医療サポートセンター研修企画部会委員	看護師長	山崎 雪代	
	ふくい医療情報連携システム運営協議会委員	院長	高木 治樹	
	システム適正ならびに利用促進検討部会委員	副院長	今村 信	
		看護師長	山崎 雪代	
	医療システム委員会委員	副院長	小松 和人	
	女性医師支援委員会委員	副院長	小松 和人	
	勤務医委員会委員	外科部長	藤井 秀則	
医療事故調査支援委員会委員	医療安全管理者	相模 朋恵		
福井県医療社会事業協会	理事	社会福祉士	杉山 晴香	
福井県看護協会	理事	副院長兼看護部長	内田 智美	
	認定看護管理者教育運営委員会委員	副院長兼看護部長	内田 智美	
	看護職員研修推進協議会委員	副院長兼看護部長	内田 智美	
		看護師長	山崎 雪代	
	新卒者等訪問看護師育成プログラム検討会委員	看護師長	山崎 雪代	
	認定看護管理者教育課程	ファーストレベル非常勤講師	看護副部長	西川 順子
				真鍋 照美
	災害看護委員会委員	看護係長	朝田 和枝	
	教育委員会委員	看護師長	尾崎こはる	
	救急看護委員	看護師	小川 佳代	
	広報委員会委員	看護係長	徳橋 珠美	
	学会委員会委員	看護係長	和田 幸子	
	助産師職能委員会委員	看護師（助産師）	井上めぐみ	
	看護師職能委員	看護師長	松田ゆう子	
	福井県母子保健相談担当者	看護師（助産師）	大久保 瞳	
	感染管理地域支援委員会委員	看護師	坪田 マキ	
	第一地区委員	看護師長	福田 清美	
福井県がん検診精度管理委員会	委員	消化器内科部長	山崎 幸直	
	委員	呼吸器内科部長	赤井 雅也	
	胃がん専門部会	部会長	消化器内科部長	山崎 幸直
	肺がん専門部会	部会長	呼吸器内科部長	赤井 雅也
	乳がん専門部会	委員	外科部長	田中 文恵
	大腸がん専門部会	委員	消化器内科部長	道上 学
	子宮頸がん専門部会	委員	産婦人科部長	田嶋 公久
福井県外科医会	会長	外科部長	藤井 秀則	
	副会長	外科部長	田中 文恵	

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

沿革概要  
患者数経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

団体名	役職名		本院の役職名もしくは職名	氏名	
福井県健康管理協会	理事		院長	高木 治樹	
福井県作業療法士会	教育部	理事	第1作業療法係長	山田 英二	
		部長	作業療法士	樋田 貴紀	
		会計	作業療法士	山本 和雅	
		部員		齋門 聡子	
	災害対策委員	作業療法士	山本 和雅		
生活行為向上マネジメント委員	作業療法士	黒田 圭太			
福井県歯科医師会	福井県在宅口腔ケア応援センター運営委員		看護師長	山崎 雪代	
	福井歯科専門学校	歯科衛生士科非常勤講師	歯科・口腔外科部長	山田 和人	
	福井歯科専門学校	歯科衛生士科非常勤講師	歯科衛生士	高崎 裕美	
福井県市町村交通災害共済組合	審査委員		院長	高木 治樹	
	委員		整形外科部長	高塚 和孝	
福井県消防学校	講師		麻酔科部長	田邊 毅 白塚 秀之	
福井県腎臓バンク	理事		院長	高木 治樹	
福井県診療放射線技師会	副会長		X線技術課長	西郡 克寛	
	放射線管理委員		診療放射線技師	柑本 明美	
	情報ネットワーク委員会委員		診療放射線技師	二口 亮	
	学術研修委員		画像情報係長	上坂 大輔	
	女性活躍推進委員		診療放射線技師	吉岡 千絵	
	福利厚生委員		診療放射線技師	野崎 貫太	
福井県体操協会	副会長		外科部長	藤井 秀則	
福井県病院薬剤師会	理事		薬剤部長	小川 純也	
			調剤課長	渋谷 貞一	
	業務委員会委員		薬剤師	細谷 拓史	
	学術委員会委員		薬剤師	草富 翔太	
	広報委員会委員		薬剤師	前田 太	
福井県訪問看護ステーション連絡講義会	会長		看護師長	山崎 雪代	
福井県理学療法士会	理事		第1理学療法係長	山岸 耕二	
	理事		理学療法課長	豊田 泰美	
	職能局ワークライフバランス部	副部長	理学療法士係長	梅田 美和	
		委員	理学療法士	北村愛沙美 齊藤 有里	
	社会局広報部	委員	理学療法士	中山 泰博 戸田 友行	
	選挙管理委員会	委員長	理学療法士	岡崎 雅樹	
	ブロック事業局福井西ブロック	施設代表	理学療法士	笥 和真	
	PTの未来を考える委員会	委員長	第1理学療法係長	山岸 耕二	
	倫理委員会	委員	理学療法課長	豊田 泰美	
	福井県立福井東養護学校月見分校	学校医		小児科部長	渡邊 康宏
	福井県立福井南養護学校	学校医		内科部長	神谷 健一
学校医		小児科部長	渡邊 康宏		

団体名	役職名		本院の役職名もしくは職名	氏名	
福井県臨床検査技師会	代表理事		技師長	加藤 幸久	
	理事		輸血・検体課長	杉本 正雄	
	常務理事		生体検査課長	猿木 邦之	
	臨床検査総合部門長		臨床検査技師	見谷 敦司	
	臨床生理部門長		生体検査係長	守部 司	
	微生物検査委員		臨床検査技師	平井 英誉	
	血液検査委員		臨床検査技師	松宮 翔太	
	輸血細胞治療部門長		輸血検査係長	渡辺 純也	
福井県臨床工学技士会	病理細胞委員		臨床検査技師	藤田 幸宏	
	理事		臨床工学技術課長	重矢 直彦	
	理事		第1臨床工学係長	山中 雅弘	
	教育部	血液浄化委員	臨床工学技士	金田 博史	
		呼吸器委員	臨床工学技士	平嶋 克次	
		機器管理委員	臨床工学技士	北島 真樹	
	人材活性化委員会福井県Yボード担当		臨床工学技士	松村 研斗	
選挙管理委員		第2臨床工学係長	谷口 貴洋		
福井工業大学附属 福井高等学校	講師		麻酔科部長	福岡 直	
	非常勤講師		麻酔科部長	福岡 直	
福井市	介護認定審査会委員		副院長兼神経内科部長	高野誠一郎	
			脳神経外科部長	西村 真樹	
			脳神経外科副部長	宮腰 明典	
			整形外科部長	高塚 和孝	
			リハビリテーション科部長	高嶋 理	
			理学療法課長	豊田 泰美	
			第2作業療法士係長	浜田 友紀	
	感染症診査協議会委員長		呼吸器内科部長	赤井 雅也	
	社会福祉協議会	障害者福祉専門分科学審査部会委員	耳鼻咽喉科部長	大澤 陽子	
	障害者自立支援審査会審査員		第1作業療法係長	山田 英二	
障害者地域自立支援協議会	居宅生活対策部会委員	社会福祉士	横山 友美		
高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会委員		介護支援専門員	山崎 奈満		
福井市医師会	理事		副院長	小松 和人	
	看護専門学校	非常勤講師	看護師長	勝木美奈子	
			看護師長	高嶋 節子	
			看護係長	朝田 和枝	
福井大学	福井大学医学部・ 関連病院長会議		理事	院長	高木 治樹
			副会長	副院長	小松 和人
				内科部長	神谷 健一
				産婦人科部長	田嶋 公久
				放射線科部長	左合 直
				麻酔科部長	田邊 毅
	臨床教授	副院長兼神経内科部長	高野誠一郎		
		呼吸器内科部長	赤井 雅也		
		産婦人科部長	田嶋 公久		
		小児科部長	渡邊 康宏		
		消化器内科部長	山崎 幸直		
		整形外科部長	高塚 和孝		
		眼科部長	小堀 朗		
耳鼻咽喉科部長	大澤 陽子				

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
福井大学	臨床教授	循環器内科部長	吉田 博之
		脳神経外科部長	西村 真樹
		麻酔科部長	田邊 毅
		麻酔科部長	白塚 秀之
		内科部長	夏井 耕之
		眼科部長	小堀 朗
	臨床講師	副院長兼看護部長	内田 智美
		腎臓・泌尿器科副部長	高田 昌幸
		看護師長	松田ゆう子
		看護師長	布谷喜代美
		看護師長(助産師)	内田 一美
		看護係長(助産師)	血澤 和美
	非常勤講師	看護係長	板岡 利恵
		呼吸器内科部長	赤井 雅也
		眼科部長	小堀 朗
産婦人科部長		田嶋 公久	
心理判定員		寺井 堅祐	
福井労働基準局	地方労災医員	副院長兼神経内科部長	高野 誠一郎
	地方じん肺診査医	呼吸器内科部長	赤井 雅也
	健康管理医	内科副部長	中野 雅子
	労災保険審査委員	外科部長	藤井 秀則
放送大学	非常勤講師	心理判定員	寺井 堅祐

### 保険関連

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
福井県国民健康保険 診療報酬審査委員会	委員	医監	廣瀬 由紀
		整形外科部長	高塚 和孝
		腎臓・泌尿器科副部長	高田 昌幸
福井県社会保険診療 報酬請求書審査委員会	審査委員	外科部長	藤井 秀則
		脳神経外科部長	西村 真樹
		副院長	今村 信

### 学会・研究会(全国)

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
JOSKAS	評議員	リハビリテーション科部長	浅野 太洋
Needlescopic Surgery Meeting	世話人	外科部長	藤井 秀則
PEG 在宅医療学会	学術評議員	健診部長	西川 邦寿
胃外科・術後障害研 究会	幹事	外科部長	藤井 秀則
	幹事	外科部長	川上 義行
活動分析研究会	福井県代表	第1作業療法係長	山田 英二
消化器健康医療研究機構	上部消化管疾患研究会評価委員	消化器内科部長	山崎 幸直
単孔式内視鏡手術 研究会	運営委員兼世話人	外科部長	藤井 秀則
	世話人	外科部長	川上 義行
日赤薬剤師会	薬剤部門委員会委員	薬剤部長	小川 純也
日本LPEC研究会	世話人	外科部長	藤井 秀則
日本胃癌学会	評議員	外科部長	藤井 秀則
日本医師ジョガーズ連盟	理事	外科部長	藤井 秀則

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
日本眼科手術学会	理事	眼科部長	小堀 朗
日本肝胆膵外科学会	評議員	外科部長	土居 幸司
日本血液学会	評議員	内科部長	神谷 健一
日本結核・非結核性抗酸菌症学会	代議員	呼吸器内科部長	赤井 雅也
	予防委員会委員	呼吸器内科部長	赤井 雅也
日本抗加齢医学会	評議員	外科部長	藤井 秀則
日本呼吸器学会	代議員	呼吸器内科部長	赤井 雅也
日本呼吸器内視鏡学会	評議員	呼吸器内科部長	出村 芳樹
日本呼吸器外科学会	評議員	呼吸器外科部長	松倉 規
日本耳鼻咽喉科学会	代議員	耳鼻咽喉科部長	大澤 陽子
日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会	評議員	耳鼻咽喉科部長	大澤 陽子
日本手術看護学会	理事	看護師長	川端 和代
日本消化器内視鏡学会	評議員	健診部長	西川 邦寿
日本消化器病学会	評議員	消化器内科部長	山崎 幸直
日本女性骨盤底医学会	世話人	副院長	小松 和人
日本神経学会	代議員	副院長兼神経内科部長	高野誠一郎
日本整形外科勤務医会	幹事	院長	高木 治樹
日本赤十字社臨床検査技師会	常務理事	技師長	加藤 幸久
日本赤十字社診療放射線技師会	医療情報分科会世話人	放射線科技師長	西村 英明
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会	評議員	外科部長	田中 文恵
日本内科学会	評議員	内科部長	神谷 健一
日本内視鏡外科学会	評議員	外科部長	藤井 秀則
		外科部長	青竹 利治
		外科部長	川上 義行
日本乳癌検診学会	評議員	外科部長	田中 文恵
日本脳神経外科学会	評議員	脳神経外科部長	西村 真樹
		脳神経外科部長	早瀬 睦
日本脳卒中学会	評議員	脳神経外科部長	西村 真樹
日本泌尿器内視鏡学	評議員	副院長	小松 和人
日本病院会	福井県支部長	名誉院長	野口 正人
日本ボツリヌス治療学会	代議員	副院長兼神経内科部長	高野誠一郎
日本臨床外科学会	評議員	医監	廣瀬 由紀
		外科部長	藤井 秀則
		外科部長	土居 幸司
日本臨床薬理学会	評議員	内科部長	神谷 健一
腹腔鏡内視鏡合同手術研究会	世話人	外科部長	吉羽 秀麿
		消化器内科部長	山崎 幸直

#### 学会・研究会（地方会）

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
Treatment& Discussion の会	世話人	眼科部長	小堀 朗
加越硝子体手術の会	世話人	眼科部長	小堀 朗
活動分析研修会	福井県代表	第1作業療法係長	山田 英二

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

	団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
沿革	京整会 R A 懇話会	世話人	院長	高木 治樹
			整形外科部長	北折 俊之
	京都胸部腫瘍研究会	世話人	呼吸器内科部長	赤井 雅也
			呼吸器内科部長	出村 芳樹
概要	中部日本整形外科学会 災害外科学会	評議員	院長	高木 治樹
	中部労災年金支援センター	健康管理指導医	整形外科部長	高塚 和孝
要	日本医学放射線学会 中部地方会	世話人	放射線科部長	左合 直
	日本核医学技術学会 北陸地方会	監事	嘱託	若松敬一郎
患者数経営状況	日本呼吸器学会・呼吸器 内視鏡学会・結核病学会、 サルコイドーシス学会合 同北陸地方会	評議員，運営協議会委員	呼吸器内科部長	赤井 雅也
		評議員	呼吸器内科部長	出村 芳樹
委員会	日本消化器内視鏡学会 北陸支部	評議員	消化器内科部長	山崎 幸直
	日本消化器病学会 北陸地方会	評議員	健診部長	西川 邦寿
健診部長			西川 邦寿	
外科部長			藤井 秀則	
消化器内科部長			山崎 幸直	
トピックス	日本小児科学会北陸地方会	暫定学術委員会委員	小児科部長	渡邊 康宏
	日本耳鼻咽喉科学会 中部地方部会連合会	運営委員	耳鼻咽喉科部長	大澤 陽子
診療業務	日本循環器学会北陸 地方会	評議員	循環器内科部長	吉田 博之
	日本神経学会東海北陸地方会 日本てんかん学会東海北陸地方会	世話人	副院長兼神経内科部長	高野誠一郎
日本肺癌学会 北陸 支部会		評議員	副院長兼神経内科部長	高野誠一郎
	呼吸器内科部長		赤井 雅也	
	呼吸器内科部長		出村 芳樹	
医療社会事業部	日本泌尿器学会北陸地方会	評議員	呼吸器外科部長	松倉 規
	日本麻酔科学会北陸支部	代議員	副院長	小松 和人
看護部	日本輸血・細胞治療 学会北陸支部	評議員	麻酔科部長	田邊 毅
	北陸 HIV 臨床談話会	世話人	内科部長	今村 信
事務部	北陸 IVR 研究会	世話人	内科部長	今村 信
	北陸 Nuclear Technology カンファレンス	理事	脳神経外科部長	早瀬 睦
業績	北陸 PEG 在宅栄養 研究会	世話人	嘱託	若松敬一郎
	北陸胃癌談話会	幹事	健診部長	西川 邦寿
外科部長			藤井 秀則	
	北陸核医学技術セミナー	理事	外科部長	藤井 秀則
			消化器内科部長	山崎 幸直
	北陸画像診断勉強会	幹事	健診部長	西川 邦寿
	北陸緩和医療研究会	世話人	嘱託	若松敬一郎
	北陸クリスタルクラブ	世話人	放射線科部長	左合 直
	北陸骨折研究会	世話人	外科部長	吉羽 秀麿
	北陸サイトカイン研究会	世話人	眼科部長	小堀 朗
			リハビリテーション科部長	浅野 太洋
			内科部長	神谷 健一

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
北陸周産期・新生児研究会	幹事	小児科副部長	玉村 宗一
北陸循環器負荷研究会	幹事	循環器内科部長	吉田 博之
北陸小腸内視鏡研究会	世話人	健診部長	西川 邦寿
北陸食道疾患懇話会	幹事	外科部長	藤井 秀則
北陸心不全研究会	幹事	循環器内科部長	吉田 博之
北陸診療情報管理研究会	理事	副院長	今村 信
		医療情報課長	櫻井 慎二
北陸大腸癌研究会	幹事	外科部長	藤井 秀則
北陸地区脳神経リハビリテーション看護研究会	世話人	看護係長	井口 秀人
北陸糖尿病研究会	世話人	内科副部長	中野 雅子
北陸内視鏡外科研究会	幹事	外科部長	青竹 利治
			藤井 秀則
北陸乳癌懇話会	幹事	外科部長	田中 文恵
北陸乳房画像研究会	世話人	X線技術課長	西郡 克寛
		診療放射線技師	吉岡 千絵
北陸脳腫瘍研究会	世話人	脳神経外科部長	西村 真樹
北陸脳腫瘍懇話会	世話人	脳神経外科部長	西村 真樹
北陸リウマチ関節研究会	世話人	整形外科部長	浅野 太洋
北陸臨床免疫症例検討 / 研究会	幹事	内科部長	神谷 健一
北陸ヘルニア研究会	幹事	外科部長	川上 義行

#### 学会・研究会（福井県）

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
F A R M研究会	世話人	産婦人科部長	田嶋 公久
Fukui ACT Core Member Meeting	世話人	循環器内科部長	吉田 博之
Fukui Circulation Forum	世話人	循環器内科部長	吉田 博之
Pitfall の会	代表世話人	眼科部長	小堀 朗
日本小児科学会福井地方会	委員	小児科部長	渡邊 康宏
福井 IVNR 研究会	世話人	脳神経外科部長	早瀬 睦
福井 PBSCT 研究会	世話人	内科部長	神谷 健一
福井 RA フォーラム	世話人	院長	高木 治樹
福井肝癌研究会	幹事	消化器内科部長	道上 学
		放射線科部長	左合 直
福井冠疾患治療を考える会	世話人	循環器内科部長	吉田 博之 坪川 明義
福井関節外科懇話会	代表世話人	院長	高木 治樹
	世話人	リハビリテーション科部長	浅野 太洋
福井感染制御ネットワーク	世話人	呼吸器内科部長	赤井 雅也
	委員	看護師	坪田 マキ
福井がんとチーム医療研究会	世話人	外科部長	藤井 秀則
福井救急集中治療医学研究会	幹事	麻酔科部長	田邊 毅
福井血液腫瘍 Roundtable Conference	世話人	副院長	今村 信
福井県 CAPD 看護研究会	会長	看護師長	高嶋 節子

沿革概要  
患者数経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
福井県 CT.MR 研究会	世話人	画像情報係長	上坂 大輔
		診療放射線技師	勝木 宏輝
福井県 MRI 研究会	幹事	放射線科部長	左合 直
福井県 NST 研究会	幹事	外科部長	川上 義行
福井県抗加齢医学会	会長	外科部長	藤井 秀則
福井県胃腸疾患懇話会	幹事	外科部長	藤井 秀則
		消化器内科部長	道上 学
		消化器内科部長	山崎 幸直
福井県核医学研究会	幹事	循環器内科部長	吉田 博之
福井県画像技術セミナー	理事	嘱託	若松 敬一郎
福井県肝胆膵勉強会	幹事	放射線科部長	左合 直
		外科部長	土居 幸司
福井県緩和医療研究会	幹事	外科部長	藤井 秀則
			吉羽 秀麿
福井県外科医会	消化器部門幹事	外科部長	青竹 利治
	乳がん部門幹事	外科部長	田中 文恵
福井県産婦人科医師連合	理事	産婦人科部長	田嶋 公久
福井県消化管撮影研究会	世話人	X線技術係長	山崎 亮一
		診療放射線技師	柑本 明美
福井県小児科医会	理事	小児科部長	渡邊 康宏
	広報委員会委員	小児科部長	渡邊 康宏
福井県診療情報管理懇話会	幹事	副院長	今村 信
		医療情報課長	櫻井 慎二
福井県末消血幹細胞移植研究会	世話人	内科部長	神谷 健一
福井県整形外科医会	理事	整形外科部長	高塚 和孝
福井県乳房画像研究会	世話人	X線技術課長	西郡 克寛
		診療放射線技師	田賀 陽子
		診療放射線技師	吉岡 千絵
福井県糖尿病協会	理事	内科副部長	中野 雅子
		看護師	清水 雅代
福井県糖尿病懇話会	世話人	内科副部長	中野 雅子
		看護師	清水 雅代
福井県糖尿病療養指導研究会	理事	内科部長	夏井 耕之
		看護師	清水 雅代
		栄養課長	大久保 祐子
福井県内科医会	幹事	副院長兼神経内科部長	高野 誠一郎
福井県脳・神経談話会	幹事	副院長兼神経内科部長	高野 誠一郎
	世話人	脳神経外科部長	西村 真樹
福井県脳機能画像カンファレンス	世話人	脳神経外科部長	西村 真樹
福井県脳梗塞セミナー	世話人	脳神経外科部長	西村 真樹
		神経内科副部長	今村 久司
福井県皮膚潰瘍研究会	世話人	形成外科部長	山脇 聖子
福井県母性衛生学会	理事	産婦人科部長	田嶋 公久
福井県予防接種研究会	世話人	呼吸器内科部長	赤井 雅也
		小児科部長	渡邊 康宏

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
福井県リウマチケア研究会	顧問	院長	高木 治樹
	実行委員	看護師長	石田 克子
		理学療法課長	豊田 泰美
		作業療法士	山本 和雅
福井県臨床細胞学会	幹事	産婦人科部長	田嶋 公久
		病理診断科副部長	大越 忠和
		臨床検査技師	藤田 幸宏
福井膠原病研究会	世話人	院長	高木 治樹
福井骨粗鬆症フォーラム	代表世話人	院長	高木 治樹
	世話人	整形外科部長	高塚 和孝
	世話人	産婦人科部長	田嶋 公久
福井周産期症例検討会	世話人	小児科部長	渡邊 康宏
福井循環器カンファレンス	世話人	循環器内科部長	吉田 博之
福井ショックと蘇生研究会	幹事	麻酔科部長	田邊 毅
福井神経疾患研究会	世話人	副院長兼神経内科部長	高野誠一郎
		外科部長	青竹 利治
福井大腸癌研究会	幹事	消化器内科部長	道上 学
福井地区緊急被ばくネットワーク研究会	委員	内科部長	神谷 健一
福井地区緊急被ばくネットワーク検討会	委員	内科部長	神谷 健一
		放射線科技師長	西村 英明
福井認知症を考える会	世話人	副院長兼神経内科部長	高野誠一郎
ふくいので在宅医療を支える会	世話人	看護師長	山崎 雪代
		社会福祉士	奈須田 瞳
福井日和見感染症研究会	世話人	内科部長	神谷 健一
福井婦人科腫瘍研究会	世話人	産婦人科部長	田嶋 公久
福井リウマチ研究会	顧問	院長	高木 治樹
	世話人	整形外科部長	北折 俊之
福井臨床薬理を考える会	委員	内科部長	神谷 健一

沿革  
概要  
要  
患者数経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

## 7. 年 間 行 事

日	時	内 容	場 所
4月 1日	8:15	辞令交付（昇任・医師新規採用者）	院長室
	9:00	辞令交付（新規採用者）	栄養管理棟 3階講堂
		新規採用職員一般研修 ～ 3日（金）	栄養管理棟 3階講堂
4月17日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
4月24日	17:00	定例医局会	栄養管理棟 3階講堂
5月15日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
5月29日	17:00	定例医局会	栄養管理棟 3階講堂
6月12日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
6月26日	17:00	定例医局会	栄養管理棟 3階講堂
7月17日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
7月27日	13:30	日本赤十字社福井県支部令和2年度上期評議員会	アオッサ 8階県民ホール
7月31日	17:00	定例医局会	栄養管理棟 3階講堂
8月 6日	15:00	被剖検者追悼式	栄養管理棟 3階講堂
8月21日	14:30	管理会議	応接室
9月18日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
9月25日	17:00	定例医局会	栄養管理棟 3階講堂
10月16日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
10月17日	8:15	令和2年度福井赤十字病院災害対応訓練	エントランスホール他
11月13日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
11月25日	11:15	キャリアラダー認定証授与式（事務職）	院長室等
11月27日	17:00	定例医局会	栄養管理棟 3階講堂
12月16日	16:00	臨時管理会議	応接室
12月18日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
12月24日	18:30	第65回クリスマスキャンドルサービス	各病棟
12月25日	17:00	定例医局会	栄養管理棟 3階講堂
1月 4日	8:15	令和3年度仕事始め式（各部署代表者）	栄養管理棟 3階講堂
1月15日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
1月19日	17:00	定例医局会	栄養管理棟 3階講堂
2月19日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室

日 時		内 容	場 所
2月26日	17:00	定例医局会	栄養管理棟3階講堂
3月12日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
3月17日	午前中	ドクターヘリ実機訓練	救急用ヘリポート
3月18日	16:00	臨床研修医師・歯科医師修了証授与式	院長室
3月19日	17:00	定例医局会	栄養管理棟3階講堂

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

沿
革
概
要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業
績

# 患者数・経営状況

1. 患者数統計

地区別入院患者数比較（年度別比較）

入院

	平成28年	対前年度増減	%	平成29年	対前年度増減	%	平成30年	対前年度増減	%	令和元年	対前年度増減	%	令和2年	対前年度増減	%
福井市	104,239	-1,639	98%	103,596	-643	99%	99,360	-4236	96%	94,772	-4,588	95%	85,437	-9,335	90%
敦賀市	1,321	298	129%	1,215	-106	92%	1,983	768	163%	1,741	-242	88%	1,535	-206	88%
越前市	19,474	1,237	107%	18,073	-1,401	93%	17,515	-558	97%	18,183	668	104%	14,154	-4,029	78%
小浜市	385	-32	92%	105	-280	27%	157	52	150%	248	91	158%	74	-174	30%
大野市	2,171	-865	72%	1,622	-549	75%	1,784	162	110%	1,873	89	105%	1,314	-559	70%
勝山市	989	-174	85%	614	-375	62%	730	116	119%	1,256	526	172%	430	-826	34%
鯖江市	23,035	-941	96%	26,002	2,967	113%	24,309	-1693	93%	23,706	-603	98%	20,908	-2,798	88%
あわら市	1,488	-730	67%	1,583	95	106%	1,825	242	115%	1,376	-449	75%	1,217	-159	88%
永平寺町	510	3	101%	650	140	127%	426	-224	66%	806	380	189%	694	-112	86%
坂井市	4,125	-69	98%	3,622	-503	88%	3,772	150	104%	3,567	-205	95%	3,409	-158	96%
池田町	535	119	129%	541	6	101%	540	-1	100%	354	-186	66%	356	2	101%
美浜町	237	64	137%	54	-183	23%	449	395	831%	365	-84	81%	55	-310	15%
おおい町	11	-10	52%	226	215	2055%	46	-180	20%	7	-39	15%	7	0	100%
高浜町	109	91	0%	43	-66	0%	231	188	100%	121	-110	100%	0	-121	100%
南越前町	3,059	144	105%	2,520	-539	82%	2,520	0	100%	2,907	387	115%	1,921	-986	66%
越前町	12,566	-506	96%	12,860	294	102%	12,129	-731	94%	12,264	135	101%	8,663	-3,601	71%
若狭町	58	-388	13%	36	-22	62%	239	203	664%	315	76	132%	391	76	124%
県外その他	1,631	13	101%	1,887	256	116%	1,492	-395	79%	1,529	37	102%	1,412	-117	92%
合計	175,943	-3,385	98%	175,249	-694	100%	169,507	-5742	97%	165,390	-4,117	98%	141,977	-23,413	86%

業績	事務部	看護部	医療社会事業部	診療業務	トピックス	委員会	患者数・経営状況	概要	沿革	沿革
----	-----	-----	---------	------	-------	-----	----------	----	----	----

地区別外来患者数比較（年度別比較）

外 来

	平成28年	対前年度増減	%	平成29年	対前年度増減	%	平成30年	対前年度増減	%	令和元年	対前年度増減	%	令和2年	対前年度増減	%
福井市	190,396	-2,297	99%	185,881	-4,515	98%	189,599	3,718	102%	186,584	-3,015	98%	169,326	-17,258	91%
敦賀市	1,983	251	114%	2,121	138	107%	2,218	97	105%	2,229	11	100%	1,934	-295	87%
越前市	31,332	-300	99%	30,636	-696	98%	31,061	425	101%	30,243	-818	97%	27,531	-2,712	91%
小浜市	340	-15	96%	203	-137	60%	236	33	116%	270	34	114%	164	-106	61%
大野市	4,095	-383	91%	3,776	-319	92%	3,664	-112	97%	3,697	33	101%	3,178	-519	86%
勝山市	1,477	-112	93%	1,105	-372	75%	1,045	-60	95%	1,277	232	122%	914	-363	72%
鯖江市	37,582	-220	99%	38,858	1,276	103%	38,443	-415	99%	37,929	-514	99%	34,112	-3,817	90%
あわら市	2,978	-345	90%	3,125	147	105%	3,344	219	107%	3,368	24	101%	2,906	-462	86%
永平寺町	1,543	14	101%	1,548	5	100%	1,364	-184	88%	1,403	39	103%	1,239	-164	88%
坂井市	8,593	-357	96%	8,203	-390	95%	8,333	130	102%	8,189	-144	98%	7,549	-640	92%
池田町	1,023	-92	92%	976	-47	95%	792	-184	81%	794	2	100%	711	-83	90%
美浜町	326	59	122%	304	-22	93%	352	48	116%	352	0	100%	219	-133	62%
おおい町	20	-16	56%	100	80	500%	83	-17	83%	23	-60	28%	25	2	109%
高浜町	49	-1	98%	45	-4	92%	74	29	164%	63	-11	85%	12	-51	19%
南越前町	4,206	72	102%	3,989	-217	95%	3,844	-145	96%	4,327	483	113%	3,627	-700	84%
越前町	18,043	903	105%	17,539	-504	97%	17,096	-443	97%	17,585	489	103%	15,253	-2,332	87%
若狭町	288	-173	62%	200	-88	69%	269	69	135%	322	53	120%	282	-40	88%
県外その他	2,342	-53	98%	2,350	8	100%	2,196	-154	93%	2,469	273	112%	1,832	-637	74%
合 計	306,616	-3,065	99%	300,959	-5,657	98%	304,013	3,054	101%	301,124	-2,889	99%	270,814	-30,310	90%

年齢別入外別 患者延べ数 (年度別比較)

入院

	平成28年	対前年度増減	%	平成29年	対前年度増減	%	平成30年	対前年度増減	%	令和元年	対前年度増減	%	令和2年	対前年度増減	%
0 - 5 才	3,923	-160	96%	3,590	-333	92%	4,112	522	115%	4,038	-74	98%	2,840	-1,198	70%
6 - 14 才	1,388	99	108%	1,566	178	113%	1,653	87	106%	1,980	327	120%	1,628	-352	82%
15 - 19 才	1,239	393	146%	1,049	-190	85%	919	-130	88%	1,227	308	134%	640	-587	52%
20 - 24 才	1,342	-340	80%	1,503	161	112%	1,267	-236	84%	1,176	-91	93%	1,215	39	103%
25 - 29 才	2,629	-248	91%	2,489	-140	95%	2,310	-179	93%	2,558	248	111%	1,674	-884	65%
30 - 34 才	3,436	-217	94%	3,035	-401	88%	2,824	-211	93%	2,337	-487	83%	2,348	11	100%
35 - 39 才	3,621	396	112%	3,671	50	101%	2,833	-838	77%	2,831	-2	100%	2,044	-787	72%
40 - 44 才	3,690	-141	96%	4,052	362	110%	3,985	-67	98%	3,184	-801	80%	2,848	-336	89%
45 - 49 才	4,428	-668	87%	5,058	630	114%	4,469	-589	88%	4,078	-391	91%	3,784	-294	93%
50 - 54 才	4,938	-956	84%	5,843	905	118%	5,119	-724	88%	5,962	843	116%	5,121	-841	86%
55 - 59 才	8,941	-61	99%	8,695	-246	97%	7,162	-1,533	82%	7,367	205	103%	6,551	-816	89%
60 - 64 才	12,391	-2,902	81%	10,197	-2,194	82%	10,259	62	101%	9,747	-512	95%	8,343	-1,404	86%
65 - 69 才	23,940	2,037	109%	22,266	-1,674	93%	20,078	-2,188	90%	18,631	-1,447	93%	13,998	-4,633	75%
70 - 74 才	22,404	-911	96%	21,638	-766	97%	22,955	1,317	106%	24,053	1,098	105%	21,596	-2,457	90%
75 - 79 才	25,164	1,026	104%	26,301	1,137	105%	26,292	-9	100%	27,974	1,682	106%	23,115	-4,859	83%
80 才以上	52,469	-732	99%	54,296	1,827	103%	53,270	-1,026	98%	48,247	-5,023	91%	44,232	-4,015	92%
合 計	175,943	-3,385	98%	175,249	-694	100%	169,507	-5,742	97%	165,390	-4,117	98%	141,977	-23,413	86%

業 績	事務部	看護部	医療社会事業部	診療業務	トピックス	委員会	患者数・経営状況	概要	沿革	沿革
-----	-----	-----	---------	------	-------	-----	----------	----	----	----

年齢別入外別 患者延べ数 (年度別比較)

外 来

	平成28年	対前年度増減	%	平成29年	対前年度増減	%	平成30年	対前年度増減	%	令和元年	対前年度増減	%	令和2年	対前年度増減	%
0 - 5 才	8,631	-1,157	88%	8,099	-532	94%	8,364	265	103%	8,705	341	104%	5,674	-3,031	65%
6 - 14 才	6,681	-244	96%	5,902	-779	88%	6,326	424	107%	6,189	-137	98%	4,901	-1,288	79%
15 - 19 才	3,573	298	109%	3,150	-423	88%	3,440	290	109%	3,521	81	102%	2,724	-797	77%
20 - 24 才	3,921	-459	90%	4,106	185	105%	3,828	-278	93%	3,560	-268	93%	3,068	-492	86%
25 - 29 才	6,135	-580	91%	6,328	193	103%	6,273	-55	99%	6,298	25	100%	5,377	-921	85%
30 - 34 才	8,263	-156	98%	8,007	-256	97%	7,637	-370	95%	7,104	-533	93%	6,893	-211	97%
35 - 39 才	8,653	-703	92%	9,045	392	105%	8,818	-227	97%	8,605	-213	98%	7,213	-1,392	84%
40 - 44 才	11,457	-107	99%	11,298	-159	99%	11,228	-70	99%	10,809	-419	96%	9,220	-1,589	85%
45 - 49 才	13,377	73	101%	13,249	-128	99%	12,994	-255	98%	13,240	246	102%	12,890	-350	97%
50 - 54 才	14,017	-1,136	93%	14,580	563	104%	14,430	-150	99%	15,045	615	104%	13,574	-1,471	90%
55 - 59 才	18,478	-197	99%	17,875	-603	97%	17,341	-534	97%	16,731	-610	96%	16,378	-353	98%
60 - 64 才	26,643	-1,808	94%	24,425	-2,218	92%	22,657	-1,768	93%	22,401	-256	99%	19,874	-2,527	89%
65 - 69 才	44,079	3,176	108%	41,635	-2,444	94%	39,274	-2,361	94%	34,619	-4,655	88%	29,123	-5,496	84%
70 - 74 才	37,892	-2,300	94%	38,462	570	102%	41,467	3,005	108%	45,132	3,665	109%	42,722	-2,410	95%
75 - 79 才	38,874	512	101%	38,327	-547	99%	41,523	3,196	108%	43,323	1,800	104%	39,432	-3,891	91%
80 才以上	55,942	1,723	103%	56,471	529	101%	58,413	1,942	103%	55,842	-2,571	96%	51,751	-4,091	93%
合 計	306,616	-3,065	99%	300,959	-5,657	98%	304,013	3,054	101%	301,124	-2,889	99%	270,814	-30,310	90%

月別入外別患者延数 (年度別比較)

入院患者数 (年度別比較)

年 月	平成28年	対前年 度増減	%	平成29年	対前年 度増減	%	平成30年	対前年 度増減	%	令和元年	対前年 度増減	%	令和2年	対前年 度増減	%
4月	15,411	338	102.2%	14,201	-1,210	92.1%	14,038	-163	98.9%	14,785	747	105.3%	10,263	-4,522	69.4%
5月	14,586	97	100.7%	14,510	-76	99.5%	14,155	-355	97.6%	14,581	426	103.0%	9,917	-4,664	68.0%
6月	14,441	-291	98.0%	14,359	-82	99.4%	14,107	-252	98.2%	14,007	-100	99.3%	11,397	-2,610	81.4%
7月	14,417	-472	96.8%	14,605	188	101.3%	14,158	-447	96.9%	14,173	15	100.1%	12,470	-1,703	88.0%
8月	14,150	-1,546	90.2%	14,463	313	102.2%	14,375	-88	99.4%	13,695	-680	95.3%	12,261	-1,434	89.5%
9月	14,273	585	104.3%	14,161	-112	99.2%	13,642	-519	96.3%	12,741	-901	93.4%	11,897	-844	93.4%
10月	14,869	390	102.7%	14,565	-304	98.0%	13,930	-635	95.6%	13,378	-552	96.0%	12,108	-1,270	90.5%
11月	15,058	55	100.4%	15,071	13	100.1%	13,713	-1,358	91.0%	13,277	-436	96.8%	12,293	-984	92.6%
12月	14,728	-643	95.8%	14,839	111	100.8%	14,619	-220	98.5%	14,276	-343	97.7%	12,166	-2,110	85.2%
1月	14,370	-974	93.7%	14,919	549	103.8%	14,295	-624	95.8%	13,848	-447	96.9%	12,421	-1,427	89.7%
2月	14,199	-641	95.7%	14,441	242	101.7%	13,748	-693	95.2%	13,206	-542	96.1%	11,896	-1,310	90.1%
3月	15,441	-283	98.2%	15,115	-326	97.9%	14,727	-388	97.4%	13,423	-1,304	91.1%	12,888	-535	96.0%
計	175,943	-3,385	98.1%	175,249	-694	99.6%	169,507	-5,742	96.7%	165,390	-4,117	97.6%	141,977	-23,413	85.8%
1日平均	482	-	-	480	-	-	464	-	-	452	-	-	389	-	-

業 績	事務部	看護部	医療社会事業部	診療業務	トピックス	委員会	患者数・経営状況	概要	革	沿
--------	-----	-----	---------	------	-------	-----	----------	----	---	---

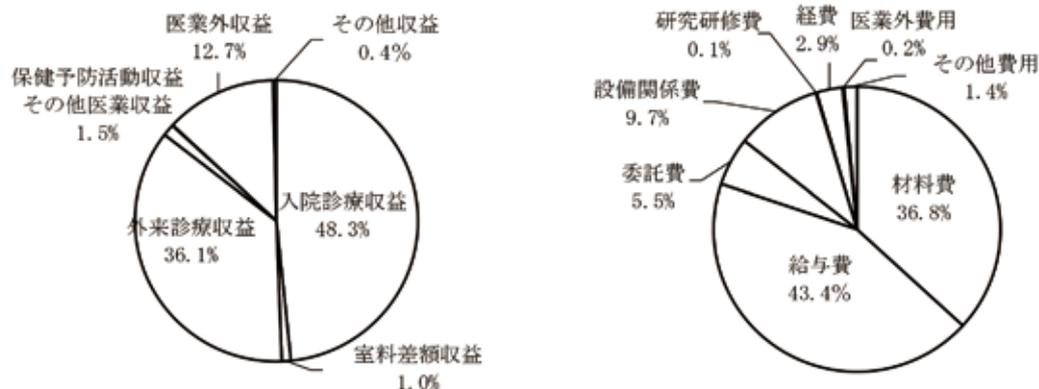
月別入外別患者延数 (年度別比較)

外来患者数 (年度別比較)

年 月	平成28年	対前年 度増減	%	平成29年	対前年 度増減	%	平成30年	対前年 度増減	%	令和元年	対前年 度増減	%	令和2年	対前年 度増減	%
4月	25,420	-956	96.4%	24,490	-930	96.3%	24,387	-103	99.6%	25,575	1,188	104.9%	18,368	-7,207	71.8%
5月	25,365	2,023	108.7%	25,225	-140	99.4%	25,207	-18	99.9%	25,709	502	102.0%	17,455	-8,254	67.9%
6月	26,630	399	101.5%	26,376	-254	99.0%	25,741	-635	97.6%	25,048	-693	97.3%	23,313	-1,735	93.1%
7月	25,768	-1,526	94.4%	25,550	-218	99.2%	26,099	549	102.1%	27,279	1,180	104.5%	24,165	-3,114	88.6%
8月	27,036	1,221	104.7%	26,200	-836	96.9%	27,008	808	103.1%	25,707	-1,301	95.2%	22,630	-3,077	88.0%
9月	25,584	154	100.6%	25,448	-136	99.5%	23,302	-2,146	91.6%	24,142	840	103.6%	23,463	-679	97.2%
10月	25,803	-729	97.3%	25,904	101	100.4%	27,025	1,121	104.3%	26,346	-679	97.5%	25,017	-1,329	95.0%
11月	25,624	568	102.3%	25,332	-292	98.9%	25,790	458	101.8%	24,720	-1,070	95.9%	22,987	-1,733	93.0%
12月	25,418	-905	96.6%	25,440	22	100.1%	25,536	96	100.4%	25,582	46	100.2%	24,252	-1,330	94.8%
1月	23,718	-765	96.9%	23,228	-490	97.9%	24,747	1,519	106.5%	24,401	-346	98.6%	20,870	-3,531	85.5%
2月	23,202	-1,693	93.2%	21,113	-2,089	91.0%	22,921	1,808	108.6%	22,205	-716	96.9%	20,762	-1,443	93.5%
3月	27,048	-856	96.9%	26,653	-395	98.5%	26,250	-403	98.5%	24,410	-1,840	93.0%	27,532	3,122	112.8%
計	306,616	-3,065	99.0%	300,959	-5,657	98.2%	304,013	3,054	101.0%	301,124	-2,889	99.0%	270,814	-30,310	89.9%
1日平均	1,257	-	-	1,228	-	-	1,246	-	-	1,234	-	-	1,114	-	-

## 2. 収支決算状況

### 収支割合



### 収 入

	令和元年度		令和2年度		決算額対前年度比較	
	金額 千円	対医業収益比 %	金額 千円	対医業収益比 %	金額 千円	増減率 %
入院診療収益	11,033,642	57.8	9,960,591	55.7	△ 1,073,051	△ 9.7
室料差額収益	240,855	1.3	213,932	1.2	△ 26,923	△ 11.2
外来診療収益	7,481,991	39.2	7,428,624	41.5	△ 53,367	△ 0.7
保健予防活動収益	334,497	1.8	280,470	1.6	△ 54,027	△ 16.2
受託検査・施設利用収益	141	0.0	59	0.0	△ 82	△ 58.2
その他の医業収益	72,702	0.4	74,484	0.4	1,782	2.5
保険等査定減	△ 73,962	△ 0.4	△ 60,609	△ 0.3	13,353	-
医業収益合計	19,089,866	100.0	17,897,551	100.0	△ 1,192,315	△ 6.2
医業外収益	405,830	2.1	2,614,688	14.6	2,208,858	544.3
医療社会事業収益	7,428	0.0	8,205	0.0	777	10.5
付帯事業収益	56,853	0.3	81,646	0.5	24,793	43.6
特別利益	3,144	0.0	10,180	0.1	7,036	223.8
収入合計	19,563,121	102.5	20,612,270	115.2	1,049,149	5.4

### 支 出

	令和元年度		令和2年度		決算額対前年度比較	
	金額 千円	対医業収益比 %	金額 千円	対医業収益比 %	金額 千円	増減率 %
材料費	7,103,334	37.2	6,971,178	39.0	△ 132,156	△ 1.9
給与費	8,027,277	42.0	8,210,090	45.9	182,813	2.3
委託費	986,269	5.2	1,037,267	5.8	50,998	5.2
設備関係費	1,905,757	10.0	1,838,152	10.3	△ 67,605	△ 3.5
研究研修費	58,025	0.3	20,834	0.1	△ 37,191	△ 64.1
経費	568,298	3.0	552,196	3.1	△ 16,102	△ 2.8
医業費用合計	18,648,960	97.7	18,629,717	104.1	△ 19,243	△ 0.1
医業外費用	51,660	0.3	38,601	0.2	△ 13,059	△ 25.3
医療奉仕費用	190,812	1.0	180,959	1.0	△ 9,853	△ 5.2
付帯事業費用	67,269	0.4	78,206	0.4	10,937	16.3
特別損失	11,887	0.1	9,864	0.1	△ 2,023	△ 17.0
法人税等	19,511	0.1	3,029	0.0	△ 16,482	
支出合計	18,990,099	99.5	18,940,376	105.8	△ 49,723	△ 0.3
収支差額	573,022		1,671,894		1,098,872	

## 収支決算状況

### (収入)

入院診療収益については、新型コロナウイルス患者の受入れに伴う通常診療の縮小等により入院延べ患者数が23,413名減少（前年比△14.2%）したことで、前年比1,073,590,333千円の減収（△9.7%）となった。

外来診療収益については、新型コロナウイルス感染症の影響で、外来患者数は30,310人減少（前年比△10.1%）したが、高額医薬品の使用増等により単価が増加し、前年比△56,255千円と小幅な減収（△0.7%）となった。

以上により、医業収益全体では、前年比1,192,315千円の減収（△6.3%）となった。

医業外の収益では、運営費補助金等収益が、新型コロナウイルス対策事業補助金（病床確保）など新型コロナウイルス関連の補助金を取得したことで大幅な増加となった。前年比2,180,791千円（3,3027.1%）の増となった。

訪問看護ステーションにおいては、専従看護師の2名増員（R1.12～）したことにより、施設収益（全体も同じ）が前年比24,793千円の増収（+43.6%）となった。

収益的収入全体としては、前年比1,049,149千円の増収（+5.4%）となった。

### (支出)

医薬品費は、高額な抗がん剤を用いた治療が増加したことにより、また、医療用医薬品の流通改善に関する国のガイドライン（H30.1.23）による新薬創出加算対象の医薬品の値引き率の縮減で、前年比15,945千円（前年比+0.3%）した。診療材料費は、新型コロナの影響で手術数が大幅に減少したことなどにより前年比141,309千円の減少（△9.3%）となった。材料費全体では前年比132,157千円の減少（△1.9%）の減となった。

給与費は、全体としては、前年比182,814千円の増加（+2.3%）となった。職員数の増加（年間平均で前年比25.5名増）により増加した。

委託費については、スタッフ単価増により給食委託費が前年比11,883千円の増加（+18.2%）、人材派遣業務委託が前年比18,567千円増加（+8.4%）、医事委託費が前年比12,702千円（+8.2%）増加した。また、新型コロナ感染症患者受入れに伴う医療廃棄物量が増加し、医療廃棄物処理量が前年比4,018千円（+15.8%）増加した。委託費全体としては前年比50,998千円の増加（+5.2%）となった。

以上により、医業費用全体では、対前年度比△0.1%（△19,243千円）の18,629,717千円となった。

収益的支出全体では、法人税の減少等により前年度比△0.3%（△49,723千円）の18,940,376千円となった。

### (収支)

以上のことから医業収支で、732,166千円の赤字、収益的収支で1,671,894千円の黒字となった。

# 委員 会 活 動

# 委 員 会

区分	委員会(部会)の名称	委員長名 (院内役職)	委員数	事務局	年間 開催回数
法的に設置する委員会	災害対策・防火・防災委員会	田邊毅 (災害救護支援室長)	15	災害救護支援室 管財課	2
	衛生委員会	木村正二 (事務部長)	15	人事課	12
	情報システム管理委員会	今村信 (副院長)	19	医療情報課	9
	倫理委員会 (倫理コンサルテーションチーム)	高野誠一郎 (副院長)	9	総務課	3
	倫理コンサルテーションチーム	高野誠一郎 (副院長)	7	総務課	17
	治験審査委員会	高野誠一郎 (副院長)	12	薬剤部	0
	臨床試験審査委員会	高野誠一郎 (副院長)	12	薬剤部	1
	臓器移植委員会	高野誠一郎 (副院長)	13	総務課	1
安全管理に関する委員会	医療安全管理委員会	小松和人 (副院長)	34	医療安全推進課	12
	医療安全推進室部会	小松和人 (副院長)	12	医療安全推進課	37
	事故調査委員会	小松和人 (副院長)	6	医療安全推進課	2
	院内感染防止対策委員会 (ICT)	小松和人 (副院長)	10	医療安全推進課 感染管理室	12
	Infection Control Team	土居幸司 (外科部長)	20	医療安全推進課 感染管理室	12
	医療廃棄物処理対策委員会	今村信 (副院長)	9	管財課	1
	医療ガス安全管理委員会	今村信 (副院長)	10	管財課	1
	放射線安全委員会	左合直 (放射線科部長)	20	放射線科部	1
医療の質に関する委員会	TQM推進委員会	木村正二 (事務部長)	19	病院経営課	2
	クリニカルパス推進部会	吉田博之 (循環器内科部長)	22	医事サービス課 医療情報課	5
	QC活動推進部会	神谷健一 (内科部長)	17	病院経営課	2
	患者満足度向上部会	田嶋公久 (産婦人科部長)	17	病院経営課	3
	職員満足度向上部会	田嶋公久 (産婦人科部長)	12	人事課	2
	NST部会	川上義之 (外科部長)	16	病院経営課	1
	RST部会	塩崎晃平 (呼吸器内科部長)	14	病院経営課	6
	糖尿病サポート部会 (糖尿病サポートチーム)	夏井耕之 (内科部長)	13	医事サービス課	部会 1 チーム会 6
	認知症ケアチーム部会 (認知症ケアチーム)	高野誠一郎 (副院長)	11	地域医療連携課	1
CST部会	河野眞範 (腎臓泌尿器科部長)	13	医事サービス課	部会 1 ミーティング 9 院内研修会 1	
診療に関する委員会	栄養委員会	吉田博之 (循環器内科部長)	8	栄養課	2
	診療録管理委員会	今村信 (副院長)	29	医療情報課	0
	病歴業務検討会	藤井秀則 (~令和3年1月) (外科部長) 吉田博之 (令和3年2月~) (循環器内科部長)	13	医療情報課	1
	インフォームドコンセント推進委員会	左合直 (放射線科部長)	9	医療情報課	持ち回り 6
	診療情報提供委員会	今村信 (副院長)	9	医療情報課	持ち回り 13
	保険診療検討委員会	今村信 (副院長)	19	医事サービス課	6
	DPC/PDPS 傷病コーディング部会	今村信 (副院長)	22	医事サービス課	4
	救急医療検討委員会	嶋田喜充 (救急部長)	26	救急部 総務課	2

沿革  
 概要  
 患者数・経営状況  
 委員会  
 トピックス  
 診療業務  
 医療社会事業部  
 看護部  
 事務部  
 業績

沿革概要  
患者数経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

区分	委員会（部会）の名称	委員長名 (院内役職)	委員数	事務局	年間 開催回数
	救急作業部会	嶋田喜充（救急部長）	11	救急部 総務課	12
	虐待防止対策部会	嶋田喜充（救急部長）	13	救急部 総務課	0
	褥瘡対策検討委員会（褥瘡対策チーム）	八木洋輔（皮膚科副部長）	14	看護部	12
	病床運営委員会	内田智美（副院長兼看護部長）	8	看護部	1
	がん診療センター運営委員会	藤井秀則（～令和3年1月）(外科部長) 今村信（令和3年2月～）(副院長)	19	地域医療連携課	1
	がん化学療法部会	青竹利治（外科部長）	22	地域医療連携課	12
	緩和医療検討部会	藤井秀則（～令和3年1月）(外科部長) 吉羽秀麿（令和3年2月～）(外科部長)	19	地域医療連携課	1
	遺伝診療検討部会	今村信（副院長）	13	地域医療連携課	4
	血液浄化療法委員会	小松和人（副院長）	13	医事サービス課	1
	透析センター（透析機器安全管理）運営委員会	小松和人（副院長）	6	医事サービス課	1
	脳卒中センター運営委員会	高野誠一郎（副院長）	16	総務課	0
輸血療法委員会	今村信（副院長）	16	輸血課	6	
支援 地域 医療 連携	地域医療推進委員会	高木治樹（院長）	18	地域医療連携課	4
	地域医療支援センター運営委員会	高野誠一郎（副院長）	10	地域医療連携課	0
	ボランティア委員会	高野誠一郎（副院長）	9	医療社会事業課	0
経営・運営に関する委員会	薬事委員会	高野誠一郎（副院長）	23	薬剤部	3
	医療機械器具購入委員会	今村信（副院長）	28	管財課	1
	医療機械器具購入小委員会	今村信（副院長）	5	管財課	2
	診療材料購入審査委員会	今村信（副院長）	11	管財課	2
	図書委員会	田中文恵（外科部長）	8	医療情報課	1
	病院施設利用検討委員会	今村信（副院長）	9	管財課	開催なし
	中央放射線部運営委員会	左合直（放射線科部長）	20	放射線科部	1
	リハビリテーション科部運営委員会	浅野太洋（リハビリテーション科部長）	18	リハビリ科部	1
	健診センター運営委員会	西川邦寿（健診部長）	19	健診業務課	1
	集中治療室運営委員会	田邊毅（麻酔科部長）	22	総務課	1
	中央手術室・滅菌室運営委員会	小松和人（副院長）	23	総務課	1
	検査部運営委員会	今村信（副院長）	14	検査部	1
	検査機器・試薬管理部会	今村信（副院長）	9	検査部	3
	病理診断科部業務運営委員会	大越忠和（病理診断科部長）	9	病理診断科部	1
	臨床工学技術運営委員会	吉田博之（医療技術部長）	5	臨床工学技術課	1
	健康・医療情報室運営委員会	道上学（総合診療科部長）	6	医療情報課	1
院内保育施設運営委員会	川島勇一（人事課長）	10	人事課	1	
教育・研修 関連	福井赤十字病院群研修管理委員会	高木治樹（院長）	30	人事課	1
	福井赤十字病院臨床研修推進部会	高野誠一郎（副院長）	17	人事課	3
	歯科臨床研修管理委員会	高木治樹（院長）	9	人事課	2
	教育・研修推進委員会	高野誠一郎（副院長）	13	人事課	2
	提案・顕彰審査委員会	高野誠一郎（副院長）	8	病院経営課	1
業 績	広報委員会（広報誌・ホームページ班・年報班）	坪川明義（循環器内科部長）	広報紙・ ホーム ページ班 17 年報班 11	病院経営課	広報紙・ ホーム ページ班 12 年報班 1
	その他	就業管理委員会	高野誠一郎（副院長）	16	人事課

トピックス

# 新型コロナウイルス感染症に関する福井赤十字病院の対応について

## 1 概要

中国湖北省武漢市で端を発した新型コロナウイルス感染症は全世界に感染が拡がり、日本国内においても令和2年1月16日に初めての感染者が確認されて以降、感染が拡大した。

令和2年度においても感染拡大と収束が繰り返す状況が続き、その都度、高木院長を本部長とする災害対策本部を設置し、新型コロナウイルス感染症への対応を行った。

## 2 災害対策本部設置期間

- ・第1波：令和2年1月31日（金）～令和2年5月31日（日）
- ・第2波：令和2年7月17日（金）～令和2年9月25日（金）
- ・第3波：令和2年11月19日（木）～令和3年2月28日（日）

※災害対策本部設置期間中は週1～2回の頻度で8時15分から対策本部会議を開催した

※本部が設置されていない期間においても、危機管理センターのブリーフィングを毎週木曜日の8時15分から開催している（令和3年度も継続している）

## 3 発熱外来等の施設設備の整備

- ・受診患者で発熱の有る方を検査・診察するために下記のとおり施設等の整備を行った
  - (1) 正面玄関手前の風除室を発熱患者の待機部屋と診察室に改修
  - (2) 救急外来の風除室のスペースを発熱患者用の診療スペースとして整備
  - (3) 身体障がい者用の駐車場横に発熱患者の診察、検査等を行うコンテナを設置
  - (4) 救急外来の救急車搬送入り口付近に発熱患者の診察、検査等を行うエアートントを設置



沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

#### 4 脳卒中センターの拡張工事に伴うハイケアユニットの運用について

令和2年12月に脳卒中ケアユニット（SCU）の拡張工事を行い、病床数を9床から12床に増床を行った。集中治療室（ICU）が複数人の新型コロナウイルス陽性患者を受け入れていた場合に、SCU12床のうち3床をハイケアユニットとして、術後患者や通常の重症患者を受け入れる体制を整備した。



#### 5 福井県入院コーディネートセンターへの派遣について

- ・令和2年度も引き続き、福井県からの要請に応じて福井県庁内に設置された「福井県入院コーディネートセンター」にDMAT隊員の医師5名、業務調整員4名（事務職員）を派遣した。

- ・福井県入院コーディネートセンター運用期間

第2波：令和2年7月30日（木）～令和2年9月30日（木）

第3波：令和2年11月13日（金）～令和3年2月28日（日）

第4～5波：令和3年3月26日（金）～令和3年度も運用を継続中

- ・令和2年度当院からの派遣日数

DMAT 医師派遣日数：延べ28日間（夜間等の時間外オンコール対応の日数も含む）

DMAT 業務調整員派遣日数：延べ38日間

- ・同センターでは、各医療機関の責任者との連絡調整、新型コロナウイルス陽性患者の搬送トリアージ（搬送先の選定、緊急度判断）を行った。

#### 6 入院患者の状況について（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

項目	患者数等
実患者数	88名
（うち5病棟入院患者）	87人
（集中治療室入室患者）	11人
延べ入院数	1,469人
人工呼吸器装着患者	8人
ECMO使用患者	1人
入院中	6人
退院	79人
死亡	3人

※一部の患者については5病棟、集中治療室の転室患者がいるため、実患者数と一致しない。

※入院中6人は期間中に入院し、令和3年3月31日時点で退院していない数。

# 東日本大震災から10年を経て

集中治療室 朝田和枝

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

## －大震災急性期での石巻赤十字病院での支援活動－

2011年3月11日14時46分、日本を揺るがすような大地震が起こった。当時私は救急外来で勤務していたが、休憩室のテレビから流れる悲惨な映像にくぎ付けになったのを覚えている。東北地方の



沿岸部は大津波により甚大な被害を受け、死者は19,729名（災害関連死を含む）、行方不明者2,559名（復興庁, 2020）となった。全国の赤十字病院からは被災地へ多くの支援者が派遣された。当院からも震災当日よりDMATが派遣され支援活動が行われた。私は、発災から約2か月後（5月14日～24日）に、石巻赤十字病院のER支援ナース（第10班）として派遣された。水戸、前橋、山田、名古屋第二、庄原赤十字病院の看護師6名で1チームとなり、救命救急センター（以

下ER）スタッフと共に、準夜（16:10～0:40）、準夜深夜（16:00～9:00）の勤務を行った。発災当時、石巻赤十字病院周辺の市立病院や夜間休日急患センターは壊滅状態であり、救急外来の受け入れベッドを通常3床から6床に増床し、受け入れていた。救急病床10床も常に満床状態であり重症患者で埋め尽くされていた。その他、小児患者や不安で何度も訪れる軽症患者などが多数受診していた。このような状況の中、ERスタッフの中にも家族を失った方、自宅が倒壊し避難所から通勤している方等、自身が被災者の方もいた。その方達が、代わる代わる訪れる他県からの支援者への対応や次々来る救急患者の受け入れに追われながらも、毅然と働いている姿が今も強く印象に残っている。



## －災害看護専門看護師への道へ－

このような支援活動を通して、私は悲惨な環境の中で勤務するERスタッフに対して一時でも癒されるような支援ができていたのだろうか、東日本大震災のような大災害が起こった際に石巻赤十字病院スタッフのような対応が自施設でできるのだろうかと疑問と不安が残った。そして、もっと災害看護について学びたいという思いに駆られ、2014年福井大学大学院医学系研究科修士課程災害看護専門看護師教育課程に進学した。進学して1年目、宮城県気仙沼市の仮設住宅で実習する機会があった。震災後4年目（2015年）に仮設住宅で生活している方は独居の高齢者や高齢者世帯が多く、自分だけ



だけが生きていることを責めている方、生きる意欲や働く意欲が低迷しアルコールに依存する方、狭く壁一枚で隣の部屋から声が漏れるような生活から生じる家族間の亀裂やストレスを感じる方など、様々な問題を抱えている人がいた。このような問題を解決すべく、実習先の仮設住宅では看護師による24時間体制での支援活動が行われていた。被災地内の看護師と被災地外の看護師が連携し、①孤独死・孤立死を出さない、②閉じこもりを予防し寝たきりにさせない、③コミュニティづくりの推進

沿革概要
患者数経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

といった目標の下、仮設住宅の集会所を拠点に4年間という長期に渡り切れ目なく支援活動が行われていた。支援する看護師は、いつでも住民の方の困りごとに相談にのる、必要時地元の保健師や地域のボランティア団体、行政等に繋げる、急変時は医療の専門家として応急手当や救急車を呼ぶなどの救命救急活動など、住民が安全で安心した生活が送れるよう環境づくりに努めていた。また、ただ支援するだけでなく住民たちの自立を促し、主体的にイベント活動できるよう配慮し、住民間でのコミュニティ形成に繋げていた。さらに、支援する看護師自身も住民の方から家族のように慕われ、看護師自身が癒されていた。実習を通じた学びから、長期化する災害からの復興過程において、人々のいのちを守り生活を支える為には専門性を持った看護職の存在が必要で重要であると実感した。そして、被災地で求められていた看護は、被災高齢者の夜間・早朝などに起こりやすい急変時の対応、高齢者の今が一大事という思いを尊重し「今」に対応できること、遠慮がちで多くを語らない高齢者の特徴を理解し、傍に寄り添い細やかな変化を察知し早期発見、早期治療へと対応していくこと、気軽に相談できる信頼関係を築く関わり、ただ傍に居る意味を理解し被災高齢者に寄り添うという看護の本質であった。災害看護専門看護師となった現在、私はこの看護の本質の重要性を改めて理解し、日々の医療現場や地域において看護実践しようと心掛けている。



－復興期における被災地の今－



大震災から9年目、再び石巻赤十字病院を訪問させて頂く機会を得た。そこでは、副院長や看護師長から石巻赤十字病院の9年間の歩み、避難所アセスメントについての講義をうけ、免震構造や災害医療研修センター内の見学をさせて頂いた。9年間の歩みでは、震災から2年後(2013年)にはドクターカーの運用が開始、4年後(2015年)には災害医療研修センターが増築され、その中に救命救急センターが移転しICU、CCU10床と救命救急センター24床に増床され、屋上にはヘリポートが設置されていた。また、病院の同じ敷地内には石巻市夜間急患センターが開設され、一次救急から二次・三次救急への移動も効率的に行われるようなシステムとなり、大きく様変わりしていた。その他にも、毎年職員、学生ボランティア、近隣市町職員、自衛隊、消防隊、通信会社、酸素関連企業など約700名が参加するといった大規模災害訓練の実施、バイク救護隊結成、大規模災害時酸素療法患者支援システム運用協定がなされるなど、災害への取り組みも



更に進化していた。2019年10月に発生した台風19号による水害においても、病院スタッフは宮城県内の避難所アセスメントを行い、段ボールベッドの導入を図るなどの災害関連死を予防するための救護活動を行っていた。9年前の震災での教訓が様々な場面で活かされていた。



また、この訪問の際私は、石巻市で復興教育に取り組んできた一人

の小学校教諭に出会った。震災2年目（2012年）教諭は、高学年の子どもたちの“新たな荒れ”に悩まされていた。この時子どもたちには「挑戦をする活動意欲の欠如や初めから諦め」「集中力、学習意欲の低下」「暴言を吐く、いじめやトラブルを起こす子ども」「異常なテンションの高さで授業を受ける子ども」など、震災の直接的な影響や震災後の生活環境の激変に大きなストレスを抱えたことによる症状がでていた。学校ではこれまでの教育実践が通用しない事態に直面し、教諭自身もストレスを受け「もう教師を続ける気力が湧いてこない」という苦痛や喪失感を味わった。しかし、震災後の支援物資の整理や地域の復興計画の立案に教諭自身が参加したことをきっかけに、心が癒され、気力が湧き上がり、前を向いて歩もうと気持ちに変化していった。この体験を子どもの教育に転化出来ないかと考え、小学校での復興教育を提案した。例えば、6年生の総合学習では、震災復興まちづくりプランをテーマに住民と関わり合いながら町の伝統文化と町の復興について考える、5年生の総合学習では、被災児のこころのケアをテーマに、俳句や作文、絵本、ジオラマ、木版画の制作活動を通して震災と向き合い、意味づけ、学ぶというものだった。その結果、6年生の活動からは、子どもの支援活動（社会参加）で住民が励まされ、住民から子ども達が感謝されるといった相互作用で、子ども達は自己有用感と自尊感情を高めることが出来るようになった。また、5年生の活動からは、学校集団の力を借りながら、津波の記憶にかき消された過去の記憶を取り戻し、親子が繋がり直すといった関係性の再構築ができていた。さらに、言葉や絵画で自己を対象化し表現させるというケア手段が、子どもたちがつらい記憶と向き合い、受容し、心を整理し、意味づけることを可能にするという、PTSDの克服に繋がっていた。私はこの教諭による震災後の教育実践活動が、被災児の心の癒しとなり、新たに地域住民の方たちと繋がり、被災地を甦らせている事に感銘を受けた。これらの活動が、大震災の教訓により、被災地で生活する人々の絆を強くしていると感じた。教諭が語っていた「子どもたちにとって地域とは人格の一部であり、地域復興への参加は実は心のケアになっていた」という言葉から、私たちは地域に育てられており、自分達が生活している地域を見直しもっと大切にしなければいけないと強く感じた。

#### －災害看護専門看護師としての今後の課題－

現在私は、病院での仕事の傍ら、地域との繋がりを大切にしようと、地元自主防災リーダーを対象とした避難所運営研修会の開催、要配慮者を対象とした新しい避難方法や福祉避難所についての検討等、機能別消防団のまちの減災ナースとしての活動を行っている。このきっかけは、大震災を経験した石巻赤十字病院スタッフ、被災者や支援者、教諭との出会いであり、これらの人々との繋がりが私の心を揺さぶり防災・減災活動への取り組みへと導いてくれたと感謝している。大震災に遭遇していないことは、幸せなことだが、見方を変えれば災害に対する危機感は薄れ、災害対応能力が身につくにくいという課題が出てくる。10年経った今も東日本大震災での出来事を風化させず、今後も被災地に足を運び、学ぶ姿勢を忘れず、復興の一助となるような取り組みをしていきたい。

沿革

概要

患者数  
経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

沿 革
概 要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業 績

# 診 療 業 務

# 1. 内科

## 1. スタッフ

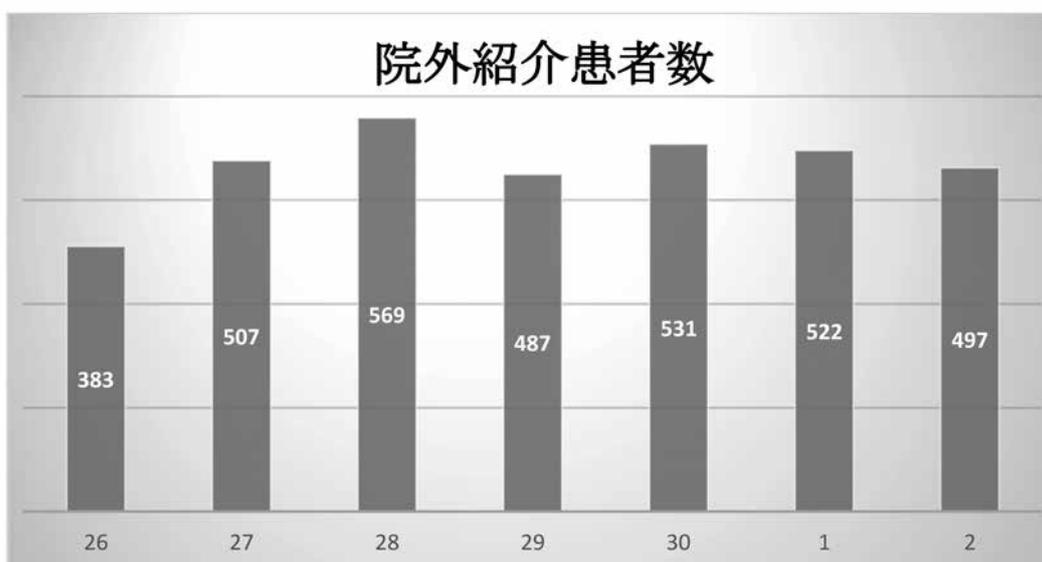
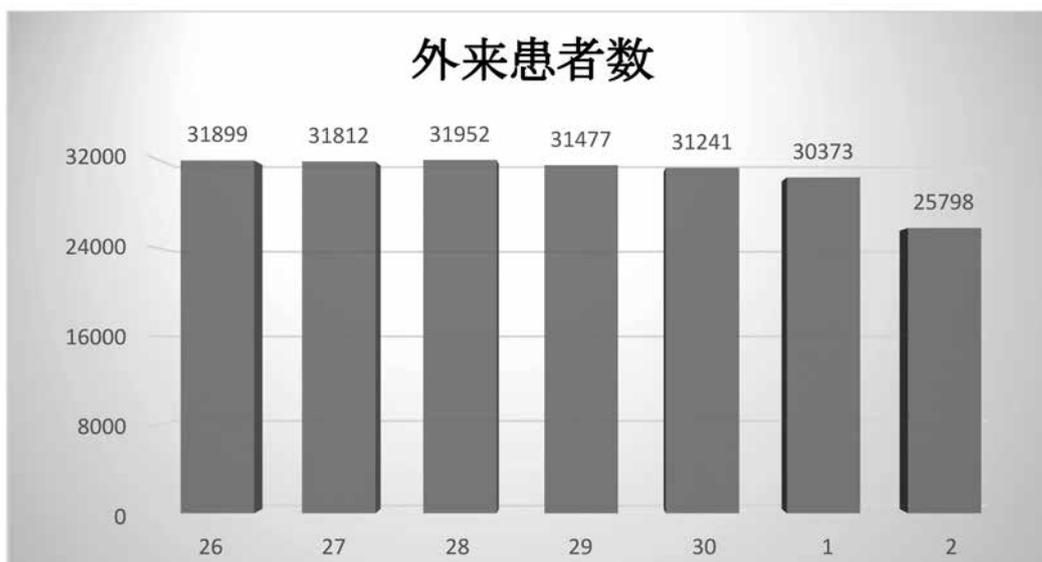
副院長兼 検査・病理部長 兼 輸血責任医師	今村 信	日本内科学会認定医、同指導医 日本血液学会専門医 日本輸血学会認定医
第1部長	神谷 健一	日本内科学会認定医、同指導医 日本血液学会認定医、同指導医
第3部長	夏井 耕之	日本内科学会認定医、同指導医 日本糖尿病協会指導医
第4部長兼 感染対策室副室長	木下 圭一	日本内科学会専門医 日本血液学会専門医 日本感染症学会 Infection Control Doctor
副部長	中野 雅子	日本内科学会専門医 日本糖尿病学会専門医
副部長兼 総合診療科副部長	安富 久記	日本内科学会専門医 総合診療専門医
医師	塚崎 光	日本内科学会認定医 日本血液学会専門医
医師	杉山 光寿	日本内科学会認定医 (非常勤)
後期研修医	笠原 美沙子	(非常勤)

## 2. 診療

主たる診療領域は血液・免疫・内分泌・代謝分野であるが、これら関連疾患の診療も行っている。さらに、総合診療科や健診センター、自己血採取（検査部輸血課）、内科系救急医療などにも従事している。更に日本赤十字社福井支部救護班、大規模災害時救急（DMAT）にもスタッフとして派遣するなど多岐に亘り種々の業務を行っている。特に年度末の COVID-19 感染症に対する業務も負担している。外来診療は週5日間5診体制で血液・免疫部門2診、内分泌・代謝部門3診で行っている。内科外来診察室はすべて使用している状況である。また入院の病床定数は47で定床配置病棟数は2で（1-7病棟；45、2-7病棟；2）となっている。特殊施設として無菌室はこれまで通り1-7病棟に総数18床（個室10、4人用多床室2）が設置されている。

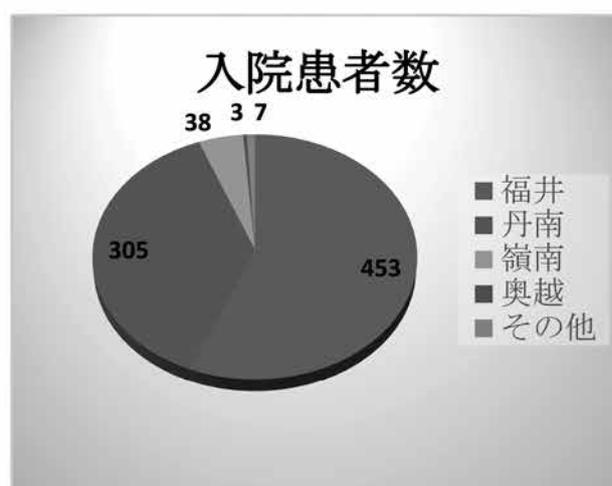
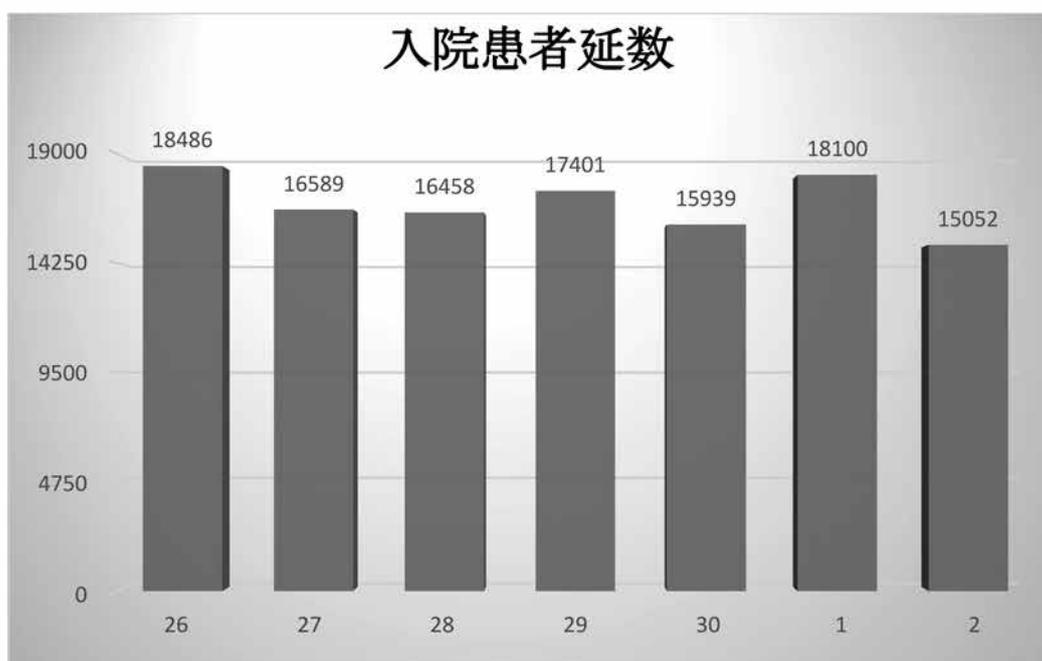
### 3. 実績

外来部門では、上記2領域の専門外来を中心に毎日行っている。延べ外来患者総数（内分泌代謝・血液・免疫・一般その他）は、本年度25,798人（新患1,573人）前年比▲15.1%減少し新患患者も▲37.4%減であった。また前々年の平成30年度31,241人と比較すると▲18.1%減少であった。この数年間は外来患者数は微減に留まっていたが、今年度はCOVID-19感染症という特殊要因が大きく影響した。特に年度末に受診抑制並びに診療制限が加わったことによる影響が大きいと考えられる。その他の要因としては内科専門分化と総合診療科の設立、ここ数年来の経済的原因による患者側受診抑制、内科外来診察室不足による機会逸失なども考えられる。院外紹介患者に関しては本年度497人と前年522人比べ▲4.8%減であった。初診患者数は1573人と前年2,479人よりも▲36.5%減であった。ただ、新患患者の減少率に比較して外来患者延数や院外患者紹介数の減少率が小さいことは再来患者数が非常に多いこと、地域医療に十二分に対応していることによると思われる。多数の外来患者が受診する内科外来には処置用スペースがないため検査・処置・輸血・注射等はすべて中央点滴室で実施している。内科外来と中央点滴室の看護スタッフが区分されているため十分なケアがなされないことも少なくない。また外来化学療法はすべての投薬が外来化学療法室において実施されるため患者導線が著しく長く化学療法患者の院内滞留時間は勿論だがその影響で他の患者の院内滞留時間も延長しておりこれらの改善が外来診療上喫緊の問題となっている。



入院部門では今年度在院患者延人数 15,052 人（前年比▲16.8%減）で、過去5年間でも最も少なく（平成28年度16,458人、平成27年度16,589人、平成26年度18,486人）、一日あたり平均入院患者数では41.2人、平均在院日数18.4日であった。平均在院日数は前年の19.1日から短縮している。医療圏別には福井、丹南、嶺南、奥越に分けると以下の通り（円グラフ）であった。外来患者数に比べて入院となる患者割合は丹南地区が多い傾向にあり、入院を要するような福井地区の重症例は相対的に少なかった。入院患者の減少も今般のCOVID-19感染症によるところが大きいと考えられた。尚、詳細に関しては各領域別の項でそれぞれ記載した。

外来は週5日間5診体制で血液・免疫部門2、内分泌・代謝部門3で行っている。内科外来診察室はすべて使用している状況である。また入院の病床定数は47で定床配置病棟数は2で（1-7病棟；45、2-7病棟；2）となっている。特殊施設として無菌室はこれまで通り1-7病棟に総数18床（個室10、4人用多床室2）が設置されている。



#### 4. 目標

血液悪性腫瘍に対する新規薬剤の登場や新しい作用機序を有する経口糖尿病薬の上市など当科に関する分野ではかつてない治療のパラダイムシフトが生じている。これら新規治療法を取り入れて臨床

実地に生かし、そして至極当然だが患者の医療ニーズに適切かつ十分に応えることが重要である。地域医療や介護などとも一層連携を深め、当科との医療継続のみならず日常生活への円滑な復帰を図ることも目指したい。一朝一夕には実現しそうにはないが、そのような取り組みの姿勢は患者や地域の強い信頼を得ることにつながると確信する。それをどのように具体化するかは以下のそれぞれの分野別に記載した。また、ハード面ではこの数年来の問題である狭隘な外来スペース、長い患者導線、院内滞留の長時間化等に関係各部署と共に改善・対処したい。(神谷)

## 【内分泌・代謝領域】

### 1. 診療

主に内分泌代謝疾患として、糖尿病全般、甲状腺・副腎・下垂体などを中心とする内分泌疾患、脂質異常症、肥満症、あるいは内分泌代謝疾患に起因する電解質異常、などの専門的診療にあたっている。これに付随・合併する各種疾患、および他科/他疾患に上記が合併している場合、あるいは他疾患治療に起因する高血糖ほか二次性糖尿病、そのほかの二次性内分泌疾患などについて、併診加療することで、病院全体の診療体制に深くかかわっている。各科患者の血糖・脂質・電解質コントロールという形での協力のほか、

- 1) 甲状腺疾患・副甲状腺疾患、ステロイドを使用する耳鼻科疾患について耳鼻科と
- 2) 糖尿病腎症関連・電解質異常・糸球体腎炎ステロイド治療・副腎腫瘍性疾患において腎泌尿器科と
- 3) 肝疾患関連代謝疾患、消化器がん化学療法ステロイド治療において消化器内科・外科と
- 4) 糖尿病網膜症を始めとする糖尿病関連眼疾患、糖尿病をもつ眼科患者手術、甲状腺眼症ほかにおいては眼科と
- 5) ごく少数ではあるが小児糖尿病患者の成長に伴う患者受け渡しや各種検査に関連して小児科と
- 6) 悪性疾患化学療法関連で、上記のほか呼吸器科・呼吸器外科・産婦人科、腎泌尿器科と
- 7) リウマチ疾患、関節疾患のステロイド治療ほかと関連して整形外科と
- 8) 皮膚疾患のステロイド治療、糖尿病起因の皮膚疾患・感染ほかについて皮膚科・形成外科と
- 9) 下垂体腫瘍性疾患の診断治療に関連して脳外科と

等々、各科連携を構築している。

### 2. 実績 (病歴室のご協力による・平成27年度～令和2年度における)

内分泌代謝内科 実績

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
A 総患者数 のべ人	17,224	17,715	17,402	17,328	16,675	15,309
B 他院からの紹介総数 のべ人	229	285	238	289	282	258
C 他科併診例を含む他院への逆紹介数(情報提供書数) のべ人	444	487	383	346	723	533
D 外来新患総数 のべ人	1,625	1,770	1,601	1,559	1,438	1,074
E 入院患者総数 のべ人	272	267	226	251	306	276
F 他科よりの院内対診数 のべ人	1,127	1,258	1,249	1,239	1,443	1,340

当該年度は、福井大学第三内科のご好意により、後期臨床研修医の笠原美紗子医師、さらに杉山光寿医師の赴任がかない、スタッフさらに一名増とできた。しかしながら、各患者数指標は引き続き減少傾向にあった。その主因はなによりもコロナ禍であるといえる。

### 3. 目 標

#### (1) 患者数 / スタッフ体制について

先記載のごとく、さらに福井大学医学部との連携を深め、当院で初期研修→大学ほかの施設でさらなる研修→当科での専門後期研修、という道筋を確かなものとした。次年度として2021年には新規派遣医師1名のほか、当該年度にご活躍いただいたお二人にも非常勤ながらひきつづき勤務継続いただく。

一方、令和3年度には、常勤スタッフ1名（安富医師）の退任が決定しており、その後任の常勤スタッフをなんとしても補充いただけるよう病院にお願いするところである。

他科対診においては、その「サービス」をさらに一層充実させたい。分子標的薬による抗がん治療において、1型糖尿病の発症が話題になっているほか、実際例として、免疫性のものと考えられる、下垂体-副腎機能低下症、ならびに甲状腺機能低下症の症例がより一層増加しており、対診を受けての甲状腺・副腎ホルモン補充療法が著効し、ひいては原疾患治療の継続・発展に寄与してきている。

一方、通常の抗癌療法もひきつづき人数が増加しており、ステロイド糖尿病への協力・支援数も増加しており、さらに各科主治医との連携を強化し、スムーズに、かつインシデント・医療事故を起こさないような組織体制作りが望まれる。

原発性アルドステロン症、副腎偶発腫などに対する検査入院も、徐々にパス化がすすみ、症例数のアップと手順の共通化・おちのない検査体制を確立しつつある。

#### (2) 新規設備・特殊検査などについて

昨年度に導入したCGMS機器（リブレプロ）が、旧式にかわって、症例数をさらに拡大中である。当科における医療技術向上のみならず、患者の高低血糖危険を避けてそのQOLを向上させるとともに、病院収入にも貢献していると考えられる。さらに、個人の家庭用自己血糖測定システム（フリースタイルリブレ）の保険収載と採用があり、こちらも徐々に症例数をましている。さらに非侵襲的な血糖モニタはこのさき、光センサーほか、採血をとまわず、汚染危険の少ない方法が実用化されるであろう。あるいは現状のリブレフリースタイルにおいて、NFC機能搭載のスマートフォンにアプリをダウンロードすることにより、専用の読み取り装置でなくスマートフォンだけでデータを読み取ることができるようになってきている。

#### (3) 治療法について

経口糖尿病薬では、DPP4阻害薬はなお我が国では治療の主軸と考えられるが、SGLT2阻害薬の多岐にわたる使用が引き続き著増している。特に腎臓内科・循環器科分野での望ましい効果が次々と明らかになり、当科以外の各科において、その使用頻度が高まっている状況である。

経口GLP-1製剤はいよいよ一般販売され、その体重減量効果もかなり有用な報告がなされつつある。コロナ禍でメーカーとのやりとりが制限され、なかなか新薬の導入もハードルは高いが、今後早めの導入を検討したい。

インスリン製剤も、より効果の安定したアナログ製剤や、新規の混合製剤の使用、さらには薬価の低減に貢献すると思われるバイオシミラー製剤、あるいはGLP-1との配合薬、さらには現在の超速効型よりもっと速く効果を表す超々速効型とされるインスリンの登場が発表され、特に超々速効型インスリンは、さらなる血糖変動への適合、コントロールを改善しつつ低血糖を低減することが期待される。持続皮下注インスリンポンプの使用件数も増加しておおり、新規の若年1型糖尿病患者、妊娠希望の若年女性患者などのほか、通常の頻回注射法でもなお血糖不安定であるような患者への導入と、

沿革
概要
患者数経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

注入の工夫による管理改善を模索している。SAP方式の、CGMと組み合わせたポンプにおいては、さらにインスリン注入制御アルゴリズムの進歩があり、今後さらに自動性が高まり、疑似人工膵臓への道も開けている。

「Patient-Oriented」「Patient-Centered」という概念で、患者との治療同盟、患者自己決断の支援と尊重、より患者の状態に寄り添ったサポートという点は例年強調するところである。近年のアメリカ、あるいは欧州の治療ガイドラインにおいても、さらに重要視されてきた。

高齢者医療については、高齢者血糖管理目標が、浸透し、血糖を下げることを価値とするのではなく、全人的医療として、その個人の状況にあった治療目標の設定が望まれる。とともに、高齢化の波は否応なく医療現場において深刻化し、認知症患者・担癌患者・独居高齢者・老老介護家庭、などにおいていかに血糖を管理しつつ患者QOLを促進するのか、単に医療の問題ではなく、大きな社会問題となっている。なお暗中模索で、解決困難なところである。(夏井)

## 【血液内科領域】

### 1. 診療

血液内科は、神谷・今村・木下・塚崎の4名で外来および入院診療にあたっている。診療は血液疾患（血液悪性腫瘍および非腫瘍性血液疾患）を主とし、血液疾患以外には感染症（HIV感染症を含む）さらに地域医療に貢献するとの立場から広く疾患を受け入れて診療を行っている。外来は月曜日から金曜日まで毎日再来ならびに紹介患者や院内他科からの紹介を含めた新患に対応している。

血液疾患の治療領域では特に造血器悪性腫瘍の治療において分子標的療法や新規抗腫瘍剤、サイトカイン製剤の発展により治療法の改善や変化が見られ外来治療患者数は増加傾向にある。特に悪性リンパ腫や多発性骨髄腫の領域ではここ数年で新薬の開発・臨床応用が相次ぎ、各患者さんの年齢や全身状態にあった治療の選択肢が広がってきている。また非腫瘍性疾患の領域においても免疫性血小板減少症（ITP）ではCD20陽性の悪性リンパ腫に適応のあるリツキシマブが新たに適応追加となったり、再生不良性貧血では特発性血小板減少性紫斑病に適応のあるエルトロンボパグやロミプロスチムが適応追加となるなど各疾患で治療の選択肢は増えてきている。

入院治療は疾患の特殊性から専ら1-7病棟に集中させている。同病棟には造血幹細胞移植を行う高度無菌室2室と個室無菌室8室の計10室に加え、多床型無菌室2室8床の合計18床を配置し高度の感染症対策を施した環境で治療を行っている。個室無菌室のうち1室は陰圧室への変更が可能であり、隔離が必要な感染症治療の際に利用している。近年の化学療法を受ける患者数の増加により無菌室は常時フル回転で稼働している状況である。

治療内容に関しては、「日本血液学会造血器腫瘍診療ガイドライン」や「NCCNガイドライン、造血器腫瘍」などを参考に各疾患の標準的治療を行うことを第一としていることに加え、個別化をはかり各人に最適の治療となるよう心がけている。この分野の疾患は難治性疾患が多く院内他部門と協力し集学的治療を推し進めている。

入院患者は疾患別には血液悪性腫瘍が大部分を占め、急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群の化学療法を積極的に行っている。悪性リンパ腫の化学療法症例数は変わらず多くかつ高齢者が多い状況は変わっていない。比較的若年で通院が可能な方には外来化学療法も積極的に推進している。

また、細胞治療も積極的に進めており輸血課と共同し造血幹細胞移植（自家末梢血幹細胞移植、同種骨髄移植など）を行っている。特に自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法は標準的治療となっており、適応のある患者さんには説明を十分行い積極的に取り入れている。なお、水曜日には医師

による血液カンファレンスを行い、また月に1回、病棟スタッフ・リハビリ部門・栄養課と合同での血液カンファレンスも行いスタッフは患者ごとに疾患の状況などを共有できるよう指向している。

## 2. 実績

### (1) 患者数

#### 血液内科 実績

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
総患者数	12,118	12,000	10,489
被紹介総数	262	240	239
逆紹介数	279	396	357
外来新患総数	1111	1041	499
入院患者総数	441	611	530
在院患者総数 のべ人	12,127	13,978	11,673
他科よりの院内対診数	428	452	

### (2) 病名別入院患者数

病名	平成30年度	令和元年度	令和2年度
鉄欠乏性貧血	2	1	1
大球性貧血	0	0	1
ビタミンB12欠乏性貧血 (PA)	3	2	0
巨赤芽球性貧血	2	1	2
自己免疫性溶血性貧血	4	1	2
再生不良性貧血	7	7	5
赤芽球ろう	2	1	3
後天性赤芽球ろう	0	0	2
重症貧血	2	2	6
発作性夜間ヘモグロビン尿症	3	4	2
汎血球減少症	3	6	3
顆粒球減少症	0	1	0
骨髄異形成症候群	27	61	54
慢性骨髄単球性白血病	1	4	0
骨髄増殖性疾患	0	0	0
本態性血小板血症	0	2	0
血小板増多症	0	0	0
骨髄線維症	2	1	1
形質細胞白血病	0	0	6
急性骨髄性白血病	25	22	23
急性リンパ性白血病	0	4	7
急性前骨髄球性白血病	2	2	0
慢性骨髄性白血病	11	4	14
慢性リンパ性白血病	1	1	0

沿 革 概 要 患者数・ 経営状況 委員会 トピックス 診療業務 医療社会事業部	ホジキンリンパ腫	5	17	5
	非ホジキンリンパ腫	159	243	200
	成人 T 細胞性リンパ腫	3	0	17
	多発性骨髄腫	20	52	54
	形質細胞腫	0	0	4
	原発性マクログロブリン血症	11	11	7
	アミロイドーシス	0	0	0
	芽球性形質細胞様樹状細胞腫	5	1	0
	組織球肉腫	0	0	0
	特発性血小板減少性紫斑病	13	18	11
	赤血球破碎症候群	2	0	0
	血小板減少症	6	3	3
	白血球減少症	0	0	2
	好中球減少症	0	0	1
	播種性血管内凝固症候群	1	0	0
	血友病 A	0	0	0
	後天性血友病 A	0	0	2
	後天性血友病	2	1	0
	アンチトロンビンⅢ欠乏症	0	0	0
	ヘモクロマトーシス	0	0	1
間質性肺炎	1	0	0	
発熱性好中球減少症	3	1	1	
成人スチル病	0	1	0	
TAFRO 症候群	1	1	0	
顕微鏡的多発血管炎	0	0	0	
ベーチェット病	1	0	1	
混合性結合組織病	0	0	1	
リウマチ性多発筋痛症	0	0	1	

### (3) 造血幹細胞移植

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
末梢血幹細胞移植	5	6	7
骨髄移植	0	0	0
合 計	5	6	7

## 3. 目 標

- (1) 地域医療の一翼を担うべく広く血液疾患および関連疾患を受け入れ、地域完結型医療を目指す。
- (2) 細胞治療の一層の充実を図るため特に造血幹細胞移植を輸血課の協力のもと推し進める。
- (3) 患者の高齢化に伴い新規分子標的薬や支持療法などを積極的に用いることにより治療強度を極端に落とすことなく ADL が保持され副作用の少ない治療選択を行う。(今村)

## 2. 精神科（ストレス診療科）

### 1. スタッフ

部長（兼） 高野 誠一郎  
（本：神経内科部長）

（非常勤） 渡邊 央 医学博士（名古屋大学）  
精神保健指定医（厚生労働省）

高橋 哲也  
山森 正二  
武藤 悠平  
佐藤 友香

心理判定員  
（常 勤） 寺井 堅祐 臨床心理士

### 2. 診 療

当科の渡邊医師は、緩和ケア専従となり、緩和ケア病棟の患者さんの心の問題への取り組みを続けております。

当院のストレス診療科は、旧来の表現を借りて言うならば、いわゆる「総合病院における精神科」として、身体他科に入院中の患者をめぐるのリエゾン精神医療が中心です。有態に言えば、病棟において治療管理上困難を極めている患者についての加療、コンサルテーションが主で、その需要に答えるべく対応してきました。しかし、現時点で次のような問題があります。以下の2点です。

1) 「医師力」が満たされておらず、「診て欲しいその時に、うまく医師がいてくれない」状態のままであること。

身体他科に比べて問診に頼る部分が圧倒的に大きく、患者一人当たりに多大な時間を要することは今さら言うまでもないことですが、問題は、それを満たすだけの「医師力」（中心となるのは医師稼働数）が充足されていないことです。つまり、常勤医師がおらず、非常勤医師の配置も、需要に応ずるに足る診療日の設定がなされていないこと。言い換えるなら、「診て欲しいその時に、うまく医師がいてくれない」ということです。このような状態の解消がまず求められます。

2) 精神科診療に対する理解と協力の関係が看護者との間で十分に形成されていないこと。

精神科診療では、「患者を分かって」とする場合には、すなわち、単なる「レッテル張りの診断」ではなく、『対応指針』を導き出すという意味での診断』を行おうとする場合には、病棟での患者のさまざまな様子の記載が、その大きな手がかりを与えてくれます。ところが、病棟から精神科へ対診依頼が出されているにもかかわらず、診断上有力な材料となるはずの病棟看護記録上に所見の記載がないことが多く、あるいは様子を尋ねても十分把握されていないとか、答えられないとかということが多く見受けられ、診療がスムーズに行かないことが多々あります。これは、看護者は精神科診療に寄与しなければならないのに、していない、という趣旨からの指摘ではありません。むしろ、看護活動にとっても精神科診療にとっても共通して求められる『患者を分かって』とする姿勢の「欠如」を物語るものとして問題視される必要があり、そして、精神科診療にとっても、

沿  
革

概  
要

患者数・  
経営状況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ッ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

看護者にとっても、両者の関係が、お互いの仕事が活かされあうような関係として成り立っていない、ということの意味するものであり、さらに別の角度から言うと、看護者の「看護的観察力・把握力」の「欠如」という事態であります。いずれにせよ、これらの問題の鍵は、看護者と精神科診療との間の相互の協力関係の中にあることは間違いありません。それ故、当院の看護力と精神科診療力とのそれぞれの向上のために、今後、相互の協力関係を足掛りにした解決に向けての取り組みが求められます。

3. 実績（令和2年度 対診依頼 実績）

総対診数	531 件
------	-------

令和2年度の救急患者の入院3日以内における入院精神療法

4. 目標

＜令和2年度 精神科4大重点目標＞

- 1) 精神科医師空白曜日をできるだけ少なくして、可能な限り、「診て欲しい時に、いつも精神科医師がいてくれる」状態に近づけるよう努力します。
- 2) 『患者を分かろうとする』という姿勢を自分達のものにするという観点から、看護者と精神科診療とにおける理解が、お互いに活用され合えるようにするために、場合によっては、看護者（看護部）との勉強会を設けて、看護者との意思疎通の機会を作り出し、相互の協力関係を築き上げていきます。
- 3) リエゾン精神医学の一步踏み込んだ形として、精神腫瘍学的アプローチに、今まで以上に積極的に取り組んでいきます。
- 4) 入院患者で精神疾患を併存しておられる方も多くおられます。救急入院された患者さんに対して、3日以内に入院精神療法を開始できるように体制を整えます。

沿革概要  
患者数経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

# 3. 神 経 内 科

## 1. スタッフ

副院長兼部長 高野 誠一郎

日本内科学会認定内科医、総合内科専門医  
日本神経学会認定神経内科専門医、指導医  
日本脳卒中学会専門医  
日本臨床神経生理学会認定医（脳波）（筋電図・神経伝導）  
日本認知症学会認定専門医、指導医  
日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医

副部長 今村 久司

日本内科学会認定内科医、総合内科専門医  
日本神経学会認定神経内科専門医、指導医  
日本てんかん学会 専門医  
日本臨床神経生理学会認定医（脳波）

医師 早瀬 史子

日本内科学会認定内科医、総合内科専門医  
日本神経学会認定神経内科専門医  
日本認知症学会認定専門医  
認知症予防学会専門医

後期研修医 高木 あかり 令和3年3月31日退職

後期研修医 吉沖 舞衣

## 2. 診 療

令和2年度、当院神経内科診療体制は、高野副院長、今村副部長、早瀬医師、高木医師、吉沖医師の5人で神経内科の診療を行いました。

## 3. 実 績

入院数 341 (361) 人、脳卒中 165 (172) 人、DPCI+II 58.8 (49.6) %、紹介患者数 581 (686) 人、逆紹介患者数 903 (1249) 人、脳卒中入院は神経内科+脳外科では 462 (529) 人、()内は令和元年度。COVID19の影響を受け数は減少していますが、DCP I + IIの率を上げることができました。

## 4. 目 標

平成18年6月に脳神経外科と共同で創設した、脳卒中センター（Stroke Care Unit）を継続し、適切な脳卒中治療を行うことを第一の目標としました。当院の場合、神経内科と脳神経外科の医師で、24時間診療体制を継続しています。医師、看護師、リハビリ（理学療法士、作業療法士、言語療法士）、ソーシャルワーカーが共同して、治療に当たっています。また、認知症、パーキンソン病、頭痛、てんかん、多発性硬化症、神経筋疾患など、神経内科領域で頻度の高い疾患について、適切な治療を全ての医師がおこなえるよう、研鑽を行っています。

沿  
革

概  
要

患者数・  
経営状況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ッ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

## 4. 呼吸器内科

### 1. スタッフ

第1部長 兼 赤井 雅也 日本呼吸器学会認定呼吸器専門医、指導医  
 呼吸器センター長 兼 日本内科学会認定内科医、総合内科専門医、指導医  
 感染管理室長 日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症認定医指導医  
 ICD制度協議会認定インфекションコントロール・クター  
 日本医師会認定産業医  
 医学博士（福井医科大学）

第2部長 出村 芳樹 日本呼吸器学会認定呼吸器専門医、指導医  
 日本内科学会認定内科医、総合内科専門医  
 日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医、指導医  
 日本アレルギー学会認定アレルギー専門医、指導医  
 日本臨床腫瘍学会暫定指導医  
 日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医、指導医  
 医学博士（福井医科大学）

第3部長 塩崎 晃平 日本呼吸器学会認定呼吸器専門医  
 日本内科学会認定内科医、総合内科専門医  
 日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医  
 日本アレルギー学会認定アレルギー専門医  
 日本禁煙学会認定禁煙専門医  
 医学博士（福井医科大学）

医師 多田 利彦 日本内科学会認定内科医  
 日本呼吸器学会認定呼吸器専門医  
 日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医

医師 田畑 未央 日本内科学会認定内科医

医師 大井 昌寛 日本内科学会認定内科医

後期研修医 軸屋 紀宏

後期研修医 中嶋 康貴 令和2年3月31日退職

令和2年度は4月1日付で軸屋医師が京都大学病院から着任し、中嶋医師が市立敦賀病院へ転出し、呼吸器内科としては7人体制維持となっています。

## 2. 診 療

令和3年3月31日現在、当科は2-6病棟、3-3病棟、5病棟、PCUに定床を持ち、計63床（結核10床を含む）です。診療内容としては、超音波気管支鏡、特殊光気管支鏡、仮想気管支鏡システムなどの最新の呼吸器内視鏡が運用開始となって10年目に入り、肺癌をはじめとする各種疾患の低侵襲での早期診断や診断率向上に寄与、定着しています。

肺感染症は、各種疾患の最終的・末期的な病態として現れることが多く、従って致命的・難治性で難渋させられる症例が増えてきています。なかでも抗癌剤やステロイド剤・免疫抑制剤使用患者の日和見感染や、MRSAなどの多剤耐性菌対策が重要です。当科でも他科やICTと連携し、また各種ガイドラインに則って治療を行っています。

慢性感染症としての結核は、他施設の結核病棟が廃止・縮小される中、県内での当科の重要性が増してきています。病棟は結核の感染様式を考慮して陰圧個室の多い病棟です。初回の開放性結核はもちろんの事ですが、多剤耐性、老人、重症初感染例に加えて外国人の結核も多く見られるようになりました。集団発症例・若年発症例など貴重な症例も多く、治療に難渋する事もしばしばです。令和2年2月からCOVID-19入院対応に5病棟が転用されたため、以降当院の結核入院治療はできなくなっています。肺非結核性抗酸菌症は近年罹患率が上昇しており、中でも9割弱を占めるMAC症は中年の女性に多く、当科でも難治例が年々増加してきています。

COPD（慢性閉塞性肺疾患）は今後しばらく患者数が右肩上がりに増加すると見られています。当科ではCOPDに対して、包括的呼吸リハビリテーションや在宅酸素療法、在宅NPPV療法なども含めて積極的に取り組んでおります。特に前者はリハビリ科や栄養課にも御理解頂き、対象患者を増やしているところです。在宅酸素療法、在宅NPPV療法では60人を超える患者さんが治療を行っています。気管支喘息治療も進歩しており、吸入ステロイド薬・長時間作用型 $\beta$ 2刺激薬、長時間作用型抗コリン薬、IgEやIL-5に対する抗体薬により喘息コントロール状態は飛躍的に改善しました。そのため救急入院の頻度は減りましたが、外来通院患者数は北陸でもトップクラスです。また、ここ10年以上、喘息死は当院では0です。H28年度から立ち上げたBronchial Thermoplasty（気管支温熱療法）も順調に症例数が伸びています。気管支鏡で施行しますが、北陸ではまだ5施設のみでしか行っておらず、しかも局麻下で行っているのは当院のみです。喘息の病状の安定や薬の減量が長期に渡って期待できます。

肺癌はいまや当科入院患者の7割を占めるに至っています。気管支鏡検査数も平成24年以降は200-300件前後で推移しており増加傾向です。当科では肺癌に対して積極的に取り組み、呼吸器外科・放射線科と連携して手術・化学療法・放射線療法を組み合わせた集学的な治療を展開しています。また、近年個別化治療も進歩し、当科でも積極的にEGFR遺伝子変異やEML4-ALK融合遺伝子異常などのdriver mutationやPD-L1発現を検査し、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の適応を考慮しています。ステント挿入など内視鏡的インターベンションも、出村部長を中心に積極的に行っています。滲出性胸水症例に行う局麻下胸腔鏡検査も2004年に導入以降、400例を越えて胸水の原因診断率が飛躍的にあがりました。胸腔鏡も含めて、冒頭に述べたように最新の呼吸器内視鏡も導入され、最近「咳ゼロ気管支鏡」をモットーにして、患者に苦痛を与えない気管支鏡を目指しています。今後も県内では当科が先頭に立って肺癌治療に取り組むたいと考えています。

びまん性肺疾患では、特発性間質性肺炎や、好酸球性肺炎、過敏性肺臓炎などアレルギーの関与した病態に対して今関心が集まっていますが、まだまだ新しい知見の多い部門で、これから診断・治療に大きな発展が期待されます。睡眠時無呼吸症候群は、専門外来を設け積極的に取り組んでいます。その結果、閉塞型に対する夜間の鼻マスク式陽圧呼吸（nasal CPAP）療法導入の患者が増加しています。

治  
革

概  
要

患者数  
経営状況

委員  
会

トピ  
ックス

診療  
業務

医療  
社会  
事業部

看護  
部

事務  
部

業  
績

令和2年1月からパンデミックを起こした COVID-19 ですが、3月下旬に当院1例目を受け入れて以降、重症例も含めて断続的に入院治療を行っています。赤井は感染管理室長として入院診療の統括を行っており、呼吸器内科は全員が軽中等症～重症に至るまでの症例を主治医として他科より多く関わっています。

### 3. 実績

気管支鏡検査施行件数（病棟での処置内視鏡数は除く。TSは内数で局麻下胸腔鏡検査）

平成30年：214件（TS 21件）

EBUS-GS：81件

EBUS-TBNA：62件

末梢TBNA：7件

BAL：9件

Hot biopsy：18件

金マーカー留置：1件

ステント留置：1件

EWS：1件

バルーン拡張：2件

Thermoplasty：9件

令和元年：207件（TS 23件）

BUS-GS：99件

EBUS-TBNA：60件

末梢TBNA：7件

BAL：7件

Hot biopsy：3件

異物除去：1件

ステント留置：1件

EWS：1件

インジゴ噴霧：1件

Thermoplasty：4件

令和2年：161件（TS 7件）

EBUS-GS：61件

EBUS-TBNA：64件

末梢TBNA：3件

BAL：6件

Hot biopsy：6件

EUS：5件

ステント留置：1件

気管支拡張術：1件

塞栓術：1件

金マーカー留置：1件

インジゴ噴霧：1件

Thermoplasty：1件

## 5. 消化器内科

### 1. スタッフ

代表部長	山崎 幸直	日本消化器内視鏡学会専門医、指導医 日本消化器病学会専門医、指導医 日本内科学会認定医、指導医 日本カプセル内視鏡学会指導医 福井大学臨床教授 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
第2部長	道上 学	日本消化器内視鏡学会専門医、指導医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医 日本内科学会認定医、総合内科専門医 日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア指導医 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
副部長	里見 聡子	日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医 日本内科学会認定医、総合内科専門医 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
副部長	松永 心祐	日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医 日本内科学会認定医、総合内科専門医 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
副部長	三原 美香	日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医 日本内科学会認定医 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
医師	西山 悟	日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

日本内科学会認定医  
TNT 講習受講  
緩和ケア研修会終了

医師 鳥居 志充 日本内科学会認定医  
TNT 講習受講  
緩和ケア研修会終了

医師 保坂 亮介 日本内科学会認定医

医師 山崎 剛明 緩和ケア研修会終了

医師 河合 信佳 緩和ケア研修会終了

非常勤講師 久津見 弘

非常勤医師 畑 正典

## 2. 診療

令和2年度は前年度に内科専攻医カリキュラムの一環で福井大学救急部と福井厚生病院内科に勤務していた山崎剛明医師がカリキュラム3年目として当科に復帰し、福井赤十字病院初期研修医であった河合信佳医師が専攻医として当科に加わってくれたため、スタッフは2名増の10名となった。また、保坂亮介医師が専攻医から消化器内科医師として採用された。

10名体制での充実した消化器診療を展開する予定であったが、新型コロナウイルス感染症のアウトブレイクのため、緊急事態宣言下の4月後半からは不要不急の検査・治療の後ろ倒し等の診療制限を余儀なくされた。しかしながら、4月下旬から約2ヶ月間の健診業務制限に伴い、ドック内視鏡担当がなくなったことで、ERCP等の特殊検査を午前中に施行することが出来たことはメリットであった。

要請に応じて毎年行って来た北海道置戸赤十字病院への医師派遣（1ヶ月）もコロナ感染のため、令和2年度は中止せざるを得なかった。

毎月第1金曜日に開催している内視鏡室カンファレンスでは検査待ち時間削減、時間内検査終了、高水準かつ安全安楽な検査施行に必要な事項について継続的に話し合った。コロナ禍における検査件数の減少もあるが、効率の良い検査施行を心掛けることで時間内業務終了日が大幅に増加した。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症により、総内視鏡検査件数は減少したが、消化器特殊内視鏡手技においては、前年度比較でERCP関連手技、内視鏡的胃・大腸粘膜下層切開剥離術、大腸ポリペクトミー・大腸粘膜切除術、内視鏡的食道静脈瘤硬化療法、食道・胃十二指腸・大腸ステント留置術等は増加していた。

学術面では山崎剛明医師の「アピキサバンで治療しえた、活動性潰瘍性大腸炎にともなうカテーテル血栓・肺塞栓症の1例」の症例報告が日本消化器病学会雑誌に掲載された。コロナ感染症の影響で学会開催の中止やWeb開催への変更などが相次ぐ中、日本消化器内視鏡病学会総会に2題、日本消化器病学会大会に1題、日本消化器病学会および日本消化器内視鏡病学会北陸支部例会に計4題の演題を発表した。

### 3. 実績

#### 平成 29 年から令和 2 年度までの検査件数

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
上部消化管内視鏡検査	10,584 回	11,089 回	10,713 回	8,853 回
上部超音波内視鏡検査	103 回	87 回	64 回	54 回
EUS-FNA	31 回	41 回	35 回	26 回
内視鏡的消化管止血術	125 回	116 回	108 回	100 回
内視鏡的粘膜下層切開剥離術	101 回 (胃)	108 回 (胃)	87 回 (胃)	97 回 (胃)
	8 回 (食道)	12 回 (食道)	16 回 (食道)	7 回 (食道)
内視鏡的食道硬化療法	29 回	40 回	14 回	21 回
経皮内視鏡的胃瘻造設術	26 回	35 回	36 回	29 回
食道ステント留置	9 回	11 回	1 回	3 回
胃十二指腸ステント留置	13 回	12 回	4 回	9 回
カプセル内視鏡	22 回	26 回	19 回	17 回
下部消化管内視鏡検査	2,335 回	484 回	2,427 回	2,358 回
内視鏡的ポリペクトミー	239 回	480 回	433 回	451 回
内視鏡的粘膜剥離術 (ESD)	11 回	29 回	16 回	23 回
内視鏡的粘膜切徐術	356 回	305 回	326 回	358 回
下部消化管ステント留置術	32 回	20 回	15 回	22 回
胆膵内視鏡検査 (検査数重複あり)				
ERCP	354 回	388 回	309 回	344 回
胆道ステント留置	182 回	180 回	143 回	152 回
内視鏡的乳頭切開術	147 回	159 回	120 回	140 回
胆道結石除去術	79 回	112 回	90 回	101 回
小腸内視鏡	30 回	16 回	11 回	6 回

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

## 6. 循環器内科

### 1. スタッフ

循環器内科部長 兼 医療技術部長	吉田 博之	日本内科学会 総合内科専門医、指導医 日本循環器学会 専門医
循環器内科部長 兼 救急部長	坪川 明義	日本内科学会 総合内科専門医 日本循環器学会 専門医 日本心血管インターベンション学会指導医
循環器内科副部長	皿澤 克彦	日本内科学会 総合内科専門医 日本循環器学会 専門医
循環器内科副部長	榊原 圭一	日本内科学会 総合内科専門医 日本循環器学会 専門医 日本心臓リハビリテーション学会指導士
循環器内科医師	辻 俊比古	
循環器内科医師	大嶋 美華	

### 2. 診療

狭心症、心不全、不整脈などの診断と治療のほか、急性心筋梗塞に代表される循環器救急や連携医療機関からの入院依頼に24時間体制で対応しています。心臓リハビリテーション指導士を中心に多職種カンファレンスで情報共有し、高齢化で増加している慢性心不全患者にはクリニカルパスを適用し安全と質を保っています。冠動脈治療は低侵襲を心掛け、下肢や腎臓のカテーテル治療にも対応しています。血管エコーによる深部静脈血栓症や慢性動脈閉塞症の診断や、CT・シンチ・MRI・PETで形態的、機能的診断を行っています。冠動脈CTは不整脈対応型で当日検査も行っています。ペースメーカー手術患者では遠隔モニタリングを導入し心房細動の早期発見に努めています。

### 3. 実績

	令和2年
ホルター	438
UCG	3,842
心筋シンチ	358
冠動脈 CT	285
心臓 MRI	32
PCI	158
緊急 PCI	62
待機 PCI	96
PTA	38
心不全患者	207
心不全入院中死亡	23
入院患者	628
平均在院日数	14.1

#### 令和2年 急性冠症候群 PCI 患者

AMI 38 件（救急車搬送 21 件） ST 上昇型 31 件 非 ST 上昇型 7 件

RMI 16 件（救急車搬送 8 件） ST 上昇型 3 件

UAP 13 件（救急車搬送 3 件）

院内死亡率 4.4%（7 件）

ST 上昇患者の救急車到着から再灌流までの平均所要時間 68.7 分

### 4. 目標

循環器救急に 24 時間対応します。

高度医療機器を用いた診断と治療を提供します。

高齢化で増加する慢性心不全患者に対応し、教育、治療を提供します。

# 7. 小 児 科

## 1. スタッフ

部長	渡邊 康宏	日本小児科学会専門医、指導医、臨床研修指導医
副部長	平野 聡子	日本小児科学会専門医 臨床遺伝専門医
副部長	玉村 宗一	日本小児科学会専門医、指導医、臨床研修指導医 日本腎臓病学会腎臓専門医 ICD 制度協議会認定インфекションコントロール・クター 日本周産期新生児医学会新生児蘇生法「専門」コース（Aコース） インストラクター 日本旅行医学会認定医
医師		野村 詠史
後期臨床研修医		新田 祥代
非常勤医師		中田 庸平
非常勤医師		安富 素子
非常勤医師		森 夕紀子
非常勤医師		杉原 啓一
非常勤医師		奥島 華純

## 2. 診 療

人事面では臨床後期研修医を1名引き受け、外来医療も行える若手小児科医を養成するための、県内で数少ない研修病院の役割を担っている。

診療面では、小児腎臓に関しては、玉村医師が森医師や腎臓泌尿器科医師の協力を得つつ診療に当たり、高い専門性を発揮している。月1回、福井大学病院小児科の腎臓外来も行っており、また大学の後進の指導・育成や他院医師からの相談対応なども行っており、県内の中心的な役割を担っている。腎生検数は年10-15件で推移しており、一定数を保っている。渡邊は神経・発達を中心に診療し、難治性てんかんなどを含め広い分野の症例を担当している。近年多い慢性頭痛・腹痛、不登校など心身症への対応も、臨床心理士と連携をとり行っている。平野医師は幅広く一般小児科診療を行いつつ、専門の内分泌・代謝疾患患児を担当し、また遺伝性疾患のカウンセリングにも力を入れている。野村医師は一般小児科臨床の経験をつみながら、アレルギーをサブスペシャリティーとすべく専門分野の診療も行い、特に食物アレルギー児の食物負荷試験を積極的に行い診断・閾値判定に努めている。新田医師は入院症例の主治医を主に担当しながら、一般外来、予防接種、乳児健診などプライマリーケアができるように研鑽を積んだ。

良性疾患を中心とした血液・腫瘍性疾患は必要に応じ、大学等とも連携しながら診療に当たっている。予防接種も、アレルギーや基礎疾患のある児への接種や、渡航ワクチンなど積極的に専門外来で実施している。併存疾患を同時に治療するなど、患者中心の医療が行えることも当科の特色と言える。

新生児関連では、当院は引き続き地域周産期母子医療センターとして、人工呼吸管理が必要な児も含め対応している。新生児搬送や総合周産期母子医療センターからのバックトランスファーも積極的に受け入れ、福井県の周産期医療が円滑に進むべく努力している。産科とも定期的にカンファレンス

を行い、合併症妊娠例への対応も行っている。

他、院内活動として、当院スタッフ向けの病児保育の運営に参加しており、よりよい職場環境がづくりに役立っている。またスタッフが早く始業できるように、8時15分から病児保育を希望する児の診察ができる体制を整えているが、今年度はコロナの流行もあり病児保育の運用は難しい状況であった。

他に外科系他科の小児が入院した際、必要に応じ全身管理目的で小児科医も担当となり、異常時の早期発見に努めている。

患者動向は予防接種を含めた予防医学の進歩や、医療内容の進歩による慢性疾患の外来管理の改善により、診療の外来シフトは小児科で着実に進行している。今年度はコロナの流行の影響か、他の感染症の流行がなく、入院・外来患者数は共に減少した。これらは全国的なトレンドに一致している。

病院小児科外来は今後、医学の進歩から予防・感染管理・慢性疾患管理が重要になると考えられる。

小児救急体制に関しては、引き続き月・木曜日の週2日間、嶺北小児救急輪番病院を担当し、また紹介は365日受け入れるなど、地域医療に貢献できるように努力している。

1次救急を担う福井県こども急患センターへの出務も行っている。

### 3. 実績

	令和元年度	令和2年度
小児科入院患者総数	802	458
1. 一般病棟・ICU入院患者数	700	354
呼吸器疾患		
気管支炎・細気管支炎・肺炎	173	29
上気道炎・クループ症候群（Flu含む）	58	16
扁桃炎・扁桃周囲膿瘍	11	3
中耳炎	4	1
その他（間質性肺炎など）	3	2
消化器疾患		
急性胃腸炎・脱水症	73	27
腸重積	2	1
その他（NASH、虫垂炎、GERDなど）	9	8
神経筋疾患		
熱性痙攣 単純型	38	8
熱性痙攣 複雑型	22	8
てんかん・無熱性痙攣	34	21
片頭痛・周期性嘔吐症	6	5
睡眠時無呼吸検査（PSG）	8	1
その他（痙攣重積、脱髄性疾患など）	5	12
腎疾患		
ネフローゼ症候群	13	11

沿 革	慢性腎炎	4	1
	腎生検	6	6
	尿路感染症	9	21
概 要	免疫・アレルギー疾患		
	気管支喘息	19	10
	食物アレルギー（食物負荷試験）	52	56
患者数・ 経営状況	アナフィラキシー	9	4
	川崎病	16	6
	IgA 血管炎	4	4
委 員 会	多形紅斑	4	4
	その他（菊池病など）	6	4
	血液・腫瘍疾患		
ト ピ ク ス	免疫性血小板減少性紫斑病	5	5
	乳児血管腫（ヘマンジオル導入）	6	1
	その他	2	2
診 療 業 務	内分泌・代謝		
	下垂体ホルモン分泌負荷試験	8	9
	その他（糖尿病、ケトン性低血糖など）	10	5
医 療 社 会 事 業 部	その他の感染症（蜂窩織炎、手足口病など）	25	18
	心身症・精神疾患	7	7
	MRI、シンチなど鎮静下の検査目的	20	21
看 護 部	その他（不明熱、薬物中毒など）	29	17
	2. ベビーセンター入院患者数	102	104
	早産児	21	28
事 務 部	低出生体重児（早産児を除く）	11	8
	新生児呼吸障害（TTN、MAS など）	18	22
	新生児黄疸	26	21
業 績	新生児低血糖（高インスリン血症を含む）	3	2
	新生児感染症（疑いも含む）	4	1
	哺乳不良・体重増加不良	5	11
	先天性心疾患・不整脈	3	3
	その他の先天奇形（口蓋裂など）	5	3
	その他	6	7

# 8. 外科

## 1. スタッフ

令和2年3月31日をもって廣瀬由紀医師が退職した

第1部長	青竹 利治	日本外科学会 専門医、指導医 日本消化器外科学会 専門医、指導医 日本消化器病学会 専門医 日本内視鏡外科学会 技術認定医
第2部長	藤井 秀則	日本外科学会 専門医、指導医 日本消化器外科学会 専門医指導医 日本消化器病学会 専門医、指導医 日本乳癌学会認定医 日本内視鏡外科学会 技術認定医（令和3年1月31日をもって退職）
第3部長	田中 文恵	日本外科学会 専門医 日本乳癌学会専門医
第4部長	川上 義行	日本外科学会 専門医、指導医 日本消化器外科学会 専門医 日本消化器病学会 専門医
第5部長	土居 幸司	日本外科学会 専門医、指導医 日本消化器外科学会 専門医、指導医 日本消化器病学会 専門医、指導医 日本消化器内視鏡学会 専門医 日本乳癌学会 認定医 日本肝胆膵外科学会 高度技能指導医
第6部長	吉羽 秀麿	日本外科学会 専門医 日本消化器外科学会 専門医、指導医 日本消化器内視鏡学会 専門医、指導医 日本内視鏡外科学会 技術認定医
医師	藤本 大裕	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会 専門医、指導医 日本内視鏡外科学会 技術認定医（令和3年3月31日をもって退職）
医師	加藤 成	日本外科学会 専門医
医師	平崎 憲範	日本外科学会 専門医 日本消化器外科学会 専門医 日本内視鏡外科学会 技術認定医
後期研修医	藤野 麻琴	（令和2年4月1日赴任、9月31日をもって退職）
後期研修医	上田 容子	（令和2年10月1日赴任、令和3年3月31日をもって退職）
*医監	廣瀬 由紀	日本外科学会 専門医、指導医 日本消化器外科学会 専門医、指導医 日本消化器病学会 専門医、指導医 日本乳癌学会専門医 日本肝胆膵外科学会 高度技能指導医

## 2. 診療

令和2年の手術件数は合計で844件であった。新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、症例数は前年度(910件)より減少した。

手術の内訳では全国的な傾向と同様であり、悪性疾患においては大腸癌が最も多く、次に乳癌、そして胃癌の手術であった。麻酔別の手術件数では全身麻酔が728件でやや減少し、腰椎麻酔は減少、局所麻酔は前年と比較して著変はなかった。緊急手術は、昨年は178例であり全体の手術の約21.1%であった。

外科の診療以外ではチーム医療としての活動として、栄養管理はNST(Nutritional support team)として広瀬医師、川上医師が、また感染管理ではICT(Infection control team)に土居医師が活動している。

そしてさらに緩和医療に藤井医師、吉羽医師が活動を継続した。

## 3. 実績

### 外科手術実績

手術別手術症例数	令和2年
食道切除術	3
乳房切除術	52
乳房温存術	41
胃全摘術	5
噴門側胃切除術	0
幽門側胃切除術	14
腹腔鏡下胃切除術	5
腹腔鏡下幽門側胃切除術	6
腹腔鏡下幽門側胃切除術<ホット支援>	21
腹腔鏡下噴門側胃切除術	2
腹腔鏡下噴門側胃切除術<ホット支援>	0
腹腔鏡下胃全摘術	4
腹腔鏡下胃全摘術<ホット支援>	1
結腸切除術	24
前方切除術	2
直腸切除術	8
腹腔鏡下結腸切除術	98
腹腔鏡下直腸切除術	16
腹腔鏡下直腸切除術<ホット支援>	14
右へ続く	

手術別手術症例数	令和2年
腹腔鏡下大腸切除術	0
虫垂切除術	1
腹腔鏡下虫垂切除術	71
痔手術	15
肝部分切除術	9
肝亜区域切除術	1
肝区域切除術	4
肝葉切除術	5
胆嚢摘除術(開腹)	15
腹腔鏡下肝切除術	9
腹腔鏡下胆のう切除術	84
臍頭(十二指腸)切除術	16
臍尾側切除術	10
単径大腿ヘルニア術	31
腹腔鏡下単径大腿ヘルニア手術	79
腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術	0
胆管悪性腫瘍手術	0
その他	0
合計	666

疾患別手術症例数	令和2年
食道癌	3
乳癌	93
胃癌	52
結腸癌	107
直腸癌	21
虫垂炎	67
原発性肝癌	12
転移性肝癌	12
胆石胆嚢炎胆嚢ポリープ	87
胆嚢癌	2
胆管癌	9
膵癌	15
膵腫瘍	1
単径大腿ヘルニア	110
胃 GIST	5
小腸 GIST	1
十二指腸乳頭癌	4
直腸 GIST	0
肛門管癌	0
合 計	601

麻酔別手術症例数	令和2年
全身麻酔	728
腰椎麻酔（含む、硬麻）	44
局所麻酔	72
合 計	844

麻酔別手術症例数	令和2年
緊急手術	178
待期手術	666
合 計	844

#### 4. 目 標

患者さんに寄り添った、根治性と QOL を求めたより質の高い外科治療を引き続き追求していきたい。  
胃癌と直腸癌に対するロボット支援手術は、今年度も引き続き継続し発展させていきたい。

治  
革

概  
要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

# 9. 整 形 外 科

## 1. スタッフ

常勤医師 10 名（リハビリテーション医師を含む）、うち専門医 8 名

院長兼整形外科部長 高木 治樹  
京都大学医学博士  
京都大学医学部 臨床教授  
日本整形外科学会専門医  
日本整形外科学会認定スポーツ認定医  
日本整形外科学会認定リウマチ認定医  
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病認定医  
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医  
日本医師会認定産業医  
日本医師会認定健康スポーツ医  
日本リウマチ学会専門医  
日本リウマチ財団登録医  
日本リハビリテーション学会認定臨床医  
日本骨粗鬆症学会認定医

整形外科第 1 部長 高塚 和孝  
京都大学医学博士  
日本整形外科学会専門医  
日本整形外科学会認定スポーツ認定医  
日本整形外科学会認定リウマチ認定医  
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病認定医  
日本リウマチ学会専門医

リハビリテーション科代表部長兼第 2 整形外科部長  
浅野 太洋  
京都大学医学博士  
日本整形外科学会専門医  
日本整形外科学会認定リウマチ認定医  
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病認定医  
日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSCAS）評議員

リハビリテーション科部長  
高嶋 理  
日本整形外科学会専門医  
整形外科副部長  
小田 竜治  
日本整形外科学会専門医

日本リハビリテーション医学会認定臨床医

整形外科副部長

相模 昭嘉

日本整形外科学会専門医

日本整形外科学会認定リウマチ認定医

医師

森瀬 博子

日本整形外科学会専門医

日本整形外科学会認定リウマチ認定医

日本リウマチ学会専門医

日本リウマチ学会登録ソノグラファー

医師

菌 隆

日本整形外科学会専門医

日本整形外科学会認定 脊椎脊髄病医

日本整形外科学会認定 リウマチ医

日本整形外科学会認定 スポーツ医

医師

仲谷 健次

医師

嶋 皓一郎

## 2. 診 療

- ・関節手術：術前にコンピューターシュミレーションを行い、より正確な人工関節の設置を実現している。  
また、膝関節は症例により骨切り術、人工膝全置換術、単顆置換術を使い分け良好な成績を得ている。
- ・脊椎手術：後腹膜アプローチを含む術式の改良、内視鏡手術、経皮的スクリュー固定術の導入により低侵襲な手術を目指している。
- ・関節鏡手術：半月板手術、靭帯再建術によるQOL向上、スポーツ復帰に貢献している。
- ・関節リウマチ：他科と連携しながら生物学的製剤を含めた集学的治療を積極的に行っている。
- ・骨粗鬆症：新規治療薬、骨折リエゾンリハビリを導入し骨折2次予防を主眼とした積極的介入を行っている。

## 3. 実 績

末尾の手術統計（表）のとおり

## 4. 目 標

他科との連携を図り、関節リウマチをはじめとする整形外科疾患の集学的治療をさらに推進する。  
地域連携医との連携を密にし、地域基幹病院としての役割を果たす。  
整形外科後期研修医、整形外科専門医の育成、研鑽に努める。

沿  
革

概  
要

患者数・  
経営状況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ッ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

<手術統計>

			令和2年度
脊椎外科		頰椎	18
		胸椎、腰椎	78
		脊髄腫瘍	0
関節外科	股関節	人工関節	45
		人工関節再置換	6
		人工骨頭	47
		その他	5
	膝関節	人工関節	43
		人工関節再置換	3
		単顆置換	13
		腱、靱帯再建	2
		半月板手術	24
		その他	7
	肩関節	人工骨頭、関節	1
		腱板修復	4
		その他	0
	肘関節	人工関節	1
		その他	2
	足関節、足部関節	人工関節	0
		関節固定術	2
		関節形成術	0
		その他	3
	外傷外科	骨接合術	上肢
下肢			126
再接着術 その他の外傷		0 73	
手外科	関節手術	5	
	腱・靱帯手術	31	
	その他	4	
末梢神経手術		30	
骨軟部腫瘍		11	
その他		28	
Microsurgery		2	
手術総数		738	

# 10. 形 成 外 科

## 1. スタッフ

副部長	寺村 あずみ	日本形成外科学会専門医 日本形成外科学会小児形成外科分野指導医 日本形成外科学会再建・マイクロサージャリー分野指導医
医師	遠藤 紗穂	(令和2年4月1日～令和2年10月16日)
医師	藤土 光	令和2年12月1日着任

## 2. 診 療

現在、月・水・金曜日の午前中と木曜日の午後に来来診療を行っています。手術に関しては火・水・木曜日に主に全麻下手術を、月・水・金の午後には小手術、レーザー治療などを行っています。

## 3. 実 績

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
外傷	143	147	98
先天異常	23	23	25
腫瘍	317	348	236
瘢痕・ケロイド	67	46	31
難治性潰瘍	30	16	40
眼瞼下垂	29	33	41
レーザー治療	76	120	64
炎症・変性疾患	9	6	13
その他	14	69	72
	708	808	481

## 4. 目 標

令和2年度は4月1日から秋田医師に代わり遠藤医師が赴任となり、診療を継続したが、10月中旬から産休に伴う退職となり、12月1日より藤土光医師が着任となった。

地域の先生方と連携を取りながら、幅広い症例に対応し、学術面での活動も継続していく予定である

# 11. 脳神経外科

## 1. スタッフ

脳神経センター長 脳神経外科代表部長

西村 真樹 日本脳神経外科学会専門医、指導医  
日本脳卒中学会専門医、  
日本脳卒中の外科学会技術指導医、  
京都大学臨床教授、福井大学臨床教授  
日本脳卒中学会評議員  
(令和2年7月1日着任)

第2脳神経外科部長

早瀬 睦 日本脳神経外科学会専門医、指導医  
日本脳卒中学会専門医  
日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医、  
日本神経内視鏡学会技術認定医  
日本頭痛学会頭痛専門医

副部長

佐野 徳隆 日本脳神経外科学会専門医、指導医 日本脳卒中学会専門医  
日本脳卒中の外科学会技術認定医 日本脳血管内治療専門医  
日本神経内視鏡学会技術認定医

医師

取越 貞治 日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、  
日本脳神経血管内治療学会専門医

北原 孝宏

日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、  
日本脳神経血管内治療学会専門医  
(令和2年4月1日着任)

中島 悠介

(令和2年4月1日着任)

山下 智之

(令和3年1月1日着任)

戸田 弘紀

(令和2年6月30日異動)

元家 亮太

(令和2年年4月1日着任 12月31日異動)

## 2. 診療

脳腫瘍 脳血管障害 脊椎・脊髄疾患 機能外科疾患の外科的治療

### 3. 実績

	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
総手術件数	282	301	310	250	203
脳腫瘍手術	24	24	26	24	21
脳卒中開頭手術	42	45	47	22	31
血行再建術	7	16	16	18	8
脊椎脊髄手術	15	20	18	8	4
定位・機能外科手術	5	8	9	9	4
血管内治療手術	69	97	93	69	50

### 4. 目標

当院は一次脳卒中センターのコア施設として超急性期脳梗塞の血栓溶解・血栓回収術を 24 時間行うことが求められており体制の維持を継続する。同時にクモ膜下出血や脳出血や動静脈奇形に対して血管内治療、外科的治療をいずれも高いレベルで行う急性期脳血管障害における中心的センターとしての役割を担っていく。また未破裂脳動脈瘤や頸動脈狭窄 / 閉塞・もやもや病など慢性期の脳卒中の予防的治療においても厳格な適応のもとに適切な治療を地域に提供していく。

脳腫瘍については最新の知見をもとに外科的治療、放射線治療、薬物治療、内視鏡などを組み合わせた総合的な治療を展開していく。以上の臨床活動の中で学会報告や論文発表を通じて学術活動を活発に行い京都大学脳神経外科の研修病院として若手医師の教育に積極的に取り組み、また地域中核研修病院として医学生や初期研修医の参加を積極的に受け入れる。

# 12. 呼吸器外科

## 1. スタッフ

部長 松倉 規

呼吸器外科専門医  
外科専門医  
日本呼吸器外科学会 評議員  
日本胸部外科学会 指導医、認定医  
日本外科学会 指導医、認定医

医師 山岸 弘哉

呼吸器外科専門医  
外科専門医

医師 若月 悠佑

日本外科学会 認定医

医師 南 紀久子

## 2. 診療

自分の身内にも行いたい患者さん本位の医療を心がけています。

科内でのカンファレンスや呼吸器内科、放射線科、病理部とのカンサーボードを行いチームとして統一性のとれた診療を行っています。また看護部は当然のこと、薬剤部やリハビリ科など院内他科、地域医療連携課の社会福祉士、入退院支援センターなど多職種・多部門とのカンファレンスも行い情報伝達を密にしています。

治療方針は各種ガイドラインを参考にグローバルスタンダードであるよう努めています。

日本赤十字社の使命の一つである災害時医療にも参加します。

病診連携を進めます。平成23年4月から福井県統一の肺がん地域連携パスが稼働しており上皮内腺癌パスとIA期パスを用いています。

周術期の呼吸リハビリテーションも当科の特徴の一つです。「術後経過良好」を目指し、術前からの呼吸リハビリで手術を無事に乗り越え、一日も早く日常生活を取り戻し、社会復帰を果たしていただくよう努めています。

### 3. 実績

手術統計表をご参照ください。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症蔓延の影響もあり手術数が減少しました。

呼吸器外科手術統計				
手術実績		平成30年度	令和元年度	令和2年度
肺	癌	75	90	54
転	移性肺腫瘍	9	14	7
縦	隔腫瘍	7	8	7
気	胸	27	39	17
膿	胸	4	10	15
外	傷	2	4	0
手	掌多汗症	13	8	9
そ	の他	39	48	22
胸	腔鏡手術	150	178	113
合	計	176	221	131

### 4. 目標

我々呼吸器外科の目標は、呼吸器外科手術を通して地域の皆様の医療に貢献することです。

# 13. 皮 膚 科

## 1. スタッフ

副部長	八木 洋輔	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
医師	加畑 雄大	(令和 3年3月22日付で着任)
医師	乗井 匠	(令和 3年3月31日付で異勤)
医師	吉田 康幸	(令和 2年4月1日付で着任)
医師	勝尾 公祐	(令和 2年4月1日付で着任、令和3年3月31日付で異勤)

## 2. 診 療

外来は午前診療が中心で3診体制です。月曜日、火曜日、金曜日の午前中の紹介患者は、副部長が診察をしています。午後は完全予約制で、火曜日に小手術やレーザー治療などを、木曜日は脱毛症外来を行っています。火曜日はデイサージェリー室で外来手術、金曜日は中央手術室で比較的大きな外来手術や入院手術を行っています。

### <特 徴>

- 1) 外来：皮膚悪性および良性腫瘍、円形脱毛症、アトピー性皮膚炎など湿疹群、乾癬、膠原病、水疱症、白癬症、陥入爪や疣贅などです。ほか、特殊な外来としては円形脱毛症の治療のために脱毛症専門外来を毎週木曜日午後に行っています。メイクアップケア外来も行っています（月1回）。男性型脱毛症に対しては自費にてプロペシア内服を行っています。また、生物学的製剤も積極的に導入しており、乾癬、蕁麻疹、アトピー性皮膚炎の方に対して希望があれば導入も行っています。皮膚・皮下腫瘍に対してはデイサージェリー室で日帰り手術、中央手術室で入院手術を行っています。
- 2) 入院：皮膚悪性腫瘍、水疱症や膿疱症、帯状疱疹、蜂窩織炎・丹毒、重症薬疹などを中心にみています。皮膚悪性腫瘍は、手術、化学療法、放射線治療を組み合わせた集学的治療を行っています。

## 3. 実 績

入院症例	平成30年度	令和元年度	令和2年度	計
帯状疱疹	103	78	74	255
皮膚感染症	64	63	70	197
良性腫瘍	14	38	17	69
悪性腫瘍	39	49	39	127
その他入院	142	141	134	417
計	362	369	334	1,065

手術症例（入院・デイ）	平成30年度	令和元年度	令和2年度	計
良性腫瘍	123	176	170	469
悪性腫瘍	37	48	39	124
計	160	224	209	593

## 4. 目 標

これまで通り地域に貢献し、地域・院内における福井赤十字病院皮膚科の役割を、しっかりと果たしていく。

# 14. 腎センター（腎臓・泌尿器科）

## 1. スタッフ

副院長，

第1 腎臓・泌尿器科部長、腎センター長 小松 和人

日本泌尿器科学会指導医・専門医

福井大学医学部臨床教授

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

第2 腎臓・泌尿器科部長 伊藤 正典

日本内科学会専門医（総合内科専門医）

日本腎臓学会腎臓専門医、指導医

日本透析医学会専門医

福井大学医学部臨床教授

第3 腎臓・泌尿器科部長 片野 健一

日本内科学会認定内科医、総合内科専門医

日本腎臓学会腎臓専門医、指導医

日本透析医学会専門医、指導医

北陸 VAIVT（透析シャント血管カテーテル治療）研究会世話人

第4 腎臓・泌尿器科部長 河野 眞範

日本泌尿器科学会専門医、指導医

日本泌尿器科学会、日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定

日本内視鏡外科学会技術認定医（泌尿器腹腔鏡）

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

副部長 高田 昌幸

日本泌尿器科学会専門医、指導医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

日本泌尿器科学会、日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定

日本内視鏡外科学会技術認定医（泌尿器腹腔鏡）

日本移植学会移植認定医

副部長 山内 寛喜

日本泌尿器科学会専門医、指導医

日本泌尿器科学会、日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

鏡技術認定

医師 松井 佑樹

日本内科学会認定医  
日本腎臓学会専門医  
日本透析医学会専門医  
日本移植学会移植認定医

医師 山岸 瑞希

日本内科学会認定内科医

医師 糸賀 明子

日本泌尿器科学会専門医

医師 垣鏝 忠

後期研修医 西川 翔

令和2年度は腎臓・泌尿器科として腎臓内科は伊藤部長以下、合計5名で診療にあたる事が可能となり、総合診療部への派遣も可能となりました。泌尿器科は塚原医監（緩和ケア病棟）、小松副院長以下、合計6名のスタッフにて診療に従事しました。当科は、合計11名の陣容で、地方都市の基幹病院としては恵まれています。腎臓内科と泌尿器科が一つの標榜科を名乗るというユニークな組織ですが、診療科の設立以来、一貫して腎・泌尿器疾患のトータルケアを目指しています。

2. 診療

患者ニーズに即した診療体制の維持を目標として掲げ、内科的腎疾患と泌尿器科的疾患を統合的に診療する戦略を維持継続しました。副腎、腎臓、尿路、前立腺、男性器等下記の疾患を対象にした、高度専門的治療が基本方針です。内科的腎疾患に対する高度専門的治療、低侵襲的外科治療、悪性腫瘍に対する集学的治療を行う。

診療方針と診療科の労働環境整備を含み、具体的戦略は以下に掲げる通りです。

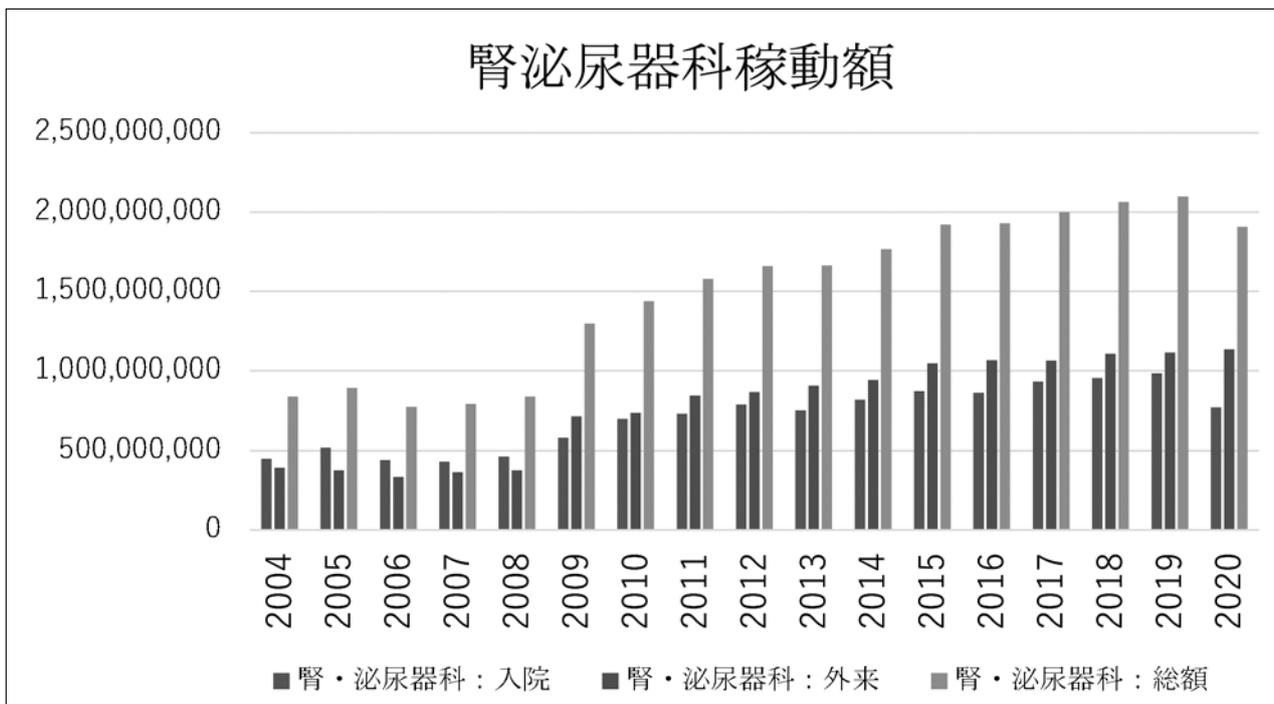
- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中小病院ではやりにくい先端技術、外科手術などを担当する</li> <li>2. 安定した排尿障害などは逆紹介する</li> <li>3. 外来患者数の抑制</li> <li>4. 労働環境の整備</li> <li>5. 研修機会を与える</li> </ol> |
|---|

以下、業績を略記いたします。

新型コロナウイルス感染症の影響で個々の業績は令和元年には及びませんでした。

1) 稼働額

	令和元年度	令和2年度
腎・泌尿器科：入院	982,982,607	772,847,574
腎・泌尿器科：外来	1,114,723,294	1,134,964,521
腎・泌尿器科：総額	2,097,705,901	1,907,812,095



### 2) 腎臓内科領域：

件数の減少はありましたが、腎臓内科の主要検査である腎生検については、原発性腎疾患のみならず、全身性疾患に伴う腎病変の腎生検も多く実施できました。

また、慢性腎臓病（CKD）教育入院は1週間のパスに従い継続しています。ほぼ全例が、他科あるいは連携医の先生方からのご紹介であり、病診連携に貢献できているものと思われます。高血圧、糖尿病といった生活習慣病から発症するCKDは今後も増加の一途かと思われます。糖尿病腎症重症化予防プログラムも開始されています。透析導入を一人でも減少させるべく、今後も病診連携の一つの柱として努力しております。

### 3) 透析センター

データの詳細は腎センターの項に譲ります。

令和2年度は透析監視装置計33台にて稼働いたしました。うちオンラインHDFについては15台で実施されており、重矢課長をはじめとする臨床工学課技師により厳重な透析液水質管理のもと、きわめて順調に継続されています。

腎代替療法のうち、血液透析において令和2年度は合計約35名の透析導入を行いました。当院における維持透析患者数も平成28年度以降100名を超えて維持されています。看護スタッフの僧数が実現すれば、さらにニーズに応えることは可能かと思ひます。

血液透析患者さんは合併症も多く、透析センターのスタッフは身体のみならず精神的ケアも求められています。日々の研鑽をかさね、患者様のニーズに対応して参ります。

シャント血管内治療（VAIVT）当診療科の得意分野です。片野部長は、県内全域にわたる各透析施設からの紹介にスピーディに対応しており、透析におけるブラッドアクセスの重要性を県内外に知らしめています。

腎代替療法以外の浄化療法では、昨年度同様、消化器科より炎症性腸疾患に対するアフエーシス療法として白血球除去療法、顆粒球除去療法、また難治性腹水に対する腹水濾過濃縮のご依頼を消化器内科・外科さらには婦人科からも多くいただき感謝しております。

沿革
概要
患者数経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

また、夜間・休日の緊急透析は集中治療部（ICU）にて実施できるように田辺麻酔科部長はじめ麻酔科の先生方のご配慮を頂いております。この場をお借りしましてお礼申し上げます。

新型コロナ感染症について、透析患者さんの院内発生はありませんでした。重症化、死亡リスクの高い透析患者さんですので今後も厳重な感染防御方策を継続してまいります。

#### 4) 泌尿器科領域

腎・泌尿器科領域の手術件数は北陸最多です。中央手術室での手術以外に、体外衝撃波結石破砕術、TV 透視室での手技等を加えると外科的手術は 1200 件を超えて推移しております。外科治療の最近の概要を別掲表に示します。

特徴的なのは、ロボット支援手術に代表される高度で先進的な外科治療を行う一方、生体腎移植、シャント血管内治療（VAIVT）などの腎不全外科まで幅広く手術に取り組んでいる点であり、若手泌尿器科医師の良いトレーニングの場となっています。

外科治療以外で特筆すべきは平成 29 年 10 月から活動を開始している排尿ケアチーム（CST）であり、浅田看護師をリーダーとして院内ラウンドを毎週実施しています。下部尿路障害に悩む患者さんも数多く、各病棟から貴重な存在となっています。今後症例の増加が見込まれます。

#### 5) 働き方改革関連の報告

11 名全員が既婚、女性医師は 2 名、男女を問わず子育て中の医師が過半を占めます。昨年度の有給休暇消化率は平均約 30%で経年的には緩徐ながら上昇傾向でした。月毎の時間外勤務時間は平均約 30 時間で、横這いです。

専門科の診療に加え、全科当直、救急診療、総合診療を担当していますが、令和 2 年度は新型コロナ感染症に対する診療を担当しました。検査、入院患者さんの主治医担当を行いました。

#### 6) 学術業績

別掲の通りですが新型コロナ感染症のせいもあり、やや低調であったと思います。

### 3. 実績

腎臓・泌尿器科診療実績		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
対象臓器	術式名		小計		小計		小計
副腎・後腹膜	腹腔鏡下副腎摘出術 <K7542>	2		5			
	そのほかの副腎・後腹膜手術			1			
	副腎悪性腫瘍手術						
	腹腔鏡下副腎悪性腫瘍手術 <K756-2>			1			
	後腹膜悪性腫瘍手術						
	大綱、腸間膜、後腹膜腫瘍摘出術 (腸切除を伴わない)						
	腹腔鏡下後腹膜腫瘍切除術	1					
副腎・後腹膜手術合計		3	3	7	7	0	0
腎、腎盂	腹腔鏡下生体腎採取術			2		2	
	生体腎移植術			2		2	
	経皮的尿路結石摘除術	4		4		4	
	経皮的上部尿管拡張術						
	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術 (一連につき)	45		34		48	
	腹腔鏡下腎部分切除術	1				3	
	ロボット支援腎部分切除術 (腎癌)	16		10		13	
	腹腔鏡下腎嚢胞切除縮小術						
	経皮的腎嚢胞穿刺術						
	腎(尿管)悪性腫瘍手術 / 腎摘出術(開放)	3		2			
	腹腔鏡下腎摘出術			2			
	腹腔鏡下根治術腎摘除術 (腎癌)	7		12		5	
	腎(尿管)悪性腫瘍手術 (開放)						
	腹腔鏡下腎(尿管)悪性腫瘍手術			1			
	腹腔鏡下腎(尿管)全摘除術 (腎盂 / 尿管癌)	15		13		10	
	経皮的腎(腎盂)瘻造設術	23		12		5	
	腎瘻交換	53		36		50	
腹腔鏡下腎盂形成術	1		1				
そのほかの腎、腎盂手術	2				1		
腎、腎盂手術合計		170	170	131	131	143	143
尿管	経尿道的尿路結石摘出術	102		93		79	
	経尿道的尿管狭窄拡張術	2				1	
	経尿道的尿管ステント留置術・交換	317		280		343	
	経尿道的尿管ステント抜去術	114		119		108	
	尿管膀胱新吻合術						
	尿管膀胱新吻合 (小児)	1					
	尿管膀胱吻合術			3			
	尿管鏡検査	12		9		6	
そのほかの尿管手術			4		2		
尿管手術合計		548	548	508	508	539	539

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

沿 革 概 要 患者数 経営状況 委員会 トピックス 診療業務 医療社会 事業部 看護部 事務部 業績	腎臓・泌尿器科診療実績		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	膀胱	膀胱破裂閉鎖術						
	膀胱内凝血除去術	16		17		19		
	膀胱結石、異物摘出術（経尿道的手術）<K7981>	18		12		10		
	経尿道的電気凝固術	30		34		20		
	膀胱水圧拡張術	2		3		1		
	膀胱腫瘍摘出術 <K802>	1						
	腹腔鏡下膀胱部分切除術						3	
	膀胱脱、性器脱、直腸脱、メッシュを利用するもの	9		2				
	膀胱悪性腫瘍手術（開放手術）							
	膀胱悪性腫瘍手術2全摘（腸管等を利用して尿路変更を行わないもの）	2		1				
	膀胱悪性腫瘍手術4全摘（回腸または結腸導管を利用して尿路変更を行うもの）<K8034>			3			1	
	膀胱悪性腫瘍手術5全摘（代用膀胱を利用して尿路変更を行うもの）							
	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術			1				
	ロボット支援膀胱悪性腫瘍手術1全摘（腸管等を利用して尿路変更を行わない）<K80321>	11		3			4	
	ロボット支援膀胱悪性腫瘍手術2全摘（回腸または結腸導管を利用して尿路変更を行うもの）<K80322>				6			7
	ロボット支援膀胱悪性腫瘍手術全摘3（代用膀胱を利用して尿路変更を行うもの）<K80323>				1			
	膀胱悪性腫瘍手術6経尿道的手術	101		104		93		
	膀胱瘻造設術	1		2		1		
	膀胱尿管逆流手術							
	腸管利用膀胱拡大術							
	回腸（結腸）導管造設術						1	
	膀胱生検	2		8		5		
	腹腔鏡下尿膜管切除術	1		5		1		
	そのほかの膀胱手術	2		2		2		
	膀胱鏡検査	1		5		1		
	膀胱手術合計	197	197	209	209	169	169	

腎臓・泌尿器科診療実績		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
尿道	尿道結石、異物摘出術（全部 / 後部尿道）	3					
	外尿道腫瘍切除術 <K816>			3			
	尿道悪性腫瘍摘出術					1	
	尿道形成手術						
	尿道下裂形成手術	1					
	尿道狭窄内視鏡手術	3		5		9	
	尿失禁手術	2		1			
	尿失禁又は膀胱尿管逆流現象コラーゲン注入手術						
	そのほかの尿道手術						
尿道手術合計		9	9	9	9	10	10
陰茎	陰茎尖圭コンジローム切除術	1					
	陰茎腫瘍切除術 <K826>						
	陰茎悪性腫瘍手術（陰茎切除術）<K8271>						
	陰茎悪性腫瘍手術（陰茎切除術）<K8272>						
	包茎手術	10		7		9	
	陰茎生検						
	そのほかの陰茎手術					1	
陰茎手術合計		11	11	7	7	10	10
陰嚢、精巣、精巣上体、精索	精管切断術	2		1		1	
	精巣（睾丸）摘出術	5		4		2	
	停留精巣（睾丸）摘出術			1			
	精巣上体摘出術			1			
	精巣悪性腫瘍手術	2		8		10	
	陰嚢水腫手術	4		2		1	
	停留精巣固定術	4		3			
	精索捻転手術	2				2	
そのほかの陰嚢、精巣、精巣上体、精索手術	3		1		2		
陰嚢、精巣、精巣上体、精索手術合計		22	22	21	21	18	18
精嚢、前立腺	前立腺膿瘍切開術						
	前立腺被膜下手術						
	経尿道的手術	23		23		12	
	前立腺悪性腫瘍手術（恥骨後式）			1			
	前立腺悪性腫瘍手術（腹腔鏡下）						
	前立腺悪性腫瘍手術（ロボット補助下）	30		44		29	
	前立腺針生検	7		4		2	
	前立腺小線源療法						
	針生検（手術室）						
そのほかの精嚢、前立腺手術							
精嚢、前立腺手術合計		60	60	77	77	43	43

沿革概要患者数経営状況委員会トピックス診療業務医療社会事業部看護部事務部業績

沿 革 概 要 患者数 経営状況 委員会 トピックス 診療業務 医療社会事業部 看護部 事務部 業績	腎臓・泌尿器科診療実績		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	腎不全に対する 手術	内シャントまたは外シャント設置術	80		66		68	
		内シャント血栓除去術			2			
		連携携行式腹膜還流用カテーテル腹腔内留置術 / 抜去術	1		3		1	
		CAPD カテーテル抜去			5		1	
		CAPD カテーテル体表化術	1		1		1	
		VAIVT	149		193		177	
		血管結紮術			1		5	
		そのほか	3				253	253
	腎不全に対する手術合計		234	234	271	271		
	そのほかの 泌尿器科手術	上皮小体過形成手術						
		骨盤内臓全摘						
		そのほかの泌尿器科手術 / 処置	24		51		39	
	そのほかの泌尿器科手術合計		24	24	51	51	39	39
総 計		1,278	1,278	1,291	1,291	1,224	1,224	

# 15. 産 婦 人 科

## 1. スタッフ

第1部長	田嶋 公久	日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本産婦人科内視鏡学会技術認定医（子宮鏡、腹腔鏡） 福井大学医学部臨床教授
第2部長	辻 隆博	日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医 日本医師会認定産業医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本産婦人科内視鏡学会技術認定医（腹腔鏡） 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
第2部長	福田 真	日本産科婦人科学会産婦人科専門医 母体保護法指定医師 日本医師会認定産業医 日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医 日本生殖医学会生殖医療専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
医師	佐藤 久美子	日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医 日本周産期・新生児医学会周産期専門医
医師	山本 真	日本産婦人科学会専門医
医師	杉田 元気	日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

## 2. 診 療

令和2年度は、婦人科・産科領域ともに新型コロナウイルスの影響を大きく受けた1年間でした。婦人科手術については、予約制限を行った期間があり、手術件数は令和1年度に比べてやや減少しました。手術内容では、腹腔鏡下手術が多く福井県下で最多の件数です。腹腔鏡下手術の技術認定医の存在（田嶋・辻）とともに、当院での腹腔鏡下手術が地域に認められていることを示していると考えます。最近の腹腔鏡手術では、妊孕性の温存に十分な注意をはらっています。日本生殖医学会生殖医療専門医である福田医師が、不妊患者の手術と不妊治療の橋渡しをしています。また、高齢者に多い

骨盤臓器脱に対しては、腹腔鏡下仙骨脛固定術のみでなく、クラシカルな膣式手術（膣式子宮全摘および膣壁形成）を積極的に行いました。膣式手術は生体組織を用いる修復法 native tissue repair として近年、再び注目されるようになってきました。膣式の子宮脱手術は令和1年の1件に比べて令和2年は14件と著増しました。

分娩については、新型コロナ感染予防のために、家族の分娩立会いを中止しました。また、他県からの里帰り時には来院まで2週間の待機期間をお願いしました。令和2年度の分娩数は全国的に減少しましたが、当院でも233件と前年より50件近く少ない件数となりました。当院で分娩される方は、合併症や高齢妊婦の割合が高くなっています。令和2年度に分娩された初産婦114人中32人(28.1%)が、35歳以上の高齢初産婦でした。また、全分娩中の10.3%がART妊娠でした（昨年度は7.3%）。日本周産期・新生児医学界専門医である佐藤医師が、小児科医師と協力しながらハイリスク分娩の管理に取り組みました。

また、令和2年度はスタッフ構成に変化があり、山本真医師が4月から赴任しました。山本医師は前任の福井大学病院で悪性腫瘍治療に携わっており、当院における子宮体癌・卵巣癌治療の充実が期待されます。また、最若手の杉田医師とともに緊急手術や夜間の分娩に積極的に参加しており年長医師の負担軽減になっています。

### 3. 実績

術式	症例	平成30年度	令和1年度	令和2年度
悪性腫瘍手術	円錐切除	38	34	27
	子宮頸癌	10	12	10
	子宮体癌	16	18	14
	卵巣癌	15	15	23
	外陰・膣癌	1	1	0
	その他	3	6	11
腹腔鏡良性疾患	子宮全摘	94	85	93
	子宮筋腫核出	41	41	42
	良性卵巣	113	121	91
	異所性妊娠	9	11	10
	性器脱	16	25	19
子宮鏡下	子宮筋腫切除	14	17	12
	ポリープ切除	17	30	32
	子宮鏡検査	0	0	0
開腹良性	子宮全摘	10	13	13
	筋腫核出	1	2	1
	良性卵巣	2	2	4
	その他	0	2	2
膣式良性	子宮全摘	3	2	0
	性器脱	4	1	14
	その他	0	3	2

産科手術	帝王切開	82	82	77
	子宮頸管縫縮	4	0	2
	人工中絶	26	21	15
	流産手術	17	19	17
	羊水穿刺	3	1	3
その他	その他	4	6	6
合計		543	570	540

	平成30年度	令和1年度	令和2年度
分娩数	292	285	233
双胎、品胎	2	1	2
初産婦	155	164	114
正期産	268	260	208
早産	22	24	25
過期産	0	0	0
死産（22週以降）	2	1	0
早期新生児死亡数	0	0	0
周産期死亡数	2	1	0
高齡初産（35歳以上40未満）	27	47	25
高齡初産（40歳以上）	12	5	7
ART妊娠	27	21	24

#### 4. 目標

当科での腹腔鏡下手術は、技術的に成熟し安定した時期に入っています。今後は、不妊治療や妊孕性温存を目指した腹腔鏡下手術に注力したいと考えています。昨年度よりCO2レーザーを用いた腹腔鏡下の子宮内膜症病変焼灼術を開始しました。CO2レーザーは組織損傷が少なく、卵巣における卵胞温存や術後癒着防止に有効です。すでにCO2レーザー術後の妊娠成立を2件確認しています。また、子宮内膜ポリープも不妊症の原因となることがあります。内膜ポリープ切除を痛みなく日帰りで行えることが理想です。近々、細径のレゼクトスコープを入手予定ですので、より簡便に低侵襲な手術が可能になると思います。

産科に関しては、引き続き安全で安心できる分娩環境を妊婦さんに提供することを目標とします。新型コロナウイルスの広がりはいまだ収束していないため、感染防御を十分行いながら診療にあたります。昨年度行った新型コロナウイルス（疑い）妊婦に対する帝王切開のシミュレーションを今後も繰り返し行う予定です。

# 16. 眼 科

## 1. スタッフ

第一部長兼アイセンター長

小堀 朗 (H3 宮崎大学卒→和歌山赤十字医療センター→京都大学→  
公立豊岡病院→当院)

日本眼科学会専門医、加齢性黄斑変性症の光線力学療法認定医  
近視矯正手術認定医、ICL手術認定医&指導医(フェイク IOL)、  
福井大学臨床教授、日本眼科手術学会評議員/理事  
Best Doctors in Japan2016-2017, 2018-2019, 2020-2021

副部長 額田 和之 (H19 愛知医科大学卒→北野病院→京都大学→当院→岸和田市民病院  
→当院)

日本眼科学会専門医認定医、加齢性黄斑変性症の光線力学療法認定医、  
近視矯正手術認定医、視覚障害者用補装具適合判定医師

医師 市岡 悠 (H25 兵庫医科大学卒→京都大学/当院→京都大学→当院)

李 相沅 (H9 檀国大学卒→韓国で皮膚科専門医→日本の医師国家試験合格  
→神戸中央病院→京都大学眼科→京都医療センター→当院)

後期研修医 横田 開人 (H28 関西医科大学卒→関西医科大学→当院)

吉村 昭人 (H29 旭川医科大学卒→京都大学→当院)

非常勤医師 清水 悠介 蒔田潤 佐々木次壽 辻隆宏 盛岡正和 後沢誠

眼科医 常勤5名+非常勤6名

視能訓練士 西畑 吉田 横田 木原 高畑 小林 紀根 土江 福田

看護師 3名

事務 4名

外来クラーク 3名

### 【人事紹介】

4月より4年間当院に勤めてくれた市岡先生が京大の人事で大阪赤十字病院へ移動となりました。大阪赤十字病院は眼科常勤医11名の大きなところですが、更に頑張ってください。4月より岸和田市民病院部長の額田先生が赴任となります。2回目の福井なので即戦力ですし、大阪で鍛えた腕を存分に振るってもらいます。5月からは京大から吉村先生が赴任となります。常勤医5名に戻り、パワーアップしていきます。常勤非常勤問わず、眼科医は常に募集しております。多くの手術件数を経験できますので希望の方ございましたら小堀にご連絡ください。

## 2. 診療

### 【新しいこと】

ICL(眼内コンタクトレンズ)が増加しています。見え方が抜群に良く不満が出ません。高度近視は絶対的適応ですが、軽度近視の症例も増えて来ています。

加齢性の下眼瞼内反症に対する「Wide everting suture」、重症ドライアイに対する「涙小管切除」がとても有効です。眼形性手術のスペシャリスト(木下先生)のお墨付きをもらいましたので、共に

第一選択の手術にしました。

白内障手術で最も困る合併症と言えばチン小帯断裂が挙げられ、その対処法として水晶体嚢内リングCTRを挿入します。CTRを最も安全に挿入するためのフック「小堀氏Spiral法用フック」を考案し発売しました。

極小切開緑内障手術MIGSが増加しています。主にiStentと眼内アプローチによるsuture-LOTOMYを行なっています。iStentは術後3ヶ月すると眼圧下がっていきます。半導体レーザーによるマイクロパルスレーザーも始めました。経強膜から毛様体扁平部に弱いレーザーを当ててuveoscleral flowの増加を期待します。繰り返し照射できる場所が強みです。今後、副作用の少ない緑内障手術が増加します。初期の段階から積極的に治療を行い実用視力を維持することが目標になります。

光干渉断層計OCTを増設しました。最も解像度の高いSpectralisの最新機種であるOCT 2を導入しました(県内初)。撮影速度が格段に早くなり、解像度が向上しています。造影剤を使わない網膜血管撮影を行うことができ、糖尿病網膜症・網膜静脈閉塞症・黄斑変性の診断治療に威力を発揮します。今までは、高度近視を伴う緑内障ではOCTによる網膜神経繊維の菲薄化の検出は困難でしたが、Spectralis OCT 2なら眼球形状の修正も自動で行うので検出できるようになりました。

### 3. 実績

末尾の集計のとおり

### 4. 目標

当科は眼の外科治療を専門とし、北陸随一の眼科手術件数を行っております。今後も白内障・屈折矯正・緑内障・網膜硝子体手術を中心に治療して行きます。

最後に紹介していただいている開業医の皆様には本当に感謝しております。できるだけ早くお帰りいただけるよう努力しておりますので、今後ともよろしくお願いたします

#### 中央手術部&アイセンター手術統計

令和2年術式分類	当院
白内障手術 小計	2,011
PEA/ECCE/ICCE (+IOL含む)	1,965
眼内レンズ縫着術(強膜内固定含む)	39
その他、IOL2次挿入など	7
緑内障手術 小計	90
線維柱帯切開術	65
線維柱帯切除術(Express)	4
ロングチューブ挿入術	10
隅角癒着解離術/その他	11
網膜剥離手術 = 経強膜法	8
経強膜裂孔閉鎖術	9
ガス注入/冷凍凝固	3
硝子体手術	381
硝子体注射	3
斜視手術	21
角膜移植	1

令和2年術式分類	当院
翼状片	33
その他 小計	110
内反症手術	30
眼瞼下垂手術	16
涙道手術（涙嚢鼻腔吻合術含む）	6
腫瘍摘出	18
霰粒腫	6
眼球摘出	1
乱視矯正 LRI	0
その他（外傷を含む）	33
ICL	32
合計	2,696

\* IOL = 眼内レンズ挿入術

両眼や同時手術を別々に算定した（白内障手術 + IOL は1つ、硝子体 + 白内障は2つ、硝子体 + 緑内障は2つ）  
統計はその年度の1月～12月までのものである。外来手術場における軽手術は上記に含まず

眼科外来ブースにおける軽手術	2019
角膜異物除去術	9
角膜潰瘍搔爬術	11
結膜異物除去	5
結膜結石除去術	0
涙点プラグ挿入術	20
虹彩光凝固術	0
後発切開術（レーザー）	266
網膜光凝固術（通常）	164
網膜光凝固術（特殊）	97
網膜光凝固術（特殊：光線力学的療法 PDT）	19
硝子体注射	983
合計	1,573

\*コストとった回数で調べました

# 17. 耳鼻咽喉科

## 1. スタッフ

部長	大澤 陽子 日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医 日本アレルギー学会専門医、指導医 日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門研修指導医 補聴器適合判定医師
医師	森川太洋 日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医
医師	堤内俊喜（令和2年4月1日赴任） 日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医
後期研修医	坪川亜優美（令和3年3月13日退任）

## 2. 診療

### (1) 基本方針

目標は、地域医療をさらに充実させるために病診連携を今まで以上に強固にすることであり、そのためにはとにかく手術症例数を増加させ、さらに質の高い医療を目指すことが重要である。

### (2) 診療責任体制

#### ①主治医制

原則的には主治医制をとっている。しかし日頃からスタッフが患者同意の上、交代で診察しスタッフ全員の目でチェックする体制となっている。また、部長が担当医になって随時主治医の相談にに応じている。

#### ②研修医の指導

後期研修医：外来は、1年目で耳鼻咽喉科手技全般ができるようにする。手術は、一年目で口蓋扁桃摘出術、鼻茸切除術、頸部リンパ節生検などの簡単な手術が、二年目で副鼻腔手術、良性腫瘍手術が指導医の下でできるようにする。年一回の学会発表をする。

#### ③主治医不在時の対応

代診医を決め対応する。関連病棟にも連絡する。

#### ④休日・夜間体制

当番を決めオンコール体制で対応している。主治医に連絡があれば主治医も対応する。

#### ⑤救急体制

救急待機医を決めオンコールで24時間対応できる。緊急手術などバックアップ体制も常に心がけている。

#### ⑥病棟回診

部長回診：週2回 火・木曜日 午前（大澤）

医師回診：月（坪川）・水（森川）・金（堤内）・土（当番制）

(3) 院内症例検討会

毎週月曜日 耳鼻咽喉科外来 耳鼻咽喉科医師 必要に応じて放射線治療担当医師

毎週水曜日 嚥下摂食チーム（耳鼻咽喉科医師・言語聴覚士・認定看護師・栄養士・薬剤師）

毎月第一水曜日 2の5病棟 耳鼻咽喉科医師・病棟看護師・耳鼻咽喉科外来看護師

(4) 院内症例検討会の記録に保管形態・保管場所

患者の電子カルテに検討した内容を記載。

3. 実績

①手術実績

手術名	平成30年度	令和元年度	令和2年度
鼓膜形成術	1	6	3
鼓室形成術	10	8	4
乳突削開術	-	4	2
内視鏡下鼻中隔手術	13	16	28
内視鏡下鼻腔手術	8	22	38
翼突管（後鼻）神経切断術	-	28	40
内視鏡下鼻副鼻腔手術	38	48	58
鼻副鼻腔良性腫瘍手術	4	2	5
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術	1	2	3
顎・顔面骨折整復手術	-	6	1
口蓋扁桃摘出術	25	65	60
舌・口腔良性腫瘍手術	5	11	9
舌・口腔悪性腫瘍手術	2	5	3
顕微鏡下喉頭微細手術	12	17	4
喉頭悪性腫瘍手術	2	0	0
喉頭形成術	2	1	0
気管切開術	23	18	19
頸部良性腫瘍手術	9	3	4
頸部郭清術	17	14	7
顎下腺摘出術	2	4	5
顎下腺良性腫瘍手術	2	0	0
耳下腺良性腫瘍手術	8	8	7
耳下腺悪性腫瘍手術	2	1	1
バセドウ病手術	-	-	4(内視鏡0)
甲状腺良性腫瘍手術	15(内視鏡2)	16(内視鏡9)	16(内視鏡3)
甲状腺悪性腫瘍手術	22(内視鏡5)	34(内視鏡9)	12(内視鏡1)
上皮小体腺腫・過形成手術	1	1(内視鏡1)	2(内視鏡1)

手術名	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
鼓膜チューブ留置術	8	19	9
鼻粘膜焼灼術	3	82	43
喉頭粘膜下遺物挿入術	-	-	16
頸部リンパ節生検	21	15	13
アデノイド切除術	3	4	4
耳癭孔摘出術	4	3	2
外鼻形成術	2	4	3
鼻内涙囊鼻腔吻合術	4	0	0
唾石摘出術	3	9	5
その他	35	16	46
合 計	495	492	476

②学術実績 別紙に記載

#### 4. 目 標

急性期医療・がん診療を中心に展開していきます。手術支援機器や内視鏡を用いた高度な手術治療を実施し、良質な医療を提供します。また、地域の医療機関と連携して、早期社会復帰が可能な診療体制を充実させていきます。

沿  
革

概  
要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

# 18. 放 射 線 部

## 1. スタッフ

第1放射線科部長	左合 直（日本医学放射線学会専門医）
第2放射線科部長	坂本 匡人（日本医学放射線学会専門医）（令和3年3月31日退職）
第1放射線科部長代理	高橋 孝博
放射線科部副部長	松井 謙（日本医学放射線学会専門医）
放射線科部副部長	都司 和伸（日本医学放射線学会専門医）
医 師	新谷 堯（放射線治療専門医（日本医学放射線学会認定））
医 師	石田 卓也
医 師	吉川 大介（令和2年12月31日退職）
医 師	金井 理美（令和3年2月1日着任）

## 2. 診 療

### 【診断部門】

#### (1) 稼働実績とコロナ禍の影響

各検査の稼働実績はコロナ前の平成30年より減っているが、外来患者数の減少率（平成30年の約89%）の範囲内であり、少なくとも受診患者においては必要な画像診断が従前通りに実施されている。

#### (2) 胸部単純写真読影 AI の試用経験と教師データの提供

エルピクセル社の胸部単純写真の肺癌検出 AI 「EIRL」の試用経験をえた。人間の不注意による見落としの一部は適切にチェックされ一定の評価は得られたが、専門医レベルの読影なら指摘できる病変の偽陰性も多く、現時点では読影時間の短縮や精度の向上が確実に期待できる、というレベルではないと判断した。

一方で、画像診断 AI は読影量の増加に対するマンパワー（人力）不足という診断放射線科医のみならず医療現場の深刻な問題に対する唯一の解決法であり、その開発にはメーカーだけでなく医療側も協力する必要がある。特に AI の開発には適切な質と量の教師データが必須であり、今回の試用を期に胸部単純写真の各疾患例 300 例以上を選別し教師データとしてエルピクセル社に提供した。質の高い画像診断データは診療という一義的な目的だけではなく、蓄積されデータベース化することにより、研究や教育、AI の教師データ、という別の付加価値を持つという点では施設だけではなく医療界にとっても共有すべき財産でもり、今後も機会があれば教師データの提供は継続すべきと考える。

### 【治療部門】

#### 放射線照射による悪性腫瘍（良性腫瘍も一部含む）の治療

令和2年の症例数は 277 件（のべ件数）で、前年（令和元年）の 287 件（のべ件数）に比べてわずかに減少となった。コロナ禍の影響で、令和2年は全国的に放射線治療患者数の減少が顕著であり、特に多い時では全国の4割を超える施設で患者数が減ったとの報告（第4回 COVID-19 全国実態調査結果報告、日本放射線腫瘍学会調べ、令和3年3月31日）がなされたほどであったが、当院ではコロナ禍による放射線治療患者数の減少は最小限に留まったものと考えられた。

原発部位別の内訳で見ると、今年は肺・縦隔腫瘍症例が68件（のべ件数、以下同様）で全症例の24.5%と最も多く、次いで泌尿器科腫瘍症例と乳腺腫瘍症例がそれぞれ56件（それぞれ全症例の20.2%）と続く形となった。例年これら3分野が上位となる傾向は変わらないが、乳腺腫瘍が減少し、肺・縦隔と泌尿器科腫瘍の増加が目立つ結果となっている。症例のほとんどは他科からの紹介であるため、これらの内訳は各科の方針や状況等に依存する部分が多いが、放射線治療の適応を拡大するために、引き続き各科とより緊密に連携し変化し続ける様々な要求に応えていきたいと考えている。

コロナ禍では当院の放射線治療にも様々な影響があったが、中でも大きな変化としては、寡分割照射の積極的な導入が挙げられる。乳腺腫瘍では50Gy/25回、前立腺腫瘍では74-78Gy/37-39回（いずれも1回2Gy）という通常分割照射で前年まで施行していたが、コロナ禍拡大に伴い通院回数をできるだけ減らすべく、乳腺腫瘍では42.56Gy/16回、前立腺腫瘍では70Gy/28回や60Gy/20回といった寡分割照射を取り入れるように学会提言等でも推奨された。当院でもそれに従い、令和2年では乳腺腫瘍では7割以上、泌尿器科腫瘍では6割近くが寡分割照射に置き換わっており、緩和的放射線治療での症例も含めて積極的な寡分割照射の採用を進めている。

また令和2年4月の診療報酬改定に伴い、高精度放射線治療「体幹部定位放射線治療（SBRT）」の保険適用範囲が拡大され、直径5cm以下の転移性脊椎腫瘍が治療対象となった。症状緩和に主眼を置いた従来の一般的な放射線治療と異なり、定位放射線治療は高精度な照射技術を用いて脊髄の線量を抑制しながらも腫瘍には高線量を投与することで、長期の疼痛改善効果持続や高率な局所制御を可能にする治療方法である。当科としてはいち早くこれに対応し、3件の治療をすでに施行している。まだ新しい技術であるため、より洗練された治療ができるよう準備等も含めた改良を重ねていく予定である。

また従来からの転移性脳腫瘍への定位放射線治療件数も順調に増加傾向である。これは上記の肺・縦隔腫瘍症例数の増加と関連したものと思われるが、転移性脳腫瘍は多くの科にまたがる疾患であり、更に症例数を増やすべく、引き続き各科との連携を図りたい。

次年度目標としては、悪性疾患に対する高精度放射線治療について、各科とも緊密に連携し、個々の症例に臨機応変に対応することで適応を十分に広げ、『Vero4DRT』と『VitalBeam』の両装置を更に活用して、のべ件数300件を目指したいと考えている。

治  
革

概  
要

患者数  
経営状況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

### 3. 実績

#### 血管系 IVR

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
1) 肝腫瘍 TAE	15	20	14
2) 動注	0	0	0
3) 止血 TAE	9	3	1
4) PTA (stent)	0	0	0
5)BRTO	1	0	3
6) 動注リザーバー	1	0	0
7)AVS	3	8	4
8) その他	0	2	6
9) マッピング	0	0	0
計	29	33	28

#### 非血管系 IVR

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
PTCD(stent)	1	0	3
胆嚢ドレナージ術	7	2	10
膿瘍ドレナージ術	12	5	14
RFA(ラジオ波凝固)	5	0	0
PEIT	0	0	0
エコー下生検	16	10	19
CT 下生検	0	0	0
他	8	1	2
計	49	18	48

#### 超音波検査

部位 / 年(平成・令和)	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
腹部	13,300(22)	12,868(0 件)	11,010(7 件)
(放科施行)	13,268	12,833	10,997
ドック(腹部)	3,599	3,570	2,887
乳腺	2,959	3,226	3,061
ドック(乳腺)	508	658	585
頸部	3,641	3,934	3,738
その他	946	874	693

- ・腹部下段は放射線科(放射線技師のドック例も含む)施行数
- ・腹部の件数はドックも含む
- ・腹部の( )は造影件数
- ・ドックは診療放射線技師が施行
- ・頸部は放科医、その他は放科と他科医の合計
- ・乳腺は外科医が施行、件数にはドックを含む

## 放射線科部消化管造影検査

部位 / 年(平成・令和)	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
上 部 消 化 管	537 (436)	538(437)	636 (564)
小 腸	15 (0)	19(1)	13(0)
大 腸	9 (1)	6(0)	8 (0)

( ) : 放射線科担当件数

## 放射線治療（特殊治療）症例数内訳

治療法 / 年 (平成)	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
定位照射			
頭部	18	23	26
体幹部 (肺腫瘍)	9	0	3
(内、動体追尾照射)	(1)	(-)	(1)
体幹部 (肝腫瘍)	2	0	0
(内、動体追尾照射)	(1)	(-)	(-)
強度変調放射線治療 (IMRT・VMAT)			
総 数	39	64	61
脳	2	4	1
頭頸部	9	13	11
食道	5	7	7
肺	1	6	10
乳	-	4	0
肝・胆・膵	0	4	5
結腸・直腸	0	5	6
婦人科癌	5	5	2
前立腺	11	9	10
泌尿器癌 (前立腺以外)	4	2	2
血液疾患	1	4	7
皮膚	-	1	-
その他	1	-	-
全身照射 (TBI)	-	-	-

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

# 19. 麻 醉 科

## 1. スタッフ

第一部長	福岡 直	日本専門医機構／日本麻酔科学会 専門医 日本麻酔科学会 認定医 厚生労働省麻酔科標榜医
第二部長	白塚秀之	日本麻酔科学会 認定医 専門医 指導医 厚生労働省麻酔科標榜医 抗菌化学療法認定医 福井大学医学部臨床准教授 統括日本 DMAT 隊員 福井県災害医療コーディネーター 日赤災害医療コーディネーター
第三部長	田中弓子	日本麻酔科学会 認定医 専門医 指導医 がん治療認定医 厚生労働省麻酔科標榜医
副部長	小柳覚	厚生労働省麻酔科標榜医
医師	山岸一也	日本麻酔科学会 認定医 専門医 厚生労働省麻酔科標榜医
医師	藤岡沙織	日本麻酔科学会 認定医 専門医 厚生労働省麻酔科標榜医
医師	片岡 滯	日本麻酔科学会 認定医 厚生労働省麻酔科標榜医

長年福井赤十字病院麻酔科をご指導、牽引され、福井県における災害医療においてもご尽力いただいた田邊毅先生が令和3年3月31を以てご退任となりました。その他のスタッフに移動はなく、現状麻酔科7人体制となります。手術麻酔症例に対しては昨年同様福井大学から週3回の派遣に加え金沢医科大学より週1回の医師派遣をしていただくこととなりました。また、集中治療では本院救急部より中西泰造先生のご協力を仰いでおります。新たに麻酔科第一部長に福岡直、第二部長、集中治療室室長に白塚秀之、第三部長には田中弓子が着任いたしました。

## 2. 診 療

手術、麻酔部門)

令和2年度の麻酔科依頼件数は2262件（全身麻酔2241件）でした。ロボット補助下手術の増加、また各科でも低侵襲手術が昨今のトレンドとなり、麻酔管理においても麻酔科医の知識のバージョンアップはもとよりモニター機器の充実が不可欠となっています。基幹病院の機能を果たすためにそれらの拡充に努めるとともに安心、安全、そして信頼される麻酔管理を目指し引き続き周術期管理チーム、手術室スタッフとの協力体制の充実を図っていきたいと考えております。

集中治療部門)

昨年より始まった COVID-19 のパンデミック。世界的にワクチンの接種が進むも未だ収束の目処が立たない中、集中治療室では令和 2 年 3 月末に初の重症患者を受け入れ、令和 3 年 6 月末までに、COVID-19 患者の受け入れ人数の総数は 15 名、33～80 歳、平均年齢 60.9 歳、男性 12 名、女性 3 名。人工呼吸器装着 13 名、ECM 装着 2 名、気管切開症例 3 名、在室期間は 5～48 日、平均 17.8 日でした。ご周知のように COVID-19 の重症呼吸不全患者に対する管理には厳格な感染対策を行う上でも多くのマンパワーが必要とされています。診療体制の構築（設備も含め）に際して院内各部署のスタッフの御協力に感謝申し上げます。当院では令和 2 年 7 月より RRS(Rapid response system) が導入されました、院内重症、急変患者の情報共有がよりスムーズに行えるよう、看護師育成プログラムの構築と見直しを行ってまいります。各科においても情報共有におけるご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

#### ペインクリニック（緩和外来部門）

麻酔科ペインクリニック / 緩和外来として毎週水曜日に外来を開設しております。院内、外からの紹介を中心に、帯状疱疹関連痛、三叉神経痛、CRPS、脊椎術後症候群（FBSS）、中枢痛等に対して薬物、ブロック療法を中心に治療を行っています。術後遷延疼痛、化学療法後後神経障害性疼痛などは十分な治療が行われず潜在的な患者数は多い印象を持っております、また線維筋痛症など統計学的に患者数は多いものの周知されることなく診断、治療に至らない患者も多く存在すると思われまます。これらお気づきのことがあれば一度ご相談ください。よろしくお願いいたします。

### 3. 目 標

- ① 基幹病院として麻酔科医の知識と設備の充実をはかる。（できればマンパワーも）
- ② 引き続き COVID-19 患者の受け入れ体制の構築をおこなう。
- ③ ①、②に必要な不可欠なスタッフ、部門との連携強化と十分なコミュニケーション（を計れる方法を検討する）

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

## 20. リハビリテーション科

### 1. スタッフ

第1リハビリテーション科部長 浅野 太洋 第2リハビリテーション科部長 高嶋 理  
 リハビリテーション科技師長 矢部 信明  
 理学療法課長 豊田 泰美 第1理学療法係長 山岸 耕二 第2理学療法係長 梅田 美和  
 作業療法課長 仲辻 良仁 第1作業療法係長 山田 英二 第2作業療法係長 浜田 友紀  
 言語聴覚療法係長 岩佐 茂美

他、理学療法士15名、作業療法士10名、言語聴覚士4名、助手1名、事務0.5名

### 2. 診療

- ・疾患別リハビリテーション（以下リハ）である運動器、脳血管、呼吸、心大血管、がん、廃用症候群のすべての施設基準（I）を満たし、摂食機能療法に対応している。
- ・術後や超急性期の患者については継続性を持たせるために休日リハを実施している。SCUにおいては救急入院時よりリハが介入し、365日リハを実施している。
- ・ICUにおける早期離床・リハチームに、理学療法士1名、作業療法士1名を専任として配置している。

### 3. 実績

#### 1) 稼動実績

表1 リハビリ科実施単位数（PCU含む）およびスタッフ1日一人当たり単位数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
理学療法	73,397	69,341	64,219
* スタッフ一人当たりの単位数	17.3	17.5	16.0
作業療法	45,636	42,514	41,076
* スタッフ一人当たりの単位数	16.9	17.0	17.4
言語聴覚療法	17,653	15,776	14,888
* スタッフ一人当たりの単位数	14.9	14.1	12.7

表2 リハビリ科実施単位数（PCU含む）および1件当たりの実施単位数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
総単位数	136,686	127,631	120,183
延べ件数	82,544	77,745	72,542
1件当たり平均単位数	1.66	1.64	1.65

表3 診療科別リハビリ実施単位数 (PCU 含む)

診療科	単位数	診療科	単位数	診療科	単位数
整形外科	28,596	消化器科	5,956	産婦人科	388
脳神経外科	18,153	腎泌尿器科	5,253	形成外科	227
神経内科	16,146	総合診療科	3,123	歯科	45
内科	10,034	呼吸器外科	2,143	眼科	40
循環器科	9,661	皮膚科	1,138		
外科	8,880	小児科	936		
呼吸器科	8,723	耳鼻咽喉科	741	合計	120,183

2) 費用をかけずに収益改善する取り組み

表4 退院時リハビリテーション指導料 (300点)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
指導料算定額合計 (円)	4,545,000	5,472,000	5,811,000
延べ件数 (件)	1,515	1,824	1,937
算定取得率 (%)	68.8	77.8	85.8

表5 リハビリテーション総合計画評価料 (300点)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
評価料算定額合計 (円)	3,189,000	5,715,000	7,047,000
延べ件数 (件)	1,063	1,905	2,349
算定取得率 (%)	25.0	49.8	60.5

表6 専門分野資格者数

専門分野別資格	平成30年度	令和元年度	令和2年度
心臓リハビリテーション指導士	11名 (+2)	11名	11名
呼吸療法認定士	12名 (+3)	13名 (+1)	13名
骨粗鬆症マネージャー	5名 (+2)	6名 (+1)	6名
糖尿病療養指導士	3名	3名	3名
NST 専門療法士	2名	2名	2名
日本摂食嚥下リハ学会認定士	1名	2名 (+1)	2名
腎臓リハビリテーション指導士		1名	1名
排泄機能指導士		1名	1名
認知症ケア専門士	1名	1名	2名 (+1)
職種別資格	2018.4	2019.4	2020.4
専門理学療法士 (基礎)	1名	1名	1名
認定理学療法士 (脳卒中)	2名	2名	2名
認定理学療法士 (呼吸)	1名	1名	1名
認定理学療法士 (運動器)	2名	4名 (+2)	4名
認定作業療法士	3名	4名 (+1)	4名
認定言語聴覚士	1名	1名	1名

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

がんのリハビリテーション研修修了者：

医師 6 名、看護師 6 名、理学療法士 11 名、作業療法士 8 名、言語聴覚士 3 名

### 3) その他

[医療チーム]

・NST ・RST ・CST ・認知症ケア ・褥瘡対策検討委員会

[健康教室]

・糖尿病教室（月 2 回 / 内科） 6、7 月のみ開催

・心臓病教室（月 1 回 / 循環器科） 中止

・人工股関節教室（年 1 回 / 整形外科） 中止

[学生研修の受け入れ]

・臨床実習受け入れ

理学療法 : 若狭医療福祉専門学校 7/13-9/11

作業療法 : 金城大学 6/8-8/1 予定していたが中止

\*令和 2 年度は COVID-19 の影響により、研修会、資格試験の中止、または延期、各健康教室の中止、学生臨床実習の一部中止等、活動は大きく制限された。

## 4. 目 標

- 1) リハビリテーション科人材育成キャリアラダー評価会を実施する。
- 2) 専門領域資格、職種別認定資格取得を奨励しスキルを向上させる。がんリハの研修修了者を増やす。
- 3) 各医療チームへ積極的に参加する。COVID-19 の感染拡大状況をみながら、人工股関節教室の再開、健康教室の講師を行う。
- 4) 臨床実習の受け入れを行う。

沿  
革

概  
要

患  
者  
数  
経  
営  
状  
況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ッ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

# 21. 歯科・歯科口腔外科

## 1. スタッフ

部長	山田 和人	日本口腔外科学会専門医、同指導医 日本歯科麻酔学会認定医 日本口腔科学会認定医、指導医 歯科医師臨床研修指導医
後期研修歯科医師	松永 良健	平成 29 年 4 月 1 日赴任、令和 3 年 3 月 31 日退職
	山本 瞳	令和 2 年 4 月 1 日赴任
	大嶋 莉加	令和 3 年 4 月 1 日赴任
非常勤歯科医師	入江 道文	

今年度は平成 29 年度 4 月より赴任された松永 良健先生が退職され、令和 3 年 4 月より大嶋莉加先生が赴任、歯科医師 3 名、前期研修歯科医師 1 名、歯科衛生士 3 名（正規職員 3 名）、歯科技工士 1 名の診療体制です。

## 2. 診療

### 1) 外来診療

外来患者数は延べ 12027 人で、そのうち新患 2439 人、紹介患者 1202 人です。昨年の外来患者数は延べ 14064 人で、そのうち新患 2724 人、紹介患者 1278 人でしたので、これに比較して、外来患者数で 2037 人減、新患で 285 人減、紹介患者は 76 人減となりました。また紹介率では昨年 48.5%が 50.9%と 2.4%増加しております。

### 2) 入院

入院患者数は 193 人で、昨年の 218 人に比較して、25 人減少しております。

昨年はコロナ禍のため、手術制限があり、4 月から 6 月の入院患者、外来患者とも大幅に減少しました。

## 3. 実績

別表＜入院手術統計＞のとおり

## 4. 目標

新年度の目標は、歯科医師の確保と口腔機能低下症への取り組みです。

一昨年の当院単独型の初期臨床歯科医師研修施設を申請が受理され、昨年、単独型の初期研修歯科医師が赴任されました。今年度は赴任される方が国家試験を合格できず、単独型の初期研修歯科医師を確保できませんでした。次年度こそ初期研修歯科医師を確保できるようにしたいと考えます

また口腔機能低下症に対しても施設基準が取れ次第、組んでいこうと考えております。

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

<入院手術統計>

		平成30年	令和元年	令和2年
形態異常	顎変形症	0	0	0
	小帯異常	0	1	0
	歯肉増殖症	0	0	0
	歯槽骨不正	1	1	0
外傷	裂傷	0	0	0
	上下顎骨骨折	0	0	0
	下顎骨骨折	2	0	0
	上顎骨骨折	0	0	0
	頬骨骨折	0	0	0
	術後プレート除去	1	1	0
炎症	下顎周囲膿瘍	0	0	0
	顎下膿瘍	0	0	0
	眼窩下膿瘍	0	0	0
	頬部膿瘍	4	0	6
	オトガイ下膿瘍	0	0	0
	翼突下顎膿瘍	0	0	0
	ろう孔形成	0	0	0
	歯性上顎洞炎	0	0	0
	唾石症	0	1	0
	骨髄炎	0	4	3
	抜歯後感染	0	0	0
	歯周炎	0	0	0
	唾液腺炎	0	0	0
	顎放線菌症	0	0	0
	その他	0	2	0
嚢胞	歯根嚢胞	13	7	3
	切歯管嚢胞	17	0	3
	含歯性嚢胞	0	7	9
	術後性上顎嚢胞	0	0	0
	ガマ腫	0	0	0
	その他	1	0	2
腫瘍	良性腫瘍	2	0	2
	悪性腫瘍	3	4	5
顎関節	顎関節症	0	0	0
抜歯	埋伏智歯抜歯	113	144	113
	歯科集中治療	2	1	0
その他	口腔内出血	1	0	0
計		160	173	146

## 22. 総合診療科

### 1. スタッフ

消化器内科 第2部長 道上 学	日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医、指導医 日本内科学会総合内科専門医 日本消化器内視鏡学会専門医、指導医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医
呼吸器内科 第2部長 出村 芳樹	日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医、指導医 日本呼吸器学会専門医・指導医 日本内科学会認定医、総合内科専門医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、指導医 日本消化器病学会専門医 日本アレルギー学会専門医、指導医 日本臨床腫瘍学会暫定指導医
内科 副部長 安富 久記	日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医 日本内科学会総合内科専門医

### 2. 診療

平成28年4月から振り分け内科外来を総合診療科として診療を開始し、平成29年4月からは毎週水曜日および内科、呼吸器内科担当日の一部を総合診療科医師が担当することになった。また、平成29年5月より入院5床での入院加療も開始している。ただし、入院主治医は外来で診療した内科系医師および総合診療科医師であり、すべてが総合診療科医師ではないのが現状。また、令和2年度は新型コロナウイルス感染の拡大により、発熱スクリーニングを設置・開始し、総合診療科扱いとして入院加療（ただし、主治医は病院から指定された医師）を行った。

### 3. 実績

学会参加のみ

### 4. 目標

日本専門医機構による新専門医制度でのプログラムでは基幹病院として認可されたが専攻医の応募はなし。現状では施設認定基準を満たす診療や指導はできておらず。令和3年度からは体制を刷新し、診療や指導の充実を目指していく予定。ただ、選任医師の着任は依然として重要課題である。

# 23. 救 急 部

## 1. スタッフ

救急部第1部長	嶋田 喜充
救急部第2部長（循環器科部長）	坪川 明義
救急部副部長（外科部長）	川上 義行
医師	中西 泰造
医師	成山 美々
集中治療室看護師長	高島 恵
集中治療室看護係長（救急担当）	朝田 和枝（救急看護認定看護師）

## 2. 診 療

### <救急部の活動>

- 1 救急部作業部会の定期開催（毎月）（場所：集中治療室カンファレンス室）
- 2 救急医療検討委員会（年2回開催）

第1回 令和2年11月11日（月）17：00～18：00

- 議題
- 1) 福井県のドクターヘリの現状についての説明
  - 2) 当院の立場について
  - 3) 質疑応答

第2回 令和3年2月1日（月）16：00～17：00

- 議題
- 1) 令和2年度（令和2年4～12月）救急関連統計
  - 2) 救急車応需率
  - 3) 令和2年度救急外来受け入れ不可症例数
  - 4) 救急対応ルールブック改訂について
  - 5) ドクターヘリの受け入れフローチャート

- 3 院内における講習会

- 1) ACLS協会によるBLS、ACLSコース開催

（対象：院内医師及びコメディカル、募集定員約6名）

BLS 第1回 令和2年10月31日（土）6名参加

BLS 第2回 令和2年11月 1日（日）6名参加

ACLS 第1回 令和2年12月 5日（土）・6日（日）5名参加

- 2) 日本救急医学会によるICLSコース開催

（対象：院内医師及びコメディカル、募集定員約12名）

ICLS 第1回 令和2年12月12日（土）12名参加

- 4 院外における会議

- 1) 令和2年度ドクターヘリ事業従事者Web研修（基礎コース）

令和3年2月14日（日） 1名参加

- 2) 令和2年度日本赤十字社救急医療担当者Web会議

令和3年3月22日（月） 2名参加

### 3. 実績

表 1 救急外来来院患者総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	1,326	1,450	1,370	1,636	1,523	1,368	1,288	1,312	1,614	2,076	1,280	1,286	17,529
令和元年度	1,414	1,579	1,462	1,517	1,624	1,317	1,300	1,375	1,672	1,796	1,291	1,157	17,504
令和2年度	541	975	945	1,138	1,284	1,095	1,093	1,103	1,001	1,050	902	1,036	12,163

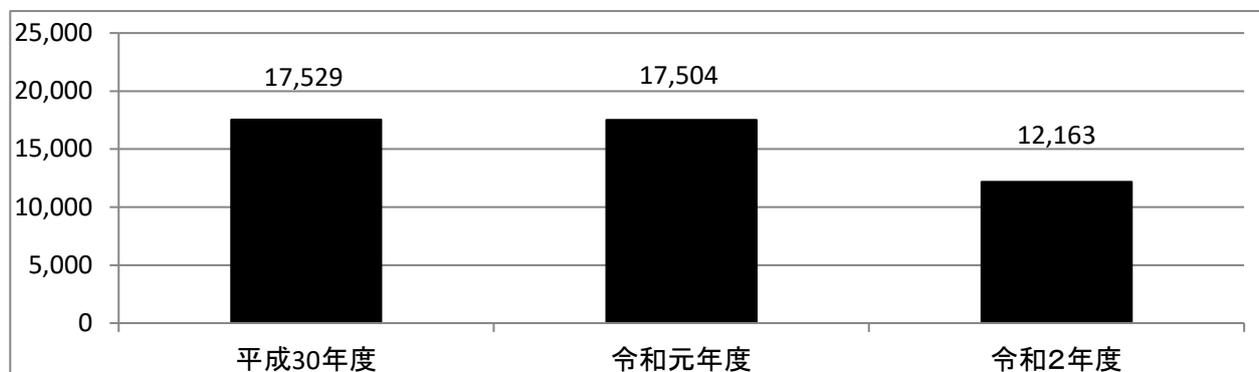


図1. 救急外来来院患者総数（年度別）

表 2 救急車における来院患者総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	233	235	226	287	289	242	245	225	275	292	231	252	3,032
令和元年度	254	277	263	259	301	238	258	249	320	267	247	254	3,187
令和2年度	122	208	218	249	275	212	249	261	262	349	232	285	2,922

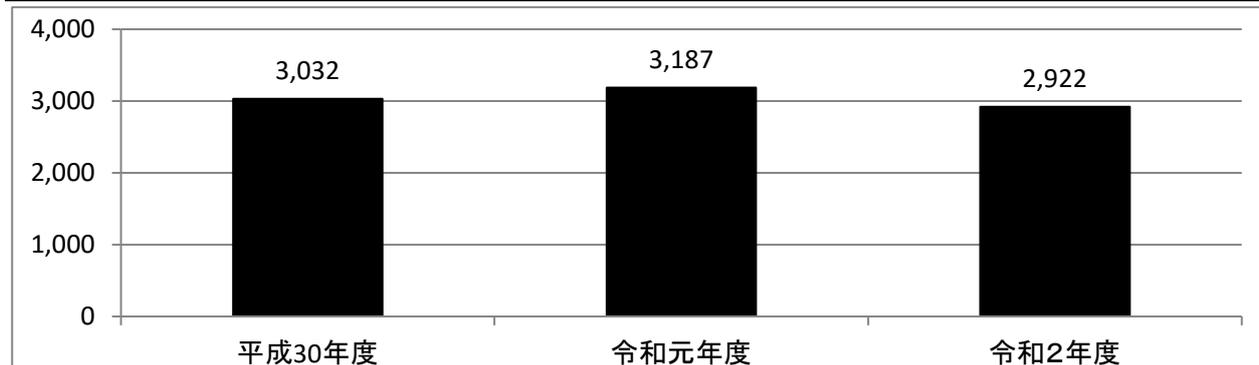


図2. 救急車で救急外来来院患者数（年度別）

表 3 救急外来から入院した患者総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	284	296	306	351	330	298	311	286	310	329	266	271	3,638
令和元年度	314	327	323	326	323	293	302	303	327	352	280	251	3,721
令和2年度	139	247	235	265	263	231	275	300	259	334	257	292	3,097

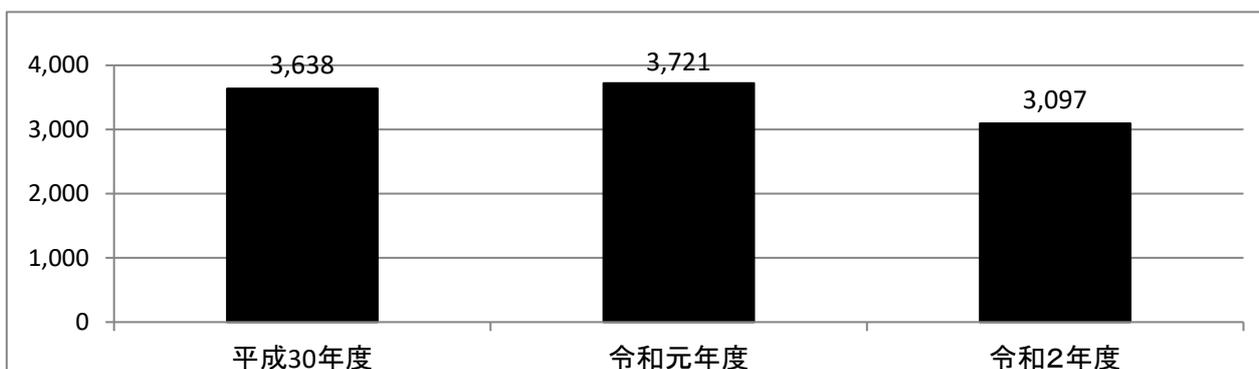


図3. 救急外来から入院した患者総数（年度別）

【 救急外来来院患者特性（年齢別） 】

年齢階級	0歳	1歳～4歳	5歳～14歳	15歳～24歳	25歳～34歳	35歳～44歳	45歳～54歳	55歳～64歳	65歳～74歳	75歳以上	総計
平成30年度	407	1,123	983	1,439	1,890	1,667	1,464	1,421	2,378	4,757	17,529
令和元年度	385	1,226	1,069	1,351	1,726	1,620	1,602	1,508	2,390	4,627	17,504
令和2年度	217	641	590	776	957	945	1,096	1,120	1,905	3,916	12,163

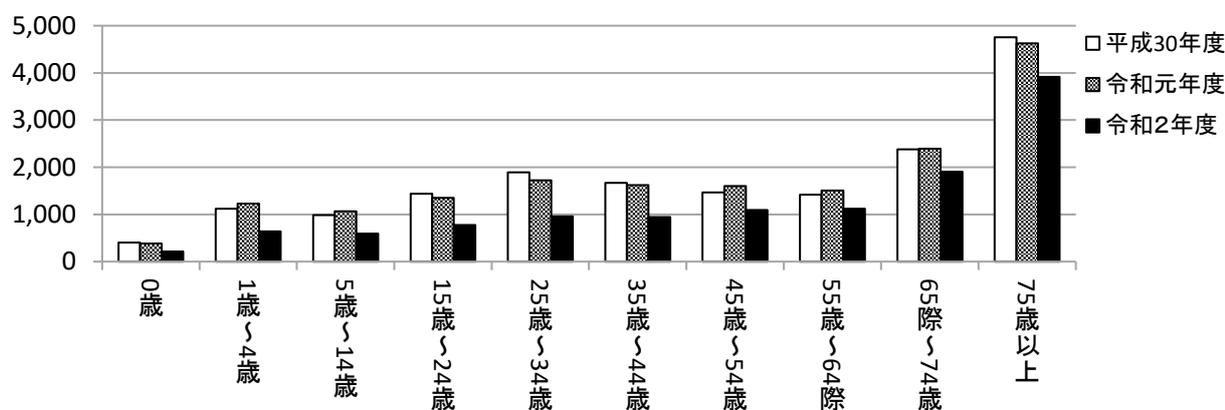


図4. 救急外来来院患者数（年齢別）

年齢階級	0歳	1歳～4歳	5歳～14歳	15歳～24歳	25歳～34歳	35歳～44歳	45歳～54歳	55歳～64歳	65歳～74歳	75歳以上	総計
平成30年度	25	66	66	148	132	141	173	208	522	1,551	3,032
令和元年度	20	94	74	137	142	146	215	282	506	1,571	3,187
令和2年度	15	42	45	114	100	112	202	267	500	1,525	2,922

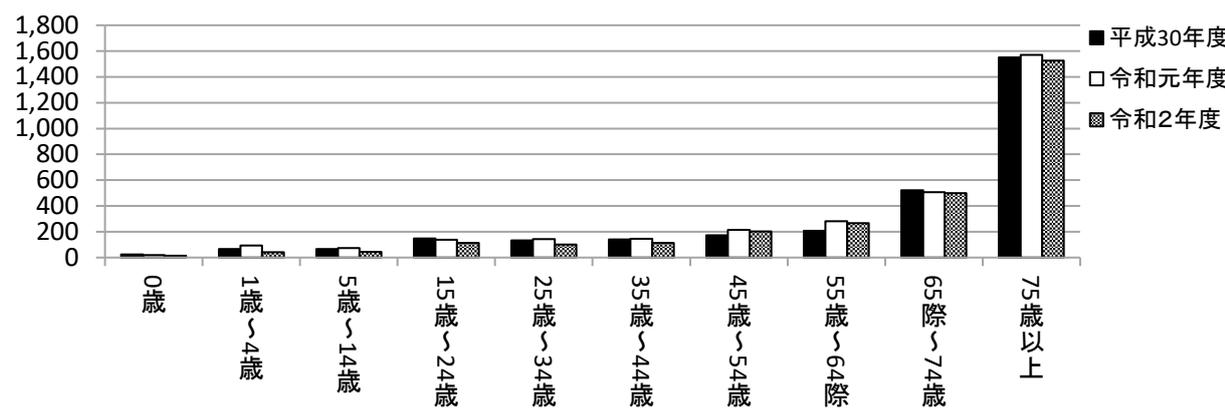


図5. 救急車での救急外来来院患者数（年齢別）

年齢階級	0歳	1歳～4歳	5歳～14歳	15歳～24歳	25歳～34歳	35歳～44歳	45歳～54歳	55歳～64歳	65歳～74歳	75歳以上	総計
平成30年度	152	157	110	113	219	162	152	249	598	1,726	3,638
令和元年度	108	216	128	102	204	176	200	275	582	1,730	3,721
令和2年度	89	78	76	79	167	132	184	249	519	1,524	3,097

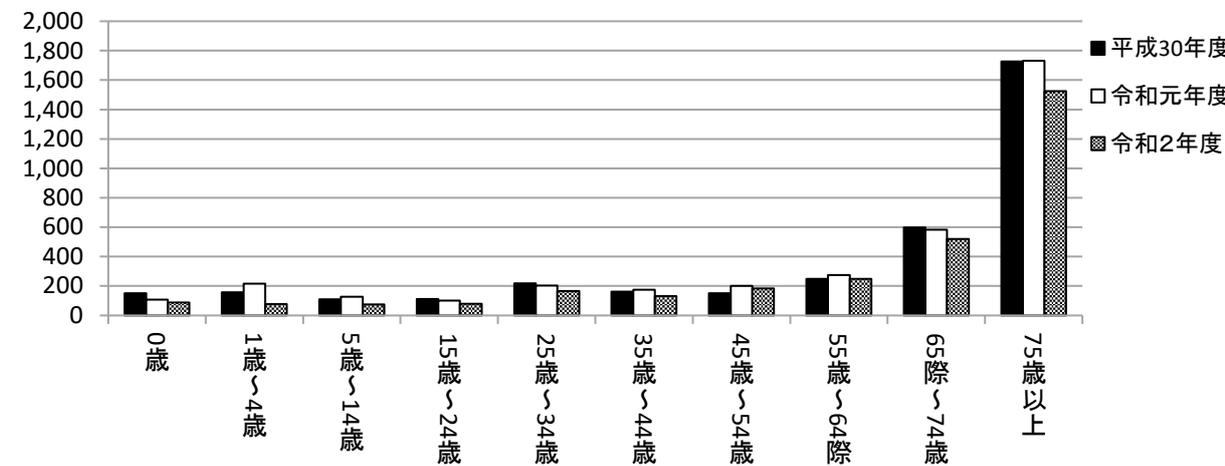


図6. 救急外来から入院した患者数（年齢別）

【 救急外来来院患者特性（最終診療科別） 】

救急患者数	内科	消化器内科	呼吸器内科	小児科	外科	整形外科	脳外科	皮膚科	泌尿器科	循環器内科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	呼吸器外科	神経内科	歯科	形成外科	麻酔科	形成外科	麻酔科	総合診療科	総数
平成30年度	2416	2208	822	1547	653	2227	1266	928	843	743	492	478	1076	13	147	717	237	467	3	246	17,529		
令和元年度	1822	1934	742	1679	604	2278	1340	1020	861	740	498	516	1116	1	182	765	223	553	4	626	17,504		
令和2年度	603	1426	409	753	502	1732	1165	715	735	676	393	382	728	8	106	647	161	406	2	594	12,163		

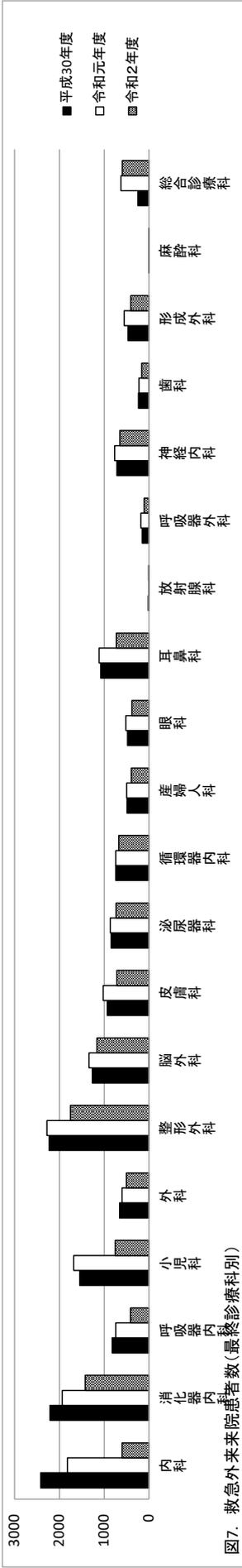


図7. 救急外来来院患者数（最終診療科別）

救急車搬送患者数	内科	消化器内科	呼吸器内科	小児科	外科	整形外科	脳外科	皮膚科	泌尿器科	循環器内科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	呼吸器外科	神経内科	歯科	形成外科	麻酔科	形成外科	麻酔科	総合診療科	総数
平成30年度	303	385	143	113	130	509	544	459	40	144	268	39	5	123	0	45	8	50	0	45	3,032		
令和元年度	252	346	134	132	137	544	510	54	54	138	281	37	11	132	0	55	6	50	0	105	3,187		
令和2年度	155	332	114	74	101	515	481	53	53	150	275	41	8	104	0	40	3	50	0	156	2,922		

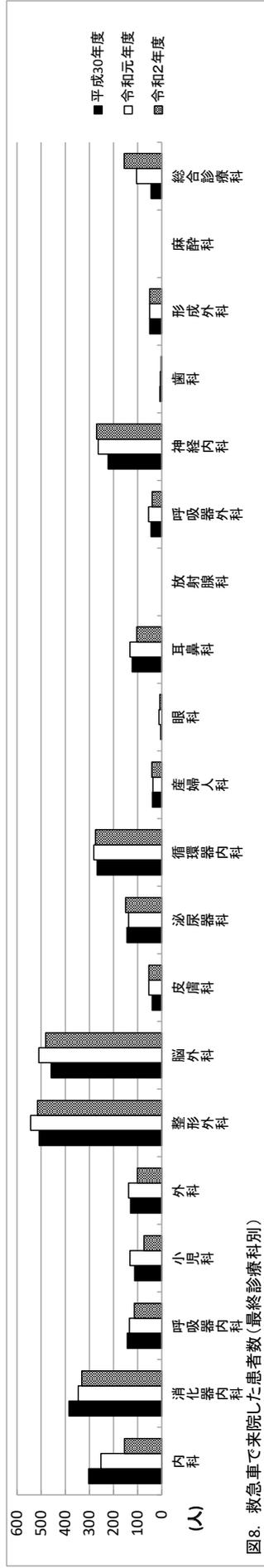


図8. 救急車で来院した患者数（最終診療科別）

入院患者数	内科	消化器内科	呼吸器内科	小児科	外科	整形外科	脳外科	皮膚科	泌尿器科	循環器内科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	呼吸器外科	神経内科	歯科	形成外科	麻酔科	形成外科	麻酔科	総合診療科	総数
平成30年度	138	501	245	394	297	331	419	67	234	301	254	12	107	0	65	196	5	14	0	58	3,638		
令和元年度	162	498	232	431	292	337	452	85	197	294	248	11	85	0	88	240	3	17	0	49	3,721		
令和2年度	153	436	151	220	254	309	438	74	197	229	200	13	61	0	43	245	5	3	0	66	3,097		

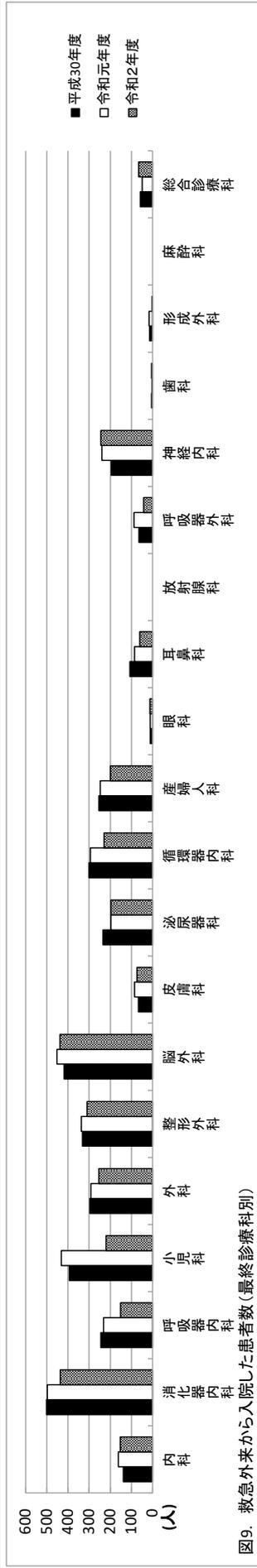


図9. 救急外来から入院した患者数（最終診療科別）

## 24. 健 診 部

### 1. スタッフ

沿革概要	<p>部長 西川 邦寿</p> <p>日本内科学会認定医、指導医 日本肝臓学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医、指導医 日本消化器病学会専門医、指導医 日本大腸肛門病学会専門医、指導医 日本人間ドック学会認定医、専門医、指導医 人間ドック健診情報管理指導士 日本消化器がん検診学会総合認定医 日本医師会認定健康スポーツ医 日本医師会認定産業医 P E G・在宅医療研究会 専門胃瘻造設者 日本ヘリコバクター学会 H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医 日本消化管学会専門医</p>
患者数・経営状況	
委員会	
トピックス	<p>副部長 吉田 誠</p> <p>日本外科学会専門医 日本乳癌学会認定医、乳腺専門医 検診マンモグラフィ読影医師</p>
診療業務	<p>嘱託医師 濱中 大三郎</p> <p>日本超音波医学会専門医 日本核医学会専門医 日本核医学学会 P E T核医学認定医 日本医師会認定産業医 日本医師会認定健康スポーツ医 日本人間ドック学会認定医、専門医 人間ドック健診情報管理指導士 日本人間ドック学会健診指導医 肺がん C T 検診認定医師 放射線診断専門医 日本医学放射線学会研修指導者 日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医、指導医</p>
医療社会事業部	
看護部	
事務部	<p>健診業務課長 大塚 治</p> <p>健診業務係長 中山 美穂</p> <p>看護師長 中野 敦子</p> <p>看護師 2名</p>
業績	<p>派遣・嘱託看護師 2名 (午前のみ)</p> <p>主 事 3名</p> <p>派遣・委託事務員 6名 (午前のみ2名)</p>

## 2. 実績

当院の中期ビジョン「地域に寄り添う良質な医療を提供する病院になる」に基づき、令和2年度の健診部の目標を令和元年度に引き続き「安全と質の向上を図り、優しい健診の提供と健全経営の寄与を実践する」とし、目標達成に向け、具体的で効果的なアクションプランを設定した。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い令和2年4月14日に福井県緊急事態宣言が発令されたため、当院も4月20日から5月22日の期間、健康診断と人間ドックを中止した。

その後5月25日から一部検査（胃内視鏡、肺機能検査、喉頭がん検査）以外の業務を再開、7月13日からは肺機能検査と特定健康診査を以外の業務を再開したが、検診者数は昨年度実績と比較し大きく減少した。

業務実績としては、別表「人間ドック・健康診断受診者数」、「特定健康診査および特定保健指導実施者数」、「主な検査実施数」、「人間ドックの検査別がん発見数」のとおりである。

## 3. 目標

「安全と質の向上を図り、優しい健診の提供と健全経営の寄与を実践する」を引き続き令和3年度の目標に掲げ、早期発見のためのがん検査推奨・二次検査の受診勧奨、健診当日の保健指導実施など、安全と質の向上や健全経営に向けた取り組みを実践する。

人間ドック・健康診断受診者数

種 別		性別	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度増減
人間ドック	一日ドック	男	1,288	1,241	1,034	△207
		女	858	893	685	△208
		計	2,146	2,134	1,719	△415
	福井市 国保ドック	男	187	112	61	△51
		女	170	97	52	△45
		計	357	209	113	△96
	協会けんぽ	男	2,460	2,483	2,124	△359
		女	1,511	1,581	1,379	△202
		計	3,971	4,064	3,503	△561
	生活習慣病	男	296	312	322	10
		女	518	542	552	10
		計	814	854	874	20
	船員ドック	男	32	31	31	0
		女	5	8	5	△3
		計	37	39	36	△3
	脳ドック (単独)	男	38	50	25	△25
		女	58	44	33	△11
		計	96	94	58	△36
	その他	男	14	10	7	△3
		女	257	259	187	△72
計		271	269	194	△75	
総 計			7,692	7,663	6,497	△1166
健康診断			3,796	3,626		△3626

特定健康診査および特定保健指導実施者数

種 別		性別	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度増減
特定健康診査	ドック併用	男	3,795	3,735	3,231	△ 504
		女	2,700	2,821	2,422	△ 399
		計	6,495	6,556	5,653	△ 903
	単 独	男	8	3	0	△ 3
		女	85	71	0	△ 71
		計	93	74	0	△ 74
総 計			6,588	6,630	5,653	△ 977
特定保健 指導者数 (初回)	動機付け支援	男	2	1	6	5
		女	1	7	5	△ 2
		計	3	8	11	3
	積極的支援	男	4	8	5	△ 3
		女	0	0	0	0
		計	4	8	5	△ 3
総 計			7	16	16	0

主な検査実施数

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		前年度増減	
胃内視鏡	6,260		6,119		4,642		△ 1,477	
胃透視	351		358		496		138	
脳ドック	525	(429)	482	(388)	362	(304)	△ 120	(△ 84)
腹部超音波	3,599	(859)	3,570	(895)	2,887	(750)	△ 683	(△ 145)
子宮がん	1,974	(1,089)	1,951	(1,044)	1,675	(858)	△ 276	(△ 186)
マンモグラフィ	1,812	(1,071)	1,815	(1,012)	1,568	(897)	△ 247	(△ 115)
乳房超音波	506	(484)	658	(622)	585	(552)	△ 73	(△ 70)
肺機能	2,858	(77)	2,814	(92)	10	(10)	△ 2,804	(△ 82)
眼底	3,740	(474)	3,674	(429)	3,149	(392)	△ 525	(△ 37)
P E T	52	(28)	44	(29)	23	(12)	△ 21	(△ 17)
卵巣検診(＊)	888		911		812		△ 99	
肺ドック(＊)	194		170		148		△ 22	
喉頭がん(＊)	145		150		92		△ 58	
前立腺がん(＊)	1,096		1,189		1,117		△ 72	
骨塩定量(＊)	181		156		130		△ 26	
HPV(＊)	54		53		44		△ 9	
FDT視野(＊)	102		100		83		△ 17	
ピロリ菌(＊)	289		192		127		△ 65	
胃がんリスク(＊)	104		84		62		△ 22	
血管ドック(＊)	406		324		239		△ 85	
甲状腺(＊)	177		165		141		△ 24	

＊印の項目および＊印以外の( )内の数値は、オプション検査として実施した件数

人間ドックの検査別がん発見数

全コース（生活習慣病予防健診を含む）

検査名	病名	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
診察	甲状腺がん			2
	胆嚢がん		1	
血液検査	前立腺がん	6	8	7
	肺がん		1	1
	大腸がん		1	1
	多発性骨髄腫		1	
	骨髄増殖性腫瘍		1	
	白血病	1		
	膵臓がん			1
尿検査	膀胱がん	2	2	2
便検査	大腸がん	11	5	8
	悪性リンパ腫		1	
胸部レントゲン	肺がん		3	4
	悪性リンパ腫	1		
	骨腫瘍	1		
胃内視鏡	胃がん	12	10	9
	悪性リンパ腫	2	3	1
	食道がん	3	2	2
	十二指腸がん	1		
	声帯がん		1	
胃透視	胃がん		1	
腹部超音波	膀胱がん	3	1	1
	腎臓がん	1	1	1
	肝臓がん		1	1
	胆嚢がん		1	
	胆管がん			1
	膵臓がん			
	悪性リンパ腫			1
乳がん検診	乳がん	1	3	7
子宮がん検診	子宮頸がん	5	2	6
	子宮体がん		1	
	卵巣がん	3		
脳ドック	髄膜腫	2		1
	甲状腺がん			1
	海綿状血管腫			1
肺ドック	肺がん	2		3
喉頭がん検診	咽頭がん	1		
	声門がん			1
計		58	51	63

(※) 今回の直近データはデータの精度向上を目的に令和元年(1月から12月)とする

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

# 25. 病理診断科

## 1. スタッフ

部長	大越 忠和（病理診断科副部長 兼 病理検査課長 兼 病理検査係長） 日本病理学会病理専門医、病理専門医研修指導医 日本臨床細胞学会細胞診専門医、教育研修指導医 厚生労働大臣認定死体解剖資格
臨床検査技師	藤田 幸宏、國兼 結麻 細胞検査士 清水 優仁（令和2年12月8日～） 細胞検査士 鎌田 公美子（～令和3年3月31日） 細胞検査士 飯田 穂乃花（～令和3年1月31日） 細胞検査士 臨床検査技師(パート) 黒川 友夏（～令和3年3月31日） 細胞検査士

## 2. 診療

組織診断：常勤医師1名と非常勤医師13名（福井大学）により診断業務を行っている。

高品質な標本の作製及び免疫染色や特殊染色の適切な併用により、正確かつ迅速な診断が可能である。

細胞診断：ほぼ全例において細胞検査士と細胞診専門医によるダブルチェックを実施することにより、精度の高い診断が可能である。

病理解剖：死体解剖資格保有者による適法な病理解剖を実施している。

## 3. 実績

組織診断	5,694 件
術中迅速	180 件
借用標本	61 件
細胞診断	6,440 件
術中迅速	72 件
病理解剖	8 件

### 臨床病理検討会

令和2年度は下記の臨床病理検討会（CPC）を実施した。

令和2年10月28日（水）剖検例 A20-001 慢性腎不全、虚血性心疾患の疑い 腎臓・泌尿器科

## 4. 目標

- ・院内実施可能な免疫染色および特殊染色の項目を拡充する。
- ・若手技師の育成に努める。
- ・院内外の研修会等へ積極的に参加する。

## 26. 脳神経センター

### 1. スタッフ

#### <脳神経外科>

センター長	西村 真樹	(令和2年7月1日着任)
	早瀬 睦	
	佐野 徳隆	
	取越 貞治	
	北原 孝宏	(令和2年4月1日着任)
	中島 悠介	(令和2年4月1日着任)
	山下 智之	(令和3年1月1日着任)
	戸田 弘紀	(令和2年6月30日異動)
	元家 亮太	(令和2年4月1日着任 12月31日異動)

#### <神経内科>

	高野 誠一郎	
	今村 久司	
	早瀬 史子	
	高木 あかり	(令和3年3月31日退職)
	吉沖 舞衣	

### 2. 診療

脳神経センターは脳神経外科と神経内科で構成されています。医師、看護師、リハビリのスタッフ、MSW との多職種で月曜から金曜まで毎日、脳卒中で入院した患者さんのカンファレンスを行っています。その上で急性期治療の方針、長期的な方針を決めています。

また、脳神経外科の医師、または神経内科の医師が毎日当直し、脳卒中患者さんの治療をより早く開始できるように努めています。日中も、脳卒中センターの医師が、神経系疾患の救急治療を担当しています。その結果、福井県随一の脳卒中診療施設として、歩み続けています。

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

# 27. がん診療センター

## 1. スタッフ

がん診療センター長 : 藤井 秀則 (1月31日退職)

今村 信 (2月1日付)

がん診療センター副センター長 : 田中 文恵 (2月1日付)

事務局 : 地域医療連携課 (がん診療センター)、医療情報課 (がん登録)

## 2. 業務

相談支援部門 : がん相談員の看護師、社会福祉士、公認心理師らが協力し、がん患者の不安や悩みに対する傾聴、助言、情報提供などの適切な支援を行う。がん相談窓口での面談および電話相談、病状説明時におけるがん領域の専門・認定看護師の同席、がんケアニーズ評価の面談の他、ハローワークや産業保健支援センターとも連携し、就職支援にも対応している。在宅療養を希望する終末期のがん患者には、入院安心カード「グリーンカード」の発行を行う。またがん患者会「スマイル会」事務局として、世話人との連携や患者会開催準備、広報を担当する。

患者対象の集合イベントは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

化学療法部門 : がん化学療法に携わる専任医師、認定看護師、認定薬剤師を中心として、安全で能率的な化学療法の実施を推進する。外来化学療法室における治療管理、患者支援、ベッド管理等を行う。がん化学療法部会では、レジメンの妥当性、マニュアルの整備、外来化学療法室の運用、入院化学療法に関する様々な事項を審議する。

緩和ケア部門 : 緩和ケアに関するスクリーニング (がんケアニーズ評価) に基づき、専門的な緩和ケアニーズを有する患者に対し、緩和ケア実施計画書を作成し緩和ケアチームが介入する。

緩和ケアを提供する場のひとつである緩和ケア病棟を緩和ケアチームが後方支援する。

緩和ケア外来を開設し、外来通院患者が安心して在宅療養ができるよう支援する。緩和ケアチームは緩和医療検討部会と協働し院内の緩和医療に関する検討やマニュアルの整備などを行う。

放射線治療部門 : 放射線治療の専従医師、専従看護師、専従技師を中心として、安全で確実な放射線治療を実施する。症例に応じた治療計画、治療管理、経過観察と患者指導を行い、定期的な機器の精度管理も行う。

がん登録部門 : 専従のがん登録実務者を配置し、国立がん研究センターが提示する「標準登録様式」に基づき、院内がん登録業務を実施する。また、生存状況の把握に務め、登録データは集計や分析のため、毎年国立がん研究センターや福井県がん登録部会に提供を行う。

遺伝診療検討部門 : 診療科医師、臨床遺伝専門医を中心に、遺伝診療について検討する。

※令和2年11月設置

また、がんゲノム医療連携病院として認定されるための準備を行う。

### 3. 実績

#### ◆相談支援部門

がん相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	156	117	124	128	138	118	153	146	130	112	109	163	1,594

(1) スマイル会・がんサポート教室・・・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催実績なし  
スマイル会会員（会員数 16名）に、コロナ禍におけるがん対策のチラシを発送した。

#### ◆化学療法部門

外来化学療法の件数（抗悪性腫瘍剤、生物学的製剤）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	431	348	445	425	386	415	436	393	379	396	381	484	4,919

#### ◆緩和ケア部門

緩和ケアチーム依頼件数

	内	神内	呼	消	循	外	整	形	脳	呼外	皮	泌	婦	眼	耳	歯	合計
令和2年度	22	0	11	21	2	54	0	0	2	1	3	18	9	0	5	5	153

※令和元年度より非がん患者を含む

#### ◆がん登録部門

がん登録数（Stage0～IV その他）

令和元年度	29	37	183	145	72	24	31	37	5	190
令和元年度	5	45	124	46	23	25	104	32	20	64
令和元年度	39	39	62	17	21	6	23	1,448		

#### ◆遺伝診療検討部門

遺伝カウンセリング数

	6月	7月	11月	12月	2月	3月	合計
令和2年度	2	1	1	1	1	1	7

（内訳：産婦人科3件 外科（乳腺）4件）

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

◆研修会の開催状況

(1) 地域がん診療研修会：当院の医師やコメディカル職員によるがんに関する研修

- ① 10/16（金）「放射線治療」 ② 2/22（月）「早期診断」 ③ 3/18（木）「緩和」

計3回

(2) がん看護セミナー：当院の認定看護師によるがん看護に関する研修

- ① 9/18（金）「放射線療法」「がん化学療法」 ② 11/20（金）「がん性疼痛」「緩和ケア」

- ③ 3/19（金）「摂食・嚥下障害」「乳がん」 ④ 3/25（木）「皮膚・排泄ケア」「アピアランスケア」

計6回

(3) 1/24（日）開催 「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」

※詳細に関しては、地域医療連携課「研修会開催の実績および参加人数」を参照

## 28. 腎センター（透析センター）

### 1. スタッフ

腎センター長	小松 和人（再掲）
第1腎臓・泌尿器科部長	伊藤 正典（再掲）
第3腎臓・泌尿器科部長	片野 健一（再掲）
医師	松井 佑樹（再掲）、山岸 瑞希（再掲）、西川 翔（再掲）
看護師長	高嶋 節子（透析看護認定看護師、慢性腎臓病療養指導士、透析技術認定士）
看護係長	妹尾 真理子（臓器移植院内コーディネーター、腎移植コーディネーター）
看護師	宮木 早百合（透析療法指導看護師、透析技術認定士）、塚本 ひとみ、前田 裕子、村上 美佐江、猪島 靖子（透析技術認定士）、大庭 和枝、丸岡 真紀、北島 幸絵、坂本 かずえ、山本ゆり子、清水 冴美、坂上 唯（透析担当）
	菅原 愛子、浅田 幸江、市地 香理、松田 恵、佐々木 直子（外来担当）
看護助手	佐々木 加代子（透析担当）、塚本 恵子（外来担当）
臨床工学技術課長	重矢 直彦（透析技術認定士）（再掲）、同係長 山中 雅弘（再掲）
臨床工学技士	金田 博史（透析技術認定士）（再掲）、森 彩華（再掲）、宮本 龍一（再掲） 平嶋 克次（再掲）、北島 真樹（再掲）、小田 泰嗣（透析技術認定士）（再掲） （透析担当）

### 2. 診療

2年度は腎センターにおいても新型コロナ感染症の影響を大きく受けることになりました。幸い、当院外来透析中の患者様の発症はありませんでした。しかし他透析施設から新型コロナ感染患者様を受け入れることが複数回あり、その都度、スタッフにはおおきな肉体的精神的ストレスをかけることになってしまいました。この場を借りてその努力にお礼申し上げます。

さてセンターでは透析監視装置計33台にて稼働いたしました。うちオンラインHDFについては15台で実施されており、重矢課長をはじめとする臨床工学課技師により嚴重な透析液水質管理のもと、きわめて順調に継続されています

腎代替療法のうち、血液透析において令和2年度は合計35名の透析導入を行いました。当院における維持透析患者数も平成28年度末には100名を超えましたが、令和2年度も透析、腹膜透析の両者をあわせ110名前後の維持透析患者を診療しております。血液透析患者さんは合併症も多く、スタッフは身体のみならず精神的ケアも求められています。新型コロナ感染のため他施設からのご紹介は例年より少なかったものの、症例ごとに丁寧な看護を実践していただきました

腹膜透析は患者数では5名と少数ですが、新規で1名の導入があり、病棟と連携をとりながら診療に当たっています。うち4名は自動腹膜透析装置を使用しておりオンラインを通じて日々の状況が確認できるようになっています。

シャント血管内治療（VAIVT）症例は合計176例となっています。片野部長は、県内全域にわたる各透析施設からの紹介にスピーディに対応しており、透析におけるブラッドアクセスの重要性を県内外に知らしめています。

腎代替療法以外の浄化療法では、例年どおり消化器科より炎症性腸疾患に対するアフエーシス療法として白血球除去療法、顆粒球除去療法、また難治性腹水に対する腹水濾過濃縮のご依頼を消化器

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

内科・外科さらには婦人科からも多くいただいておりますこの場をお借りして感謝申し上げます。

さて最後になりますが、長年、福井県の透析看護のオピニオンリーダーとして活躍し、センターの要でもあった高嶋師長様、また、スタッフの表となり裏となりセンター業務をささえてくださった佐々木看護助手様が3月をもって退職されることになりました。心から感謝申し上げるとともにお二人の今後のご活躍を祈念させていただき、結びとさせていただきます。

### 3. 実績

令和2年度（令和2年4月～令和3年3月）稼働件数

事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液透析	1,086	1,121	1,121	1,108	868	824	867	814	885	812	782	916	11,204
血液濾過透析（オフラインHDF）	95	104	104	107	88	96	90	84	111	107	93	78	1,157
血液濾過透析（オンラインHDF）	294	304	306	325	471	517	541	498	553	535	488	566	5,398
再診（血液透析関係）	24	15	22	27	19	20	20	24	26	21	17	20	255
CAPD（外来指導管理）	5	4	4	4	4	5	5	8	5	4	4	4	56
血漿交換	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3
腹水濾過濃縮再静注法	7	5	8	9	3	4	6	2	3	4	4	8	63
吸着式血液浄化法（白血球除去療法）	0	0	4	3	8	5	0	0	0	2	13	20	55
その他血液浄化療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1,512	1,553	1,569	1,583	1,461	1,471	1,529	1,431	1,583	1,485	1,401	1,613	18,191
稼働日数	26	26	26	27	26	26	27	25	27	26	24	27	313
A 稼働日数による透析センター内のベッド数	1,664	1,664	1,664	1,728	1,664	1,664	1,728	1,600	1,728	1,664	1,536	1,728	20,032
B 室外透析・CAPD・再診・を除く件数	1,466	1,510	1,525	1,540	1,446	1,443	1,500	1,398	1,546	1,440	1,361	1,558	17,733
透析センター内の利用率（ $B \div A$ ）%	88.1	90.7	91.6	89.1	86.9	86.7	86.8	87.4	89.5	86.5	88.6	90.2	88.5
外来	1,308	1,318	1,305	1,331	1,270	1,264	1,353	1,269	1,366	1,265	1,175	1,354	15,578
入院	204	235	264	252	191	207	176	162	217	220	226	238	2,592
室外透析（ICU）	1	22	11	12	0	3	3	1	6	18	19	5	101
室外透析（病棟）	18	2	7	0	0	0	0	0	0	2	0	0	29
VAVT件数（透視下）	10	4	10	9	9	8	11	8	9	8	11	8	105
VAVT件数（超音波下）	10	4	6	11	3	7	8	7	5	5	2	3	71

業績	事務部	看護部	医療社会事業部	診療業務	トピックス	委員会	患者数・経営状況	概要	革新	沿革
----	-----	-----	---------	------	-------	-----	----------	----	----	----

## 稼働状況

沿 革	事 項	令和 2 年度
概 要	血液透析	11,204
	血液濾過透析 (オフライン HDF)	1,157
	血液濾過透析 (オンライン HDF)	5,398
	血液透析+選択的β 2-MG 吸着器使用	0
	CAPD (バッグ交換・チューブ交換を含む外来指導管理)	56
	血漿交換	3
	腹水濾過濃縮再静注	63
	選択的血漿成分吸着法 (免疫吸着)	0
	選択的血漿成分吸着法 (ビリルビン吸着)	
	選択的血漿成分吸着法 (LDLアフェレーシス)	
患者数・経営状況	吸着式血液浄化法 (薬物)	55
	吸着式血液浄化法 (白血球除去療法)	
	再診 (血液透析関係)	255
	V A I V T (経皮的シャント拡張術・血栓除去術)	176
委員会	合計	18,367
	室外透析 (ICU)	101
	室外透析 (病棟)	29
	外来	15,578
	入院	2,592
	稼働日数	313
	A 稼働日数による透析センター内のベッド数	20032
	B 室外透析・CAPD・再診・を除く件数	17733
	透析センター内の利用率 (B ÷ A ) %	88.5
	トピックス	
診療業務		

## 患者実数

	令和 2 年度
患者実数	348
当院通院中の慢性維持透析患者数	105
血液透析	261
血液濾過透析	44
β 2-MG 吸着器使用	0
CAPD	5
その他の血液浄化	30
V A I V T (経皮的シャント拡張術・血栓除去術)	176
他施設からの治療患者	219
新規導入患者 (慢性)	35
新規導入患者 (急性含めた合計)	47

(人)

転 帰

	令和2年度
新規導入（CRF）	35
急性（ARF）	12
死亡	17
離脱	11
転入	204
転出（転院含）	221
帰院	5
他（県外など）	0

(人)

転院依頼件数

	令和2年度
細川泌尿器科	4
藤田記念病院	1
あすわクリニック	8
福井厚生病院	4
福井県済生会病院	1
福島泌尿器科	1
福井県立病院	2
広瀬病院（鯖江市）	5
公立丹南病院	1
福井勝山総合病院	4
福井循環器病院	3
はやしクリニック	2
中村病院	1
鯖江腎臓クリニック	4
県外・その他	2
合 計	43

沿  
革

概  
要

患者数・経営状況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ッ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

他施設からの紹介患者数

\* VAIVT のみの紹介も含む

	令和2年度
細川泌尿器科医院	26
藤田記念病院	7
あすわクリニック	32
福井厚生病院	1
福島泌尿器科医院	1
越前外科内科病院	4
林 病院（越前市）	1
広瀬病院（鯖江市）	3
公立丹南病院	18
鈴木クリニック	15
福井勝山総合病院	23
福井循環器病院	4
はやしクリニック	27
福井大学医学部附属病院	1
福井総合クリニック	2
木村病院（あわら市）	3
鯖江腎臓クリニック	23
坂井市立三国病院	11
泉ヶ丘病院	2
県外	0
合 計	204

（人）

沿  
革  
概  
要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

## 29. 呼吸器センター

### 1. スタッフ

呼吸器センター長（第1呼吸器内科部長）	赤井 雅也
呼吸器外科部長	松倉 規
第2呼吸器内科部長	出村 芳樹
第3呼吸器内科部長	塩崎 晃平
呼吸器外科副部長	山岸 弘哉
呼吸器内科医師	多田 利彦
呼吸器外科医師	若月 悠佑
呼吸器内科医師	田畑 未央
呼吸器内科医師	大井 昌寛
呼吸器内科後期研修医	軸屋 紀宏
呼吸器外科後期研修医	南 紀久子
慢性呼吸器疾患認定看護師	秋山 奈津江
看護師	藤本 えりか
看護師	東 真美
パート看護師	三田村 由聖

#### 【歴史・沿革・今後の展望】

呼吸器科は京都大学胸部疾患研究所の内科第I部門（現・京都大学呼吸器内科）と外科部門（現・京都大学呼吸器外科）からの人員派遣で、昭和39年8月に設置されました。内科・外科混合体制は平成4年9月まで続き、平成4年10月からは呼吸器外科が分離、独立しました。

呼吸器外科分離後も週2回のカンファレンス、病棟当番、人間ドックで胸部異常が指摘された患者の診療などを合同で行うなど、診療は密に協働して行ってきました。

今後更に呼吸器症状の患者さんが、今までよりわかりやすく安心して受診できるように、従来の呼吸器科と呼吸器外科のスタッフが協働して最良の医療を提供するために、平成23年年4月に呼吸器センターを正式に開設しました。

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

# 30. 消化器センター

## 1. スタッフ

令和2年度の福井赤十字病院消化器センターは消化器内科医師 10名、腹部外科医師 8名と消化器センター / 中央内視鏡室看護師・技師・助手ならびにブースマネージャーの総勢 45名編成で外来診療ならびに消化器内視鏡診療を行いました。

## 2. 診療

消化器センターは平成23年4月に消化器内科医および腹部外科医が同一ブース内で外来診療を行うことで、内科・外科の境界を取り払い、互いに協力して迅速かつ合理的な診療を行うことを目的に開設されました。

平成27年11月16日には外来診療ブース再編成による腹部外科の7番ブース全面移転参入により、両診療科による同一ブース内診療が完全実現しました。

腹痛や便通異常に代表される消化器症状に悩む患者さんは非常に多く、時には早急な手術治療が必要になるケースも少なくありません。当センターでは消化器症状を有する患者を内科と外科の両方の立場から同時にかつ適切に診療できる体制を整え、多種多様化する消化器疾患に対して最高の医療の提供を目標としています。

当センターでは消化器領域における最新情報を連携医の先生方に提供する使命のもと、福井赤十字病院病診連携医会の後援を得て、平成24年12月に発足した福井赤十字病院消化器カンファレンスは令和元年度の開催で第7回を数えましたが、未曾有の新型コロナウイルス感染症アウトブレイクのため、残念ながら令和2年度の開催は見送らざるを得ませんでした。コロナ禍収束後に第8回の開催を予定致します。

当センターはこれからも消化器カンファレンスの継続開催を通じて、連携医の先生方に消化器領域における最先端の情報提供を行うとともに、今後も消化器疾患を専門とする内科医と外科医が互いに協力し、質の高い消化器診療を展開するとともに地域医療に貢献できるよう日々尽力致します。

## 3. 目標

令和3年度も消化器センター運営会議を定期的に行い、外来診療における業務改善を通して、消化器センターのコンセプトである内科・外科の境界の越えた質の高い消化器外来診療の実現に向けて尽力し、これを実践します。

また、先述したようにコロナ禍収束が条件ではありますが、第8回消化器カンファレンスの企画・開催により、日常診療で協力頂いている連携医の先生方に最新の消化器診療情報を提供するとともに我々の診療レベルの更なる向上を目指します。

# 31. 地域周産期母子医療センター

## 1. スタッフ

<産婦人科>

センター長 田嶋 公久  
辻 隆博  
福田 真  
佐藤 久美子  
山本 真  
杉田 元気

<小児科>

渡邊 康宏  
平野 聡子  
玉村 宗一  
野村 詠史  
新田 祥代

## 2. 診療

周産期母子医療センターは、分娩前後（周産期）の母児を対象として、産科と小児科が協力しながら診療を行っています。産科部門（2-4病棟）と新生児部門（ベビーセンター）から構成されます。

### ・産科部門（2-4病棟）

令和2年度の分娩数は233件でした。帝王切開率は33.0%で、昨年度（28.8%）より高くなりました（詳細は産婦人科の項を参照）。早産率は10.7%で昨年度8.4%よりやや増加しています。令和2年度に分娩を行った初産婦114人中32人（28.1%）が、35歳以上の高齢初産婦でした。令和元年度は、31.7%が高齢初産婦でした。高齢初産婦の割合が高い近年の状況は、晩婚少子化の世の流れを反映していると考えられます。ART妊娠の割合は、全出産の10.3%でした。合併症妊娠の管理は、日本周産期・新生児医学界専門医の佐藤医師が中心となって取り組んでいます。また、新型コロナウイルス（疑い）妊婦に対する帝王切開のシミュレーションを行いました。助産師・病棟、手術部看護師・産科医・小児科医・麻酔科医が連携してシミュレーションを行い今後の症例発生に備えました。

### ・新生児部門（1-4病棟 ベビーセンター）

当院のベビーセンターは、院内で出生した新生児の預かり業務を行うとともに、院内外で出生した未熟児や病的新生児の治療を行っています。令和2年度にベビーセンターに入院となった病児は104人、他院から搬送された病児は28人でした。患児の治療には、渡邊康宏部長をはじめ5人の常勤小児科医が当たっています。ベビーセンターは、10床の病床数を持ち、感染症罹患児に対応するための陰圧式空調装置を設置した感染症室を備えています。また、新生児用ME機器として、レスピレーターと持続陽圧呼吸（CPAP）装置を設置し、24時間体制で病児の治療・看護を行っています。

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

### 3. 目 標

地域周産期母子医療センターの今後として、胎児・母体の異常をいち早く診断し、素早い治療が行えるように、さらなる整備が必要と考えます。また、国内の新型コロナウイルス感染症は未だ収束をみません。今後は、妊婦・新生児の感染防止のみならず、医療従事者の安全も考慮した診療体制を構築する必要があると思います。

## 32. 集中治療室

### 1. スタッフ

室長 田邊 毅  
 麻酔科医師 (部長：田邊 毅 他医師7名)  
 看護職員 33名 (看護師長：高島 恵 看護係長：朝田和枝、原田幸枝、中山幸代  
 認定看護師：朝田和枝、原田幸枝 専門看護師：朝田和枝  
 看護師 32名 看護助手 1名)

### 2. 業務

General ICUとして「内科系・外科系を問わず、呼吸・循環・代謝その他の全身管理を強力、かつ集中的に行うことにより、治療効果を期待しうる急性期の患者を収容する」と共に、Intensive Observation Unit (集中観察室)の性格も加味して「Close Observation Heavy Duty Nursing (綿密な観察と強力な看護)」を要する患者も必要に応じて収容する

### 3. 目標

- 1) COVID-19 重症患者受け入れ体制の構築
- 2) RRS の立ち上げ
- 3) ドクターヘリの受け入れ準備を行なう

### 4. 実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計もしくは平均
月日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
新規入室患者	6	14	33	43	42	43	55	52	50	40	41	45	464
退院患者総数	6	9	36	42	44	39	59	46	54	42	39	44	460
延入院患者数	51	88	114	134	109	129	122	159	173	129	154	186	1548
平均患者数	1.7	2.8	3.8	4.3	3.5	4.3	3.9	5.3	5.6	4.2	5.5	6.0	4.2
病床利用率	21.3%	35.5%	47.5%	54.0%	44.0%	53.8%	49.2%	66.3%	69.8%	52.0%	68.8%	75.0%	53.1%
延 COVID-19 患者数	46	29	14	0	11	42	0	7	7	38	16	0	210
COVID-19 患者受け入れ時の ICU 一般病床利用率	41.7%	92.2%	59.5%	61.8%	53.3%	67.9%	56.0%	81.3%	86.5%	60.5%	84.1%	85.7%	69.2%
予定患者数	1	3	18	23	23	30	29	26	24	17	20	18	232
緊急患者数	5	11	15	20	19	13	26	26	26	23	21	27	232
救外入室患者数	2	2	8	9	14	7	12	15	15	17	8	15	124
術後予定外入室	1	5	6	9	2	5	12	9	8	5	4	8	74
平均在室日数	8.5	7.7	3.3	3.2	2.5	3.1	2.1	3.2	3.3	3.1	3.9	4.2	4.0
在室日数(8~14日)	1	2	0	1	2	3	3	2	5	3	5	3	30
在室日数(15日以上)	1	0	2	0	2	2	2	3	3	3	1	6	25
入室日数0日(死亡)	1	0	2	0	0	0	0	0	2	2	0	0	7
入室日数0日	2+B36:B37	0	2	1	2	0	0	2	2	5	2	1	17

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計もしくは平均
押し出し患者数	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	2	1	7
死亡退院患者数	3	0	6	3	4	2	2	3	3	2	4	1	33
転院患者数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
重症度、医療・看護必要度													
対象者数	51	88	116	134	108	124	122	160	173	129	154	186	1545
該当者数	51	88	106	134	107	120	115	150	160	125	149	181	1486
必要度 (%)	100%	100%	91%	100%	99%	97%	94%	94%	92%	97%	97%	97%	96%

### 5. ICU 満床報告状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
満床日数 (0時時点)	20	9	6	2	3	9	1	17	11	6	18	14	116
満床報告時間	454	155	87	26	31	149	24	255	151	94	290	202	1918
満床報告回数	1	3	3	1	3	3	1	7	6	3	6	6	43
ICU 満床による救急車お断り症例数	2	3	3	0	0	4	0	4	0	2	5	6	29

### 6. 治療実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
挿管	4	4	10	10	8	4	11	9	13	9	14	16	112
人工呼吸器 (有)	4	5	10	10	8	4	10	7	13	10	14	16	111
人工呼吸器(NPPV)	0	1	1	3	1	5	4	5	4	5	5	7	41
ネーザルハイフロー	0	2	0	3	4	5	9	5	3	5	0	8	44
気管切開	0	2	1	0	2	1	2	1	4	3	1	5	22
スワングantz	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
I ABP	0	0	2	2	1	0	2	1	1	3	0	1	13
P C P S	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
P M X	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	2	3	9
C H D F	0	0	2	2	2	0	3	1	1	3	3	4	21
血漿交換	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
低体温療法	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	3
透析	0	1	2	1	0	0	2	0	3	2	1	2	14

## 7. 退室科別状況

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
神経内科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5
呼吸器内科	0	0	1	0	1	0	0	0	1	2	0	1	6
消化器内科	0	0	1	1	2	2	0	1	3	1	2	1	14
循環器内科	1	1	7	7	8	3	8	10	12	9	9	9	84
小児科	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	3
外科	3	3	10	10	8	10	17	8	14	6	10	8	107
整形外科	0	3	1	2	8	6	3	3	4	4	1	4	39
形成外科	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
脳神経外科	0	1	2	8	3	3	9	6	6	3	6	5	52
呼吸器外科	0	0	3	1	6	5	7	7	3	2	2	4	40
皮膚科	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	0	0	5
腎臓泌尿器科	0	0	4	11	4	5	8	8	5	7	7	4	63
産婦人科	0	0	3	1	3	1	3	2	3	3	0	2	21
眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
耳鼻咽喉科	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	1	5
歯科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合診療科	2	1	1	0	0	1	1	1	1	1	2	0	11
総計	6	9	36	42	44	39	59	46	54	42	39	44	460

## 8. その他

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
早期リハビリ算定数	5	55	48	64	77	109	98	137	130	103	121	140	1087
RRS 起動件数	-	-	-	7	2	2	8	3	2	3	2	2	31

## 9. まとめ

- ・ COVID-19 患者受け入れを行い、4月の COVID-19 患者2名に対しては ECMO 装着した。  
ICU フロア内を養生し、一般重症患者の受け入れも同時に行なえるようにし ICU 機能を維持した。
- ・ RRS は、7月より稼動開始した。RRT 看護師は重症・術後ラウンドを行い病棟の周知もされてきている。
- ・ ドクターヘリ受け入れマニュアルを救急部が中心に作成し、ワーキンググループも立ち上げ、受け入れ体制を整えている。
- ・ 早期リハビリテーション加算は、ほぼ全例取得できている。

# 33. 中央手術室

## 1. スタッフ

室長	小松 和人
麻酔科医	8名
臨床工学技師	4名：中央手術室・集中治療室兼任で配属
看護師	36名：師長1名、係長3名（1名は中央滅菌室）看護師32名
看護助手	3名
クラーク	2名

## 2. 診療

### 令和2年度

- 1) 総手術件数は、5,030件。昨年より1,024件減少した。  
4月5月は新型コロナウイルス感染症対応のため、手術稼働を7割に制限し調整したため手術件数の減少となった。
- 2) 緊急手術は、545件。昨年より3件増加した。外科が最も多く、緊急手術全体の34.6%を占めている。
- 3) 全身麻酔は、2,214件で前年より317件減少。全体の44.0%にあたる。
- 4) 手術台平均稼働率は、8時台38.7%、17時台32.0%である。午前平均稼働は50.3%、午後平均稼働は53.4%で、稼働率は前年と比べやや減少した。
- 5) 17時以降の時間外延長手術件数は、532件である。総手術件数に対して約10.5%が時間外に延長している。
- 6) 内視鏡（腹腔・胸腔・膀胱・関節・子宮・鼻等）手術件数は、1,551件で全体の30.8%にあたる。そのうちロボット手術件数は88件（泌尿器科・外科）であった。
- 7) 手術室における新型コロナウイルス感染症のスクリーニング検査対象を、全身麻酔患者（緊急も含む）とし24時間体制での検査運用とした。
- 8) 新型コロナウイルス感染症患者または疑似症例の受け入れマニュアルを作成した。
- 9) 日本麻酔科学会の令和2年度周術期管理チームに看護師1名が合格し、計6名となった。

## 3. 目標

- 1) 所定手術枠・全身麻酔枠を利用実績に基づき調整し、手術室の有効利用に努める。  
総手術件数5,800件以上を維持し、全身麻酔件数前年以上を目指す。
- 2) 内視鏡手術、ロボット支援手術の拡大に対応する。
- 3) 稼働率が少ない手術部屋の有効活用し、手術台平均稼働率60%以上を目指す。
- 4) 委託業者の変更に伴い、手術部屋準備業務を拡大し、術間30分以内を目標とし時間内稼働率を上げる。
- 5) 入退院支援センターと協力し、周術期患者への関りの充実を図る。
- 6) 術前患者情報用紙を新たに作成し、麻酔科との連携を強化する。

#### 4. 実績

##### 診療科別総手術件数の推移

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
外科	881	883	826
整形外科	809	824	751
脳外科	234	190	175
呼吸器外科	174	218	128
産婦人科	497	529	505
耳鼻科	230	243	214
泌尿器科	587	573	459
眼科	1,859	1,925	1,390
皮膚科	160	224	182
形成外科	264	225	215
歯科	162	187	146
循環器科	43	32	37
その他	4	1	2
総数	5,904	6,054	5,030

##### 各診療科別緊急手術件数の推移

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
外科	172	191	189
整形外科	76	82	98
脳外科	114	90	88
呼吸器外科	9	11	5
産婦人科	55	68	63
耳鼻科	15	11	14
泌尿器科	59	41	26
眼科	76	37	43
皮膚科	3	1	8
形成外科	10	5	5
歯科	0	0	0
循環器科	10	4	6
その他	0	1	0
合計	599	542	545

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

業績	事務部	看護部	看護部	医療社会事業部	診療業務	トピックス	委員会	患者数・経営状況	概要	沿革	沿革
----	-----	-----	-----	---------	------	-------	-----	----------	----	----	----

令和2年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和2年度合計
手術	313	251	391	488	438	429	516	463	484	391	389	477	5,030
内	55,908	45,338	64,201	84,411	71,353	72,619	83,430	80,075	79,933	69,074	69,510	81,011	856,863
記	281	207	345	442	394	394	465	415	436	333	346	427	4485
	32	44	46	46	44	35	51	48	48	58	43	50	545
	24	23	32	50	49	50	46	53	53	57	51	44	532
	7.7%	9.2%	8.2%	10.2%	11.2%	11.7%	8.9%	11.4%	11.0%	14.6%	13.1%	9.2%	10.5%
	16	25	30	35	37	25	40	36	35	27	25	36	367
	151	123	173	205	195	184	222	208	193	177	174	209	2214
脊椎・硬膜外麻酔	7	3	4	7	4	3	4	3	7	6	8	7	63
腰椎(硬)麻酔件数	22	24	47	44	32	35	59	43	58	45	33	38	480
伝達麻酔件数	2	10	8	11	8	5	14	11	5	11	8	10	103
局所麻酔件数	131	91	159	221	199	202	217	198	221	152	166	213	2170
外科	60	60	64	75	61	70	90	72	78	59	62	75	826
整形外科	38	43	57	64	69	62	75	73	54	73	71	72	751
脳外科	13	11	11	15	11	14	16	19	16	19	17	13	175
呼外科	10	5	8	8	14	11	15	12	11	6	14	14	128
産婦人科	45	27	40	55	39	41	46	36	48	47	35	46	505
耳鼻科	14	4	16	19	18	17	15	22	24	21	18	26	214
泌尿器科	17	26	47	53	37	30	49	44	52	32	40	32	459
眼科	88	62	98	149	138	125	148	130	140	90	87	135	1390
皮膚科	8	3	19	21	15	17	17	17	22	14	13	16	182
形成外科	16	5	15	13	19	19	24	19	24	15	17	29	215
歯科	4	3	14	15	14	16	17	13	11	11	11	17	146
内科・消化器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
小児科	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
循環器	0	2	2	1	3	6	4	6	4	3	4	2	37
稼	37.0	27.5	36.4	42.3	33.9	36.7	43.4	43.3	42.8	38.6	45.1	37.1	38.7
動	46.2	39.4	47.6	52.1	46.3	52.6	54.4	55.4	56.1	50.0	54.9	48.6	50.3
	49.2	42.5	42.4	53.4	52.2	50.6	51.0	59.1	54.4	50.9	58.6	50.7	51.3
	42.5	39.5	44.8	59.6	55.6	58.9	55.7	61.5	57.9	57.7	37.7	51.8	53.4
	19.7	19.6	24.2	39.2	37.2	37.8	28.8	38.6	33.3	41.5	62.1	26.6	32.0
	58.7	56.2	62.6	77.8	72.2	75	76.3	81.3	75.6	74.9	79.0	72.5	71.1
	14	14	13	14	14	13	14	13	14	13	13	13	13.5

# 34. 中央滅菌室

## 1. スタッフ

看護師長 1 名（中央手術室兼任）、看護係長 1 名（中央手術室兼任）、委託業者 15 名

## 2. 目標

中央部門としての役割上関係各部門の協力のもとに、当院で使用される医療材料の消毒・洗浄・組み立て・滅菌・保管までの保障を管理する。またこれらに関わる作業者の作業環境の安全を確保する。

## 3. 業務

1) 令和 2 年度の洗浄滅菌処理件数は 236,368 件で前年比 8%減となった。

2) 洗浄機の使用回数は 12,597 件で前年度比 3.4%減となった。また滅菌機器の使用回数は 7,617 件で前年比 6.5%減となった。

## 4. 実績

### 1. 年度別滅菌処理件数及び洗浄・乾燥機使用回数（平成 30 年度～令和 2 年度）

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
セット物	5,666	5,692	3,459
交換トレー	1,545	1,279	3,587
カスト類	8	0	0
単品類	189,639	184,385	169,816
洗浄・乾燥	71,278	65,013	59,492
その他	103	288	14
合計	268,239	256,657	236,368

注：セット物＝生検、骨髄、縫合、PTCD、動脈撮影、気管切開など

：交換トレー＝哺乳瓶・乳首カスト、クスコセット、歯科・耳鼻科カスト

### 2. 年別洗浄機使用回数（平成 30 年度～令和 2 年度）

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
真空超音波洗浄機	1,714	245	
超音波洗浄機			1,024
減圧沸騰洗浄機		1,220	1,237
WD 洗浄機	8,064	8,026	9,778
カート洗浄	3,021	2,998	
チューブ洗浄機	657	551	558
合計	13,456	13,040	12,597

注：WD＝ウォッシュャーディスプレインフェクター

### 3. 年別滅菌機使用回数（平成 30 年度～令和 2 年度）

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
高圧蒸気滅菌機	4,339	4,150	4,003
ホルムアルデヒドガス滅菌機	261	122	0
ステラッド滅菌機	3,584	3,877	3,614
合計	8,184	8,149	7,617

# 35. 薬 剤 部

## 1. スタッフ

薬剤部長	小 川 純 也
調剤課長	青 柳 哲 治
製剤課長	吉 村 はる美
医薬品情報課長	渋 谷 貞 一
技監	斉 藤 孝 次

以下係長 4 名 薬剤師 23 名

## 2. 業 務

抗がん剤等の毒性が高い医薬品専用の錠剤分包機を新規に導入し、錠剤分包機内で錠剤が破損した際の他の患者への暴露を防止し、安全性をより向上させた。また、新型コロナウイルス感染症拡大に際しての電話診療・院外処方箋の後日郵送が特例的に認められたことに伴い、電話診療の際に発行された院外処方箋について全件処方鑑査を実施した。また、新型コロナウイルスワクチン接種が始まり、ディープフリーザーでのワクチン保管管理や、他の医療機関へのワクチン受け渡し、ワクチン調製前の解凍作業や調製方法の説明、調製後の確認作業等を行った。

## 3. 実 績

○処方箋枚数（1日平均枚数）

年度	外来	入院	院外
令和2年度	546	260	33

○注射箋枚数（1日平均枚数）

年度	外来	入院
令和2年度	258	263

○薬剤管理指導業務件数（延べ件数）

年 度	薬剤管理指導料 1	薬剤管理指導料 2	総件数	月平均
令和2年度	4,704	3,597	8,301	692

○TDM 解析件数（延べ件数）

年 度	件数	月平均
令和2年度	457	38

○持参薬鑑別件数（延べ件数）

年 度	件数	月平均
令和2年度	5,019	418

## ○ TPN 調製件数 (延べ件数)

年 度	件数	月平均
令和 2 年度	1,874	156

## ○抗がん剤ミキシング件数 (延べ件数)

年 度	外来	入院	総件数	月平均
令和 2 年度	5,868	3,647	9,515	793

## ○治験・臨床試験実施件数

年 度	臨床試験件数
令和 2 年度	5

## ○製造販売後調査契約件数

年 度	総件数
令和 2 年度	48

## ○院内製剤調製数量

## 1) 外用液剤

品 名	規格 / 単位	令和 2 年度製剤数量	使用診療科
アロプリノール含嗽水	500mL / 本	165	多数診療科
塩化アルミニウム液	1000mL / 本	7	皮膚科
ブロー氏液	10mL / 本	0	耳鼻科
滅菌墨汁液	2mL / 本	127	外科
1%フルオレセイン液	10mL / 本	69	眼科
KOH 加 DMSO 液	20mL / 本	6	皮膚科
t -PA 製剤 (眼科用)	4 万単位 / 本	30	眼科
0.025% BBG 染色液	5mL / 本	280	眼科

## 2) 坐薬

	規格 / 単位	令和 2 年度製剤数量	使用診療科
チラージン S 坐薬	50 $\mu$ g / 個	270	多数診療科
	100 $\mu$ g / 個	150	多数診療科

## 3) 軟膏

品 名	規 格	令和 2 年度製剤数量	使用診療科
5%塩化ナトリウム眼軟膏	5g / 個	0	眼科
0.075%カプサイシン軟膏	kg	3.5	麻酔科
メントール・レスタミン軟膏	kg	35	多数診療科

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

# 36. 栄 養 課

## 1. スタッフ

医療技術部長	吉田 博之 (第1循環器内科部長)
栄養課長	大久保 祐子
管理係長	青山 涼一 以下 管理栄養士 10名
第1調理係長	重矢 悟
第2調理係長	今田 滋之 以下 調理師 14名

## 2. 目 標

- 安全で美味しい治療食を提供する
- 他職種と連携をとり適切な栄養管理を推進する
- 地域医療連携の強化を図るために他施設と栄養管理を共有できるようにする

## 3. 業 務

### 1) 給食管理

行事食、郷土料理、季節料理などを取り入れ、メッセージカードを添えて提供した。検食、嗜好調査、残食調査の結果をもとに献立作成、調理の改善を図った。調理業務作業手順書を作成した。

### 2) 栄養管理

栄養指導、入院患者の栄養管理、チーム医療参加、栄養管理の症例報告を実施した。  
9月より入退院センターに管理栄養士1名常駐し予定入院患者の栄養スクリーニングを実施した。

### 3) 衛生管理

HACCP義務化に伴い衛生管理マニュアルを改定した。手洗いチェック、検便、勉強会を実施した。

### 4) 厨房機器の入れ替え

9月に食器洗浄機の入替えを行った。

## 4. 実 績

### 1) 給食数 (食)

項 目	一般食	特別食	1日平均食数	1日平均食数	特別食加算比
令和2年度	217,606	116,229	915	305	34.9%

### 2) 個人栄養指導件数

項 目	外 来	入 院	総件数	月平均
令和2年度	1,533	668	2,201	183

3) 集団栄養指導件数

項目	糖尿病教室		糖尿病ハイキング		高血圧教室		心臓病教室		母親教室	
	開催	参加	開催	参加	開催	参加	開催	参加	開催	参加
令和2年度	6	49	0	0	2	4	0	0	0	0

4) 個別栄養食事管理加算（緩和ケア診療加算）

項目	総件数
令和2年度	27

5) 入退院支援センター 入院前栄養スクリーニング（令和2年9月より開始）

項目	総件数	月平均
令和2年度	2,927	418

6) 退院時共同指導

項目	栄養情報書作成件数	カンファレンス参加件数
令和2年度	195	20

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

# 37. 臨床工学技術課

## 1. スタッフ

医療技術部長	吉田 博之 (第1循環器科部長)
課長	重矢 直彦
第一係長	山中 雅弘
第二係長	谷口 貴洋
臨床工学技士	他9名

## 2. 目標

安全な医療機器を提供するための技術と知識を身につけるとともに  
医療機器を取り扱う職員への支援に勤める

## 3. 業務

### ①医療機器の中央管理

中央管理可能な医療機器を選定し、ME室にて保管し必要に応じて各部署に貸し出しをしています。現在、中央管理しているME機器は輸液ポンプ、シリンジポンプ、携帯型シリンジポンプ、人工呼吸器、生体情報監視装置、経腸栄養ポンプ、ネーザルハイフローの7機種です。貸し出し状況等をME機器管理システムで管理し返却された医療機器は、点検、必要時修理を行い次回の貸し出しに備えています。中央管理している医療機器の廃棄、更新を検討しています。

### ②医療機器の保守

院内点検可能な医療機器に対して、点検の実施に努めています。また各部署からの点検・修理依頼に対して出来る限り迅速に対応する様に心がけています。小児用人工呼吸器の点検・各病棟心電図モニタのラウンド点検も行っています。

### ③ME機器の教育

メーカーが開催する機器のトレーニングや講習会に積極的に参加し、技術、知識を身に付けるよう努めています。また、各部署への機器取り扱い説明、指導・勉強会等のサポートも行っています。

### ④血液浄化業務

透析センター及び集中治療室での血液浄化業務を行っています。また、VAIVTに対するサポート業務もおこなっております。その他に、血液透析関連機器の保守、点検、整備をおこなっています。

### ⑤中央手術室・集中治療室業務

医療機器の術前点検や機器のトラブルに対する対応を行っています。中央手術室、集中治療室における臨床業務も行っています。

### ⑥心臓カテーテル業務

心血管造影室で行われるカテーテル検査や治療のサポート業務を行うと共にカテーテル検査や治療で使用される機器の操作や保守、点検を行っています。

4. 実績

臨床工学技術課業務総件数	40,950	電気メス	0
血液浄化業務（件）	18,328	輸液ポンプ	62
血液透析	17,172	シリンジポンプ	124
室外透析	27	BIS	55
白血球吸着	48	マイクロ	67
血漿交換	1	A-V インパルス	1,388
血漿吸着	0	ダ・ヴィンチ (da Vinci)	174
二重濾過	0	(2) 操作業務	1,081
DHP	0	ナビゲーション (脳)	18
腹水濾過濃縮	51	ナビゲーション (耳)	19
修理・メンテナンス	815	ナビゲーション (整形)	7
シャント造影	1	NIM (脳)	0
シャントPTA	165	NIM (耳)	23
モニター点検	48	オーソパット	0
ペースメーカー業務（件）	530	内視鏡 (外)	390
PM 埋め込み	46	内視鏡 (泌)	67
PM 電池交換	4	内視鏡 (婦)	260
PM 動作チェック	385	内視鏡 (呼外)	119
PM リード再固定	0	内視鏡 (耳鼻科)	61
PM 設定変更	82	内視鏡 (整外)	25
ICD 動作チェック	2	内視鏡 (脳)	4
ICD 設定変更	0	RFA	0
CRT-D 動作チェック	8	ダ・ヴィンチ (da Vinci) (泌)	52
CRT-D 設定変更	0	ダ・ヴィンチ (da Vinci) (外)	36
ループレコーダー 埋め込み	2	(3) 修理・メンテナンス	0
ループレコーダー 動作チェック	11	心カテ業務（件）	1,264
その他	19	(1) 治療	179
OPE室業務（件）	7,055	PCI	140
(1) 点検業務	5,974	PTA	31
全身麻酔器	2,088	下大静脈フィルター	8
内視鏡	1,055	(2) 検査	122
ナビゲーション	48	CAG	110
NIM	26	スワンガンツ	9
モニタ	1,041	Ach 負荷試験	3
オーソパット	0	EPS	0
除細動器	0	点検	417

沿 革	DC	139	ME業務（件）	11,213
	ポリグラフ	139	（1）点検業務	5,603
	IVUS	139	輸液ポンプ	3,555
	その他	0	シリンジポンプ	1,324
概 要	（3）操作	546	携帯型シリンジポンプ	178
	IVUS	165	経腸栄養ポンプ	266
	FFR	27	心電図モニタ	119
	血管エコー	30	人工呼吸器	91
患者数 経営状況	IABP	16	Airvo	62
	PCPS	2	その他	8
	ポリグラフ	281	（2）貸し出し業務	5,455
	体外式ペースメーカー	15	輸液ポンプ	3,490
委 員 会	人工呼吸器	10	シリンジポンプ	1,283
	OFDI	0	携帯型シリンジポンプ	157
	ICU業務（件）	2,560	経腸栄養ポンプ	268
	（1）点検業務	2,267	心電図モニタ	128
ト ピ ク ス	人工呼吸器	174	人工呼吸器	75
	全身麻酔器	30	Airvo	54
	除細動器	0	その他	0
	輸液ポンプ	1,355	（3）修理・メンテナンス	155
診 療 業 務	シリンジポンプ	708	輸液ポンプ	1
	モニタ	0	シリンジポンプ	4
	その他	0	携帯型シリンジポンプ	0
	（2）操作業務	293	経腸栄養ポンプ	3
医 療 社 会 事 業 部	血液透析	71	心電図モニタ	44
	血液濾過	0	人工呼吸器	2
	ECUM	12	パルスオキシメーター	26
	CRRT	128	血圧計	44
看 護 部	PMX	14	携帯型電子血圧計	22
	血漿交換	1	吸引器	0
	血漿吸着	0	その他	9
	二重濾過	0		
事 務 部	DHP	0		
	IABP	29		
	PCPS	38		
業 績	（3）修理・メンテナンス	0		

# 38. 検 査 部

## 1. スタッフ

検査部長 今村 信  
検査医監（検体検査） 豊岡 剛  
技師長 加藤 幸久  
課長 杉本 正雄 猿木 邦之

以下係長 4名 臨床検査技師 26名（内視鏡3名含む）

臨床検査技師パート 1名（午前のみ） 看護師パート 1名（午前のみ）

事務派遣職員 2.5名

## 2. 業 務

採血業務 : 新型コロナ感染拡大を受け三蜜防止の観点から採血待ち合い場所の椅子の間隔を空け、内科待ち合い前に採血待ち合い番号表示板と椅子の増設を行なった。また、診察日前日採血と、紹介患者の初診時優先採血を病院経営課、地域連携課と共同して実施した。

検体検査業務 : 新型コロナ検査としてLAMP法の増設、TRC法、抗原定量検査を順次導入し検査の充実を行なった。また、手術前患者の唾液採取、疑似症患者はコンテナ内での鼻咽頭採取と検体採取にも取り組んだ。その他、年度末には血算、凝固の機器更新を行い迅速な報告を行なっている。IS015189取得を病理診断科部と合同で

生体検査業務 : 肺機能検査が新型コロナの影響で検査が中止する時期もありましたが現在はセロファンで衝立を作るなどして直接息がかからないよう注意して実施しています。また、超音波測定装置2台が更新となり鮮明画像にて精度の向上をおこなっている。

内視鏡業務 : コロナ患者に対し内視鏡検査を施行する際の対応マニュアルと使用したスコープ・処置具の洗浄消毒についてのマニュアルを制定した。内視鏡検査全症例においてフェイスシールドの着用、一患者毎の手指衛生、検査台と光源の清拭を徹底した。使用スコープと洗浄スコープの情報の結び付けルールを一部改訂した。

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

### 3. 実績

資料1) 件数の推移(検査システムからの統計)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
尿・糞便検査	137,623	135,365	122,618
血液検査	284,642	284,724	254,135
生化学検査	2,503,439	2,477,629	2,232,277
免疫関連検査	142,782	144,990	134,502
微生物検査	47,607	49,671	42,315
生体検査	50,432	55,100	45,411
合計	3,274,525	3,147,479	2,831,258

資料2) 外来、入院別検査件数

	外来				入院				
	院内	SRL	MCM	合計	院内	SRL	MCM	合計	
平成30年度	2,262,028	20,133	20,831	2,302,992	811,817	7,056	7,080	825,953	2.79
令和元年度	2,273,904	20,251	19,127	2,313,282	799,441	7,318	7,753	814,512	2.84
令和2年度	2,056,654	17,252	16,560	2,090,466	735,025	6,465	6,519	748,009	2.79

資料3) 検査判断料件数と検査加算件数(医事課資料)

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
尿・糞便判断料	24,718	24,360	21,723
血液学的検査判断料	67,843	73,396	66,398
生化学検査判断料(Ⅰ)	72,710	73,614	66,768
生化学検査判断料(Ⅱ)	22,694	23,249	21,278
免疫学的検査判断料	54,219	53,925	47,799
微生物学的検査判断料	9,930	12,940	10,323
呼吸循環検査判断料	5,820	6,092	5,191
脳波図判断料	696	731	688
神経筋検査判断料	541	599	548
時間外緊急院内検査加算	5,302	5,267	3,417
検体検査管理加算(Ⅰ)	69,680	72,737	66,658
検体検査管理加算(Ⅲ)	—	—	—
検体検査管理加算(Ⅳ)	11,038	11,100	8,871
外来迅速加算	265,145	257,032	240,778
合計	778,260	615,042	560,440

資料 4) 令和 2 年度輸血関連業務

		H 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	前年度 比較増減
検査 (件)	血液型	7,706	7,737	6,804	-933
	不規則抗体	3,633	3,815	3,189	-626
	不規則抗体 陽性率 (%)	1.08%	1.72%	1.59%	-0.13%
		18/1661	29/1684	25/1574	
	交差適合試験	3,091	2,860	2,478	-382
	直接クームス	150	159	163	4
輸血 (単位)	赤血球製剤 (RBC、洗浄赤血球を含む)	4,849	4,311	3,996	-315
	血小板製剤 (PC)	9,520	8,020	6,315	-1,705
	新鮮凍結血漿 (FFP)	305	252	170	-82
	自己血 (貯血式)	199	206	186	-20
	アルブミン製剤使用単位	6,841.6	8,166.6	6,820.9	-1,345.7
廃棄製剤 (単位)	赤血球製剤 (RBC、洗浄赤血球を含む)	4	22	16	-6
	廃棄率 (%)	0.08	0.51	0.40	-0.11
	血小板製剤 (PC)	30	10	0	-10
	廃棄率 (%)	0.32	0.12	0.00	-0.12
	新鮮凍結血漿 (FFP)	14	48	18	-30
	廃棄率 (%)	4.59	19.05	10.59	-8.46
	自己血採血 (回数)	143	132	105	-27
	自家末梢血幹細胞移植 (件数)	6	5	7	2

4. 目 標

新型コロナウイルス感染症での検査部としての役割（検体採取から迅速な検査を）を実行すると同時に、少しでも早く ISO15189 を取得することを目標としています。

# 39. 放 射 線 部

## 1. スタッフ数

放射線科部長	左合 直	以下 医 師 8名
技 師 長	西村 英明	以下 診療放射線技師 31名
看 護 師	清水 弘美	以下 看護師 4名
事 務	2名（午後1名）	

## 2. 方針 / 目標

- 1) 「検査技術の向上と診療支援」を目指し、固定概念にとらわれない、幅広い視野を持った診療放射線技師を育成する
- 2) 「患者さん中心の医療」をスタッフ一人一人が実践できるような組織を目指す  
(個人と組織がともに成長できるシステムづくり)

診療放射線技師においては、様々な検査において画像診断機器を操作するだけではなく、診断・治療の流れを理解し次の医療行為を予測できる力や、緊急検査への対応力も強化（時間外）していかねばならない。

診療以外にも、医療安全管理、放射線安全管理、放射線機器管理、放射線被ばく管理、医療情報管理など、更に精度管理の実践 / 充実を図らなければならず、「検査技術の向上と診療支援」を目指し、固定概念にとらわれない幅広い視野を持った診療放射線技師を育成する必要がある。

また、「患者さん中心の医療」をスタッフ一人一人が実践できるよう、まずは医療安全から見た、部門や個人で失敗しない質の確保とばらつかない質の確保を目指した段階的な教育 / 管理を行い、個人と組織がともに成長できる環境を整備することを目標とする。

## 3. 業 務

中央放射線部では、最新の画像診断機器、放射線治療機器を駆使し、より安全でより精度の高い検査・診断・治療が行えるよう、診療放射線技師、看護師、事務員、放射線診断医、放射線治療医との協働にて、患者さんが求める最善な検査・治療を提供している。

診断においては、撮影されたCT、MR、核医学の画像を中心に検査画像の画像診断報告書の作成と配信が行われており、画像診断専門医が常勤し、画像診断管理加算2の施設基準を取得している。

また、これら院内（他施設提供画像含む）で発生する各種検査画像、診断レポートに対し、セキュリティを保持 / 一元保管管理を行っており、院内どこでも瞬時に画像、レポートの参照が可能となり速やかな診療支援を行っている。

治療においては、治療計画はコンピューター化され、治療専門医による照射領域の決定 / ほぼ全ての悪性疾患に高精度の治療を行っている。

高精度放射線治療として、画像誘導放射線治療（IGRT）、強度変調放射線治療（IMRT/VMAT）、定位放射線治療、呼吸によって動く患部を追尾する動体追尾照射を実施し、充実したがん診療に寄与できるよう心がけている。

検査業務では、一般撮影、X線透視、CT、MRI、血管撮影、ラジオアイソトープ（RI）、骨塩定量検査、

超音波検査が行われ、各分野には先端の機器を整備し、装置能力を十二分に発揮し、治療、診療に有用な情報を提供するために、医師、看護師、技師がチームを構成し業務に従事している。

今年度は、コロナ禍での業務として、放射線科部としても日々変わる状況や、病院の指針 / ICT 判断をしっかりと理解 / 共有し、放射線科部をハブとするような院内感染が発生するのを可能な限り回避するために、場面ごとの意識した行動を行い、マニュアルや環境整備、健康管理や日常生活における潜在的なリスク低減を意識しながら業務に従事してきた。

尚、令和 2 年度の医療機器整備として、ポータブル X 線回診車の更新 / 増設と、手術室外科用イメージの更新、ハイエンド超音波装置の更新を行った。

ポータブル X 線回診車においては、COVID-19 対応もあり、院内感染リスクを減らす為にも、専用ポータブル装置の増設をすすめた。手術室外科用イメージにおいても、コロナ受入 / ECMO 装着時において、ICU でイメージを使える様に 100V 電源にて可能な装置を選択し、従来の I. I. 検出器と比較して X 線の変換効率が高く、より低線量下における高精細な画像の取得が可能になる FPD タイプ 2 機を導入し更新 / 入替を行った。

また、今年度予算において、平成 20 年 3 月に導入された CT の更新を行うこととした。工事期間が発生するため、GW をはさみ令和 3 年 5 月末に入れ換えるスケジュールとしたが、今回導入の CT は、全く異なった特性を持つ Dual-Energy CT であり、撮影後に出力される画像の CT 値を任意に変更することで、造影剤コントラストの増強画像（造影剤使用量の低減可能）や、後処理（仮想単色 X 線画像、ヨード密度強調画像、実効原子番号画像、カルシウム抑制画像など）にて、診療 / 診断側へ視覚的に把握しやすい画像提供も可能となりえるので、いかにデータを有効に利用するかを稼働させながら検討して行く予定である。

他、システム系においては、線量記録と線量管理を一元的に管理できる「被ばく線量管理システム」を新規導入し、併せて頭部 MRI 撮影加算の施設基準申請を行った。また、現場にて質を担保した画像配信ができるよう検像システムを更新した。

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

#### 4. 実績

##### 1) 放射線科部統計（年度比較）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
一般撮影・透視部門			
撮影検査件数	91,779	90,963	80,433
単純撮影			
胸部	57,082	57,025	50,555
腹部			
骨部	26,164	25,309	21,808
マンモ	3,994	4,113	3,753
パントモ・デンタル	1,945	2,008	1,820
その他(H18以降LG含)	326	343	273
造影剤使用撮影			
消化器系	1,352	1,187	1,354
泌尿器系	358	376	426
小児・婦人科系	23	16	18
関節・脊髄	216	249	212
その他	319	337	214
CT部門			
CT検査件数	19,510	19,956	19,433
頭頸部	6,819	6,777	5,982
胸腹部他	12,691	13,179	13,451
MR部門			
MR検査件数	8,907	9,176	8,576
頭頸部	5,172	5,357	5,193
躯幹	3,106	3,195	2,874
その他	629	624	509
骨塩定量検査			
検査件数	2,560	2,408	2,198
血管撮影部門			
血管撮影件数	940	812	645
頭部	247	182	166
腹部他	39	46	30
心臓、下肢、シャント	654	584	449
核医学部門			
R I 検査件数	1,914	1,839	1,692
頭部	193	168	159
内分泌	36	50	30
心臓	447	352	268
呼吸器	14	12	10
腹部泌尿器	71	73	52
骨・軟部	306	321	296
血管	0	0	0
P E T	826	863	867
治療	21	0	10
放射線治療部門			
治療件数	5,022	5,403	4,041
L I N A C	5,008	5,394	4,037
IMRT	1,109	2,145	2,274
動態追尾	9	0	5
頭部定位照射	107	163	126
体幹部定位照射	62	0	67
全身照射	0	0	0
温熱治療	14	9	4
小線源治療	0	0	0
総計	130,632	130,557	117,018
外来患者延人数	304,013	301,124	270,814

2) 放射線検査 (詳細)

						総件数	総人数		
						117,018	105,777		
MRI	単純		造影		小計	MRI	患者数		
	外来	入院	外来	入院			外来	入院	小計
(MRI) 頭頸部	3,294	973	711	215	5,193	(MRI) 単純	5,293	1,316	6,609
脊椎	964	186	41	37	1,228	造影	1,589	378	1,967
胸部	12	3	131	16	162	小計	6,882	1,694	8,576
骨盤腹部	597	124	660	103	1,484	他院読影	35	1	36
上肢	161	3	22	1	187				
下肢	265	27	24	6	322				
小計	5,293	1,316	1,589	378	8,576				
CT	単純		造影		小計	CT	患者数		
	外来	入院	外来	入院			外来	入院	小計
(CT) 頭部	3,221	1,319	45	51	4,636	(CT) 単純	9,984	3,238	13,222
顔面頸部	548	116	528	154	1,346	造影	5,070	1,141	6,211
胸部	3,853	1,147	1,931	385	7,316	小計	15,054	4,379	19,433
腹部	1,300	332	2,533	527	4,692	他院読影	71	8	79
脊椎	249	117	5	17	388				
四肢	559	157	25	7	748				
その他	254	50	3	0	307				
小計	9,984	3,238	5,070	1,141	19,433				
血管造影					合計	血管造影	患者数		
	外来	入院	小計	科別			外来	入院	小計
(血管造影) 頭頸部	7	159	166	放科	30	(血管造影) I A 造影	25	556	581
循環器	15	303	318	脳外科	166	I V 造影	3	61	64
胸部	0	2	2	循環器	344	小計	28	617	645
腹部・骨盤	4	24	28	腎泌尿器	105				
四肢	2	24	26	小計	645				
シャント	2	103	105						
小計	30	615	645						
透視	単純		造影		小計	透視	患者数		
	外来	入院	外来	入院			外来	入院	合計
循環・呼吸器	2	140	0	0	142	(透視)	1,282	928	2,210
消化器	0	1	782	468	1,251				
肝・胆道	0	0	14	89	103	治療	外来	入院	合計
尿路	0	0	312	112	424	(治療) LINAC	2,119	1,918	4,037
関節・脊髄	31	7	97	77	212	頭部定位 (126), 体幹部定位 (67), IMRT(2274), 全身照射 (0) 追尾 (5), 電子線 (81) を含む			
頭頸部咽頭	0	0	5	3	8	温熱治療	4	0	4
小児・婦人科	0	0	18	0	18	小線源	0	0	0
血管・シャント	0	0	0	0	0	小計	2,123	1,918	4,041
IVH・単純	29	34	1	0	64				
小計	62	182	1,229	749	2,222				
一般撮影	撮影区分			患者数		核医学	患者数		
	外来	入院	小計	外来	入院		外来	入院	小計
(一般撮影) 頭頸部	2,129	468	2,597	外来	52,197	(核医学) 頭部	103	65	168
胸腹部	32,741	17,814	50,555	入院	16,983	内分泌	50	0	50
脊椎骨盤	3,611	744	4,355	合計	69,180	心臓	185	167	352
胸郭	2,906	199	3,105	ドック		呼吸器	6	6	12
上肢	3,303	324	3,627	胸部	6,184	腹部泌尿器	67	6	73
下肢	8,046	1,854	9,900	胃	501	骨・軟部	215	106	321
全身骨	43	1	44	脳	362	血管	0	0	0
治療用	108	165	273	肺	149	P E T	766	97	863
乳房	3,753	0	3,753	乳房	1,595	治療	0	0	0
骨塩定量	2,125	73	2,198	合計	8,791	小計	1,392	447	1,839
泌尿器系造影	2	0	2			他院読影	2	0	2
件数小計	58,767	21,642	80,409			歯科系	1,820		

沿革  
概要  
患者数経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

# 40. 医療安全推進室

## 1. スタッフ

医師 2 名 看護師 1 名 薬剤師 1 名 診療放射線技師 1 名 臨床検査技師 1 名  
臨床工学技士 1 名 理学療法士 1 名 管理栄養士 1 名 事務 3 名

## 2. 業務

- 1) 各部門における医療安全対策の実施状況を評価するため、定例カンファレンスを週 1 回開催し、その評価結果を記録する。
- 2) 各部門の業務改善計画書を各部門と共同で作成し、それに基づく対策の実施状況を評価し、記録する。
- 3) 定例カンファレンスにおいて評価した結果を医療安全管理委員会に定期的に報告する。
- 4) 医療に係る安全管理に対する意識の向上を主な目的として、医療安全管理者と協力して職員研修を開催し、その評価を行い、実績を記録する。
- 5) 患者や家族からの医療の安全に関する相談に対応するため、医療安全相談窓口を設置し、相談件数及び相談内容、相談後の取り扱いについて記録する。
- 6) 院内に於いて医療事故が発生した場合は、「医療事故・紛争対応マニュアル」に沿って対応する。
- 7) その他必要時は室長の判断に基づき、臨時にカンファレンスを開催する。

## 3. 実績

- 1) MSM ニュース、MSM だよりの発行、発信
  - (1) MSM ニュース（代表部長会議にて配布）No. 200 ～ 210
  - (2) MSM だより（電子カルテニュースにて配信）No. 161 ～ 172

### 2) 医療安全推進室主催の主な研修会

日付	研修名	講師	対象	参加人数
令和2年 12月1日 ～12月28日	医療安全研修 「医療安全とインシデント・アクシデントレポートシステム」	院内講師 相模朋恵看護師長（医療安全管理者）	全職員	1,052 名
令和3年 2月26日	輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な 取扱い	テルモ株式会社	看護師	20 名
令和3年 3月5日	輸液ポンプ・シリンジポンプ 認定試験		看護師	18 名
令和3年 3月1日～ 3月22日	医療安全研修 「患者誤認防止 －患者確認 OK ですか？－ 「抗癌剤による被曝と対策」	院内講師 相模朋恵看護師長（医療安全管理者） 薬剤部 前田太一薬剤師	全職員	1,052 名

### 3) 医療安全対策地域連携相互チェック

訪問日	訪問先	当院参加
令和2年10月27日	福井県立病院 → 福井赤十字病院	5名
令和2年11月10日	福井赤十字病院 → 福井県立病院	3名
令和2年12月9日	福井赤十字病院 → 林病院（越前市）	4名

### 4) 福井医療安全研究会参加状況

開催日	内 容	当院参加
令和3年3月4日 (Web開催)	・画像読み落とし、病理結果読み落とし（がん・動脈瘤など）に対する対策と経験した事例 Part2 ・医療安全地域連携相互チェックについて（意見交換）	5名

### 5) 再発防止対策

#### (1) 令和2年度事例検討会・事故調査委員会件数

事例検討会 9件

事故調査委員会 2件

#### (2) 令和2年度医療支援課と連携した事案数 6件

#### (3) 令和2年度ドクタークロス発動件数 27件

#### (4) 令和2年度（7月～3月）RRS 起動件数 31件

#### (5) 令和2年度ワーキング実績

##### ① RRS ワーキング

グループ長	小松副院長
メンバー	山崎消化器センター長、嶋田救急部長、白塚麻酔科部長、榊原循環器内科部副部長、井上看護副部長、高島集中治療室看護師長、原田集中治療室看護係長、相模看護師長（医療安全管理者）、齋藤医療安全推進課長
活動内容	令和2年7月よりRRS本格稼働。ワーキングにてRRS運用マニュアルを作成し、RRT活動時の問題点・課題について検討した。

##### ② ウイルス肝炎拾い上げワーキング

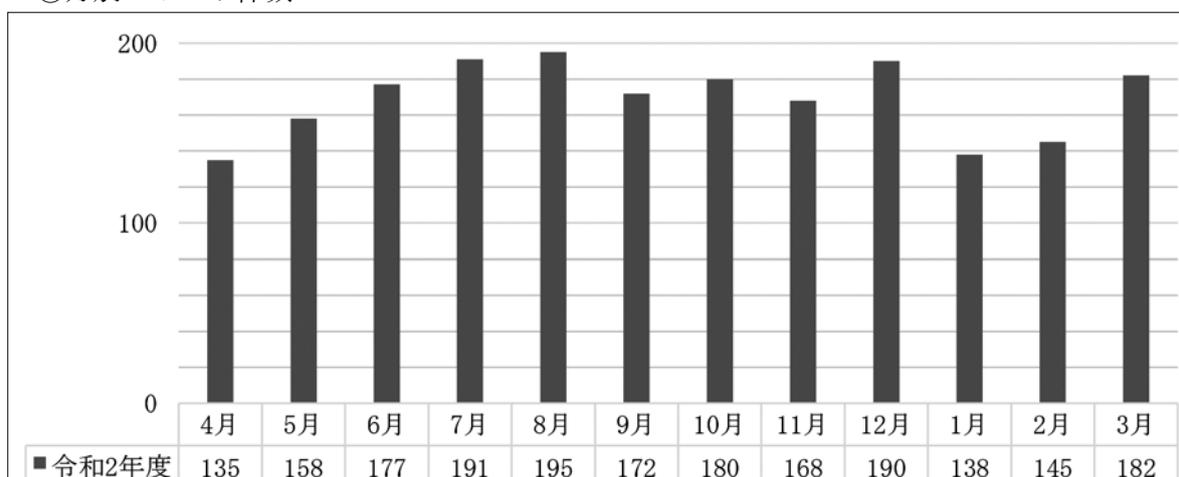
グループ長	小松副院長
メンバー	山崎消化器センター長、道上消化器内科部長、今村検査部長、豊岡検査医監、加藤検査部技師長、勝見検査技師、井上看護副部長、濱野外来看護師長、相模看護師長（医療安全管理者）、齋藤医療安全推進課長
活動内容	当院のウイルス肝炎拾い上げシステムについて検証した。陽性者に対するフォローアップ方法を検討した。

③ 経腸栄養誤接続防止コネクタ導入ワーキング

グループ長	山崎消化器センター長
メンバー	井上看護副部長、西向地域医療連携課看護師長、濱野外来看護師長、重矢臨床工学技術課長、青柳地域医療連携課長、五十嵐管財課用度係長、坪田感染管理認定看護師、相模看護師長（医療安全管理者）、齋藤医療安全推進課長
活動内容	経腸栄養分野に関連する医療用具の誤接続防止を目的とした新規コネクタ導入に向け、規格変更品の使用方法（感染対策）、マニュアル作成、看護師への教育、連携医療機関への周知、切り替え対象品の確認、確保について検討した。

(6) 令和2年度インシデント&アクシデントレポート総報告件数 2,031件

①月別レポート件数



②分類別レポート件数

分類	件数
処方・与薬	782
療養	289
チューブ	212
検査	280
給食・栄養	57
医療機器・医療用具	33
調剤	24
診察・手術・処置	51
情報伝達	32
輸血	7
オカレンス	20
その他	173
合計	1,960

③ インシデント・アクシデントレベル別報告件数

レベル	件数
レベル0	560
レベル1	613
レベル2	579
レベル3a	127
レベル3b	62
レベル4a	3
レベル4b	4
レベル5	2
その他	10
合計	1,960

④ インシデント・アクシデント職種別報告件数

職種	件数
医師	84
看護師・助産師	1,180
薬剤師	423
診療放射線技師	139
理学・作業療法士	10
臨床検査技師	27
臨床工学技士	2
管理栄養士・調理師	44
事務	47
看護助手	3
その他	1
合計	1,960

⑤ 当院入院患者の転倒転落数・転倒転落率

(入院患者の転倒転落率(%) = 入院患者の転倒転落数 / 入院述べ数 × 1000人)

	令和2年度
転倒転落数	263
転倒転落率	1.9

4. 目標

- 1) ファントルくんによるレポート収集の確立、レポート解析方法の検討
- 2) RRS の稼働
- 3) HCV 拾い上げシステムの稼働評価
- 4) HBV 既往感染拾い上げシステムの構築
- 5) 指さし呼称による与薬間違い防止策の構築

# 41. 教育研修推進室

## 1. スタッフ

教育研修推進室長（兼） 副院長	高野 誠一郎
教育研修推進室技監（兼） 外科部長	藤井 秀則（令和3年1月31日をもって退職）
教育研修推進室（兼） 循環器内科副部長	皿澤 克彦
教育研修推進室（兼） 外科副部長	吉羽 秀麿
教育研修推進室（兼） 人事課長	川島 勇一
教育研修推進室（兼） 看護師長	井口 秀人
教育研修推進室（兼） 人事課職員係長	田中 延枝
教育研修推進室（兼） 主事	佐野 智美

## 2. 目 標

- (1) 初期臨床研修医の確保
- (2) 階層別研修・管理職研修の充実

## 3. 業務と実績

### (1) 医師の臨床研修に関わること

#### 1) 令和2年度当院在籍の初期臨床研修医数

- ① 1年目 13名（当院Aプログラム8名・当院Bプログラム2名・京都大学病院Cプログラム1名・福井大学病院Cプログラム2名）
- ② 2年目 9名（当院Aプログラム8名・京都大学病院Bプログラム1名）

#### 2) 次年度初期臨床研修医採用試験応募者数と採用研修医数

採用試験応募者数：19名 当院プログラム採用者数：10名

#### 3) 初期臨床研修医募集活動

下記、研修医募集説明会に参加し、募集活動を行った。

月 日	開 催 名	会 場
6月20日（土）	京都大学医学部研修医募集オンライン説明会	オンライン
8月8日（土）、 8月23日（日）	エムスリー株式会社主催MEGAレジ	オンライン
11月1日（日）	福井県臨床研修病院合同レジナビフェアオンライン福井	オンライン
2月15日（月）	福井県臨床研修病院合同レジナビフェアオンライン北陸	オンライン
2月27日（土）	令和2年度福井県臨床研修病院合同オンライン説明会	福井テレビ

#### 4) 研修医とプログラム責任者、研修医養成プロジェクトメンバーとの面接

研修が適切に行われるように、また心理的サポートのために、研修医とプログラム責任者、研修医養成プロジェクトメンバーの面接を調整し、年2回（プログラム責任者との個人面接）、年1回（メンターとの面接）を実施した。プルーブ面接は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み中止とした。

- 5) 院内医師による講義および研修医症例発表会の企画・実施  
救急部嶋田医師の1回/月の講義を計10回、救急部成山医師の講義1回/月を計9回、および他の院内医師による講義を10回実施した。3月には症例発表会を実施した。

(2) 職員教育研修に関わること

- 1) 赤十字救急法救急員資格取得の推進

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、公募を取り止め。

- 2) 階層別職員研修の計画・実施

実施月日	時 間	対象者	研 修 名	参加者数
4月1日～3日(水～金)	終日	新採用者	新採用者研修	60人
6月27日(土)	9:00～12:00	希望者	働き方改革で求められるタイムマネジメントスキル	中止
7月10～11日(金～土)	13:30 出発	新採用者	新人宿泊研修	中止
9月28～29日(金～火)	17:15～18:15	希望者	虐待への対応	81人
1月28日(木)	17:15～18:00	1年目	1年間の振り返り	38人
2月16日(火)	17:15～18:00	2年目	1年間の振り返り	47人
3月9日(火)	17:15～18:00	3年目	就職後3年間の振り返り	31人

- 3) 管理職研修

「部下育成研修」を予定していたが、外部講師を招いての開催は中止とした。

また、日本病院会主催の中堅職員育成オンライン研修に、下記の4名を派遣した。

梅田美和係長（リハビリテーション科）、小林智子主事（病院経営課）、吉岡見悟主事（人事課）、山崎悠平主事（医事サービス課）

- 4) キャリア開発ラダー

下記のとおり各部職員から申請があり、評価会、監査を経て、教育研修推進委員会にて承認された。

看護部 実践者ラダーⅠ・Ⅱ・Ⅲ（9名・15名・4名）、管理者ラダーⅠ・Ⅱ（2名・0名）

事務部 レベルⅡ：笠原亜紀（医療安全推進課）、小林侑加（総務課）、山本菜未（地域医療連携課）、佐野智美（人事課）

レベルⅠ：酒井愛実（医事サービス課）、伊藤みのり・富田祐理香（地域医療連携課）

薬剤部 レベルⅠ：杉本智理

リハビリテーション科部

レベルⅤ：仲辻良仁

レベルⅣ：山岸耕二、岩佐茂美、山田英二

- 5) 事務職員教育

到達目標にそった研修の計画・実施、1年目～3年目の目標達成状況評価（中間・最終）の実施

- 6) 学会参加への支援：人事課の項参照

#### 4. 次年度の目標

- (1) 初期臨床研修医の確保  
(2) 階層別研修・管理職研修の充実（オンライン研修の積極的導入）

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

## 42. 感 染 管 理 室

### 1. スタッフ

室長（兼）	赤井 雅也	ICD 制度協議会認定インфекションコントロールドクター
副室長（兼）	木下 圭一	ICD 制度協議会認定インфекションコントロールドクター
薬剤師（兼）	寺本 敏清	日本病院薬剤師会認定 感染制御認定薬剤師
臨床検査技師（兼）	平井 舞	
看護係長（兼）	田本 聡子	
看護師	坪田 マキ	日本看護協会認定 感染管理認定看護師
課長（兼）	齋藤 裕一	
主事（兼）	笠原 亜紀	
主事（兼）	増永 浩子	

### 2. 実 績

#### 1) 感染防止対策地域連携

地域連携相互チェック

令和2年7月22日（木） 福井厚生病院 → 福井赤十字病院

令和2年7月30日（木） 福井赤十字病院 → 福井厚生病院

地域連携カンファレンス

日程	参加医療機関	内 容
6月19日	県内の感染防止対策加算1、2を算定している医療機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止対策加算〔1〕〔2〕届出状況について</li> <li>・各職種サーベイランス報告について</li> <li>・新型コロナウイルス感染症について</li> </ul>
7月17日	福井リハビリテーション病院、つくし野病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策の現状報告</li> <li>・3-3病棟擬似症部屋、救急外来、感染症初期対応室見学</li> <li>・質疑応答・情報交換</li> </ul>
9月17日	福井リハビリテーション病院、つくし野病院 木村病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対応の概要について</li> <li>・当院の感染対策とインフルエンザシーズンを見据えての対策・検査体制・行政への連絡・治療・薬剤の入手方法等</li> <li>・質疑応答・情報交換</li> </ul>
11月27日	県内の感染防止対策加算1、2を算定している医療機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年感染防止対策加算〔1〕相互チェック組み合わせについて</li> <li>・各職種サーベイランス結果報告について</li> <li>・新型コロナウイルス感染症について</li> </ul>
令和3年 1月21日	福井リハビリテーション病院、つくし野病院 木村病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染経路別対策の周知と徹底について</li> <li>・新型コロナウイルス感染症とワクチンについて</li> <li>・質疑応答・情報交換</li> </ul>

- 2) 抗菌薬適正使用 (AST)
- ・抗菌薬ラウンド・血培ラウンド  
(新規) 329 症例 (新規+継続) 3,924 症例
  - ・抗菌薬コンサルテーション 585 件数
- 3) サーベイランス
- ・厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業参加：全入院部門、耐性菌部門、SSI 部門、集中治療室部門
  - ・福井 FICNet サーベイランス参加 (検査部門、薬剤部門、看護部門)
- 4) ICT ラウンド
- ・環境ラウンド 年 12 回 (46 部署)
  - ・院内ラウンド 月 4 回
- 5) 全職員対象感染管理研修開催 (年 6 回)
- 第 1 回 6 月 24 日 (水) ~ 7 月 1 日、7 月 3 日 (金)
- 院内感染防止対策研修会  
「ちゃんと知ろう！ちゃんとしよう！新型コロナウイルス感染症と対策」  
講師：ICT 委員 参加者：1,108 名
- 第 2 回 令和 2 年 7 月 31 日 (金)
- 抗菌薬適正使用研修会  
抗真菌薬の適正使用について  
講師：寺本敏清 感染管理室薬剤師 参加者：103 名
- 第 3 回 令和 2 年 10 月 22 日 (木)
- 院内感染防止対策研修会 (地域医療連携セミナー)  
「COVID-19 の治療について」  
講師：赤井 雅也 感染管理室室長 参加者：54 名 (院外 35 名)
- 第 4 回 令和 2 年 11/25 (水) ~ 12/2 (水)
- 院内感染防止対策・抗菌薬適正使用研修会  
「感染対策よくあるダメダメ場面について」「抗菌薬の投与時間について」  
講師：ICT 委員 参加者：1,117 名
- 第 5 回 令和 3 年 2 月 18 日 (金)
- 抗菌薬適正使用研修会  
「今さら聞けない！抗菌薬 TDM ってなに？なんで必要なの？」  
講師：寺本 敏清 感染管理室薬剤師 参加者：26 名
- ※令和2年度中に2回以上院内研修を感染対策のための職員研修を受けた職員数995名(実人数)
- 6) その他の業務
- ・感染症診療コンサルティング業務
  - ・感染症対策コンサルティング業務 (院内・院外)

沿
革
概
要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

- ・職業感染の対応
- ・感染管理システムの導入
- ・他院職員の針刺し事故対応の院内システムの構築
- ・針刺し切創・粘膜曝露事故の対応
- ・皮膚粘膜汚染（業務上災害）者に対する研修  
11/26, 11/30, 12/2 参加者 37 名
- ・渡航用ワクチン接種の院内システムの構築
- ・新型コロナウイルス感染症対策
- ・手指衛生の促進活動
- ・工事のリスクアセスメント評価
- ・一般病棟結核曝露対応
- ・抗菌薬適正使用に係るデータの収集と解析
- ・第3世代経口セフェム抗菌薬が使われているパスの検討
- ・SSI の内服抗菌薬の見直し
- ・アウトブレイク対応

7) 看護部 ICT リンクナース委員会活動

- ・ワードオーディット、手指消毒薬使用量調査、部署サーベイランスの実施、部署勉強会の推進
- 手指衛生直接観察、ワンポイントレクチャーによる教育、手洗いチェッカーによる手指衛生の評価
- 手指衛生のタイミングベストプラクティスの作成

8) 感染管理室だよりの発行

感染管理室便り No. 97 ～ No. 108 発行・電子カルテ掲載

# 43. 災害救護支援室

## 1. スタッフ

災害救護支援室長兼麻酔科部長	田邊 毅
災害救護支援副室長兼麻酔科部長	白塚 秀之
災害救護支援室員兼看護副部長	井上 和子
災害救護支援室員兼中央手術室・滅菌室看護師長	川端 和代
災害救護支援室員兼X線技術課長	西郡 克寛
災害救護支援室員兼集中治療室看護係長	朝田 和枝
災害救護支援室員兼医療社会事業係長	伊藤 心平
災害救護支援室員兼医療社会事業課主事	鈴木 敏弘

## 2. 業 務

- 災害時における医療援護の計画及び実施に関すること
- 原子力災害時における医療救護の実施に関すること
- 災害時診療事業継続計画（BCP）の運用、改定に関すること

## 3. 実 績

### (1) 新型コロナウイルス感染症福井県入院コーディネートセンターへの派遣

活動内容：福井県が設置した福井県入院コーディネートセンターにDMAT隊員（医師、事務職員）を派遣し、感染患者の医療機関の入院・転院調整、入院患者の状態等の聞き取り業務を行った。

活動期間：第1期 令和2年4月13日（月）～令和2年5月24日（日）

第2期 令和2年7月30日（木）～令和2年9月30日（水）

第3期 令和2年11月13日（金）～令和3年度以降も派遣継続中

### (2) 訓練の開催

- 令和2年度福井赤十字病院総合災害対応訓練

開催日：令和2年10月17日（土）

院内参加者数：130名

（院外組織参加者）

日本赤十字社福井県支部：2名

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、日本赤十字社福井県支部以外の院外組織からの参加はなしとした。

訓練内容

災害対策本部設営運営訓練、災害対策本部会議運営訓練、診療統括運営訓練

トリアージエリアでのコロナ疑い患者へのスクリーニング対応

コロナ診療エリア（赤、黄、緑、黒、コメディカル部門、抗原検査エリア）立ち上げ訓練

コロナ診療エリアでの被災傷病者受入訓練

(3) 研修会の実施

①災害時能力育成研修（全6回）※令和2年度は救護班の方のみを対象に実施

日 時	研修内容	講 師	参加者数
第1回 7月8日(水) 17:15~18:30	1)「もし福井市で大地震が起こったら？」 2) 災害時のトリアージⅠ（演習） ・一次トリアージの方法（START法） ・トリアージタグの記載方法	麻酔科医師 白塚 秀之 （日本DMAT隊員） 外科医師 平崎 憲範 （日本DMAT隊員） 集中治療室看護師 城野 佑歌 （日本DMAT隊員）	19名
第2回 7月28日(水) 17:15~18:30	1) 各部署、各エリアのアクションカードについて 2) 災害時における記録と情報の取り扱いについて ・クロノロジー ・組織図作成 ・To Doリスト ・コンタクトリスト	医療安全推進室看護師長 相模 朋恵（日本DMAT隊員・ こころのケア指導員） 2-6病棟看護師長 勝木 美奈子 （こころのケア指導員） 1-6病棟看護師長 寺島 由美 （こころのケア指導員）	16名
第3回 8月31日(月) 17:15~18:30	1) 災害時の情報共有の方法（演習） ・クロノロジーの書き方 ・トランシーバーの使い方	2-6病棟看護師 秋山 奈津江 （日本DMAT隊員） 病院経営課経理係長 木戸 俊介 （日本DMAT隊員）	16名
（医師対象） 9月25日(金) 医局会 18:00~19:00	1) 災害時のトリアージⅡ（演習） ・二次トリアージの方法（PAT法）	外科医師 平崎 憲範 （日本DMAT隊員） 集中治療室看護師 城野 佑歌 （日本DMAT隊員）	10名
第4回 9月29日(火) 17:15~18:30	1) 災害診療記録2018の書き方について 2) 当院の災害時に使用する伝票類の書き方と使用方法について ・レントゲン箋、 ・検査箋 ・輸血箋 等	集中治療室看護係長 朝田 和枝 （日本DMAT隊員） 医事サービス課係長 坪田 泰典 （日本DMAT隊員） 医療社会事業課 鈴木 敏弘 （日本DMAT隊員）	20名

②全職員向け災害研修

研修内容

- ・災害発生時における自主登院基準と持参品、災害時における当院の役割、災害時における初動体制等

開 催 日：令和3年3月1日(月)、2日(火)、3日(水)、4日(木)の9時40分、11時40分、  
12時10分、16時40分、17時10分の1日5回

※計20回開催

参加者数：422名

(4) 各種会議、外部研修会および外部研修会講師

- ・日本赤十字社原子力災害アドバイザー会議

- ①令和2年度第1回原子力災害医療アドバイザー会議（Web開催）  
 日時：令和2年12月11日（金）  
 参加者：災害救護支援室長 田邊 毅  
 災害救護支援室員 西郡 克寛  
 議題：令和3年度以降の原子力災害対応基礎研修会等について
- ②令和2年度第2回原子力災害医療アドバイザー会議（Web開催）  
 日時：令和3年2月17日（水）  
 参加者：災害救護支援室長 田邊 毅  
 災害救護支援室員 西郡 克寛  
 議題：令和3年度以降の原子力災害対応基礎研修会等について

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

令和2年度 救護訓練・研修等参加者一覧

訓 練 DMATとして参加

No.	行事名	日 程	場 所	参加者名			
				医 師	看護師・助産師	主事・業務調整員等	
1	こころのケア(3年 目看護師対象)	6/6(土)	支部		3年目看護師 22名		
2	第1回災害対応能力 育成研修(教育 班研修)	7/8(水)	栄養管理棟3 階講堂	2名	9名	事務職員5名 放射線技師3 名	
3	第2回災害対応能力 育成研修(教育 班研修)	7/28(水)	栄養管理棟3 階講堂	1名	9名	事務職員3名 放射線技師2名	検査技師 1名
4	第3回災害対応能力 育成研修(教育 班研修)	8/31(月)	栄養管理棟3 階講堂	1名	7名	事務職員3名 放射線技師2名	検査技師 1名 リハ技師 2名
5	第4回災害対応能力 育成研修(教育班研 修)	9/25(金)	栄養管理棟3 階講堂	4名			
6	第5回災害対応能力 育成研修(教育 班研修)	9/29(火)	栄養管理棟3 階講堂	4名	12名	事務職員3名 放射線技師1名	
7	福井赤十字病院災 害対応訓練	10/17(土)	福井赤十字病院	40名	42名	事務職員・業 務員32名 放射線技師5名 リハ技師3名	薬剤師4 名 検査技師 4名
8	原子力災害医療派 遣チーム研修	10/31(土)	栄養管理棟3 階講堂	4名	5名	事務職員5名 放射線技師5名	臨床工学 技士2名
9	DMAT 養成研修	11/9～ 11/13	埼玉県和光市 他	成山 美々			
10	福井県総合防災訓 練	11/14(土)	敦賀市	三原 美香	広田 法子 皿澤 和美 羽生 将人	山崎 悠平 柳澤 彰吾	
11	令和2年度第2回 DMAT 局地災害対応 力向上研修 (Web形式)	12/27(日)	日本赤十字社 福井県支部	嶋田 喜充	朝田 和枝 秋山 奈津江		
12	2020年度 都道府 県災害医療コー ディネート研修 Web開催	令和3年2月 に所定のHP にアクセス して参加		中西 泰造			
13	全職員対象災害研 修	3/1～3/4 1日5回計20 回開催	職員棟3階研 修室	68名	214名	事務職員・業 務員90名 コメディカル 61名	

## 44. 危機管理センター

### 1. スタッフ

危機管理センター長 小松 和人

### 2. 業 務

医療安全推進室、感染管理室、災害救護支援室の3室の業務を統括  
医療安全、感染管理、災害時等における危機管理

### 3. 概 要

危機管理センターは令和2年4月1日付で小松 和人副院長を危機管理センター長として創設された。実働部隊として、医療安全推進室、感染管理室、災害救護支援室の3室の室員が充てられている。令和2年度においては、令和元年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対応を中心に業務を行った。

### 4. 実 績

#### 1) 主な対応

##### (1) 新型コロナウイルス感染症における対応

- ・毎週木曜日に新型コロナウイルス感染症に関するブリーフィングを開催
- ・新型コロナ災害対策本部の開催運営（本部設置時に毎週木曜日に開催）
- ・ポストコロナ体制の検討
- ・発熱スクリーニング体制の検討

沿  
革

概  
要

患者数・  
経営状況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

沿 革
概 要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業 績

# 医療社会事業部

# 1. 医療社会事業課

## 1. 災害医療救護活動

日本赤十字社救護規則に基づく災害時等に医療救護活動を行う常備救護班については、日本赤十字社福井県支部管下において当院に8個班が編成されている。令和2年度の班編成は次のとおり。

班	医 師	看護師長	看護師/助産師	主 事	放射線技師	薬剤師
1	相模 昭嘉	中野 敦子	○皿澤 和美 嶋田 梨乃	吉岡 見悟	西郡 克寛	安藤 和也
2	三原 美香	尾崎 こはる	羽生 将人 ○斉藤 みか	山崎 悠平	秋田 直昭	山本 康太
3	山岸 一也	寺島 由美	松浦 有紀 ○圓道加奈子	田中 健	山崎 亮一	谷山 幸信
4	垣鏝 忠	濱野 みゆき	西尾 瑞穂 上田 悠平	西本 哲也	中尾 秀昭	金森 紀幸
5	山岸 弘哉	松田 ゆう子	真柄 昌代 ○大久保 瞳	中谷 真悟	村上 冬樹	細谷 拓史
6	今村 久司	石田 克子	山田 智美 梅田沙耶加	五十嵐 直樹	田賀 陽子	草富 翔太
7	北原 孝宏	広田 法子	嶋田 佳恵 ○長谷川奈津子	枡谷 朋和	村中 舞	前田 太一
8	笠原 美沙子	福田 清美	白谷 志草 北野 貴之	小川 貴司	岩崎 凧彩	坂口 綾

※名前の前の「○」表記は助産師有資格者

## 2. 保健・衛生・医療事業

血液センター、地方自治体等が実施する保健・衛生・医療関係事業への協力状況は次のとおり。

依頼元	血液センター	福井市医師会			合 計
		業務	基本健診	幼児健診	
派遣者	医師	医師	医師	看護師	
平成30年度	24	5	7	7	43
令和元年度	24	5	7	7	43
令和2年度	24	5	8	8	45

## 3. 病院ボランティア活動

福井赤十字病院ボランティアの会が発足した平成12年5月以降、院内の様々な場面で病院ボランティアが活動しており、その活動状況については下表のとおり。

令和2年度は令和2年3月27日（金）から6月26日（金）まで、新型コロナウイルス感染症の影響により活動を休止していたが、感染対策を実施したうえで6月29日（月）より活動を再開した。

ボランティア活動内訳	延活動回数	登録者数
平成30年度	2,900	66
令和元年度	3,065	63
令和2年度	1,670	52

#### 4. スポーツ大会等救護活動

令和2年度は10月から11月にかけて開催された2020全日本高等学校体操競技選抜鯖江大会、第15回全国ブロック選抜U-12体操競技選手権大会に医師、看護師を派遣した。

スポーツ救護内訳	医 師	看護師
平成30年度	7	37
令和元年度	0	0
令和2年度	4	14

沿 革
概 要
患 者 数 ・ 経 営 状 況
委 員 会
ト ピ ッ ク ス
診 療 業 務
医 療 社 会 事 業 部
看 護 部
事 務 部
業 績

## 2. 居宅介護支援事業所

### 1. スタッフ

山崎 雪代（管理者、訪問看護兼） 山崎 奈満（主任介護支援専門員）

### 2. 目 標

#### 1) 安定的な経営基盤の確保

①ケアプラン件数の安定的な確保と維持 ②訪問看護との連携

#### 2) 地域医療・介護との連携を強化

①入退院支援体制の維持・強化

### 3. 業 務

1) 介護保険、その他介護福祉制度についての相談対応、要介護認定者のケアマネジメント業務

2) 院内ディスチャージプランニングと連携した地域支援（在宅医・地域関係機関との連携）

### 4. 実 績

#### 1) 稼働状況（最大 43 件 / 月）

管理者（訪問看護兼）と主任介護支援専門員 1 名（1 時間 / 週、訪問看護補助兼）で対応。件数超過（図 1）しても尚、地域包括支援センター等からの新規利用者をお断りしている状況（5 件 / 年）があった。令和元年度、受け入れ可能な件数が上限に達した以降は、特に終末期の利用者の終了と共に終末期の利用者を受け入れ、訪問看護と連携しながら対応している。また、癌の終末期の特徴から要介護 1～2 の利用者が多いが重症度は高くさらに慢性疾患の対象は年々重症化しており（図 2）、入退院の支援（表 1）やケアプラン作成などの業務が多い。

併設の訪問看護ステーションと連携した実件数は 26 件（37.7%）で、うち 10 件が癌末期、その他呼吸不全、心不全、腎疾患で特別な医療的管理が必要な利用者、認知症、難病であった。

終了者 20 件のうち 65.0%が永眠されており、入院・入所者 6 名は認知症であった。退院支援担当 MSW との連携で、昨年度より癌末期の療養者でも比較的早期に相談を受けることが多く、相談開始から 2 ヶ月以内での終了は 4 件（前年度 4 件）であった。

#### 2) 年間実件数：69 件（前年度 65 件）

#### 3) 新規受入れ 25 件（前年度 24 件）

内 訳：癌疾患 12 件（うち癌末期 8 件）

非癌 13 件（認知症 6 件、呼吸器系 3 件、内科系 3 件等）

依頼元：当院 MSW18 件（前年度 10 件）、包括支援センター 3 件（前年度 9 件）

他機関 2 件（前年度 5 件）、その他（家族） 2 件

#### 4) 終了者数：20 件（前年度 21 件）

内 訳：死亡 13 件 癌末期 8 件（うち在宅看取り 4 件、病院看取り 4 件）

非癌末期 5 件（うち在宅看取り 0 件、病院看取り 5 件）

入所 6 件

他事業所に変更（小規模多機能事業所） 1 件

沿  
革

概  
要

患者数・  
経営状況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

図1 年度別月別稼働状況（件）

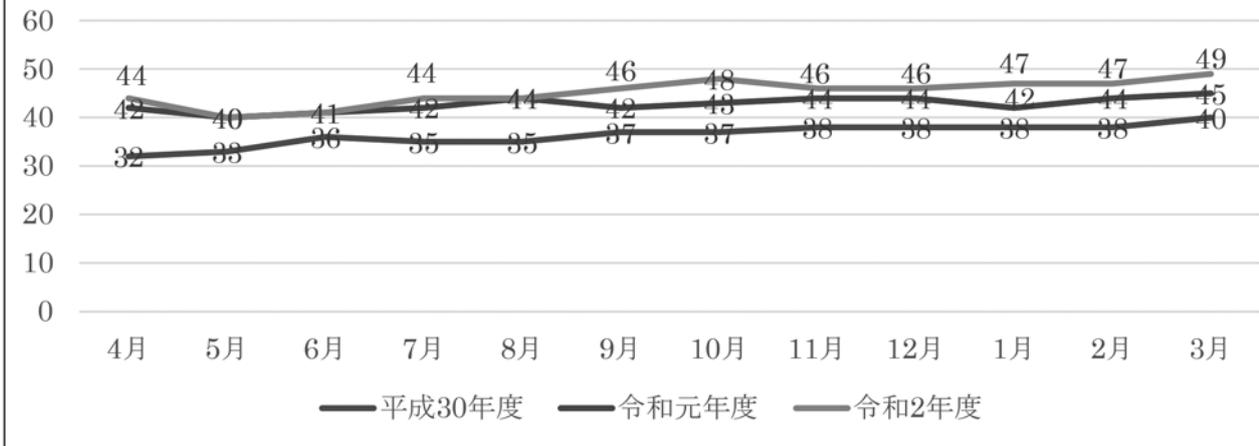


図2 年度別介護度別延件数

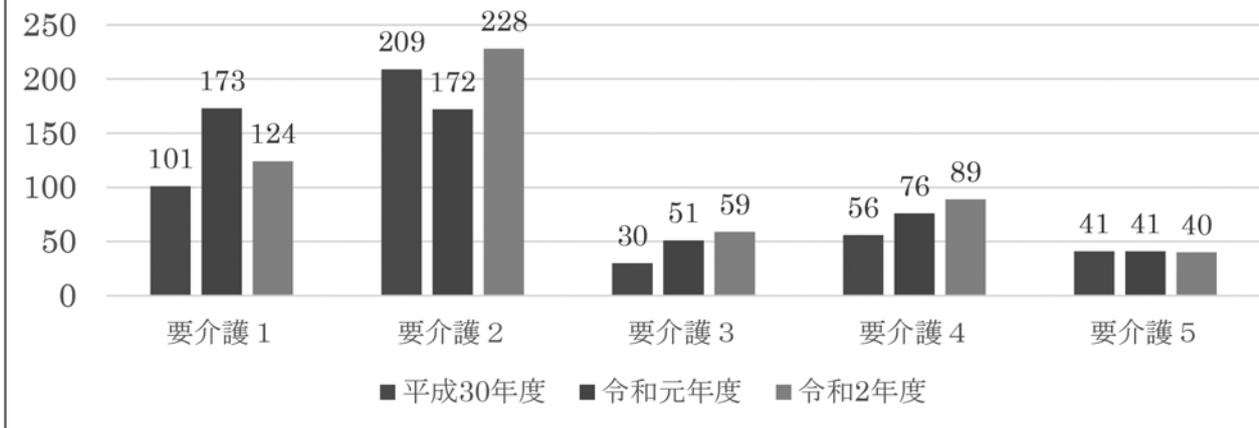


表1 居宅介護支援事業にかかる加算の年度別述べ件数

加算項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
初回加算	14	13	8
退院退所加算Ⅰ～Ⅲ	20	22	30
入院時情報連携加算Ⅰ～Ⅱ	25	30	38
緊急時カンファレンス加算	0	0	0
ターミナルケアマネジメント加算	2	3	0

# 3. 訪問看護ステーション

## 1. スタッフ

看護師長：山崎 雪代（兼）

看護師：森石智子 前田照美 伊東志子 白崎江利子 大石恵 吉村明子（時短勤務）  
藤川未穂 岡美紀 西柳美奈（9月～）

パート看護師：江戸絹代（～6月）

看護補助者：渡辺和子 山崎奈満（兼） 事務：黒田憲治（兼）

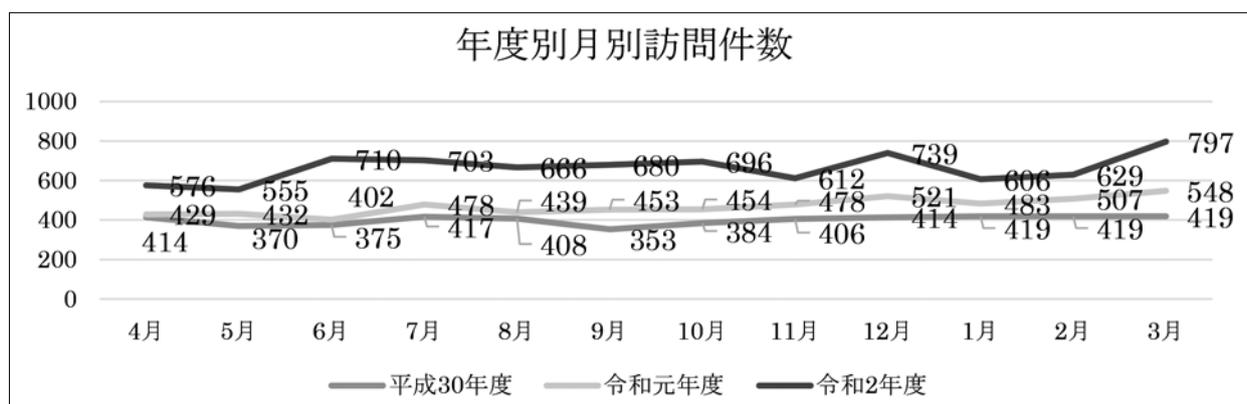
## 2. 目標

- 1) 在宅療養に必要な社会資源を理解し、利用者・家族の望む療養支援ができる。
- 2) 経営の改善を目指す。

## 3. 業務内容および実績

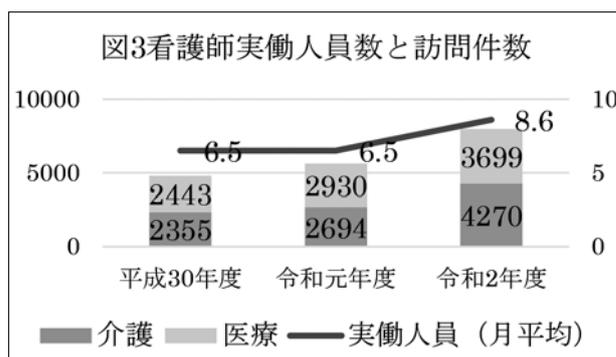
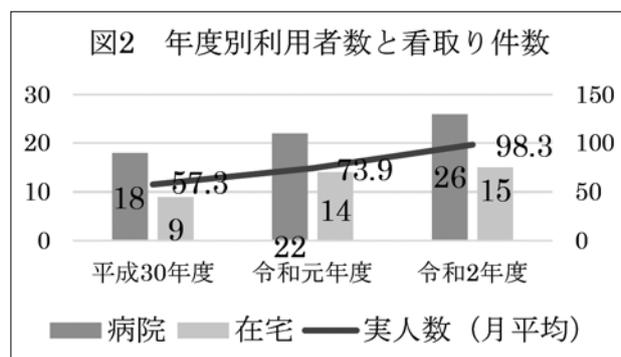
### 1) 訪問実績

過去数年、訪問看護師の入退職による教育期間があったことや、長期休暇を必要とする看護師が年間1～2名生じ、マンパワーを維持できなかった。令和元年末～令和2年に計3名訪問看護経験者を採用したことにより、時短勤務者、長期研修受講者がいても訪問件数を安定して確保でき黒字となった（図1）。



さらに、年間の在宅看取り件数を確保することができ（図2）、その他の算定要件を満たしていることから令和3年度より医療保険機能強化加算Ⅱの算定ができることとなった。

訪問件数は7,969件（前年比+2,345件）、実人員一人当たりの1日の訪問件数は3.8件（前年度比+0.8件）。利用者の実人数は176人/年（前年度128人）で、一人暮らしや老々介護、認々介護により内服管理や生活そのものが困難な慢性疾患の利用者が増え、医療保険と介護保険の対象者割合はほぼ半数である（図3）。ケアマネジャーや包括支援センターと密に連携し対応している。

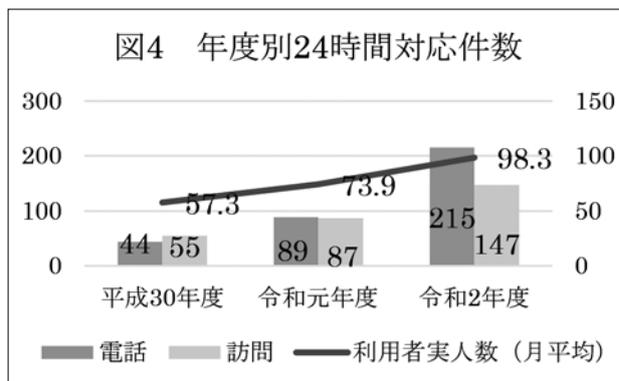


新規利用者数：新規利用者数＝88件（前年度67件）、終了者数＝66件（前年度51件）

終了理由：死亡42件（癌29件 非癌13件）軽快：5件 入院：10件 入所：8件 転居：1件

## 2) 電話相談・緊急訪問実績

令和元年12月以降、終末期や重症管理が必要な利用者を確保し、令和2年度1月当たり90～120名を担当し83～109人に訪問看護を提供している（図3）。重度な利用者が増えるに従い電話相談・緊急訪問件数も倍増した（図4）。臨時訪問のうち、癌・非癌の末期や難病利用者で52.4%を占め、その他の疾患では27.2%が重症管理を必要とする利用者であった。終末期や重症管理の対応の他に、老老介護や認認介護、独居などの環境のため訪問する件数も倍に増えている。



## 3) カンファレンス実績：176件（前年度152件）

退院前カンファレンス86件 サービス担当者会議67件 入院時等カンファレンス14件  
コロナ禍で制限がある中、医療・介護連携に必要なカンファレンスに参加した。特に退院前カンファレンスは開催がない場合もあったが前年より16件増えている。

## 4) 看護補助者による実績

業務にあたり、看護補助者の同行で安全な看護の提供に努めている。また、補助者の同行で看護師の訪問枠が広がり、訪問件数の増加につながっている。平成30年の介護報酬、医療報酬同時改定により、介護報酬でも補助者の同行に加算がつき、安定的に補助者の訪問件数が増えたが、対象者の死亡や入所による利用終了により、令和2年度は同行訪問が減少している（表1）。同行訪問の必要な利用者に対し、同一時刻の訪問看護を提供しているため、今後スケジュール調整が課題である。

表3 看護補助者同行訪問実績

訪問月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年度	23	20	32	22	27	39	38	33	35	38	40	36	383
平成29年度	40	25	43	37	41	35	40	39	53	49	27	42	471
平成30年度	44	47	51	51	53	44	52	50	33	46	43	47	561
令和元年度	51	47	54	51	43	41	49	61	53	42	37	44	573
令和2年度	41	34	35	45	44	44	18	18	20	15	26	25	365

## 5) 訪問看護指示医の内訳

赤十字医師：78名（46.7%） 赤十字以外の医師：89名（53.3%）

## 6) 院内の連携

院内の委員会：DCP（退院支援）リンクナース委員会、緩和ケアリンクナース委員会 各1回/月  
院内退院支援係との話し合い1回/週実施。外来（神経内科・呼吸器科）との話し合い1回/月

## 4. 地域医療連携課

### ●地域医療連携係

#### 1. スタッフ

地域医療連携担当副院長	高野 誠一郎
課長	青柳 芳重
係長	森岡 恵代
主事	6名
派遣職員	1名

#### 2. 目標

決め細やかな対応と院内調整により他機関の満足度をあげる

#### 3. 業務

- 1) 地域における病診・病病連携に関すること。
- 2) 地域医療支援病院の運営に関すること。
- 3) 紹介および退院支援の情報支援に関すること。
- 4) 高度医療機器の共同利用に関すること。
- 5) 開放型病床の運営に関すること。
- 6) 地域保険医療機関への広報および渉外活動並びに情報交換等に関すること。
- 7) その他地域医療連携の推進に関すること。

#### 4. 実績

##### 1) 登録医数の推移（基準日：年度末）（人）

	令和2年度
医科	346
歯科	60
合計	406

##### 2) 開放型病床 平均利用率（%）

	令和2年度
平均利用率	34.3

##### 3) 紹介率（%）

令和2年度
71.8

## 4) 逆紹介率 (%)

令和2年度
104.0

## 5) 診療予約件数の推移 (件)

	令和2年度
合計	9,060
月平均	755
稼動日1日平均	49.5

## 6) 研修会開催の実績および参加人数 (別添)

	研修会名	開催日時	内容	院外	院内	計
	病診連携医会		新型コロナウイルス感染症発生のため開催中止			
	病診連携医会冬季懇談会		新型コロナウイルス感染症発生のため開催中止			
	地域医療連携交流会 (福井・坂井地区)		新型コロナウイルス感染症発生のため開催中止			
	地域医療連携交流会 (丹南地区)		新型コロナウイルス感染症発生のため開催中止			
	連携担当者情報交換会		新型コロナウイルス感染症発生のため開催中止			
	在宅担当者と退院支援実務担当者の情報交換会		新型コロナウイルス感染症発生のため開催中止			
1	イブニングセミナー (歯科)	令和2年9月30日(水) 19:00～19:45 栄養管理棟3階 講堂	「顎骨骨髓炎と口腔ケア」 歯科部長 山田 和人	11	6	17
2	イブニングセミナー (感染対策)	令和2年10月22日(木) 19:00～20:10 栄養管理棟3階 講堂	「当院における第一波から第二波の体制とインフルエンザシーズンを見据えて」 感染管理認定看護師 坪田 マキ 臨床検査技師 上坂 舞 呼吸器センター長兼感染管理室長 赤井 雅也 座長：おかもと内科クリニック 院長 岡本 清也 先生	35	19	54
3	イブニングセミナー (産婦人科)	令和2年11月11日(水) 19:00～20:10 管理棟2階 多目的室	「なぜヒトだけが月経に悩まされるのか～進化からみた月経異常と、その最新治療」 地域周産期母子医療センター長兼産婦人科部長 田嶋 公久 座長：加藤内科・婦人科クリニック 服部 克成 先生 【ディスカッション】 ふくのレディースクリニック 院長 福野 直孝 先生 加藤内科・婦人科クリニック 服部 克成 先生 地域周産期母子医療センター長兼産婦人科部長 田嶋 公久	6	12	18

4	イブニングセミナー (大腸癌)	令和3年1月20日(水) 19:00～20:00	「大腸癌に対する化学療法と鏡視下手術」 外科医師 平崎 憲範 座長：ひらい内科消化器科 副院長永井 勝也 先生	4	4	8
5	イブニングセミナー (脳神経外科)	令和3年3月4日(木) 19:00～20:00	「脳卒中診療 UPDATE ～急性期脳梗塞 治療の新たな時代を迎えて～」 脳神経外科部長 西村 真樹 座長：医療法人林病院 院長 千葉 幸夫 先生	12	18	30
6	地域がん診療研修会 (放射線)	令和2年10月16日(金) 19:00～20:00 栄養管理棟3階 講堂	「福井赤十字病院の放射線治療で できること」 放射線科部長 坂本 匡人・医師 新谷 堯 診療放射線技師 大西 一幸 がん放射線療法看護認定看護師 太田 妙子	6	24	30
7	地域がん診療研修会 (早期診断)	令和3年2月22日(月) 19:00～20:00 栄養管理棟3階 講堂	「大腸ESDに対する当院の対応」 消化器内科 副部長 松永 心祐	4	15	19
8	地域がん診療研修会 (緩和)	令和3年3月18日(木) 19:00～20:00 栄養管理棟3階 講堂	緩和ケアにおけるリハビリテーショ ンの重要性と実際 外科部長 吉羽 秀麿 理学療法士 向島 啓介・言語聴覚 士 岩佐 茂美 作業療法士 浜田 友紀	4	21	25
9	がん看護セミナー	令和2年9月18日(金) 17:30～18:45 管理棟2階 多目的室	第1部「放射線治療Q&A」 がん放射線療法看護認定看護師 太田 妙子 第2部「放射線療法を併用する化学 療法について」 がん化学療法看護認定看護師 広田 法子	2	22	24
10	”	令和2年11月20日 (金) 17:30～18:45 栄養管理棟3階 講堂	第1部「オピオイドスイッチの基礎 知識～安全に注射剤へ移行するた めのポイント～」 がん性疼痛看護認定看護師 寺井 智子 第2部「意思決定支援について～人 生最終段階の話し合いについて事 例を通して考える～」 緩和ケア認定看護師 辻 かおり	7	46	53
11	”	令和3年3月19日(金) 17:30～18:45 管理棟2階 多目的室	第1部「医療者ができるアピラン スケア～外見変化への対応～」 緩和ケア認定看護師 田坂 和代 第2部「緩和ストーマという考え方」 皮膚・排泄ケア認定看護師 上口 美恵	1	14	15
12	”	令和3年3月25日(木) 17:30～18:45 管理棟2階 多目的室	第1部「がん患者さんへの食事支援」 摂食・嚥下障害看護認定看護師 板 岡 利恵第2部「遺伝性乳がん卵巣 がん症候群診療時の看護」乳がん 看護認定看護師	0	13	13
	計			92	214	306

今年度開催回数 12回

地域医療支援病院指定要件 12回

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

## 4-(1). 地域医療連携課

### ●入院前支援係・退院支援係

#### 1. スタッフ数

入院前支援係

専従看護師 1名 他看護師 4名 事務職 2名

退院支援係

専従看護師 1名

病棟専任 MSW 8名（うち 3名 退院支援係専任者）

がん相談員（専任）認知症サポートチーム（専任） MSW 1名

#### 2. 目標

- 1) 入退院支援センターを中心に、多職種協働の切れ目のない入退院支援を実施する。
- 2) 地域との連携を強化し、在宅療養と地域包括ケアシステムに貢献する。

#### 3. 実績

##### 1) 入院前支援実績

入退院支援センターにおいて、8月より栄養士が参加し入院時支援加算1体制に移行した。11月より薬剤師が参加。入院時支援加算対象は1359件/年だった。

##### 2) 退院支援実績

全入院患者の66.6%に退院を困難とする要因が抽出され、5,140人/年（43.8%）に入退院支援を実施した。

##### 3) 地域との連携状況

退院前カンファレンスで、院外多職種（かかりつけ医、看護師、リハビリ療法士、薬剤師、栄養士、訪問看護ステーション、介護支援専門員等）を含む退院時共同指導が実施できた件数は211件/年。三者以上の多機関共同指導31件/年だった。

##### 4) 医療と介護の連携状況

COVID19感染症の影響により入院時の介護連携の機会が減少した。介護支援連携指導カンファレンスは387件/年と減少した。

##### 5) 転帰先別平均在院日数

全退院患者の在宅復帰率は96.0%、平均在院日数は12.8日であった。退院支援実施患者の在宅復帰率は92.2%、平均在院日数は17.3日であった。退院支援の調整先は、自宅80.9%、サービス付高齢者住宅0.5%、居宅系介護施設等2.1%、回復期リハビリテーション病床3.7%、地域包括ケア病床2.6%、医療療養病床0.7%、介護療養病床0.1%、介護老人保健施設0.5%、有床診療所1.2%だった。介護医療院の利用は無かった。

##### 6) 地域連携パス運用実績

脳卒中地域連携パスはメディカルネットで運用している。大腿骨は113件/年、脳卒中は、169件/年であった。

## 4-(2). 地域医療連携課:相談支援係(医療ソーシャルワーカー)

### 1. スタッフ

社会福祉士 10 名

### 2. 業務・実績

令和2年度 医療ソーシャルワーカーの相談業務は、新規ケース5,644件であった。うち、入院4,965件、外来679件。新規ケースの紹介経路は院内の看護師が全体の93.1%だった。(表1)

表1 新規ケースの紹介経路

紹介経路/年	令和2年度
本人	32
家族・知人	33
医師	16
看護師	5,259
他院内職員	124
院外関係機関	180
その他	0
合計	5,644

相談援助調整内容は、在宅介護・地域生活に関することが10,894件で最も多く、次に転院に関することが6,068件と多い。(表2)

表2 相談援助調整内容(のべ件数)

援助内容	令和2年度
家族関係に関すること	11
在宅介護・地域生活に関すること	10,894
療養生活に関すること	232
経済的問題に関すること	147
就労・職場環境に関すること	8
教育環境・就学に関すること	0
虐待・暴力・人権に関わること	10
受診・受療に関すること	309
転院に関すること	6,068
他施設利用に関すること	579
心理・情緒的問題に関すること	2
他福祉関係法利用に関すること	199
その他	35
合計	18,494

医療ソーシャルワーカーの業務の傾向として次のことが挙げられる。

- 1) 入院患者の退院支援の仕組みが定着しているため、看護師からの紹介依頼が多いと考えられる。
- 2) 医療ソーシャルワーカーが、退院支援を担当しているため、「在宅介護・地域生活に関すること」「転院相談に関すること」の相談件数が多いと考えられる。

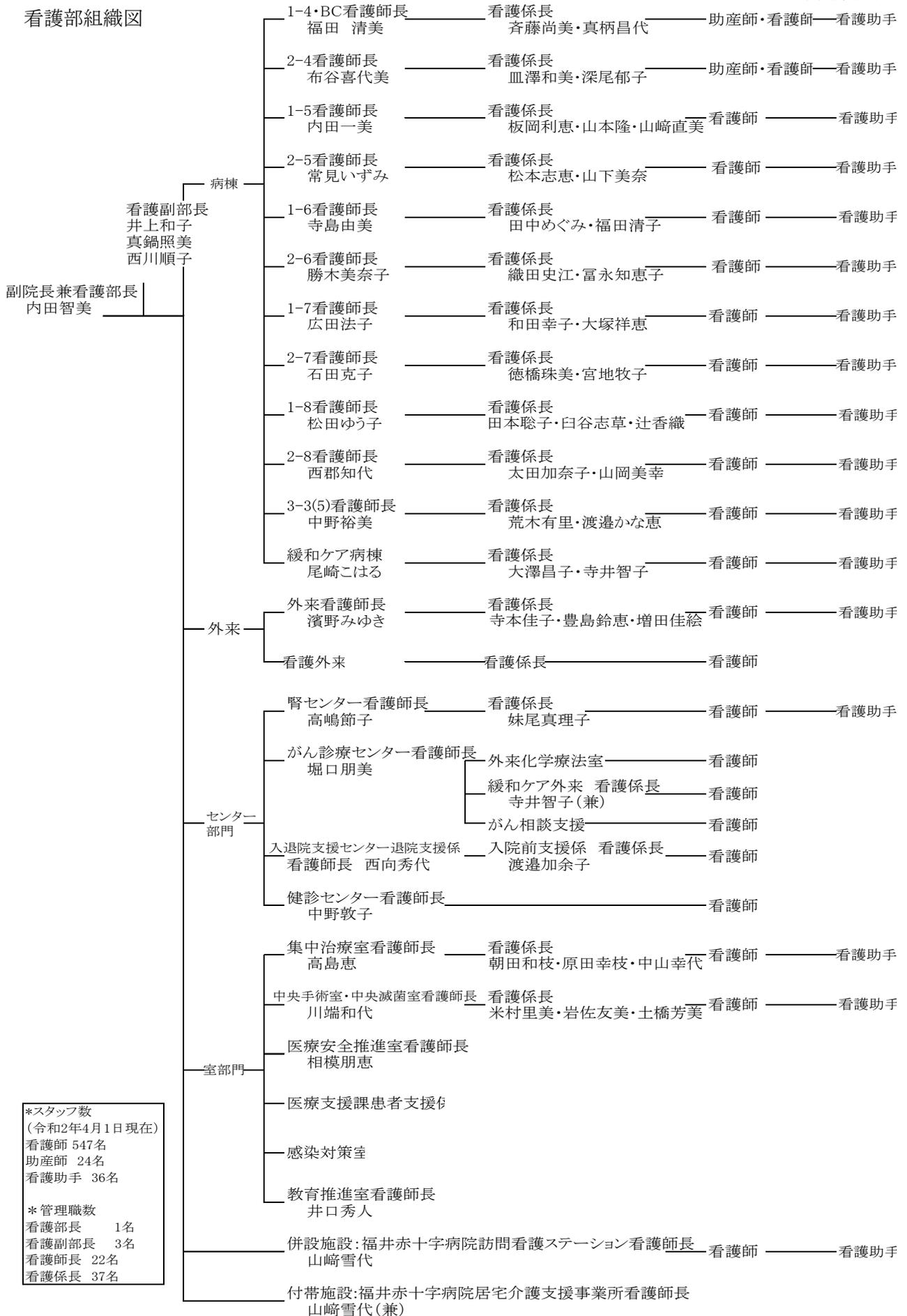
沿 革
概 要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
<b>医療社会事業部</b>
看護部
事務部
業 績

# 看 護 部

# 1. スタッフ

## 看護部組織図

令和2年4月1日



沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

令和2年度実習指導者  
(看護部内任命)

令和2年4月1日

部 署	実習指導者	実習指導者
1の4	斉藤尚美	真柄昌代
1の5	平本有紀江	板岡利恵
1の6	木本佳芳里	田中めぐみ
1の7	和田幸子	大塚祥恵
1の8	山田智美	戸田みゆ希
2の4	井上めぐみ	松本志恵
2の5	山下美奈	高島恵
2の6	小林三佳	織田史江
2の7	宮本久美子	二谷恵
2の8	伊東美由紀	太田加奈子
3の3 (5)	野坂仁美	荒木有里
緩和ケア	大澤昌子	大濱由紀子
手術室	土橋芳美	菅谷佳子
集中治療室	長谷川淳子	小玉理恵
腎センター	塚本ひとみ	丸岡真紀
訪問看護ステーション	伊東志子	白崎江利子

令和2年度看護部リスクマネージャー

担当部署	リスクマネージャー
1の4・BC、2の4	皿澤和美
1の5、2の5	常見いずみ
1の6、2の6	織田史江
1の7、2の7	和田幸子
1の8、2の8	西郡知代
3の3、PCU、腎センター	尾崎こはる
手術室、集中治療室	岩佐友美
外来	濱野みゆき
看護部	井上和子

## 2. 方針及び目標

令和2年4月1日

### 《看護部の理念》

赤十字の基本理念である人道に基づき、一人ひとりを大切にし、その人らしい生活ができるよう支援します。

多様化する社会の変化に応じ、人々の生活やニーズも変化していきます。

疾病や障害からくる苦痛を軽減し、一人ひとりの健康レベルに合わせたライフスタイルを創造できるよう支援します。

そして、その人とのかかわりは個人の尊厳と権利を尊重し、一人ひとりを大切にします。

また、実践に当たっては、赤十字の7原則（人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性）を行動の指針とします。

### 《基本方針》

1. 私たちは、一人ひとりの人権を守り、意思を尊重します。
2. 私たちは、安全で安楽な、やさしい看護を提供します。
3. 私たちは、専門職業人としての自覚を持ち、自己研鑽に努めます。
4. 私たちは、地域の保健・医療・福祉と連携し、継続した看護を行います。  
(※平成24年1月1日より病院理念が見直されたことを受け、看護部理念・基本方針を変更した)

### 《令和2年度年度看護部目標》

1. 体と心にやさしい看護を提供する  
DPNSを基盤に
  - ①安全な看護の実践
  - ②考える看護の実践
  - ③接遇の推進
2. 職員満足度を上げる
  - ④WLB推進
  - ⑤看護職員の負担感軽減
  - ⑥やりがいを実感できる職場風土
3. 健全経営に貢献する
  - ⑦適切な病床コントロール
  - ⑧適正な人員配置と活用
  - ⑨診療報酬改訂に適切に対応
4. チーム医療の推進（専門職業人としての役割を果たす）

沿  
革

概  
要

患者数  
経営状況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ッ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績





### 3. 実績

#### 令和2年度 看護師長会審議事項

テーマ	メンバー	目的・方法等	結果及び考察
DPNS運用のための体制構築	福田・内田 勝木・西郡 常見	目的：DPNS運用の体制を構築する 方法： ①DPNSの看護基準を改正する。 ②DPNS看護基準の評価表を修正する ③DPNSの成果の評価表を作成する。	今回、DPNSの看護基準を改正した。又、「DPNS看護基準の評価表」と「DPNSの評価」の2種類の評価表を検討し、作成した。DPNSは、社会状況や職場環境、業務内容等の要因から、年々変化している。そのため、DPNSを、経年的に評価することが必要である。今後の課題は①改正した看護基準の浸透②全部署におけるDPNSの評価の実施である。次年度審議を継続予定。
倫理的思考を具現化する身体抑制カンファレンスを目指して	布谷・高島 石田・中野 <sup>敦</sup>	目的：身体抑制カンファレンスを倫理的視点で実施する。 方法： ①身体抑制の現状調査 ②身体抑制パスの中からの身体抑制カンファレンスの質的監査 ③身体抑制マニュアルの改訂 ④身体抑制に関する教育（パワーポイント視聴）	身体抑制実施率は減少傾向であり、経年的な取り組みの効果が出ているが、質的監査の結果、倫理的視点となる「身体抑制3原則」に関する記録は少なく「代替案」においても個別性は乏しかった。今回、身体抑制マニュアルを改訂し、各部署での身体抑制に関する教育を実施したが、パワーポイントの視聴のみに終わり、十分な効果は出ていない。今後①身体抑制カンファレンスシート <sup>の</sup> 修正とテンプレート化②カンファレンスの質的監査の継続③身体抑制削減に向けた倫理教育の継続が課題である。次年度、審議継続予定。
看護師長支援の仕組み作り 新任看護師長を対象としたプリセプター制度の導入	高嶋・堀口 山崎・尾崎 井口	目的：プリセプター制度を導入し、新任看護師長の看護管理実践における不安や困難感の軽減を図る 方法： ①プリセプター制度を作成し、新任1年目、2年目の看護師長対象に実施する。 ②プリセプター制度の評価を実施する。	面接、プリセプター・プリセプティ会の実践結果より、プリセプターが継続的に関わることで、プリセプティである看護師長の不安の軽減に繋がった。次年度は、看護部担当副部長が統括しプリセプター制度を継続していく。更に師長支援として、トークミーティングを2回実施し、話し合いが効果的であったとする意見が多かった。看護師長支援については、次年度も審議を継続予定。

看護助手の労務管理	松田・広田 中野 <sup>裕</sup>	目的：看護師長が看護助手の労務管理を適正に行う。 方法： ①看護助手業務の現状把握を行う。 ②看護助手業務マニュアルを改訂する。 ③マニュアル内容を周知する。 ④看護助手の教育計画を修正する。	今回、看護助手業務の現状調査を実施し、各部署における看護助手の業務内容が明らかになった。又、日本看護協会のガイドラインを元に、看護助手業務マニュアルの改訂及び看護助手の教育計画の見直しを実施した。 看護助手業務の内容は、看護師が正しく認識し適切な指示を出すことが必要である。看護助手マニュアルの看護師への周知が今後の課題である。
入退院センターと外来・病棟との連携にむけて一入退院支援に関する業務の整理と効率化一 <b>※看護師長・看護係長合同審議</b>	【看護師長】 寺島・濱野 相模・西向 川端 【看護係長】 増田・渡辺 <sup>加</sup> 富永・寺本 豊島・徳橋	目的：入退院関連の調査を実施し、看護部門の部署間連携上の課題を抽出、業務整理と標準化による入退院支援関連業務の効率化に取り組む。 方法： ①移行希望する入退院支援業務に関する病棟看護師への意識調査を実施する。 ②24時間以内入院時の定例業務の重複と移行業務量調査を実施する。 ③外来用患者情報用紙に関する重複業務の調査を実施する。	今回の調査の結果、病棟が希望するセンターへの移行業務は、書類確認受け取りとCSセット申込書受け取り、各種スクリーニング、入院療養計画書の作成業務等であった。又、予定入院患者1人当たり29.01分の重複業務が発生していることが明らかになった。外来患者情報用紙の重複内容については、センターと外来記載を区分し、R3年3月～実施している。調査結果から、約0.5+α人看護師を確保し、全スクリーニング（入退院診療計画除く）をセンター実施することで、センターでの業務の集約化と病棟業務の効率化を図ることが出来ることが示唆された。今後の課題として、外来での入退院業務の標準化を中心に、審議を継続していく予定である。

令和2年度 看護係長会審議事項

審議事項	メンバー	目的・方法	評価
質的監査者を育て、看護実践の見える看護記録が書ける	太田・田中 大澤・山下	目標：質的監査ができるスタッフを育成し、質的監査後のフィードバックの確認方法を統一する。 方法： ①質的監査を行う看護師を2名選出する。 ②質的監査後のフィードバックの確認方法を統一する。	活動の結果、質的監査が実施できるスタッフを、各部署係長と業務委員を含めた監査員を3名以上（最大6名）の計60名を育成できた。質的監査結果のフィードバックを統一したものにするために、全体の方法を見直し周知したが、監査の結果に関する指導や修正の確認は未だ不十分である。今後の課題は、①基準に沿った監査員の育成を継続②統一したフィードバック方法の徹底③育成された監査員のフォローアップの3つである。

沿革

概要

患者数経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

沿革概要	日々のチームリーダーの育成に向けた取り組み	大塚・板岡渡邊 <sup>か</sup> ・田本	<p>目的：各部署において日々のチームリーダーの育成を行う。</p> <p>方法：</p> <p>① 4～11年目までの看護師を対象に、日々のチームリーダーに関するアンケート調査を実施</p> <p>② 調査結果から、各部署の課題を抽出し対策を実施する。</p> <p>③ ①と同じアンケート調査を実施し、対策前後で比較を行う。</p>	<p>アンケート調査の結果、チームリーダーの役割の中で低い項目は、「チームリーダーとしての目標設定」「チーム内のメンバーの業務量把握」であった。高い項目は「問題発生時の師長、デイリーダーへの相談」「困った場合の他への相談」であった。各部署で対策を立案し実施した項目で、後の調査で上昇が見られた部署は6部署、低下した部署は6部署、前後変化がなかった部署は2部署であった。対策実施後の結果が低く、各部署に追加調査を実施したところ、(対策が)あまり出来なかったと答えた部署の割合は46.1%であった。今後の課題として、チームリーダーに必要な視野を持つことやマネジメント能力向上に向けた教育を継続していくことが必要であることが示唆された。</p>
委員会	係長のファシリテーターとしてのスキルアップを図り、効果が実感できるリフレクションを展開する	中山・深尾織田・米村	<p>目的：係長のファシリテーターとしてのスキルアップを図り、効果が実感できるリフレクションが各部署で展開できる。</p> <p>方法：</p> <p>① 毎月1回以上係長（ファシリテーター担当）が入ったリフレクションの場を設定する。</p> <p>② 各部署用のアンケートを実施し、係り手評価、聞き手評価を集計する。</p>	<p>毎月の係長が入ったリフレクションの実施率は後半の時期で90%台を維持することが出来た。リフレクションの効果について、各部署のアンケート結果を実施した結果、5点満点中、語り手評価3.9以上、聞き手4.0以上となり目標値を達成することが出来た。</p> <p>今後の課題として、①係長のファシリテーター育成のための演習の継続②ファシリテーションスキル向上のためのサポート体制の構築や評価システム導入の検討③リフレクションの定着にむけた各部署での定期開催の継続がある。次年度も審議を継続予定。</p>
トピックス				
診療業務				
医療社会事業部				
看護部	身体抑制カンファレンスの定着～カンファレンス実施率の向上及び代替案を看護実践に繋げるための取り組み	真柄・宮地山崎	<p>目標：身体抑制開始前・継続時・解除時のカンファレンスを確実に実施する。</p> <p>方法：</p> <p>① 身体抑制カンファレンスの監査体制を構築する。</p> <p>② 身体抑制を行っている患者の代替案が看護計画を立案するよう各部署係長からスタッフ指導する。</p> <p>③ 実際のカンファレンス実施率、代替案の看護計画立案について、対策前後で調査する。</p>	<p>開始時の実施率は開始前：86⇒88.8%継続時：95%⇒99.0%、解除時：92%⇒90.2%であり、高い実施率となった。しかし、身体抑制の代替案が看護計画に反映されているかを調査した結果、対策前：13.8%⇒対策後37.7%であり、低い結果となった。その要因として、監査後のスタッフへのフィードバックを部署の係長に一任していたことが考えられる</p> <p>今後の課題として①(次年度作成予定の)新身体抑制カンファレンスシートを用いたカンファレンスの実施②身体抑制カンファレンスの監査数の拡大と監査結果のフィードバック③個別性のある代替案の計画立案の定着を図るがある。次年度も審議を継続予定。</p>
事務部				
業績				

## 令和2年度 専門・認定看護師活動実績

### 【専門看護師】

災害看護専門：朝田和枝

実践 相談 調整 倫理調整	防災リンクナース委員会による火災を想定した机上訓練の実施と推進 災害時対応能力育成研修会（6回/年）開催（災害ワーキンググループ教育班） 災害救護支援室コーディネーター班での活動、災害対応訓練（10月17日土曜日）実施 福井県看護協会 災害看護委員会活動 2020年度もっとクロス！赤十字フェスティバル 専門認定看護師コーナ実行委員として活動（COVID-19感染症の影響にて開催中止）
教育	医師会看護専門学校 講義 1件、福井県内研修会 3件、県外研修会 3件、
研究	9/28～10/11 日本災害看護学会第22回年次大会 シンポジウムでパネリストとして発表1件

がん看護：富永知恵子

実践・調整 等	がん患者指導管理料1,2にかかる面談：71件 ニーズ陽性患者やフォロー面談：45件、調整・相談/コンサルテーション：16/0件
教育・研究 等	がん化学療法看護院内認定看護師フォローアップ研修実施 院内レベル教育講師（新人） 福井県立大学看護学科 非常勤講師 学部生講義担当 福井大学大学院医学系研究科 非常勤講師 看護協会 出前講座 担当2件

### 【認定看護師】

認知症看護：山本 隆

実践	もの忘れサポート看護外来件数：35件、認知症ケアチーム介入患者総数：263件、院内デイケア参加者総数：延264件、病棟勉強会：1件、外来勉強会：1件、認知症ケアに関する研修会、看護助手への認知症研修会（2回）
指導	院内認定「認知症看護コース」育成
相談	電話相談28件
院外活動	認知症対応力向上研修会講師：2件、認定看護師派遣事業：1件
研究発表	日本看護学会参加

透析看護：高嶋 節子 丸岡 真紀

実践	腎移植後面談 111件、CKD教育指導 9件、療法選択指導 30件 PD関連 3件、腎移植前面談 2件
指導	院内部署勉強会3件、感染管理認定看護師教育 2件
相談	スタッフ相談 2件 患者家族から相談 1件
院外活動	出前講座講師3件
研究発表	なし

沿革概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

糖尿病看護：清水 雅代

実践	糖尿病療養支援外来（療養指導 1454 件）、化学療法支援外来 糖尿病リンクナース委員会開催（毎月第 2 月曜日） 糖尿病サポート部会チーム会活動 1 回 / 2 か月（偶数月第 2 火曜日） 福井糖尿病療養指導士・日本糖尿病療養指導士資格更新の支援活動
指導	院内レベル教育 3 回（レベル I、II、III）
相談	治療や生活調整等に関する相談 476 件
院外活動	福井糖尿病看護研究会世話人、福井糖尿病療養指導研究会世話人

がん性疼痛看護：寺井智子

実践	緩和ケアチーム専任看護師業務（緩和ケア外来・チームラウンド・カンファレンス）、 緩和ケア研修会補助
指導	院内研修講師 4 件
相談	59 件
院外活動	福井県がん診療連携協議会研修部会幹事
研究発表	北陸緩和医療研究会（共同研究）

訪問看護：山崎 雪代

実践	がん 50 例（うちがん末期 38 例）、難病 13 例、心疾患 21 例、認知症 12 例等、計 167 例 / 年自部署で担当し、訪問やカンファレンス参加。
相談	事業運営、多職種連携、退院支援指導に関する相談 14 件（院外からの相談含）、CM、MSW からの相談
指導	新規 ST・看護大学等の実習指導。緩和ケア・入退院支援リンクナース・認知症院内認定看護師指導。入退院カンファレンスでの退院支援の指導 60 件
院外活動	福井県地域医療構想調整会議、高齢者福祉・介護保険事業検討会議、福井県医師会・福井県歯科医師会・福井市医師会主催の会議、院外講師等（福井大学看護学科在宅看護論、認知症認定看護師教育課程看護協会認定看護師派遣事業、看護協会退院支援研修）新型コロナウイルス感染症看護ケア検討事業等

沿革

概要

患者数  
経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

## 慢性呼吸器疾患看護：秋山 奈津江

実践	看護外来、禁煙外来（毎水曜日）151名 退院後訪問 1件 呼吸ケアサポートチームラウンド（毎水曜日）
指導	院内外講師 7件 （酸素療法、人工呼吸器・NPPV管理、吸引、ハイフローセラピーなど） 慢性呼吸器疾患看護認定看護師研修生実習指導
相談	118件（酸素療法・在宅酸素療法・ネーザルハイフロー・NPPV・人工呼吸器管理・引・気管切開管理、体位ドレナージ・カフ圧管理・ウイニングなど）
院外活動	認定看護師教育課程教員会委員 福井県呼吸ケア研究会役員 福井県呼吸ケアネットワーク（呼吸器分野に関する研修の企画・運営） 福井県在宅酸素療法患者会（運営協力）
研究発表	なし

## 皮膚・排泄ケア：上口美恵、水島典子

実践	褥瘡ハイリスク患者ケア加算 1564件、褥瘡ラウンド（毎週）、褥瘡予防ラウンド（毎週）、 排尿チームラウンド件 315件、 予防フットケア外来 477件、創傷・ストーマ外来 234件、 病棟：褥瘡 733件、ストーマ 178件、創傷 457件
指導	院内講師 8件
相談	褥瘡 70件、ストーマ 130件、創傷 100件、がんカンセリング 323件
院外活動	講師 2件
研究発表	なし

## 救急看護：朝田和枝

実践	院内トリアージ件数 6,842件（加算取得率 29.1%）、
指導	基礎教育Ⅰ・Ⅱ（救急看護Ⅰ・Ⅱ）、院内認定看護師（院内トリアージナース）養成コース（看護師6人）開催、AHA BLSコース・AHA ACLSコース開催、ICLSコースインストラクターとして参加（各々年1回開催）、
相談	相談件数2件、救急搬送受け入れ困難事例（77件）検討、救急外来で起こった問題事例の検討、院内調整困難事例の検討、救急カート薬品見直し

沿革概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

乳がん看護：吉川朋子

実践	がん相談 382 件、がんサポート外来 645 件、リンパ浮腫外来 131 件 マンマカンファレンス（火曜日）、がん診療センターカンファレンス（月 1 回）、HBOC カンファレンス 2 件
指導	がん看護セミナー「遺伝性乳がん卵巣がん症候群診療時の看護」、病棟勉強会「乳が ん看護」
相談	31 件（副作用対策、リンパ浮腫ケア、患者対応等）
院外活動	福井県がん相談員ワーキング委員
研究発表	なし

緩和ケア：田坂 和代

実践	緩和ケアチーム専任看護師業務（緩和ケア外来・チームラウンド・カンファレンス） ELNEC-J 研修ファシリテーター、緩和ケア研修会補助
指導	院内教育講師 3 件
相談	院外研修 1 件

がん化学療法看護：広田法子 大塚祥恵 富永知恵子

実践	がん患者指導管理料イ・ロ算定に係る IC 同席、面談 58 件 外来化学療法室応援
指導	がん診療センター勉強会、病棟勉強会、院内認定看護師フォローアップ研修実施
相談	院内相談 40 件
院外活動	福井県がん化学療法認定看護師会活動、看護協会出前講座
研究発表	なし

手術看護：常見 いずみ 岩佐 友美

実践	看護外来 85 件
指導	病棟勉強会 1 件
院外活動	第 37 回 日本手術看護学会北陸地区大会 看護研究発表 第 34 回 日本手術看護学会年次大会 教育セミナー担当

がん放射線療法看護：太田妙子

実践	放射線治療室専従看護師として放射線治療室での看護実践 治療計画 CT 時の支援 186 件、治療説明・患者指導 376 件 治療説明同席 24 件
指導	院内研修講師 1 件、2-5 病棟看護師への皮膚炎処置指導
相談	スタッフからの相談 2 件（放射線治療後の皮膚炎ケア、食道粘膜炎のケア）
院外活動	日本放射線腫瘍学会 web 参加
研究発表	なし

感染管理：真鍋照美、坪田マキ

実践	新型コロナウイルス対応、その他感染管理業務
指導	全職員対象感染対策研修会、看護部レベル教育、業者対象研修 石川県立看護大学感染管理認定看護師教育過程実習生指導 等
相談	新型コロナウイルス関連多数
院外活動	福井県看護協会出前講座、認定看護師等派遣事業 新型コロナウイルス関連会議、意見交換会等出席

集中ケア：原田 幸枝・小川 佳代

実践	早期リハビリ算定数：1087件、RRS 起動件数：31件（R2年7月より稼働）、RST チーム ラウンド：34件、RST 看護師ラウンド：91件
指導	院内レベル教育フィジカルアセスメント講師、AHA BLS・ACLS インストラクター、院 内各病棟での急変時対応シミュレーション研修アドバイザー
相談	人工呼吸器装着中、気管切開中の呼吸管理、酸素吸入管理、呼吸管理全般、全身状態 不安定な患者の対応に対する相談
院外活動	福井県看護協会救急看護委員会

摂食・嚥下障害看護：板岡 利恵

実践	嚥下カンファレンス毎週水曜日実施 摂食・嚥下看護外来 30件 がんサポート外来 35件
指導	がん診療センター勉強会・レベル研修Ⅰ・認知症院内認定講師
相談	口腔ケア相談
院外活動	なし
研究発表	なし

慢性心不全看護：田中 めぐみ

実践	心不全看護外来 70件 / 年
指導	なし
相談	他病棟での ASV 装着患者の看護についての相談 1件
院外活動	11/6 福井県看護協会 出前講座 光陽生協病院
研究発表	なし

脳卒中リハビリテーション看護：井口 秀人

実践	看護外来 44件（脳卒中教室含む）、排尿ケアラウンド 315回
指導	院内講師 15件 院外講師 2件（つくし野病院、脳卒中治療連携 Web セミナー）
相談	脳卒中患者対応等
院外活動	福井県脳卒中連携協議会実務担当者
研究発表	なし

沿  
革

概  
要

患  
者  
数  
・  
経  
営  
状  
況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ッ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

## 令和2年度 看護管理課題解決実践研修A

目的：自部署の業務上の問題を明確にし、解決できる。

部署	氏名	テーマ
1-4病棟	齊藤尚美	リフレクションの定着
1-5病棟	山本隆	せん妄ハイリスク患者に対する予防的看護実践の定着
1-6病棟	福田清子	看護記録の質向上のための取り組み
1-7病棟	和田幸子	クリーンエリアの前室を有効活用するための取り組み
1-8病棟	臼谷志草	申し送りとDPNSの見直し
2-4病棟	皿澤和美	マザークラス運営の見直し
2-5病棟	松本志恵	スタッフ間で看護を語れる職場風土作り
2-8病棟	山岡美幸	管理の視点で係長業務を実践する ～勤務表作成及び病床管理業務～
3-3(5)病棟	荒木有里	コロナ病棟勤務に関する問題点を明らかにし、業務改善を行う
PCU	寺井智子	緩和ケアスクリーニングシステム再構築による緩和ケアチーム活性化の試み
ICU	原田幸枝	安全な看護を提供するためのICU看護師の教育システムの構築
ICU	朝田和枝	2021年福井県ドクターヘリの単独導入に向けた当院のドクターヘリによる救急搬送体制の構築を目指して
OP室	岩佐友美	全身麻酔で手術を受ける患者の入院前介入件増加にむけた取り組み
OP室	土橋芳美	16時以降の時間をスタッフが有効活用できる
HD	妹尾真理子	当院における生体腎移植体制整備に向けた取り組み
医療支援課	辻香織	患者支援係が対応する相談や苦情内容の実態と課題

## 令和2年度 看護管理課題解決実践研修 B

目的：組織における自部署の課題を明確にし、看護管理実践を展開する

部署	氏名	テーマ
1-4病棟	福田清美	職務満足度を上げる取り組み
1-5病棟	内田一美	自部署で入院から退院までを担える入退院支援の実践
1-6病棟	寺島由美	自律した看護師育成のための取り組み ～業務変革を通して～
1-7病棟	広田法子	経験年数に差がなく医療チームの一員としての自覚を持ち看護が提供できる ～スタッフ参加型の血液カンファレンスの検討を通して～
1-8病棟	松田ゆう子	中堅看護師の成長を考える ～リーダーとしての資質の育成を試みる～
2-4病棟	布谷喜代美	DPNS方式の業務の見直しと外来との連携強化による業務の明確化と時間外削減
2-5病棟	常見いずみ	口腔ケアの充実を目指すシステム作り
2-6病棟	勝木美奈子	選ばれる病棟を目指して
2-7病棟	石田克子	認知症ラウンドを受ける病棟の体制を整える
2-8病棟	西郡知代	2-8式DPNSの在り方 -安全・効率・マインドの視点での検証-
3-3(5)病棟	中野裕美	COVID-19患者を受け入れる病棟スタッフ管理に対する取り組み

PCU	尾崎こはる	緩和ケアにおける「寄り添う看護」を目指して －業務体制のマニュアル化の検討－
ICU	高島恵	新型コロナウイルス患者受け入れ体制の構築
OP	川端和代	手術室における COVID-19 感染症受け入れ手順書の作成とスタッフ指導
外来	濱野みゆき	新しい外来応援体制の検討
腎センター	高嶋節子	「腎代替療法指導管理料」新設における運用のシステムの構築
訪問	山崎雪代	本院における特定行為の実施方法の検討
退院支援	西向秀代	早期の経営再建に貢献するための入退院支援センターの取り組み －コロナショックからのリバイバル（再起）を目指して－
医療安全	相模朋恵	インシデント・アクシデントレポートシステム整備と質の高いレポート 集積を目指す
教育推進室	井口秀人	新人看護師臨床研修体制の再構築
健診センター	中野敦子	健診センターにおける特定保健指導実施率向上への取り組み
がん診療 センター	堀口朋美	がん患者が安心して治療・療養できるようがんに関するマニュアルを整 備する

令和2年度 長期研修受講者

研修名	受講者
福井県看護協会実習指導者研修	羽生夏樹 渡辺えり子
福井県看護協会ファーストレベル研修	板岡利恵 寺井智子 深尾郁子

令和2年度 専門看護師数

分野	人数	分野	人数	2分野 計2名
① 災害看護	1	② がん看護	1	

令和2年度 認定看護師数

分野	人数	分野	人数	分野	人数
① 感染管理	2	⑧ 救急看護	1	⑮ 嚥下・摂食障害	1
② 皮膚・排泄ケア	2	⑨ 糖尿病看護	1	⑯ 認知症看護	1
③ がん化学療法	3	⑩ 透析療法看護	2	⑰ 訪問看護	1
④ がん性疼痛	2	⑪ 慢性心不全看護	1	⑱ がん放射線療法看護	1
⑤ 乳がん看護	1	⑫ 慢性呼吸器疾患看護	1	18分野 計26名	
⑥ 緩和ケア	1	⑬ 手術看護	2	認定看護管理者5名	
⑦ 重症集中ケア	2	⑭ 脳卒中リハビリ	1		

## 令和2年度 看護部教育委員会主催 継続教育 予定一覧

対象Ⅰ＝新卒看護職員全員必修

対象Ⅱ－2必修＝卒後2年目全員必修 対象Ⅱ－3必修＝卒後3年目全員必修

A・Bとあるものは、2つのグループに分けて実施する（グループ分けはその都度指示する）

月	日	曜日	対象	研修名	時間	開始	終了	講師	人数	参加率(%)	院外	
4	3	金	I	看護倫理Ⅰ（倫理綱領）	1.0	12:30	13:30	井上和子看護副部長	25	100		
	7	火	I	看護過程Ⅰ（情報の整理と記述）	7.0	8:30	17:00	太田加奈子係長	25	100		
	8	水	I	入院時の看護	3.0	8:30	11:30	井口秀人師長	25	100		
				褥瘡予防	1.5	12:20	13:45	水島典子認定看護師	25	100	2	
				配膳車の操作法	0.25	13:50	14:05	栄養課	25	100		
		I A	移乗・移動の介助	1.0	14:25	15:35	井口秀人師長	25	100			
		I B	移乗・移動の介助	1.0	15:50	17:00	井口秀人師長					
		I B	嚥下障害のある人への食事介助	1.0	14:25	15:35	板岡利恵認定看護師	25	100	2		
		I A	嚥下障害のある人への食事介助	1.0	15:50	17:00	板岡利恵認定看護師					
	13	月	I	医療安全Ⅰ①医療安全の基本	1.5	13:00	14:30	相模朋恵師長	25	100	2	
				血糖測定とインスリン注射	2.5	14:40	17:00	清水雅代認定看護師	25	100		
	16	木	I A	導尿・膀胱留置カテーテル法	3.5	8:30	12:00	井口秀人師長	25	100	2	
			I B	導尿・膀胱留置カテーテル法	3.5	13:30	17:00	井口秀人師長		100		
	20	月	I A	採血・皮下・筋肉・点滴注射	7.0	8:30	17:00	井口秀人師長	25	100	2	
	21	火	I B	採血・皮下・筋肉・点滴注射	7.0	8:30	17:00	井口秀人師長		100		
	30	木	I A	技術試験：採血・皮下・筋肉・点滴	3.5	8:30	12:00	井口秀人師長	25	100		
			I B	技術試験：採血・皮下・筋肉・点滴	3.5	13:30	17:00	井口秀人師長		100		
	5	15	金	I	輸血と看護	1.0	8:30	9:30	和田幸子係長	25	100	2
					与薬と看護	1.0	9:40	10:40	中野裕美師長	25	100	2
					気管吸引	1.0	10:50	12:10	秋山奈津江認定看護師	25	100	2
エンゼルケア					1.5	13:00	15:30	辻かおり認定看護師	25	100		
1ヶ月の振り返り					1.5	15:40	17:00	井口秀人師長	25	100		
22		金	選択	救護員フォローアップ研修①	1.5	17:15	18:45	井上和子副部長他	18	100		
28	木	I	輸液ポンプ・シリンジポンプ	4.0	13:00	17:00	テルモ・井口秀人師長	25	100	2		
6	6	土	Ⅱ-3必修	災害看護論Ⅱ	7.0	8:30	17:00	福井県支部/松田ゆう子師長他	29	100		
	11	木	I A	救急看護Ⅰ（一次救命処置）	3.5	8:30	12:00	朝田和枝認定看護師	25	100		
			I B	救急看護Ⅰ（一次救命処置）	3.5	13:30	17:00					朝田和枝認定看護師
	16	火	プリセプター	プリセプター研修①	1.5	15:30	17:00	井口秀人師長	25	100		
	18	木	プリセプター	プリセプター研修①	1.5	15:30	17:00	井口秀人師長	同上	同上		
	19	金	I	パスシステム	2.0	12:30	14:20	山下美奈係長	25	100		
				重症度、医療・看護必要度	2.0	14:30	16:30	井口秀人師長	25	100		
	25	木	I	標準予防策	2.0	13:00	14:55	坪田マキ認定看護師	25	100	2	
				2.0	15:05	17:00	富永知恵子認定看護師	25	100	2		
30	火	I	薬剤使用上の注意点	1.0	13:30	14:30	渋谷貞一薬剤師	25	100	2		
			筆記試験（研修終了認定）	1.0	14:40	15:30	井口秀人師長	25	100			

月	日	曜日	対象	研修名	時間	開始	終了	講師	人数	参加率 (%)	院外
6	30	火	I	心電図モニターアラーム対応	0.5	15:30	15:50	田中めぐみ認定看護師	25	100	
				アンケート、研修修了後について	0.5	15:50	16:30	井口秀人師長	25	100	
				研修生・師長と研修修了面接	0.5	16:30	17:00	各部署師長	25	100	
7	10	金	I	修了書授与式		13:30～		看護部・教育研修推進室	25	100	
	14	火	II-3 必修	感染管理Ⅱ：職業感染予防	2.0	8:30	10:20	真鍋照美認定看護師	28	100	
				プリセプター入門	2.0	10:30	12:20	井口秀人師長	28	100	
				フィジカルアセスメント	4.0	13:10	17:00	原田幸枝認定看護師	28	100	
	17	金	選択	救護員フォローアップ研修②	1.5	17:15	18:45	井上和子副部長他	23	100	
	21	火	選択	看護のための薬の知識①血糖降下薬	1.0	17:15	18:30	笠川益夫薬剤師	28	100	
29	水	選択	グローバルヘルス	1.0	17:15	18:15	井上和子副部長他	74	100		
8	6	木	II-2 A 必修	看護倫理Ⅱ	2.0	8:30	10:30	井口秀人師長	36	100	
				事例研究	1.0	10:40	12:00	中野裕美師長	36	100	
				救急看護研修オリエンテーション	0.5	12:10	12:40	井口秀人師長	36	100	
				救急看護Ⅱ	3.5	13:30	17:00	朝田和枝認定看護師	36	100	
	6	木	II-2 B 必修	救急看護Ⅱ	3.5	8:30	12:00	朝田和枝認定看護師	同上	同上	
				事例研究	1.0	12:50	14:10	中野裕美師長			
				看護倫理Ⅱ	2.0	14:20	16:20	井口秀人師長			
				救急看護研修オリエンテーション	1.5	16:30	17:00	井口秀人師長			
	7	金	管理者	救護活動時の看護管理	2.0	17:00	19:00	川端和代師長他	52		
	21	金	I	赤十字概論	7.0	8:30	17:00	福井県支部/内田一美師長	25	100	
27	木	I A	留置針の挿入留置/アナフィラキシー対応	3.5	8:30	12:00	井口秀人師長	25	100		
			留置針の挿入留置/アナフィラキシー対応	3.5	13:30	17:00	井口秀人師長				
9	4	金	I A	試験：留置針/メンタルヘルス	3.5	8:30	12:00	井口秀人師長	25	100	
	I B	試験：留置針/メンタルヘルス	3.5	13:30	17:00	井口秀人師長	100				
	7	月	プリセプター	プリセプター研修②	1.5	15:30	17:00	井口秀人師長	25	100	
	14	月	プリセプター	プリセプター研修②	1.5	15:30	17:00	井口秀人師長			
	17	木	II-3 必修	看護過程Ⅱ	4.0	8:30	12:20	内田一美師長			29
リーダーの役割				4.0	13:10	17:00	尾崎こはる師長	26	100		
25	金	選択	救護員フォローアップ研修③	1.5	17:15	18:45	井上和子副部長他	23	100		
10	6	火	I	看護師としての私～辛さを乗り越える～	1.5	15:30	17:00	井口秀人師長	25	100	
	9	金	II-2 必修	感染管理Ⅰ：病原体と感染経路別対策	2.0	8:30	10:10	坪田マキ認定看護師	35	100	
				褥瘡ケア	2.0	10:20	12:40	水島典子認定看護師	36	100	
				医療安全Ⅱ ヒューマンエラー	3.5	13:40	17:00	相模朋恵師長	36	100	
10	火	II-2 必修	災害看護論Ⅰ	7.0	8:30	17:00	川端和代師長他・支部職員	39	100		
11	12	木	I A	医療安全Ⅰ②多重課題への対応	3.5	8:30	12:00	相模朋恵師長・井口秀人師長	24	96	
			I B	医療安全Ⅰ②多重課題への対応	3.5	13:30	17:00	相模朋恵師長・井口秀人師長			
17	火	選択	看護のための薬の知識②抗血栓薬	1.25	17:15	18:30	大森丈薬剤師	48	100		
27	金	選択	救護員フォローアップ研修④	1.5	17:15	18:45	井上和子副部長他	23	100		

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

沿革概要要患者数経営状況委員会トピックス診療業務医療社会事業部看護部事務部業績

月	日	曜日	対象	研修名	時間	開始	終了	講師	人数	参加率(%)	院外
12	8	火	I	認知症の人とのコミュニケーション	1.0	13:30	14:20	山本隆 認定看護師	24	96	2
				チームメンバーの役割	2.5	14:30	17:00	真柄昌代 係長	24	96	2
	11	金	プリセプター	プリセプター研修③	1.5	15:30	17:00	井口秀人 師長	24	96	
	14	月	プリセプター	プリセプター研修③	1.5	15:30	17:00	井口秀人 師長			
1	7	木	選択	院内看護学会発表の進め方	1.25	17:15	18:30	西向秀代 師長・中野裕美 師長	12		
	16	土	全員	院内看護研究学会	3.5	8:30	12:00	西向秀代 師長・中野裕美 師長	DVD視聴参加		
	22	金	選択	救護員フォローアップ研修⑤	1.5	17:15	18:45	井上和子 副部長他	20	100	
	28	木	I	キャリアを考える①(ラダーI)	1.5	15:30	17:00	井上和子 副部長他	23	92	
2	16	火	II-2 必修	キャリアを考える②	1.0	14:00	15:00	井上和子 副部長他	36	100	
				糖尿病看護I (基礎編)	2.0	15:10	17:00	清水雅代 認定看護師	36	100	
	19	金	選択	看護研究	1.5	17:00	18:30	小川 係長 (医療情報課)	24	100	
3	9	火	II-3 必修	キャリアを考える③(ラダーII)	1.5	14:30	15:50	井上和子 副部長他	24	96	
				糖尿病看護II (応用編)	1.0	16:00	17:00	清水雅代 認定看護師	24	96	

### 令和2年度 赤十字講習講師実績

#### 【救急法講習】

月 日	依 頼 先	講 師		
10月25日	浅水公民館	秋山奈津江		
11月 6日	福井赤十字病院	山田 智美 駒 香代子	野坂 仁美	秋山奈津江
11月13日	啓新高校	山田 智美		
11月14日	福井赤十字病院	山田 智美	西川 順子	
11月20日	啓新高校	斉藤 尚美	東 峻介	
11月27日	啓新高校	野路 友美		
1 月22日	啓新高校	斉藤 尚美	嶋田 佳恵	

# 事 務 部

# 1. 総務課

## 1. スタッフ

課長	杉田 博之
係長	近藤 ひろみ
主事	2名
警備員	1名
嘱託業務員	1名
パート事務作業員	1名

## 2. 目標

院内各部門と調整し、まとめる力を高める。

## 3. 業務

- (1) 公印に関すること
- (2) 文書の管理に関すること
- (3) 規則、規程等の制定および改廃に関すること
- (4) 宿直および日直に関すること
- (5) 霊安室の管理および屍体の取り扱いに関すること
- (6) 病院管理会議に関すること
- (7) 部長会議に関すること
- (8) 車両の運行に関すること
- (9) 儀式及び弔慰に関すること
- (10) 病院の危機管理に関すること
- (11) 情報の総括的管理に関すること
- (12) その他、他課に属しないこと

## 4. 実績

【会議】	代表部長会議	11回
	定例医局会	10回
【委員会】	救急医療検討委員会	2回
	救急作業部会	12回
	集中治療室運営委員会	1回
	集中治療室作業部会	10回
	中央手術室・滅菌室運営委員会	1回
	中央手術室・滅菌室作業部会	10回
	倫理委員会	3回
	倫理コンサルテーションチーム	17回
	臓器移植委員会	1回

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

【行事】 令和2年8月 剖検者追悼式  
令和3年1月 仕事始め式

【施設基準】 (令和3年3月31日現在) (医科・歯科含む)

基本診療科 36件

特掲診療科 129件

【施設見学】 受入件数 2件

【選挙不在者投票】 3件

## 2. 人 事 課

### 1. スタッフ

課長 川島 勇一  
 係長 人事・給与係長 上野 陽子  
       職員係長 田中 延枝  
 主事 4名

### 2. 目 標

働き方改革を具体的に推進する

### 3. 業 務

- 1) 臨床研修に関すること
- 2) 職員の教育、研修に関すること
- 3) 職員の労務管理および福利厚生に関すること
- 4) 職員の人事および給与に関すること

### 4. 実 績

#### 1) 学会出張取扱い件数

年度 職種別	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
医 師	257	285	26
薬 剤 師	9	11	0
臨床検査技師	22	19	1
診療放射線技師	16	19	2
理学療法士	15	13	1
作業療法士	4	5	0
言語聴覚士	3	2	0
心理判定員	0	0	0
管理栄養士	5	4	1
視能訓練士	3	4	0
臨床工学技士	4	3	0
歯科衛生士	0	0	0
看護師・助産師	118	120	13
事 務	15	12	0
社会福祉士	2	1	0
業 務 員	0	0	0
	473	498	44

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により中止・延期となる学会が多く取扱い件数が減少した。

2) 研修出張取扱い件数

職種別	年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
医 師		82	47	4
薬 剤 師		8	7	2
臨 床 検 査 技 師		16	10	0
診 療 放 射 線 技 師		28	15	1
理 学 療 法 士		6	13	5
作 業 療 法 士		4	6	4
言 語 聴 覚 士		1	0	1
心 理 判 定 員		0	0	0
管 理 栄 養 士		4	3	1
視 能 訓 練 士		1	0	0
臨 床 工 学 技 士		5	6	1
歯 科 衛 生 士		0	0	0
看 護 師 ・ 助 産 師		43	36	15
事 務		70	58	5
社 会 福 祉 士		5	1	8
業 務 員		1	3	1
		274	205	48

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により中止・延期となる研修会が多く取扱い件数が減少した。

3) 臨床研修およびその他教育研修について 教育研修推進室を参照

4) 職員会議の開催

令和 2 年 11 月 12 日開催の代議員会議において、各部門より提出された 9 議題（部門別提案数：医師 1・医療技術職 3・看護職 4・事務業務 1）に対して担当部署からの回答が提示された。

全ての議題において了承されたため、職員会議開催には至らなかった。

5) 第 12 回中部ブロック赤十字病院スポーツ大会

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止

6) 第 20 回全国赤十字病（産）院スポーツ大会

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止

# 3. 病院経営課

## 1. スタッフ

課長	川瀬 公一郎
経理係長	木戸 俊介
出納係長(兼)	川瀬 公一郎
企画・広報係長(兼)	島野 佳永
主事	4名
嘱託主事	1名

## 2. 目標

病院経営課・地域医療構想に向けた健全経営、的確な意思決定の支援を行う

## 3. 業務

- (1) 財務管理に関すること
- (2) 収入及び支出に関すること
- (3) 債権管理に関すること
- (4) 現金及び有価証券の出納及び保管に関すること
- (5) 出納用公印の管理に関すること
- (6) 租税に関すること
- (7) 病院運営の総合企画及び調整に関すること
- (8) 病院の広報に関すること
- (9) 経営分析・改善計画の立案及びその実施に関すること
- (10) 病院の各種統計の収集、作成及び照会事項の回答報告に関すること

## 4. 中期ビジョン(令和元年度～令和3年度)

「地域に寄り添う良質な医療を提供する病院になる」

重点戦略	具体的行動
地域医療・介護との連携を強化し、切れ目のない入退院支援を行う	・地域医療機関との連携強化 ・入退院支援体制の整備
質の高い優れた医療を提供する	・がん医療の推進 ・高度専門医療の推進 ・救急医療の提供、充実 ・病院情報システムの円滑な整備
安全・安心な医療を提供する	・リスクマネジメントの強化 ・災害への対応強化
良い人材を育成・確保し、患者・職員満足度を上げる	・働き方改革の推進 ・計画的な人材確保 ・効果的な人材育成 ・職員満足度・意欲度の向上 ・患者満足度の向上

健全な安定した病院経営体制を構築する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医業収益の確保</li> <li>・ 経営の効率化と収支改善</li> <li>・ 地域医療構想への対応</li> </ul>
--------------------	--

## 5. 実績

### (1) メディア露出状況

#### 1. テレビ出演 (27 件)

日 付	内 容	メディア名
4月7日	健康いちばん 子宮筋腫を内視鏡で 体への負担少なく	福井放送
4月8日	新型コロナウイルス 救急外来停止	福井放送
4月17日	ニュースザウルス福井 新型コロナウイルス 医療物資の不足、現場看護師の思い	NHK福井
4月22日	ニュースザウルス福井 新型コロナウイルス 医療物資の不足、現場看護師の思い (4/17 放送分のリメイク版)	NHK福井
4月24日	おじゃまっテレ特別版「新型コロナ緊急事態～いま、できること～」 現場看護師の思い	福井放送
4月26日	タイムリーふくい 新型コロナウイルス 看護師が今置かれている状況	福井テレビ
5月12日	健康いちばん 口腔ケアで感染予防	福井放送
5月19日	おじゃまっテレ 手作りマスク、フェイスシールド	福井放送
5月24日	タイムリーふくい 新型コロナ第1波収束、第2波への備え	福井テレビ
6月16日	健康いちばん コロナ対策か熱中症対策か マスクの夏 暑さに慣れる	福井放送
6月30日	健康いちばん マスクの肌トラブル	福井放送
7月28日	健康いちばん アルコール消毒に潜む危険 (火傷)	福井放送
9月1日	健康いちばん 残暑にひそむ危険 (火傷、日光アレルギー)	福井放送
9月3日	がん征圧月間 パネル展	福井テレビ
10月6日	健康いちばん イヤホンでの外耳炎	福井放送
10月9日	小児科マスク寄贈	福井放送
10月17日	令和2年度災害対応訓練	NHK福井
10月17日	令和2年度災害対応訓練	福井放送
10月20日	スマホの姿勢に注意 背中の丸まり首の下がり	福井放送
10月22日	足羽高校 手作りマスクケース 1000 個贈る	福井放送
12月23日	脳卒中治療専用病床を拡充	福井テレビ
1月19日	健康いちばん 雪かき腰痛、雪かき時のマスク	福井放送
1月26日	健康いちばん SCU 拡充	福井放送
2月12日	横井チョコレート寄贈	福井放送
2月12日	「きっと、春はやってくる」看護師の思い、フィンガーペイント (さくらの手形アート)	福井テレビ
2月16日	健康いちばん コロナ禍での花粉症対策	福井放送
2月22日	南越中学校 千羽鶴寄贈	福井テレビ

2. 新聞掲載 (48 件)

日 付	内 容	メディア名
4月 8日	新型コロナウイルス 1 病院、救急外来停止	福井新聞
4月 8日	新型コロナウイルス 県内 1 病院 救急外来停止 人員不足 態勢限界	福井新聞
4月 8日	新型コロナウイルス 救急外来を停止	日刊県民福井
4月21日	新型コロナウイルス 救急外来を再開	日刊県民福井
4月23日	新型コロナウイルス 福井赤十字病院 救急外来を再開	福井新聞
4月23日	物資不足の医療崩壊危惧 ガウンの入荷見込みなく	日刊県民福井
4月30日	ふくいのドクター相談室 「食物アレルギー 給食不安」	福井新聞
5月 1日	原発作業用防護服 美浜の男性が寄贈	福井新聞
5月16日	緊急事態宣言解除に関する見解	毎日新聞
5月19日	「医療感謝」県民の熱い思い 県募集メッセージ	日刊県民福井
5月19日	新型コロナ 「心から感謝」思い届け 県民から応援メッセージ、 18施設の医療従事者へ	毎日新聞
5月20日	医療従事者へ温か支援続々 県民 心込め感謝の言葉	福井新聞
6月 3日	～新型コロナ第1波を越えて～ 一時は診療停止を覚悟した	福井新聞
6月17日	「コロナ」不安で控えてない？ 予防接種予定通りに	福井新聞
7月 2日	ドック 段階的に再開	福井新聞
7月 3日	コロナ 経験を糧に第2波備え	福井新聞
7月 9日	病院ボランティア再始動	福井新聞
7月11日	病院へ弁当 100 食	日刊県民福井
8月25日	月刊 fu もっと知ろうがんのこと	福井新聞
7月30日	ふくいのドクター相談室 「昼夜の頻尿、「過活動膀胱」治る？」	福井新聞
8月 5日	医療従事者へ豊小が応援文	福井新聞
9月 6日	がん予防 パネルで解説	福井新聞
9月 5日	運動、禁煙 がん予防法紹介 パネル展	日刊県民福井
10月 1日	ふくいのドクター相談室「腫に激痛 再発が心配」	福井新聞
10月 6日	赤十字病院に折り鶴贈る 至民中生 感謝を込め 2,800 羽	福井新聞
10月 6日	千羽鶴に感謝の思い 至民中	日刊県民福井
10月10日	ハロウィーン柄マスク贈る 入院中の子どもへ	日刊県民福井
10月19日	災害対応訓練 コロナ禍の医療検証	福井新聞
10月22日	明倫中と木田、豊小 医療従事者向け浄財	福井新聞
10月26日	はっぴークリニック 子宮頸がん検診Q&A	はっぴーママふくい
10月27日	足羽高は手製マスクケース 福井赤十字病院に贈る	福井新聞
11月10日	折り鶴に想いを込めて (至民中学校)	広報FUKUI
11月12日	「マスク、消毒を徹底」	福井新聞
11月14日	地震+コロナ 複合災害 医療課題多く 福井赤十字病院訓練 検証	福井新聞
12月 3日	ふくいのドクター相談室「ドライマウス」で舌に違和感	福井新聞
12月 7日	脳卒中専用病床を拡充 コロナ禍でも機能維持	福井新聞
12月23日	脳卒中の専用病床拡充 きょうから稼動	福井新聞

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

沿革概要 患者数経営状況 委員会 トピックス 診療業務 医療社会事業部 看護部 事務部 業績	12月23日	脳卒中患者向け病床拡充 きょうから運用	日刊県民福井	
	1月21日	真冬の温度差要注意 脳卒中	福井新聞	
	1月29日	新型コロナ最前線 患者1人に医師3人体制	中日新聞	
	2月1日	新型コロナ最前線 患者1人に医師4人体制	日刊県民福井	
	2月23日	医療従事者へ感謝とエール 南越中生 千羽鶴贈る	日刊県民福井	
	2月24日	医療従事者へ折り鶴 南越中学校	福井新聞	
	2月25日	「検査怠り男性死亡」 福井市の遺族、日本赤十字社提訴（腎うがん）	福井新聞	
	2月26日	清川メッキ工業が福井赤十字病院に100万円	福井新聞	
	2月26日	医療従事者応援 清川メッキ寄付	日刊県民福井	
	3月5日	東日本大震災から10年 被災地救護伝える	福井新聞	
	3月18日	ふくいのでクター相談室 足指の爪が黒ずみ、治らない	福井新聞	
	(2) 広報誌発行実績			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院広報誌「ほやほや」 年3回 各4,400部発行</li> <li>・病院連携通信「Partner」 年2回 各700部発行</li> <li>・院内「よもっさ」 年3回 各200部発行</li> </ul>			

## 4. 管 財 課

### 1. スタッフ

課長 酒井 雅枝

### 1. スタッフ

課長 酒井 雅枝

用度係長（兼） 酒井 雅枝

施設・管理係長 新河戸 由紀子

保安係長（兼） 上野 正巳

ボイラー係長 齊藤 太嗣

主事 5名、警備員 2名、ボイラー技士 3名、嘱託ボイラー技師 1名、  
電話交換手 2名、電気工事士 1名、パート業務員 2名

### 2. 目 標

『協働』他部門と協働して施設のメンテナンスおよび費用の削減を行う

### 3. 業 務

- 1) 財産の取得、管理及び処分に関すること
- 2) 物品の取得管理及び処分に関すること
- 3) 物品の使用及び供給管理に関すること
- 4) 基準寝具に関すること
- 5) 構内の取締り及び防火、防災に関すること
- 6) 構内の清掃、衛生に関すること
- 7) 工事及び営繕に関すること
- 8) 不動産及び施設設備に係る売買、賃貸、請負その他の契約に関すること
- 9) 院内の空調、電話等を含む施設管理に関すること
- 10) その他、施設、物品、保安管理に関すること

### 4. 実 績

#### 1) 建物付属設備

防災設備更新工事 食器洗浄器

スチームコンベクションオーブン

#### 2) 構築物

構内駐車場更新工事

#### 3) 医療用器械備品

多項目自動血球分析装置 1台

外科用X線TV装置 2台

パルスホルミウム・ヤグレーザ 1台

前眼部OCT【3次元光干渉断層計】 1台

沿  
革

概  
要

患者数・  
経営状況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ッ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

沿革	体外式膜型人工肺（ECMO） 1 台 超音波画像診断装置 17 台 全自動免疫染色装置 1 台 人工呼吸器 16 台	移動型X線撮影装置 2 台 全身麻酔器 2 台 血液浄化装置 6 台 光眼軸長測定装置 1 台 他 143 台
概要	4) その他機械備品 検温サーマルカメラ 1 台 材料キャビネット【SPD 棚】 2 台	
患者数・経営状況		
委員会		
トピックス		
診療業務		
医療社会事業部		
看護部		
事務部		
業績		

## 5. 医事サービス課

### 1. スタッフ

課長 渡辺 速美

係長

第1医事係長 山本瑞恵 第2医事係長 坪田泰典 入院係長 大澤和代 外来係長 堀江玖美

医事係	主事	2名	嘱託主事	1名	
入院係	主事	10名	嘱託主事	1名	派遣 1名
外来係	主事	3名	嘱託主事	1名	

### 2. 目 標

- ①診療報酬改定の内容を理解し、他職種と請求できる院内運用を構築する。
- ②診療報酬請求業務（査定・返戻・未収金等）を適切に行う。
- ③請求結果を分析し患者数増、収入増の検討と対策を行う。

### 3. 業 務

- ・患者の受付 案内及び接遇に関すること
- ・患者の入院および退院の手続きに関すること
- ・患者の料金算定及び支払請求、収入調定並びに医業未収金管理に関すること
- ・診療報酬請求事務に関すること
- ・医事統計に関すること
- ・医事業務電算システムの運用に関すること
- ・その他、医事サービスに関すること

### 4. 実 績

令和2年度地域医療支援病院紹介率 71.8% 逆紹介率 104.0%

年度目標に対する取り組み

- ・接遇向上対策… 患者満足度向上部会、接遇推進WG等の院内の活動との協働、および課内勉強会の接遇向上班で、身だしなみチェックを行い接遇改善に努めた。
- ・業務適正… その都度発生した事案に対し業務適正を行うための対策を講じた。
- ・査定減対策… 毎月の査定結果を基にそれぞれに応じた対策を検討し対策を講じた。
- ・返戻減対策… 事務的返戻減を主な目的とし、毎月対策班で返戻レセプトと返戻理由から分析・検討を行い対策を講じた。

# 6. 医療情報課

## 1. スタッフ

課長	櫻井 慎二		
係長	情報処理係長	小川 貴司	
	画像処理係長（兼）	上坂 大輔	
	病歴係長	中野 里加	
	図書係長（兼）	櫻井 慎二	
主事	6名		
嘱託職員等	5名		
派遣・委託職員	5名		

## 2. 目標

令和2年度の事務部の目標「病院運営に事務の”力”を示す」に基づき、当課の目標を「①蓄積された診療情報の精度向上を図り、医療の質向上と経営改善に貢献する②病院情報システム更新に向けたプロジェクトを中期ビジョンに沿って円滑に進める」とした。情報処理係では、病院情報システム（手術支援・生体情報管理システム、心カテ動画システム、検像システム、被ばく線量管理システム）の新規導入並びに更新に対し適切な実施に従事した。また、診療報酬改定、処方箋への患者情報の記載等、病院情報システムで必要な改修を適切に実施した。さらに、新型コロナウイルス感染症対策に伴い、各部門と連携し診療業務環境の変更等に対応した。その他、情報資産の保全、情報漏えい、不正アクセス等への対策の一環として、実務担当者に向けた研修を開催し、管下利用者への注意喚起を実施した。病歴係では、経営改善に必要な医療統計資料や経営資料の作成、各種臨床指標データの正確かつ遅延なく提供、医療の質の向上を図るクリニカルパスの推進やバリエーション分析、カルテ監査に関する取り組みを行った。

## 3. 業務

- (1) 病院コンピューターシステムの構築・導入及び管理運営に関すること
- (2) 病歴の分類と管理業務に関すること
- (3) 診療録その他診療に関する諸記録の管理に関すること
- (4) 診療情報の検索、統計、提供の業務に関すること
- (5) 図書室の管理に関すること
- (6) 健康・医療情報室（スマイル）の管理運営に関すること
- (7) 個人情報の管理に関すること（紛失・漏洩、不正アクセスの禁止等）

## 4. 実績

### (1) 主な情報システムの整備

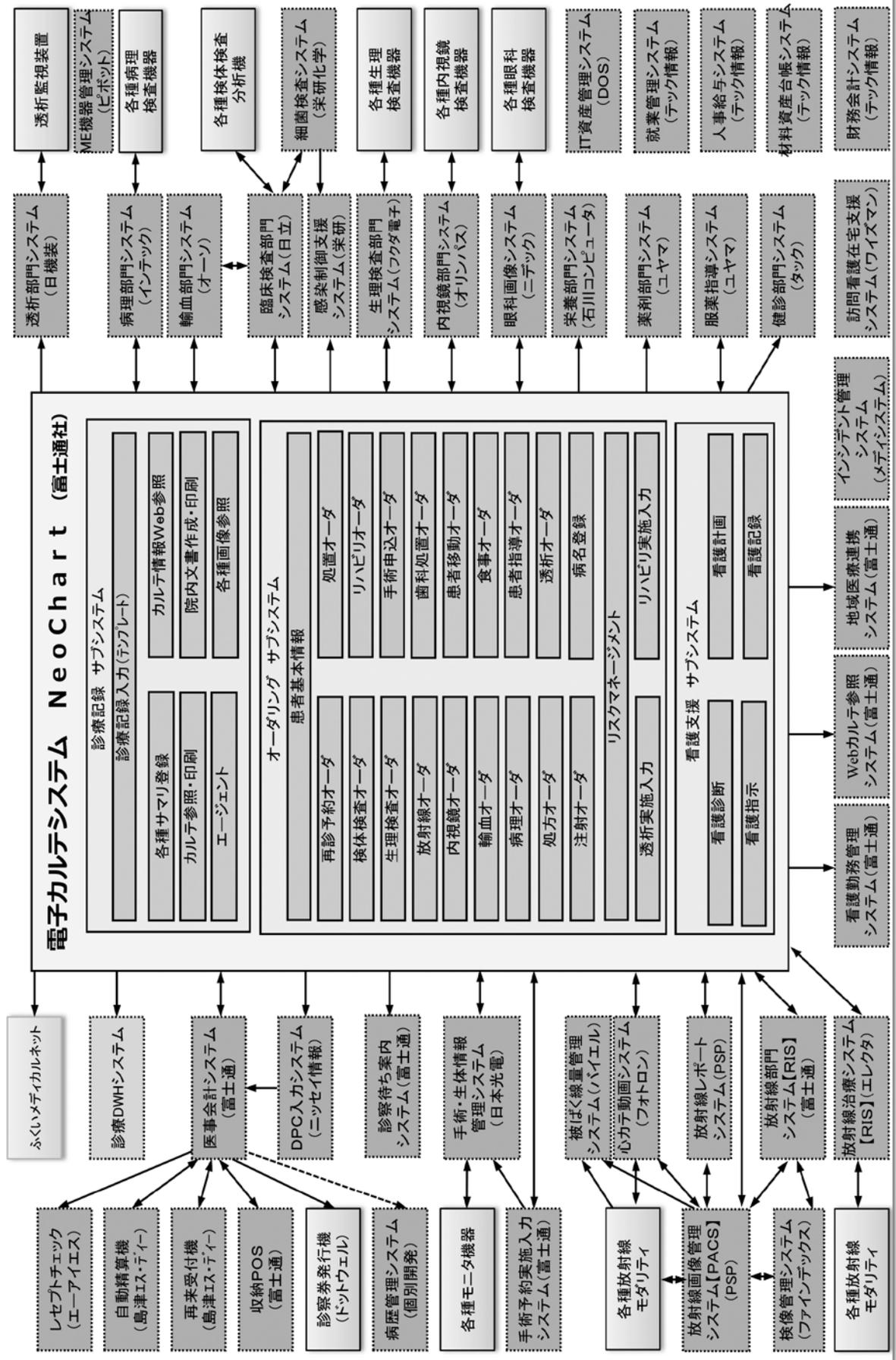
手術支援・生体情報管理システム	ハードウェア更新、ソフトウェア更新
心カテ動画システム	ハードウェア更新、ソフトウェア更新
検像システム	ハードウェア更新、ソフトウェア更新
被ばく線量管理システム	新規導入

- (2) 病院情報システム全体図
  - 「02 別図1 病院情報システム構成 2020」のデータ貼り付け
- (3) クリニカルパスの適用状況
  - 「03 別表1 パス適用件数 2020」のデータ貼り付け
- (4) 電子カルテ情報の2次利用（DWH）の活用状況
  - 「04 別表2 DWH依頼抽出件数 2020」のデータ貼り付け
- (5) 健康・医療情報室「スマイル」の利用状況
  - 「05 別表3 スマイル利用件数 2020」のデータ貼り付け

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

2021.3.31現在 別図1

# 福井赤十字病院 病院情報システム構成図



福井赤十字病院

## (3) クリニカルパスの適用状況

区 分	パス 作成数	年度別パス適用件数		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
脳・神経系	29	1,128	1,122	935
内分泌系	4	92	115	56
眼	15	1,420	1,398	992
耳	7	148	121	120
上気道・口腔	28	462	529	422
呼吸器系	45	1,674	1,842	1,361
循環器系	33	920	873	661
血液・リンパ	15	348	428	372
消化器系	63	2,353	2,128	2,144
泌尿器系	39	1,333	1,218	1,134
女性生殖器	20	526	556	545
産褥・新生児	19	568	559	455
筋骨格系	37	711	722	644
乳房・皮膚	16	377	373	366
小児科領域	30	498	588	295
形成外科領域	8	131	136	101
経過観察入院	4	380	348	251
がん性疼痛	1	71	56	49
その他(身体抑制・NST等)	20	3,333	2,921	2,719
総 計	433	16,473	16,033	13,622

## (4) 電子カルテ情報の2次利用(DWH)の活用状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
抽出依頼件数	484	451	391

## (5) 健康・医療情報室「スマイル」の利用状況

患者情報室「スマイル」利用者数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
利用者数	19,081	17,654	9,260
図書貸出数	8,837	8,258	5,145
図書返却数	8,797	8,267	5,110
コピー利用枚数	758	455	543
インターネット利用者数	769	807	375
プリント枚数	565	533	168
Wi-Fi利用者数	337	422	120
DVD視聴者数	28	12	6
医療相談	41	33	22

## 1日平均利用者数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
利用者数	79	73	38
図書貸出数	36	34	21
図書返却数	36	34	21
コピー利用枚数	3	2	2
インターネット利用者数	3	3	2
プリント枚数	2	2	1
Wi-Fi利用者数	1	2	1
DVD視聴者数	0	0	0
医療相談	0	0	0

## 図書貸出数

種 類	平成30年度	令和元年度	令和2年度
医学図書	454	559	241
医学雑誌	185	126	91
一般図書	8,198	7,573	5,121
図書貸出数合計	8,837	8,258	5,453

沿  
革  
概  
要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

# 7. 医療支援課

## 1. スタッフ

課長 荒井 満  
係長 医療秘書係長 山崎 久美子  
主事 2名  
嘱託職員 26名  
派遣職員 10名

## 2. 目標

医師事務作業補助者として必要な能力を身につけ、医師の業務負担軽減に貢献する

## 3. 業務

- (1) 医師の診療業務支援に関すること
- (2) 患者・医療の総合相談と調整に関すること
- (3) その他医療支援に関すること

## 4. 実績

### (1) 外来診療における医療事務作業補助業務

外来診療科に医師事務作業補助者（メディカル・セクレタリー（MS））を配置し、外来診療における診療支援業務や診断書等書類の作成支援業務を行っている。外来に配置するMSを37名に増員し、本年度5月から医師事務作業補助所体制加算2から同加算1の1.5対1補助体制加算に施設基準の届け出を変更した。

### (2) 患者相談業務

患者またはその家族からの診療や療養生活上の不安等の相談に対応するために、患者相談窓口を設置し、患者支援のための専任看護師等を配置し、相談業務を実施している。

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

別表 1

## 患者相談業務件数

		2017 年度
医療相談	受診科相談	2,950
	検査（内容・結果）	64
	治療について	81
	お薬について	42
	症状・副作用の対応	24
	医療者との関係対応	9
	療養生活について	49
	セカンドオピニオン	13
	がん相談	2
	なやみ相談	42
	医療機関の紹介	50
	その他	227
	苦情・要望	診察に関して
治療に関して		14
職員の対応に関して		84
待ち時間に関して		15
施設設備に関して		19
その他		50
他の相談	書類等相談	512
	医療費・支払い相談	183
関連部署との連絡調整		3,185
受診手続き	手続き案内	7,349
	診察申込書代筆	16
	問診票代筆	8
案内	入院	1,009
	外来	1,194
	人間ドック	146
	その他	5,040

## 8. 医療安全推進課

### 1. スタッフ

課長 齋藤 裕一

主事 2名

### 2. 目標

- 1) 医療安全及び感染管理研修会の年2回以上参加率UP、医師の参加率UP
- 2) インシデントレポートの報告件数UP  
レポーティングシステム（ファントルくん）の安定稼働
- 3) 暴言・暴力対応マニュアル、コードホワイトの周知

### 3. 業務

- 1) 医療事故等の調査・指導に関すること
- 2) 医療事故発生時の対応に関すること
- 3) 医療紛争に関すること
- 4) 医療安全推進室の事務取扱に関すること
- 5) 感染管理室の事務取扱に関すること
- 6) その他医療安全対策の推進に関すること

### 4. 実績

- 1) 医療紛争解決件数  
示談、調停、裁判 なし
- 2) コードホワイト要請件数 2件（院内放送なし）

沿 革
概 要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業 績

業

績

## 神 經 内 科

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
口腔内感染症で生じた Lemierre 症候群の 1 例	早瀬史子	第 157 回日本神経学会 東海北陸地方会	6. 20 Web 開催
ステロイド治療が奏功した抗 NF155 抗体陽性 CIDP の一例	吉沖舞衣	第 159 回日本神経学会 東海北陸地方会	3. 13 Web 開催

## 呼 吸 器 内 科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
報告（一般演題） 肺癌診断における超音波気管支鏡下経食道的針生検法（EBUS-B-FNA）の有用性と安全性	出村芳樹 中嶋康貴 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	第 117 回日本内科学会 講演会	4. 11 東京
報告（一般演題） 進行非小細胞肺癌に対する EBUS-TBNA 検体での PD-L1 測定の妥当性	出村芳樹 中嶋康貴 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	第 43 回日本呼吸器内 視鏡学会学術集会	6. 26 誌上開催
報告（一般演題） 気管支サーモプラスティ後の血清 IgE 値および末梢血好酸球数の検討	出村芳樹 中嶋康貴 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	第 60 回日本呼吸器学 会学術講演会	9. 21 神戸
報告（一般演題） 肺癌診断における超音波気管支鏡下経食道的針生検法（EBUS-B-FNA）の有用性の検討	中嶋康貴 出村芳樹 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	第 60 回日本呼吸器学 会学術講演会	9. 22 神戸

沿  
革

概  
要

患者数・経営状況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ッ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

沿革概要	報告（一般演題） EBUS-B-FNA でドライバー遺伝子変異を検出し長期生存を得た Oncologic Emergency NSCLC 3 例の検討	中嶋康貴 出村芳樹 大井昌寛 佐藤讓之 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也 石塚全	第 61 回日本肺癌学会 学術集会	11.13 岡山
患者数経営状況	報告（一般演題） 当科での肺癌診断に対する EUS-B-FNA の有用性と安全性の検討	大井昌寛 出村芳樹 中嶋康貴 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	NPO 法人西日本呼吸器 内科医療推進機構 令 和 2 年第 15 期総会	2.8 京都
委員会				

【学会発表（地方）】

	演題	発表者	学会名	月日・開催地
トピックス	報告（一般演題） 1. Infliximab により改善を得た Durvalumab による肝機能障害の 1 例	中嶋康貴 出村芳樹 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也 藤井裕也 佐藤讓之 五十嵐一誠	第 86 回日本呼吸器学 会北陸地方会	10.25 福井
診療業務				
医療社会事業部	報告（一般演題） 当院で ECMO を使用した重症 COVID-19 の 2 例	大井昌寛 軸屋紀宏 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 出村芳樹 赤井雅也 榊原圭一 皿澤克彦 田邊毅	第 86 回日本呼吸器学 会北陸地方会	10.25 福井
看護部				
事務部				

業績

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Final results from a phase II trial of Osimertinib for elderly patients with epidermal growth factor reseptor T790M-positive non-small cell lung cancer that progressed during previous treatment.	Nakao A, Hiranuma O, Uchino J, Sakaguchi C, Araya T, Hiraoka N, Ishizuka T, Takeda T, Kawasaki M, Goto y, Imai H, Hattori N, Nakatomi K, Uramoto H, Uryu K, Fukuda M, Uchida Y, Yokoyama T, Akai M, Mio T, Nagashima S, Chihara Y, Tamiya N, Kaneko Y, Mouri T, Yamada T, Yoshimura K, Fujita M, Takayama K	J Clin Med. 2020, 9, 1762; doi:10.3390/ jcm9061762	2020, 9
Whole-brain radiation and Pembrolizumab treatment for a non-small lung cancer patient with meningeal carcinomatosis lacking driver oncogenes led to a long-term survival	Nakashima K, Demura Y, Oi M, Tabata M, Tada T, Shiozaki K, Akai M, Ishizuka T	A case report . Intern Med. 2020 Jun 1;59(11)1433-1435.	2020 Jun
Infliximab was found to be effective for treating immunosuppressive drug-resistant hepatitis due to Durvalumab.	Nakashima K, Demura Y, Oi M, Tabata M, Tada T, Shiozaki K, Akai M, Ishizuka T	Intern Med. 2020 Jul 28;doi:10.2169/ nternalmedicine.5216-20.	2020 Jul

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

沿革概要	The association between malignant mesothelioma and thoracic radiation therapy for Hodgkin's lymphoma: The first case report in Japan.	Nakashima K, Demura Y, Oi M, Tabata M, Tada T, Shiozaki K, Akai M, Ishizuka T	Intern Med. 2020 Oct 14;doi:10.2169/internalmedicine.5134-20.	2020 Oct
患者数・経営状況	Coronavirus Disease 2019 complicated by multiple simultaneous intracerebral hemorrhages.	Motoie R, Akai M, Kitahara T, Imamura H, Tanabe T, Sarazawa K, Takano S, Toda H, Komatsu K	Intern Med. 2020 Oct 15;doi:10.2169/internalmedicine.5697-20	2020 Oct
委員会	Utility of endoscopic ultrasound with bronchoscope-guided fine-needle aspiration for detecting driver oncogenes in non-small-cell lung cancer during emergency situations: Case series.	Nakashima K, Demura Y, Oi M, Tabata M, Tada T, Shiozaki K, Akai M, Ishizuka T	Intern Med. 2020 Nov 2;doi:10.2169/ernalmedicine.5594-20.	2020 Nov
トピックス				
診療業務	著明な好中球増加を伴った急性サルコイドーシスの1例.	中嶋康貴 出村芳樹 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	日本呼吸器学会誌 9(2): 132-1362020	2020
医療社会事業部				
看護部	肺癌診断における超音波気管支鏡下経食道的針生検法 (EUS-B-FNA) の有用性と安全性.	中嶋康貴 出村芳樹 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	気管支学 42(2):129-1332020	2020
事務部				

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
講演 新型コロナウイルス感染症について	赤井雅也	院内感染防止対策研修会	2.6 福井
講演 当院における COVID-19 の治療経験	赤井雅也	Expert Meeting vol.5.	8.21 福井

講演 新型コロナウイルス感染対策特別企画 『当院における第一波から第二波の体制 とインフルエンザシーズンを見据えて』	赤井雅也	感染対策イブニングセ ミナー	10.22 福井
講演 気管支喘息の最近の進歩と話題～気管支 サーモプラスティと生物学的製剤～	出村芳樹	医療連携パートナーリン グの会	10.27 福井
講演 当院における COVID-19 診療経験	赤井雅也	医療連携パートナーリン グの会	10.27 福井
ラジオ出演 気管支喘息について	出村芳樹	良ーいドン！！	9.8 FBC ラジオ

## 消化器内科

### 【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
「健診受診者における無症候性びらん性 食道炎の4年間の自然経過」	松永心祐	第106回日本消化器病 学会総会	8.11 広島
「抗血栓薬内服継続での胃ESD症例の検 討」	西山悟	第100回日本消化器内 視鏡学会総会	11.5 神戸
「当院での非大腸癌患者での内視鏡的大 腸ステント留置の現状」	松永心祐	第100回日本消化器内 視鏡学会総会	11.5 神戸

### 【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
「多発脾・肝NECに対して化学療法を施 行した1例」	保坂亮介	第86回日本呼吸器学 会北陸地方会	11.1 福井
「上腸間膜動脈症候群を契機に発見され た膵鉤部癌の1例」	中野優也 (研修医) 鳥居志充	第115回日本消化器内 視鏡学会北陸支部例会 (Web開催)	11.29 福井
「多発肝転移を来したHER2強陽性進 行胃癌に対してcapecitabine + trastuzumab 併用療法でCRが得られ、中止後も2年 の長期に渡りCRを維持した1例」	三原美香	第115回日本消化器内 視鏡学会北陸支部例会 (Web開催)	11.29 福井
「当院における超高齢者の切除不能悪性 胆道狭窄に対する内視鏡的減黄術の検 討」	道上学	第115回日本消化器内 視鏡学会北陸支部例会 (Web開催)	11.29 福井

### 【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
「アピキサバンで治療しえた、活動性潰 瘍性大腸炎にともなうカテーテル血栓・ 肺塞栓症の1例」	山崎剛明	日本消化器病学会雑誌 117;992 - 1000	2020

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
講演 「潰瘍性大腸炎の新規治療戦略」	山崎幸直	令和2年度 社会保険 指導者講習会伝達講習会	10.31 福井
講演 「慢性便秘症治療の新規治療戦略－当院 の便通調査結果の検討から－」	山崎幸直	Expert Meeting vol.5.	12.10 福井
講演 「大腸 ESD に対する当院の対応」	松永心祐	福井赤十字病院地域が ん診療研修会	2.22 福井

循環器内科

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
熱中症予防 暑熱馴化について	坪川明義	福井放送 健康いちば ん	6.16
静脈血栓塞栓症の現状と対策	血澤克彦	武生医師会 月次医学 会	11.10 武生市
JCS JDS 合同ステートメントをふまえた 慢性心不全治療について	血澤克彦	第3回 福井循環器 フォーラム	1.26 福井市
ディスカッこめんでサント	榊原圭一	Heart Failure Web Seminar	3.12
パネリスト	血澤克彦	脂質異常症治療の残さ れたリスクと二次予防 患者の治療戦略	3.18 福井市
コメンテーター	血澤克彦	～ With COVID-19 第2 波第3波に備える～ デ バイス患者管理編	11.13
座長	坪川明義	Fukui Orshiro Focus Summit FOFS 2020	11.24
ディスカッサント	血澤克彦	慢性心不全治療の新た な治療戦略を企てる	12.4 福井市
座長	吉田博之	循環器医からみる腎性 貧血治療マネジメント	12.18 福井市
コメンテーター	坪川明義	近畿心血管治療ジョイ ントライブ 2020	12.18

# 小 児 科

## 【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
併存する膀胱尿管逆流症の根治術後、間欠的水腎症発作が消失した一男児例	玉村宗一	第55回日本小児腎臓病学会学術集会	1. 石川 web 開催
腹部症状なく脾梗塞を合併し、一過性のプロテインS・プロテインC活性低下を示した伝染性単核球症の男児例	玉村宗一	第52回日本小児感染症学会学術集会	11. 大阪 web 開催

## 【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
NTED（新生児 TSS 様発疹症）と NAIT（同種免疫性血小板減少症）を合併したと思われる新生児例	野村詠史	第330回日本小児科学会北陸地方会	12.6 石川 Web 開催
化膿性椎間関節炎の男児例	新田祥代	第331回日本小児科学会北陸地方会	3.14 富山 Web 開催

# 外 科

## 【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
A case of mucinous cystic neoplasm of the liver	Shigeru Kato	The 32nd Meeting of Japan Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery	2.23-24 web 開催
特発性食道破裂に対し FJ clip を用いた腹腔鏡下手術を施行した2例	吉羽秀磨	第75回日本消化器外科学会 総会	12.15-17 和歌山市
A case of hepatic inflammatory pseudotumor mimicking a recurrence of cholangiocarcinoma	Kouji Doi	The 32nd Meeting of Japan Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery	2.23-24 web 開催
A case of transverse colon perforation caused by stabbing with a knife treated with laparoscopic surgery	吉羽秀磨	第33回日本内視鏡外科学会 総会	3.10～14 横浜市
成人 Nuck 管水腫に対する腹腔鏡下摘出術の1例	川上義行	第18回日本ヘルニア学会総会	11.4 web 開催
当院での直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定修復術の検討	川上義行	第75回日本消化器外科学会 総会	12.17 和歌山市
Successful minilaparoscopic rectopexy for patients with rectal prolapse	Yoshiyuki Kawakami	28th EAES International Congress	6.23-26 Web 開催
当院でのアベマシクリブ治療例の検討 - パルボシクリブとの比較を含め -	田中文恵	第28回日本乳癌学会総会	10.13-15 横浜市

沿革概要	福井県のマンモグラフィ検診高齢者発見癌症例の検討 - 高齢者検診癌はどのような集団なのか、当院での高齢者癌症例と対比して	田中文恵	第 30 回日本乳癌検診学会 学術総会	11.22-23 仙台市
	改良型オーガンリトラクター Free Jaw Clip Neo7 を用いたロボット支援下胃癌手術	藤井秀則	第 75 回日本消化器外科学会 総会	12.15-17 和歌山市

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
The Rare Case Report:Mucinous Cystadenocarcinoma of the Breast	藤野真琴	第 17 回日本乳癌学会中部地方会	9.12-13 web 開催

## 整形外科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
当院のがんロコモに関する整形外科介入の現状調査	北折俊之	第 93 回日本整形外科学会	6.31-8.31 Web 開催
高齢化する RA 患者の骨粗鬆症への対応	北折俊之	第 48 回日本関節病学会	10.30-31 Web 開催
脊椎術後尿路感染の危険因子について	嶋皓一朗	第 49 回脊椎脊髄病学会	9.8
人工肘関節置換術後の尺骨コンポーネントのゆるみに対して impaction bone grafting 法による再置換術を行った RA 患者の検討	森瀬博子	第 64 回日本リウマチ学会 1	8.17-9.15 Web 開催
TEA の再置換術後に感染した RA 症例の 1 例	森瀬博子	第 21 回京大 RA 症例検討会	1.25 Web 開催

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
下垂足に対する腰部脊柱管狭窄症の術後に腎細胞癌の髄膜播種と診断された 1 例	北折俊之 高塚和孝 相模昭嘉 仲谷健次 小谷友弥 村上晃規	中部日本整形外科 災害外科学会 2020 ; 63 ( 2 ) : 325-6	7.7

Platelet-Derived growth factor receptor- $\beta$ (PDGFR $\beta$ ) lineage tracing highlights perivascular cell to myofibroblast transdifferentiation during post-traumatic osteoarthritis.	Sono T Hsu CY Negri S Miller S Wang Y Xu J Meyers CA Peault B James AW	J Orthop Res 2020 Nov;38(11):2484-2494	2020.Nov
A Neurotrophic Mechanism Directs Sensory Nerve Transit in Cranial Bone.	Meyers CA Lee S Sono T Xu J Negri S Tian Y Wang Y Li Z Miller S Chang L Gao Y Minichiello L Cleamens TL James AW	Cell Rep.2020 May 26;31(8):107696	2020 May
Perivascular Fibro-Adipogenic Progenitor Tracing during Post-Traumatic Osteoarthritis.	Sono T Hsu CY Wang Y Xu J Cherief M Marini S Huber AK Miller S Peault B Levi B James AW	Am J Pathol.2020s ep;190(9):1909-1920.	2020sep
Human perivascular stem cells prevent bone graft resorption in osteoporotic contexts by inhibiting osteoclast formation	Negri S Wang Y Sono T Lee S Hsu GC Xu J Meyers CA Qin Q Broderick K Witwer KW Peault B James AW	Stem Cells Transl Med.2020 Dec;9(12):1617-1630	2020 Dec

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

沿革概要	Lysosomal protein surface Expression discriminates fat-from bone-forming human mesenchymal precursor cells.	Xu J Wang Y Hsu CY Negri S Tower RJ Gao Y Tian Y Sono T Meyers CA Hardy WR Chang L Hu S Kahn N Broderick K Peault B James AW	Elife.2020 Oct 12;9:e58990.	2020 Oct
患者数・経営状況				
委員会	Systemic DKKI neutralization enhances human adipose-derived stem cell mediated bone repair.	Negri S Wang Y Sono T Qin Q Hsu GC Cherief M Xu J Lee S Tower RJ Yu V Piplani A Meyers CA Broderick K Lee M James AW	Stem Cells Transl Med.2020 Dec 30.	R2.12
トピックス				
診療業務				
医療社会事業部				

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
骨粗鬆症の診断と治療	高塚和孝	福井県国民健康保険審査会勉強会	1.15 福井
足底筋膜炎	相模昭嘉	福井新聞	10.1

看護部

事務部

業績

Platelet Derived Growth Factor Receptor-beta(pdgfrb)Lineage Tracing Highlights Pericyte To Myofibroblast Transdifferentiation During Post-traumatic Osteoarthritis	Takashi Sono Ching-Yun Hsu Stefano Negri Sarah Miller Yiyun Wang Jiajia Xu Carolyn A.Meyers Bruno Peault Aaron James	Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society	2.8-11 Phoenix,AZ,USA
--	--	--	--------------------------

## 形 成 外 科

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
有癭性膿胸に対して有茎広背筋皮弁を用いて治療した1例	藤土光	第95回北陸形成外科学会	3.13 金沢市

## 脳 神 経 外 科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
未破裂脳動静脈奇形に対する複合的治療の選択と長期成績	西村真樹	第79回日本脳神経外科学会総会	10.15-17 岡山市
未破裂脳動静脈奇形に対する複合的治療の選択と長期成績	西村真樹	第49回日本脳卒中外科学会総会	8.23 神奈川県横浜市
人工知能による未破裂動脈瘤診断モデル確立の試み	西村真樹	第45回日本脳卒中学会学術会	8.23 神奈川県横浜市
脳卒中発症時の初診時LDLコレステロール値の検討	早瀬睦	第45回日本脳卒中学会学術会	8.23 神奈川県横浜市
早期大腸癌に伴ったStreptococcus gallolyticusによる感染性心内膜炎に合併した感染性動瘤の一例	早瀬睦	第79回日本脳神経外科学会総会	10.15 岡山県岡山市
3D(FIESTA) MRIで脊髄硬膜欠損を同定し得た脳表へモジデリン沈着症の一例(ポスター)	佐野徳隆	第79回日本脳神経外科学会総会	10.15-17 岡山
頸動脈Agatston calcium scoreは全身血管病によるイベント予測に有用である	佐野徳隆	第46回日本脳卒中学会総会	3.11-13 福岡
脳動脈瘤コイル塞栓術終盤に起こったコイルスタックの1症例	取越貞治	第45回日本脳卒中学会総会	8.23 WEB

沿革概要	内頸動脈閉塞症に対して血栓回収術施行直後に同血管起始部に急激な血栓形成を認めた1症例	取越貞治	第36回日本脳神経血管内治療学会学術総会	11.19 京都市, WEB
	内頸動脈閉塞症に対して血栓回収術施行直後に同血管起始部に急激な血栓形成を認めた1症例	取越貞治	第79回脳神経外科学会総会	10.15 岡山市, WEB
患者数経営状況	当院における Trousseau 症候群の臨床的特徴の検討	取越貞治	第46回日本脳卒中学会総会	3.11 福岡市, WEB
	Axonal extension along corticospinal tract from transplanted human cerebral organoid	Takahiro Kitahara, Hideya Sakaguchi, Jun Takahashi	International Society for Stem Cell Research Annual Meeting 2020	6.26 Boston WEB
委員会	大脳オルガノイド移植による皮質脊髄路の再建	北原孝宏、坂口秀哉、高橋淳	第79回日本脳神経外科学会総会	10.15 岡山 WEB
	大脳オルガノイドの移植による皮質脊髄路に沿った軸索伸長	北原孝宏、高橋淳	第46回日本脳卒中学会学術集会	3.11 福岡 (Web 開催)
トピックス	急性閉塞性水頭症を来たし脳室ドレナージ術を要した斜台後方硬膜外血腫の一例	中島悠介	第79回日本脳神経外科学会総会	10.15-10.17 岡山
	頸動脈ステント留置術後再狭窄症例の検討	中島悠介	第46回日本脳卒中学会	3.11-3.13 福岡
診療業務	もやもや病患者における重症周産期脳梗塞の1例	元家亮太, 中島悠介, 北原孝宏, 取越貞治, 佐野徳隆, 早瀬睦, 西村真樹	第46回日本脳卒中学会学術集会	3.11 福岡
医療社会事業部	LVIS を樽状に突出させて上小脳動脈を温存した大型脳底動脈瘤の一例	山下智之	第45回日本脳卒中学会学術集会	8.23 横浜市

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
右頭頂後頭葉の皮質下病変の一例	山下智之、北原孝宏、大越忠和、中島悠介、取越貞治、佐野徳隆、早瀬睦、西村真樹	第241回福井脳・神経疾患談話会	2.18 福井市永平寺町

業績

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Difference in periventricular anastomosis in child and adult moyamoya disease: a vascular morphology study.	Ryu J, Hamano E, Nishimura M, Satow T, Takahashi JC.	Acta Neurochir (Wien). 2020 Jun;162(6):1333-1339.	2020 Jun
Clinical Outcome of Elderly Patients with Subarachnoid Hemorrhage: Validation of Modality Assignment Based on Aneurysmal Morphology and Location.	Maeda T, Satow T, Ikeda G, Hamano E, Hashimura N, Hara T, Sumi M, Nishimura M, Takahashi JC.	World Neurosurg. 2020 Nov;143:e419-e429	2020 Nov
Intracranial arterial stenosis associated with Hashimoto's disease: angiographic features and clinical outcomes.	Hamano E, Nishimura M, Mori H, Satow T, Takahashi JC.	BMC Neurol. 2020 Nov;143:e419-e429	2020 Nov
A Patient with a Large Basilar Artery Aneurysm in Whom Coil Embolization Was Performed by Protruding an LVIS into the Aneurysmal Neck in a Barrel-like Shape and Preserving a Branch Vessel	Tomoyuki Yamashita, Hiroyuki Ikeda, Ryotaro Otsuka, Sadaharu Torikoshi, Noritaka Sano, Makoto Hayase, Hiroki Toda	JNET 14(10), 447-453	2020
Two Patients Who Underwent Emergency Stenting for Iatrogenic Cervical Internal Carotid Artery Dissection during Thrombectomy	Yoshitaka Tsujimoto, Hiroyuki Ikeda, Ryotaro Otsuka, Takeshi Kawauchi, Noritaka Sano, Makoto Hayase, Hiroki Toda	JNET14 (6), 222-230	2020

沿革概要患者数・経営状況委員会トピックス診療業務医療社会事業部看護部事務局業績

沿革概要	A Survived Case of Acute Bilateral Internal Carotid Artery Occlusion Treated by Mechanical Thrombectomy	Yoshitaka Tsujimoto, Hiroyuki Ikeda, Ryotaro Otsuka, Takeshi Kawauchi, Noritaka Sano, Makoto Hayase, Hiroki Toda	JNET14 (5), 195-201	2020
患者数経営状況	Effects of acute angle, proximal bending, and distal bending in the deployment vessels on incomplete low-profile visualized intraluminal support (LVIS) expansion: an in vitro study	Hiroyuki Ikeda, Ryotaro Otsuka, Daisuke Uesaka, Noritaka Sano, Sadaharu Torikoshi, Makoto Hayase, Hiroki Toda	J Neurointerv Surg13 (5)	2020
委員会	Dissection of the Vertebral Artery Fenestration Limb Presenting with Occlusion After Rupture	Hiroyuki Ikeda, Noritaka Sano, Sadaharu Torikoshi, Ryotaro Otsuka, Yoshitaka Tsujimoto, Tomoyuki Yamashita, Makoto Hayase, Hiroki Toda	World Neurosurg. 135, 324-329	2020
トピックス				
診療業務				
医療社会事業部	頚動脈ステント留置術における周術期合併症 0 を目指した当院での取り組み	呉 浩一, 宮腰明典, 池田宏之, 佐野徳隆, 川内 豪, 尾市雄輝, 早瀬 睦, 大塚亮太郎, 辻本吉孝, 波多野武人, 戸田弘紀	脳卒中の外科 49(1), 7-14	2021
看護部				
事務部				
業績				

Case of a Stuck Coil in the Final Stage of Stent-Assisted Coil Embolization	Sadaharu Torikohsi, Hiroyuki Ikeda, Ryotaro Otsuka, Yoshitaka Tsujimoto, Noritaka Sano, Makoto Hayase, Masaki Nishimura, Hiroki Toda	Journal of Neuroendovascular Therapy Article ID: Cr.2020-0123	January 28, 2021
Axonal Extensions along Corticospinal Tracts from Transplanted Human Cerebral Organoids	Takahiro Kitahara, Hideya Sakaguchi, Asuka Morizane, Tetsuhiro Kikuchi, Susumu Miyamoto, Jun Takahashi	Stem Cell Reports 15(2):467-481	2020.8.11
Coronavirus Disease 2019 Complicated by Multiple Simultaneous Intracerebral Hemorrhages	Ryota Motoie, Masaya Akai, Takahiro Kitahara, Hisaji Imamura, Takeshi Tanabe, Katsuhiko Sarazawa, Seiichiro Takano, Hiroki Toda, Kazuto Komatsu,	Internal Medicine 59(20):2597-2600	2020.10.15
急性閉塞性水頭症を来たし脳室ドレナージ術を要した斜台後方硬膜外血腫の一例	中島悠介	神経外傷 43 卷 1 号 ;25-28	2020

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
脳卒中診療における抗てんかん薬の使用の実際	西村真樹	脳卒中とてんかん Web セミナー in 福井	9.24 福井市
脳卒中再発予防の現状と課題 ～脳卒中専門医の立場から～	早瀬睦	脳卒中治療連携 WEB 講演会	12.08 福井市
右頭頂後頭葉の皮質下病変の 1 例	山下智之	第 241 回福井脳・神経疾患談話会	2.18 福井市

沿革  
概要  
患者数経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

## 呼吸器外科

### 【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
周術期ネブライザー吸入は術後肺炎の予防に有効か	福井哲矢 南紀久子 若月悠祐 松倉 規	第 120 回日本外科学会 定期学術集会	8.14 WEB 開催
肺癌術後有癭性膿胸の検討	福井哲矢 南紀久子 若月悠祐 松倉 規	第 61 回日本肺癌学会 総会	11.14 岡山（WEB）
術中の薄壁透明ブラは気漏部位の間接的所見である会	福井哲矢 南紀久子 若月悠祐 松倉 規	第 37 回日本呼吸器外 科学会学術集	9.29 東京（WEB）
術後に肺軸捻転を来した 2 例	福井哲矢 南紀久子 若月悠祐 松倉 規	第 37 回日本呼吸器外 科学会学術集	9.29 東京（WEB）
当院における肋骨骨折の検討	福井哲矢 南紀久子 若月悠祐 松倉 規	第 37 回日本呼吸器外 科学会学術集	9.29 東京（WEB）
術創部から発症した肺ヘルニア	福井哲矢 南紀久子 若月悠祐 松倉 規	第 37 回日本呼吸器外 科学会学術集	9.29 東京（WEB）

### 【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
座長	松倉規	第 82 回日本臨床外科 学会総会	10.30 大阪（WEB）

## 皮膚科

### 【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
生検後自然消退した原発性皮膚 CD4 陽性小・中細胞型 T 細胞リンパ増殖異常症の 1 例	乗井匠 八木洋輔 伊藤莉子 塚崎光 西村陽一	第 119 回日本皮膚科学 会総会	6.4-7 web 開催

EBV 陽性びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に対する R-CHOP 療法後に末梢性 T 細胞リンパ腫を生じた 1 例	勝尾公祐 八木洋輔 吉田康幸 桑井 匠 大越 和 今村 信 西村陽一	第 71 回日本皮膚科学会中部支部学術大会	10.10-11 web 開催
ニボルマブ・イピリムマブ併用療法後に無菌性髄膜炎を発症した足底悪性黒色腫の 1 例	吉田康幸 勝尾公祐 桑井 匠 八木洋輔 伊藤莉子	第 35 回日本皮膚外科学会総会	10.17-18 web 開催
筋生検標本に対して抗ミクソウイルス耐性タンパク質 A 抗体による免疫染色を施行した特異的自己抗体陰性の皮膚筋炎の 1 例	勝尾公祐 八木洋輔 吉田康幸 桑井 匠 高木あかり 高野誠一郎 西野一三 市村裕輝 沖山菜緒子	第 468 回京滋地方会	12.29 web 開催
Desmoplastic malignant melanoma の 1 例	八木洋輔 勝尾公祐 吉田康幸 桑井 匠 伊藤莉子 山脇聖子 (形成外科) 大澤陽子 (耳鼻咽喉科) 大越忠和 (病理診断科)	第 36 回日本皮膚悪性腫瘍学会	1.8-9 web 開催
報告 (一般演題) 当科での肺癌診断に対する EUS-B-FNA の有用性と安全性の検討	大井昌寛 出村芳樹 中嶋康貴 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	NPO 法人西日本呼吸器内科医療推進機構 令和 2 年第 15 期総会	2.8 京都

【学会発表 (地方)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
演題：医療現場で起こりうる創傷について ～スキンテア、MDRPU、IAD～	桑井匠	福井日赤 褥瘡研修会	9.9 福井市

沿革概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	出演番組・掲載紙面	出演・掲載日
福井放送テレビ出演 テーマ：マスク皮膚炎	八木洋輔	おじゃまっテレ 健康 いちばん	6.30
福井放送テレビ出演 テーマ：炎天下における熱傷、日焼けについて	八木洋輔	おじゃまっテレ 健康 いちばん	9.1
福井新聞情報誌「Fu」掲載 テーマ：乾癬	八木洋輔	福井新聞情報誌「Fu」 掲載教えてドクター	2020年10月号
福井新聞掲載 足指に内出血、治らず心配	八木洋輔	ふくいのドクター相談 室	210.27 福井

腎臓・泌尿器科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
定期採血検査で突然の高ALP血症を呈した、一過性高ALP血症の一例	○片野健一 山岸瑞希 松井佑樹 伊藤正典	第65回日本透析医学会 会学術集会・総会	2020.11 Web開催

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
CKD診療における最近の話題～カリウム管理をふまえて	伊藤正典	丹生郡医師会学術講演会	1.1 福井市
新しい腎性貧血治療について	伊藤正典	第202回奥越学術講演会	2.17 WEB開催
新しい腎性貧血治療について	伊藤正典	武生医師会学術講演	3.10 越前市

産婦人科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
高齢婦人科がん患者における治療の現状 福井県がん登録データベースの解析	山本真	第72回日本産科婦人科学術講演会	4.26 web
論文賞受賞講演 A領域 帝王切開術後子宮創部膿瘍の予防戦略： 閉鎖式吸引ドレナージの有用性	佐藤久美子	第56回日本周産期・ 新生児医学会学術集会	11.28 横浜市オンデマンド
卵巣囊腫莖捻転を契機に発見された悪性 転化を伴う成熟奇形腫の一例	杉田元気	第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	12.1 web

本邦における高齢者に対する婦人科がん治療の現況と問題点 多施設共同後ろ向きコホート研究	山本真	第 62 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会	1.29 web
---	-----	----------------------	-------------

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
当院における糖代謝異常合併妊娠の管理	杉田元気	第 8 回福井県周産期 Women's Health 検討会	12.7 福井市
腹腔鏡的手技を併用し、子宮を温存し得た子宮頸管妊娠の一例	山本真	第 88 回福井県冬期臨床研修会	1.24 福井市

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Low surgical Apgar score in older patients with gynecological cancer is a risk factor for postoperative complications and 1-year mortality: A multicenter retrospective cohort study	Makoto Yamamoto	Mol Clin Oncol 14(1): 21	2021 Jan

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
専門医共通講習 医療安全・救急処置に関するもの	田嶋公久	令和元年度母体保護指定医師研修会	10.1 福井市
なぜヒトだけが月経に悩まされるのか～進化からみた月経異常と、その最新治療～	田嶋公久	福井赤十字 産婦人科イブニングセミナー	11.1 福井市

## 眼 科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
症例検討「CTR、縫着 CTR」	小堀朗	水晶体嚢拡張リング(CTR)講習会	11.14、11.18 ウェブ開催
ランチョンセミナー：難症例、術中合併症の手術戦略	小堀朗	第 35 回日本白内障屈折矯正手術学会学術総会	7.1 ウェブ開催
網膜細動脈瘤破裂に伴う黄斑下出血において網膜内出血の存在が視力予後に及ぼす影響 黄斑下出血における網膜内出血	土居真一郎 木村修平 櫻井寿也 今井尚徳 小堀朗 齋藤翔子 久富智朗 栗山晶治 井上真 森實祐基	第 124 回日本眼科学会	4.27-5.18 ウェブ開催

沿革概要	網膜細動脈瘤破裂に伴う黄斑下出血において網膜内出血の存在が視力予後に及ぼす影響		第 59 回日本網膜硝子体学会	11.28 福岡
	インストラクションコース 黄斑手術自由自在 - 糖尿病黄斑浮腫に対する硝子体手術 -		第 74 回日本臨床眼科学会	10.16 ウェブ開催

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
白内障難症例の手術戦略	小堀朗	第 15 回福井大学眼科同窓会学術研究会	9.12 福井
外傷性虹彩離断に対して虹彩根部縫合術を試みた 3 例	吉村昭人 横田開人 李相 額田和之 小堀朗	第 71 回福井県眼科集談会	9.12 福井
CTR-IOL 複合体の摘出を行った症例の検討	横田開人 吉村昭人 李相 額田和之 小堀朗	第 71 回福井県眼科集談会	9.12 福井
網膜剥離の再手術	小堀朗	第 13 回加越硝子体手術研究会	8.22 ウェブ開催

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Inverted Internal Limiting Membrane Flap versus Internal Limiting Membrane Peeling for Macular Hole Retinal Detachment in High Myopia.	Matsumae H, Morizane Y, Yamane S, Yanagisawa S, Sakurai T, Kobori A, Imai H, Kanzaki Y, Suzuki E, Kadonosono K, Hayashi A, Shiraga F, Kuriyama S.	Ophthalmol Retina. 2020 Apr 2:S2468-6530(20)30123-8.	2020
眼内鉄片異物の抜去後にも角膜変性が進行した眼鉄錆症の 1 例	李相沅 額田和之 市岡悠 小堀朗	眼科臨床紀要 13:2 90-94,2020	2020
手術手技のコツ 黄斑手術 Inverted ILM Flap Technique のコツ	小堀朗	眼科手術 33:1 94-98,2020	2020

眼内レンズ瞳孔捕獲.	小堀朗	眼疾患アトラスシリーズ 第1巻 前眼部アトラス 総合医学社 448-449,2020	2020
------------	-----	--	------

## ————— 耳鼻咽喉科 —————

### 【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
報告（一般演題） Relationship between body mass index and the prevalence of seasonal allergic rhinitis	Yoko Osawa	JSA/WAO Joint Congress 2020 国際学会	9.17 Koto
招待（セミナー）花粉症をもたらす新たな問題！花粉・食物アレルギー症候群	大澤陽子	第32回日本喉頭科学会総会	9.4 仙台市
報告（一般演題）花粉症と Body mass index の関係	大澤陽子	第38回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会総会	10.1 横浜市

### 【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
混合リンパ節転移を伴った混合性髄様濾胞細胞癌の1例（症例報告）	大澤陽子	頭頸部外科 33(2); 239-245	2020
花粉・食物アレルギー症候群の現状と展望（総説）	大澤陽子	耳鼻咽喉科免疫アレルギー（JJIAO） 38(2); 43-49	2020
口腔アレルギー症候群に対する舌下免疫療法	大澤陽子	ENTONI 250(10); 53-57	2020
口腔アレルギー症候群の臨床像	大澤陽子	ENTONI 254(2); 7-11	2021
好酸球性副鼻腔炎における鼻ポリープ中への好酸球浸潤の機序について	堤内俊喜	アレルギーの臨床 40(9); 57-60	2020

### 【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
招待講演 「わかっているようでわかっていない、花粉・食物アレルギー症候群」診断・治療や患者様へのアドバイス法を伝授します！	大澤陽子	Allergy Live Seminar In Fukushima 2021	1.27 福島市

## 放射線科

### 【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
「筋腫と内膜癌の併存子宮にびまん性に浸潤したリンパ腫の1例」	左合直	日本医学放射線学会第168回中部地方会	2.20 Web
甲状腺穿刺吸引細胞診後に一過性甲状腺腫大をきたした1例	石田卓也	日本医学放射線学会第168回中部地方会	2.20 Web
活動性出血との鑑別が困難であった内腸骨領域の動静脈瘻の1例	石田卓也	第67回中部・第68回関西 Interventional Radiology 研究会	2.13 Web
抗 GABA <sub>A</sub> 受容体抗体陽性脳炎の一例	都司和伸	日本医学放射線学会第168回中部地方会	2.20 Web

### 【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Incidence and Risk Factors of Symptomatic Radiation Pneumonitis in Non-Small-Cell Lung Cancer Patients Treated with Concurrent Chemoradiotherapy and Consolidation Durvalumab	新谷堯 坂本匡人	Clinical Lung Cancer	2.3 In Press

## 麻酔科

### 【院外活動】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
塩酸ドネペジンによるコリン作動性クリーゼを発症した1症例	片岡滯	福井集中治療ミーティング	10.16 福井

## リハビリテーション科

### 【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
当院における CST の現状	豊田泰美	第2回ふくい排泄ケア研究会	11.1 福井市

### 【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
研修会講師 生涯教育制度について	樋田貴紀	福井県作業療法士会研修会	8.2 福井市
研修会講師 共通研修「事例報告と事例研究」	樋田貴紀	日本作業療法士協会基礎研修会	10.25 福井市

研修会講師 共通研修「作業療法における協業・後輩育成」	山本和雅	日本作業療法士協会基礎研修会	11.8 福井市
大会長基調講演 AKB20 新たな分野を考える 2020 - COVID-19 を迎えた新時代-	豊田泰美 (学術大会長)	第 24 回福井県理学療法学会学術大会	11.8 福井市

## 救 急 科

### 【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Point-of-care procalcitonin may predict the need for surgical treatment in patients with small bowel obstruction	Murasaki M, Nakanishi T, Kano KI, Shigemi R, Tanizaki S, Kono K, Hayashi M, Nagai H, Maeda S, Ishida H. Am J	Emerg Med. 2020 May;38(5):979-982	2020.5

## 病 理 診 断 科 部

### 【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
ポスター発表（一般演題） EBV-positive DLBCL 治療後に EBV-positive PTCL を合併した 1 例	木村純也 大越忠和 福島万奈 今村好章 他	第 66 回日本病理学会 秋季特別総会	11.12-13 浜松市

## 薬 剤 部

### 【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
発表 当院のがん化学療法における副作用対策	谷澤範彦 前田太一	令和 2 年度第 10 回福井県病院薬剤師会学術研修会	3.10 WEB 開催
発表 COVID-19 における悪物療法と感染制御	安藤和也	令和 2 年度第 10 回福井県病院薬剤師会学術研修会	3.10 WEB 開催

## 検 査 部

### 【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
当院の輸血業務におけるコロナ対応	渡辺純也	輸血学会支部例会	11.21 福井市

## 放 射 線 部

### 【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
当院ドックマンモグラフィにおける圧迫乳房厚と乳房構成および要生検率の関係性の検討	吉岡千絵	第30回 日本乳癌検診学会学術総会	11.22 仙台市

### 【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
発表 X線治療の強み - 陽子線と比較して -	大西一幸	地域がん診療研修会	10.16 福井赤十字病院
話題提供 COVID-19 の実際の症例発表	村中舞	福井県診療放射線技師会 第8回読影セミナー	2.5 Web

## 看 護 部

### 【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
医療従事者の感染予防対策における患者評価を実施して	真鍋照美	第22回 日本医療マネジメント学会学術総会	10.6～7 京都市 ハイブリッド開催 オンライン参加
緊急手術によりストーマ造設を受けた患者が抱く思い～ストーマ造設患者のインタビューからの検討～	木村有里華	第29回 日本創傷・オストミ-失禁管理学会学術集会	7.23 福岡市 WEB開催 オンライン参加
肝性脳症を繰り返す患者の自宅での生活状況に対する看護介入の検討	高橋裕子	第51回日本看護学会学術集会ヘルスプロモーション	11.1～11.30 高松市 Web開催 オンライン参加
理解が乏しい高齢者とその家族へのNPPV導入指導と在宅療養継続への看護	中林雅美	第51回日本看護学会学術集会ヘルスプロモーション	11.1～11.30 高松市 Web開催 オンライン参加
福井赤十字病院におけるG.R.A.C.E.実践報告 ～導入から現在まで～	堀口朋美	第3回日本GRACE研究会年次大会	12.12 当院 Web開催

シンポジウム4 (パネリスト)「災害看護を未来につなぐ～次世代を担うエキスパートたちの挑戦～」演題：被災地での学びを通じた大切ないのちと生活を守る災害看護の伝承	朝田和枝	日本災害看護学会 第22回年次大会	9.28.～10.11. 広島県国際会議場 Web開催 オンライン参加
術中心停止により低酸素脳症に至った児の経過とその母親の心理的プロセス	吉田輝実	第30回日本小児看護学会	9.20 神戸市 Web開催 オンライン参加
倫理的視点に基づいた身体抑制カンファレンスの定着～A病院における身体抑制カンファレンス実施率と記録記載率調査から～	真柄昌代	第51回日本看護学会急性期看護	11.1～11.30 大阪市 WEB開催 オンライン参加

#### 【学会発表 (地方)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
専門的な緩和ケアニーズに対応するためのスクリーニングシステムと緩和ケアチームの課題	辻かおり	第6回北陸緩和医療研究会総会	3.7 ZOOM開催
(実践報告) 手術室看護師が行う術前外来の取り組みと今後の課題	岩佐友美	第37回日本手術看護学会北陸地区学会	コロナにより学会中止 抄録集掲載

#### 【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
進行再発癌患者・家族に関わる看護師の困難感の変化	富永知恵子	第50回日本看護学会 論文集 看護教育 P111-114	2020.3
COVID-19患者対応病棟におけるスタッフの心理的支援～G.R.A.C.E (医療従事者の燃えつき防止プログラム) を実践して～	中野裕美 堀口朋美	教材付き専門誌 病院安全教育	12.20

#### 【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
講師 「体圧分散寝具の選択基準」	水島典子	福井県看護協会 認定看護師出前講座	12.14 みどりヶ丘病院
講師 在宅スタッフ対象研修 「透析を受ける患者支援について」	高嶋節子	福井県看護協会 認定看護師出前講座	11.17 福井市
講師 厚生病院透析室対象 「安全な透析看護」	高嶋節子	福井県看護協会 認定看護師出前講座	11.19 福井市
講師 厚生病院病棟対象 「病棟と透析室の連携した看護」	高嶋節子	福井県看護協会 認定看護師出前講座	11.26 福井市

沿革概要	教育セミナー担当 手術室で行う新型コロナウイルス対策	常見いずみ	第34回 日本手術看護学会年次大会	11.6,7 (WEB学会)
	講義：「訪問看護 OJT の活用」 「訪問看護ステーションにおけるコロナ対策ガイドブックについて」	山崎雪代	福井県訪問看護ステーション連絡協議会管理者研修	11.14 鯖江市
	講義：在宅療養者への看護～在宅での看取り～	山崎雪代	福井大学看護学科在宅看護論	11.9 福井大学
	講義：介護支援専門員のケアマネジメント	山崎雪代	福井大学認定看護師教育課程 認知症看護	8.21 福井大学
	入退院支援研修ファシリテーター	山崎雪代	福井県看護協会	12.3 福井県看護協会
	福井県がん相談支援センター相談員研修 「高齢がん患者の希望を尊重する意思決定支援」ファシリテーター	吉川朋子	福井県がん相談支援センター相談員研修 福井県がん診療連携協議会主催	2.28 当院 リモート研修
	2020年度 第1回～第5回永平寺町・福井大学共同企画新しい避難所のあり方検討会 第1回：コロナ禍における避難所・福祉避難所の課題 第2回：永平寺町の避難および福祉避難所の現状分析課題整理 第3回：課題と対応策 第4回：地区防災計画学会会長講演会 第5回：2020年度のまとめと2021年度の計画について、事務局メンバーとして企画・検討及び検討会の開催に携わる。	朝田和枝 他、福井大学看護学科 酒井明子 教授及び検討会関係メンバー	永平寺町・福井大学共同企画新しい避難所のあり方検討会	7.31 (第1回) 9.30 (第2回) 10.17(第3回) 11.18(第4回) 3.29 (第5回) 永平寺町役場大会議室 活動期間： R2.7.8. ～ R3.3.31.
	クリティカルケア認定看護師教育課程研修生33名に対し、認定看護分野専門科目 クリティカルケアにおけるチーム医療 2) 院内災害対策について講義を実施。	朝田和枝	2020年度 公益社団法人大阪府看護協会 クリティカルケア認定看護師教育課程	9.2 15:10～ 18:20 9.3 13:30～ 16:40 大阪府看護協会 (ZOOMによるオンライン授業)
	災害看護研修 災害支援ナース、JNA ラダーⅣ 約80名対象に、テーマ：自施設における平時と発災時の看護のリーダーシップの研修を開催。	朝田和枝	公益社団法人 埼玉県看護協会 災害看護研修 ラダーレベルⅣ	10.13 10:00～ 16:00 埼玉県看護協会 (ZOOMによるオンライン研修)
	災害看護研修(実践編) 災害支援ナース及び災害看護研修(基礎編)を受講している方34名を対象に、「災害支援ナースの避難所における新型コロナウイルス感染症への対応」についての研修を開催。	朝田和枝 他 災害看護委員会メンバー7名	公益社団法人 福井県看護協会 災害看護委員会	10.24 9:30～ 12:00 福井県看護協会 (オンライン研修 CISCO Webex Meeting)

災害看護研修 災害看護の基礎/看護の果たすべき役割(日頃の備え、看護実践)について、全ての看護職63名を対象に、テーマ「災害が発生したらどう対応しますか?」についての研修を開催。	朝田和枝	公益社団法人 兵庫県看護協会 No.118 災害看護研修会	11.12 10:00 ~ 16:30 兵庫県看護協会
大規模な災害時に開設される広域避難所や福祉避難所等において専門的な知識と技術を持って被災者、支援者の健康管理や心のケアを行い、災害関連死の予防を図ることを目的に、永平寺町機能別消防団員「まちの減災ナース」として辞令を受ける。	朝田和枝 他 永平寺町 内在住の看護 師6名	永平寺町消防団 機能 別消防団員	1.30 10:30 ~ 1.31 11:00 永平寺開発セン ター2階 消防 ホール
特定非営利法人 災害看護研修所主催にて、福井市東郷地区自治会連合会、東郷地区自主防災連絡協議会の方8ブロック約50名を対象に、「要配慮者の安否確認と避難方法について」災害対応の基礎知識と各地域に分かれて地図を使用しながら、具体的な安否確認と避難方法についてグループワークを行った。	朝田和枝 他 NPO 災害 看護研究所 メンバー4 名	福井市東郷地区防災研 修会	1.31 13:00 ~ 15:30 福井市東郷公民館
認知症対応力向上研修会講演	山本隆	認知症対応力向上研修 会	2.9 ~ 11 福井県看 護協会
認定看護師派遣事業	山本隆	身体抑制の事例とその 対応	2.11.24 さくら病 院

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

**編集：広報委員会(年報班)**

年報編集責任者：高野 誠一郎

広報委員長：坪川 明義

オブザーバー：木村 正二

委員：早瀬 睦

鳥居 志充

西川 順子

大森 丈

杉田 博之

川瀬公一郎

事務局：病院経営課

発行：令和4年3月